

小学館版

少年少女

学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

⑥ 源平の戦い

●平安時代末期

決定版





●まんが
あおむら 純

1941年、山口県に生まれる。アニメーションの作画などをへて現在にいたる。歴史まんがの分野で大活やくし、少年少女のファンも多い。

6巻にご協力いただいた方がた

●監修

児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●まんが

あおむら純

●シナリオ

西原和海

●考証

石井謙治（日本海事史学会名誉会長）

小泉和子（生活史研究所代表）

鈴木友也（日本美術刀剣保存協会専務理事）

高田倭男（高田装束研究所所長）

玉井哲雄（千葉大学名誉教授）

●指導（教育現場の立場から）

高山博之（京都教育大学名誉教授）

●指導・執筆・協力

岡田威夫（共立女子高校）

五味文彦（東京大学名誉教授）

佐藤和彦（東京学芸大学名誉教授）

高橋千麁破

●取材協力

赤間神宮 嶽島神社 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 白杵市教育委員会えさし藤原の郷 大阪城天守閣 大山祇神社三十三間堂 神奈川県立歴史博物館 宮内庁三の丸尚蔵館 倉敷埋蔵文化財センター 高山寺 関ヶ原町歴史民俗資料館 泉涌寺 中尊寺 鶴岡八幡宮 東京国立博物館 平泉町教育委員会 平泉文化史館 富貴寺 藤島亥治郎 藤田美術館 文化庁 武藏御嶽神社毛越寺 六波羅密寺

●イラスト

池尻克美 井上のぼる 大林かおる
中西立太 三谷ゆきひこ 深山のぼる

●作画協力

大岡龍二 かたおか修壱 小井土繁
小山春夫 芝知照 新開洋介 坪井幸一
馬場秀夫 山本貴久雄

●装丁・レイアウト

功野真矢 佐野恒雄(CSJ) 成澤哲夫(NED)

●版下

大山デザイン 昭和ライト タナカデザイン

●編集協力

エディトリアル・プランニング 真英社
風人社 銀杏社 山本美峰

●編集担当

柏原順太 宮部良雄 八卷孝夫

(五十音順・敬称略)

小学館版

少年少女

学習まんが

日本の歴史

6

源平の戦い

●平安時代末期



平

安

時

こくふうぶんか
国風文化

●1185

●1184

●1183
●1181

●1180

●1179

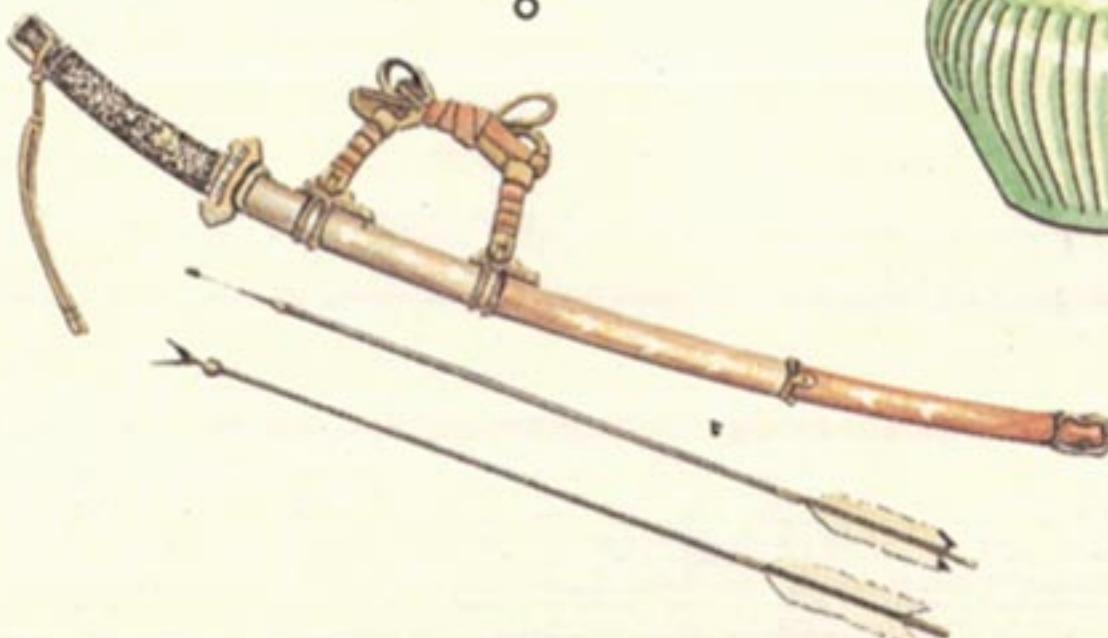
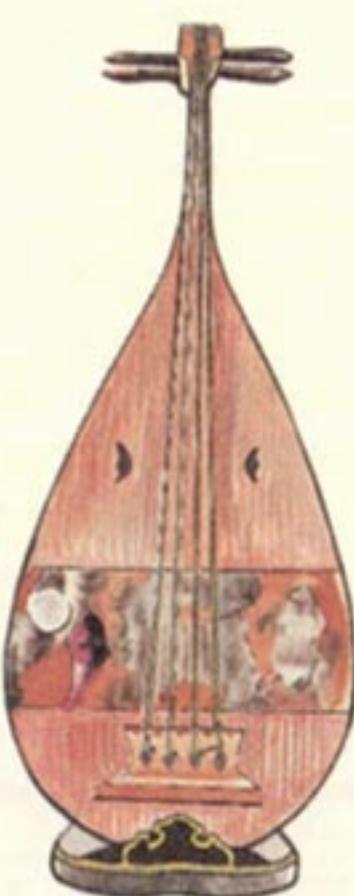
●1173

●1171

●1170

●1168
●1167
●1164

平氏が滅亡する。



へい

あん

じ

清盛らが、写経を巖島神社におさめる。(平家納経)
清盛が太政大臣となるが、三ヶ月後、辞任する。

平滋子のうんだ皇子が高倉天皇となる。
藤原秀衡が鎮守府将軍となる。

清盛のむすめ徳子が高倉天皇の女御となる。
清盛が大輪田泊を修築し、日宋貿易を発展させる。

鹿ヶ谷事件がおこる。

清盛が後白河法皇を鳥羽殿におしこめる。

徳子のうんだ皇子が安徳天皇となる。

源頼政が以仁王の令旨をうけ、挙兵する。

清盛が一時、都を福原にうつす。

頼朝、挙兵するが、石橋山でやぶれる。

頼朝、鎌倉を根拠地とし、富士川で平氏をやぶる。

木曾の源義仲をはじめ、各地の武士が挙兵する。

清盛が熱病のため死ぬ。

平氏が西国にのがれ、義仲の軍が京都に入る。

頼朝が法皇と手をむすぶ。

法皇の命で源義経らが義仲をうつ。

一ノ谷の合戦で平氏がやぶれる。
屋島につづき、壇ノ浦でやぶれ、

●1183
ロンバルディア同盟が自治都市の権利を手に入れる。



●このころ、朱子学がおこる。

高麗が内乱でおどろえる。
サラデイン王がエジプトを支配する。



はじめに

さかえる平氏と源平の合戦

◆牛若丸の伝説

牛若丸という少年が、あばれものの弁慶という大男を、こてんこてんにやつつけたという伝説は、みなさんにも、すっかりおなじみかと思います。

では、牛若丸がおとなになつてからの名まえは、何といつたのでしょうか。

……そうです、源義経でしたね。源氏の武将だった義経は、これまで、かずかずの物語・しばい・映画などに英雄としてえがかれ、日本人にたいへんしました。

平安時代の末期（12世紀後半）をあつかう第六巻では、源氏と平氏の武士たちが大きな役わりをはたし、義経もここに登場します。さあ、義経は、どのような働きを見せてくれるでしょうか。

◆平氏でなければ……

保元の乱・平治の乱という二つの争いによって、勢力をのばしたのが、平清盛のひきいる平氏でした。朝廷での、清盛の出世はめざましいものでした。清盛は、藤原氏のやりかたをまねて、むすめを天皇のきさきにし、生まれた孫



を天皇の位につけようとしました。

清盛とともに、平氏の一門もおおいにさかえました。「平氏でなければ、人間ではない」と口にするほどの、いばりようだつたのです。

また、清盛は、宋(今の中国)との貿易にも熱心でした。貿易でえた利益によつて、平氏はますますさかえました。

◆源平のあらそい

しかし、そのような平氏に対し、反感をいだくもののたちが、しだいに多くなつてきます。

やがて、東国の武士団をしたがえた源頼朝がついに兵をあげ、富士川(静岡県)の戦いで平氏の大軍を破りました。

全国各地で、平氏打倒の旗があがりました。義経も、兄・頼朝のもとにかけつけます。木曾義仲も立ちあがりました。源氏のいきおいの前に、平氏はあわてて都からにげ出し、やがて壇ノ浦(山口県)の戦いで、あつけなくほろぼされてしまいます。

この巻では、合戦につぐ合戦がえがかれ、みなさん、息つくひまもないことでしよう。

はげしい歴史のうねりの中での、一人一人の生きかたに、きっと感動もおぼえることでしょう。そして、いよいよ武士の時代になるのです。

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに
- おもな登場人物



第3章



第2章



第1章

- 保元の乱
- 大画面・大庭景義の館
- 平治の乱おこる
- さかえる平氏
- 大画面・平泉の金色堂
- 清盛、太政大臣となる
- 宋との貿易
- 鹿ヶ谷事件
- 源頼政、兵をあげる
- 頼朝の挙兵
- 源頼朝、兵をあげる
- 諸国の源氏、立ちあがる
- 大画面・富士川の合戦
- 清盛死す

◆6 源平の戦い

●平安時代末期



第4章

源平の合戦

木曾義仲、
京に入る

木曾義仲

義経軍の活やく（一ノ谷の戦い）

よろいのつけ方かた

屋島の合戦

おもな登場人物

※この巻に登場するおもな人物を紹介します。登場人物をくわしく知るための事典として、役立たせてください。

第2章

保元・平治の乱で実力をあらわし、公卿となつて天皇の外戚になり、平氏政権を樹立す。



平
清盛
(一一八〇—一八一年)

清盛の長男。保元・平治の乱で活やくし、内大臣になる。平氏一門絶頂期に病死する。



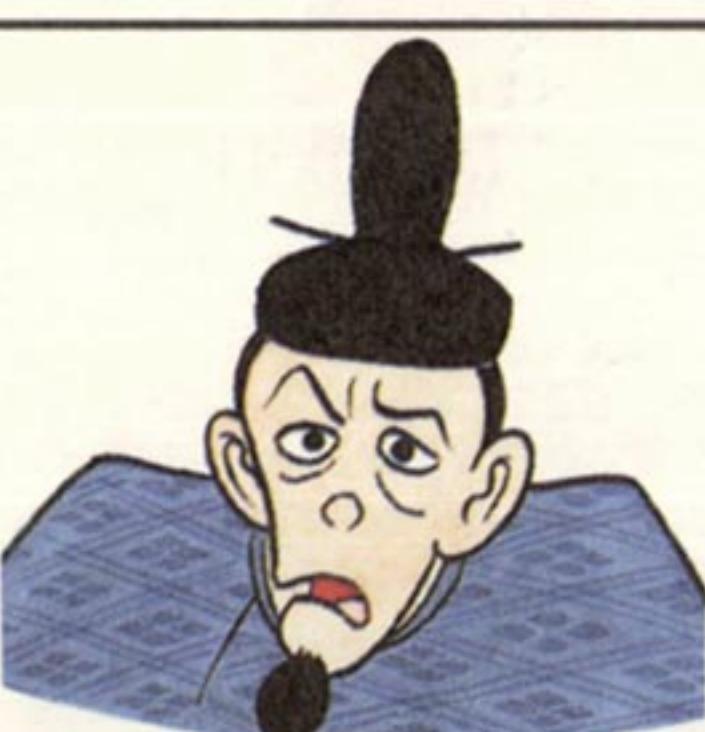
平
重盛
(一一三八?—一七九年)

五代の天皇にわたつて、上皇あるいは法皇として院政を行ふ。今様をこのむ。



後白河天皇
(一一二七—一九二年)

後白河法皇の寵臣。平治の乱でやぶれ、鹿ヶ谷で平家討伐を計画するが失敗する。



藤原成親
(一一三七—一七七年)

第1章

源義朝の父。檢非違使として活やくする。保元の乱で崇徳上皇方にについてやぶれる。



源
為義
(一一〇九六—一一五六年)

源頼朝、義経の父。鎌倉を中心において、有力武士を組織する。平治の乱をおこしてやぶれる。



源
義朝
(一一二三—一一六〇年)

元は学者だが出家する。後白河天皇の近臣として活やく。平治の乱でころされる。



信
西
(一一〇六—一一五九年)

義朝の弟。鎮西八郎とよばれた武将。保元の乱で父とともにたたかうが、やぶれる。



源
為朝
(一一三九—一一七七年)

6

源平の戦い

●平安時代末期

しょうにん おやこ
商人の親子

第4章

幼名は牛若丸。平氏討伐の大功労者。兄頼朝の敵となり奥州に逃れたが自害する。



源 義経

(一一五九～一一八九年)

平氏追討で俱利伽羅峠の合戦に勝ち、京から平氏を追出す。征夷大将軍になる。



源 (木曾) 義仲

(一一五四～一一八四年)

清盛の三男。清盛の死後、どもが、壇ノ浦でやぶれる。



平 宗盛

(一一四七～一一八五年)

平氏をほろぼして征夷大將軍になり、鎌倉に幕府をたてる。武家政治の基礎をつくる。



源 頼朝

(一一四七～一一九九年)

源頼朝のおじ。挙兵した以仁王の令旨を諸国に伝えて、源氏の挙兵をうながす。



第3章

(?～一一八六年)

源 行家

平氏打倒の兵を挙げ、東国武士団の協力をえて、鎌倉を拠点に平氏をうちやぶる。



(一一四七～一一九九年)

源 頼朝

日宋貿易を行い、福原遷都を強行する。日本の約半数の国を知行国とする。



(一一一八～一一八一年)

平 清盛

重盛の子。頼朝の挙兵に対しても追討大将軍になるが、富士川の戦いで敗走する。



(一一五八～一一八四年?)

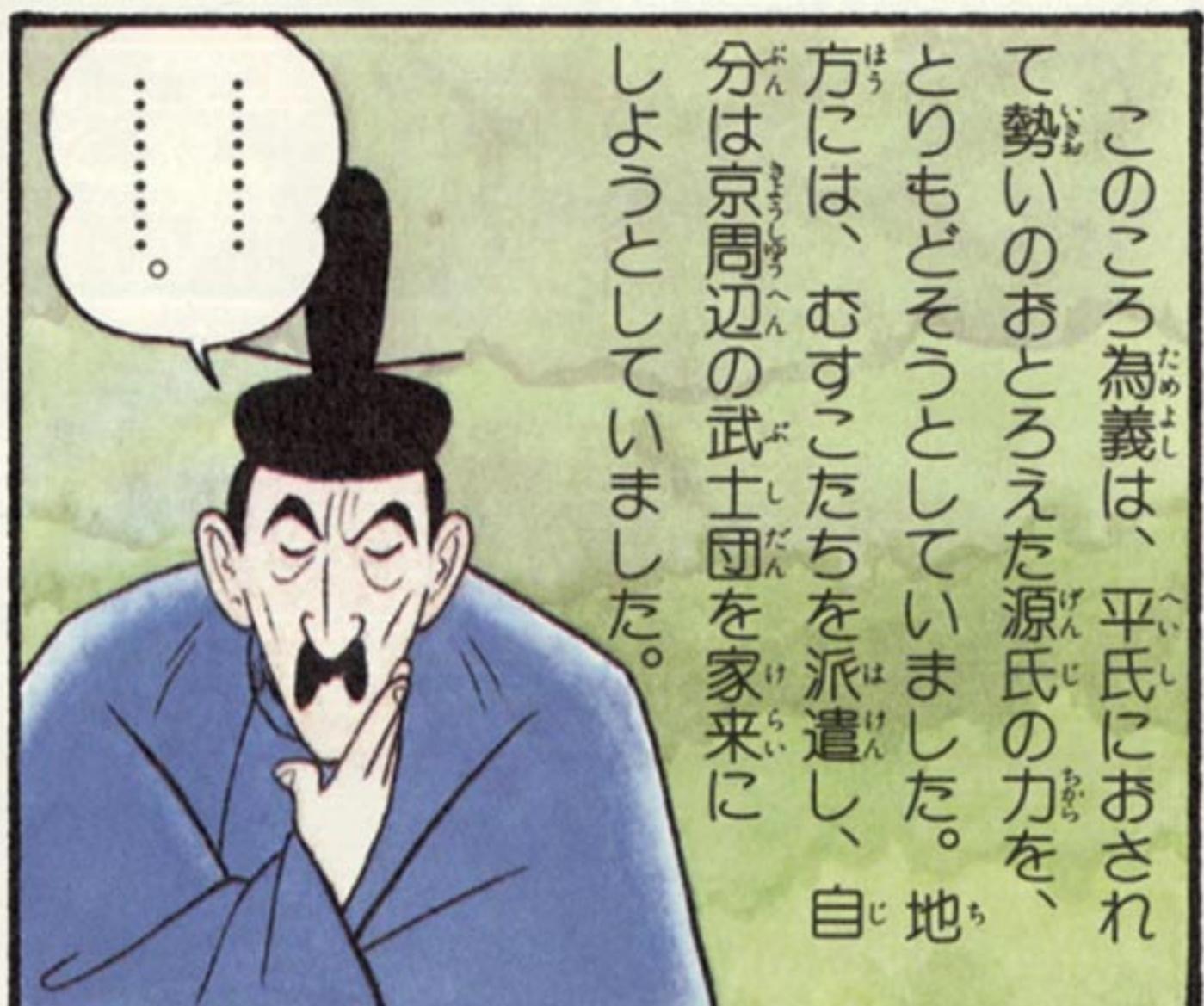
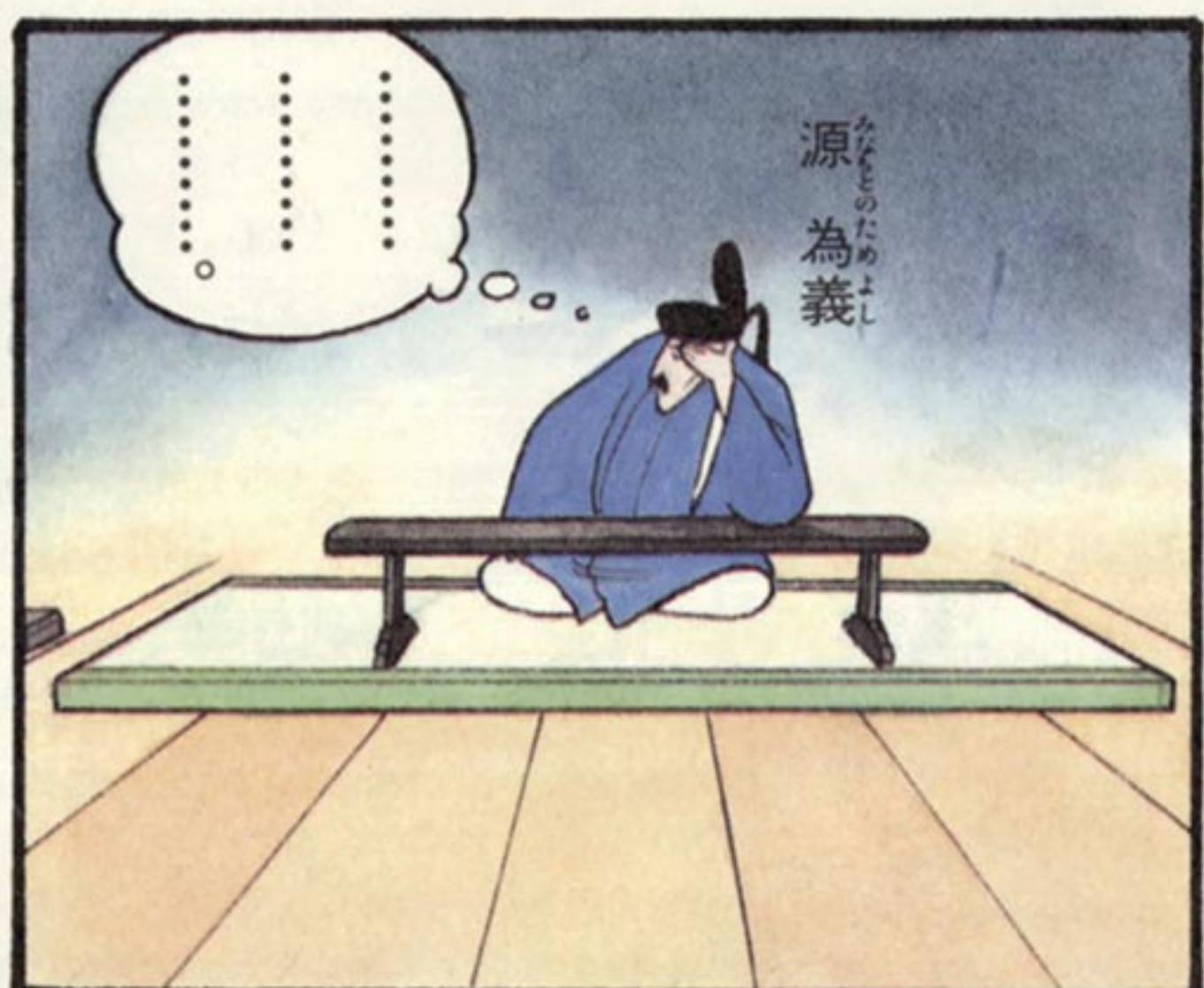
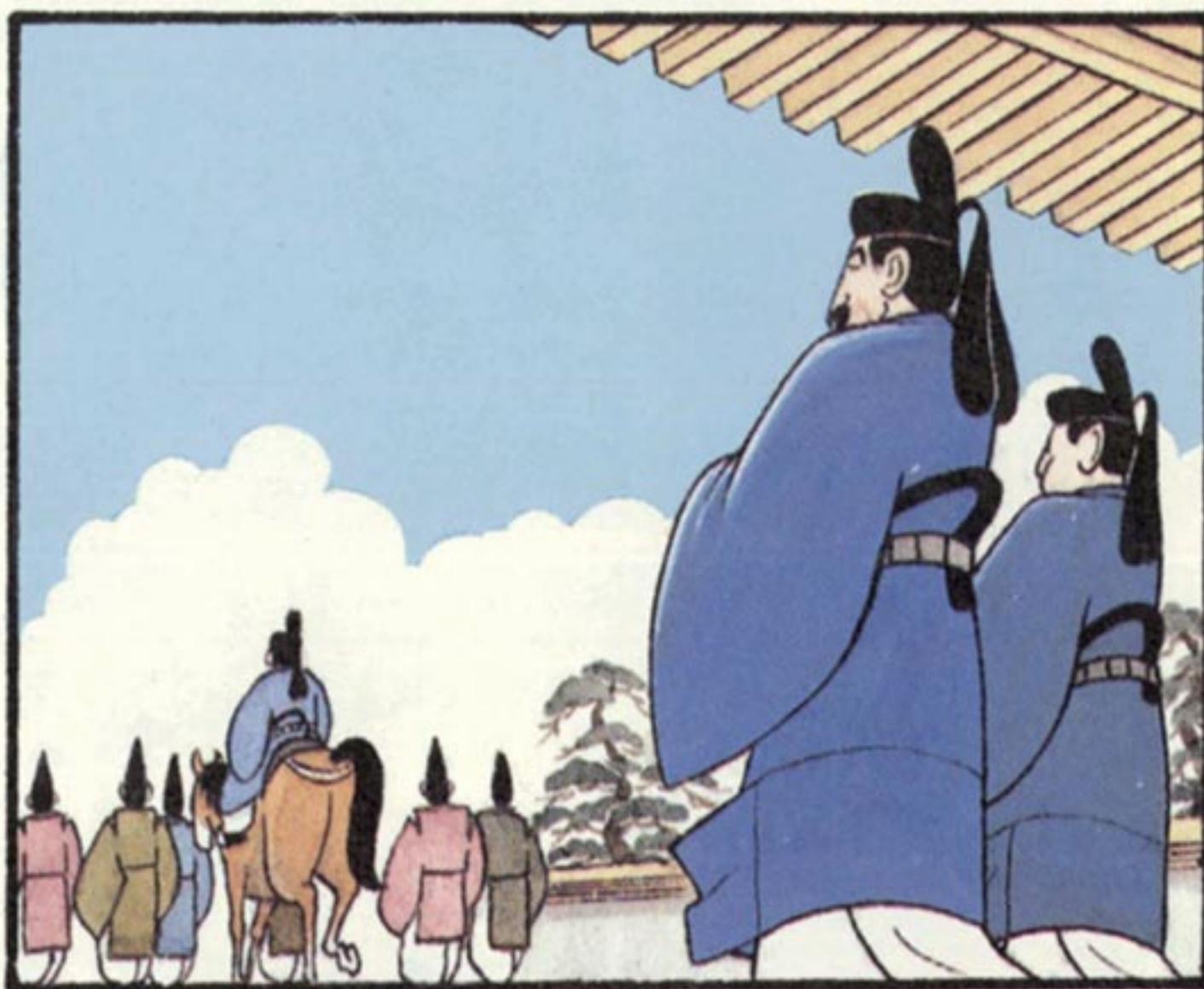
平 維盛

小学館 eBooks

だい しょう
第一章

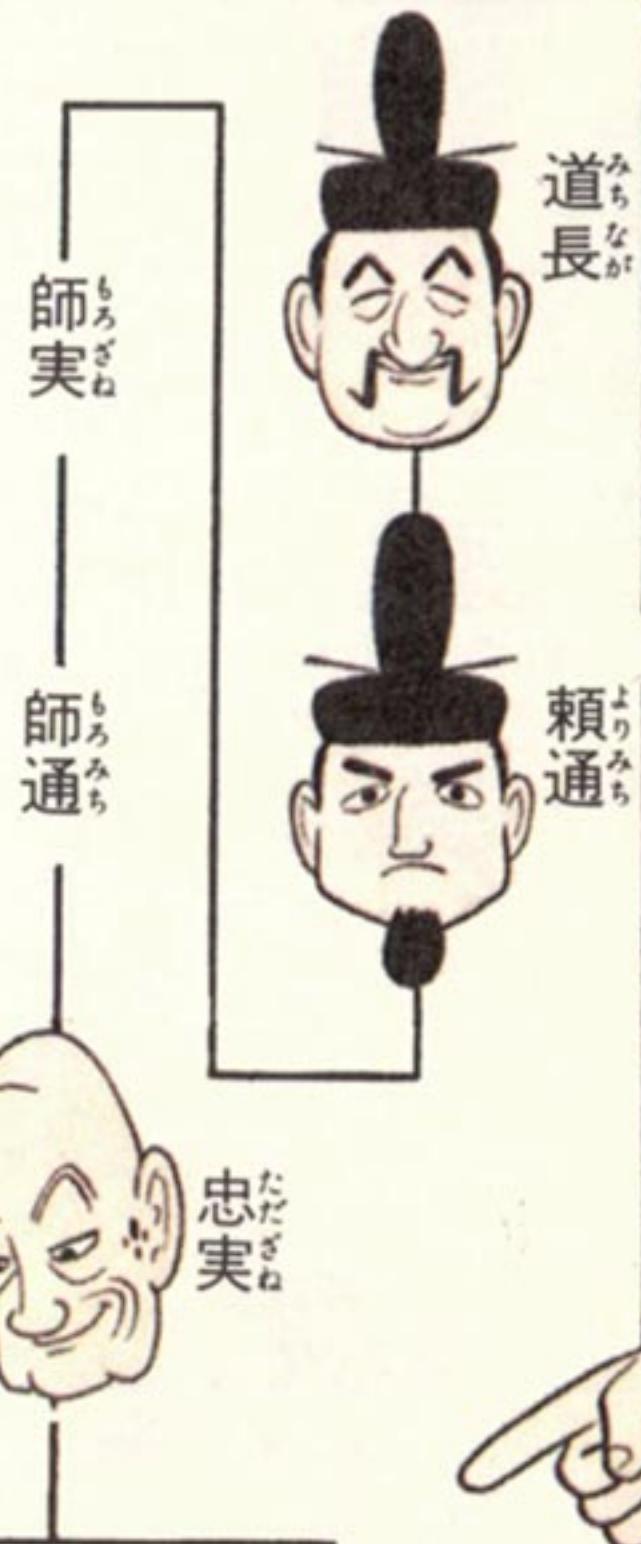
ほう げん へい じ らん
保元・平治の乱

へい あん じ だい まつ き
——平安時代末期——



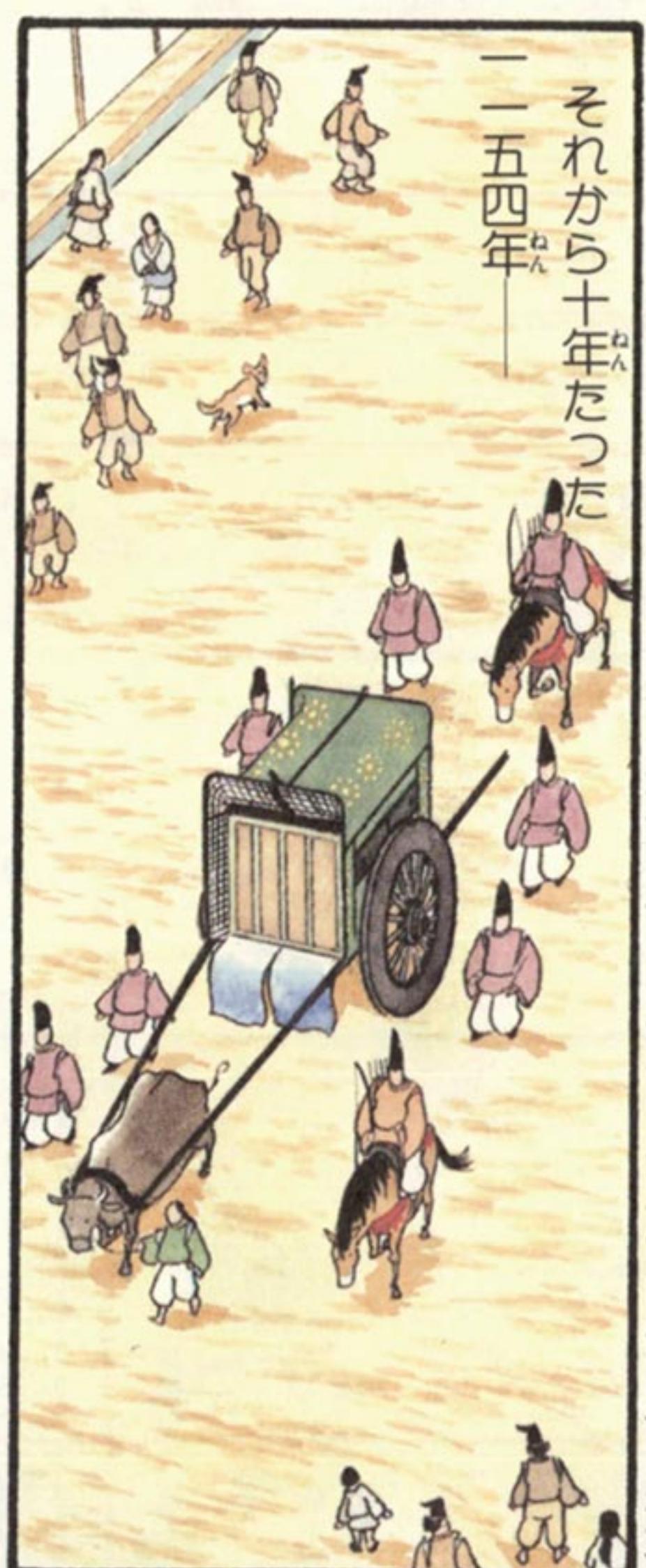
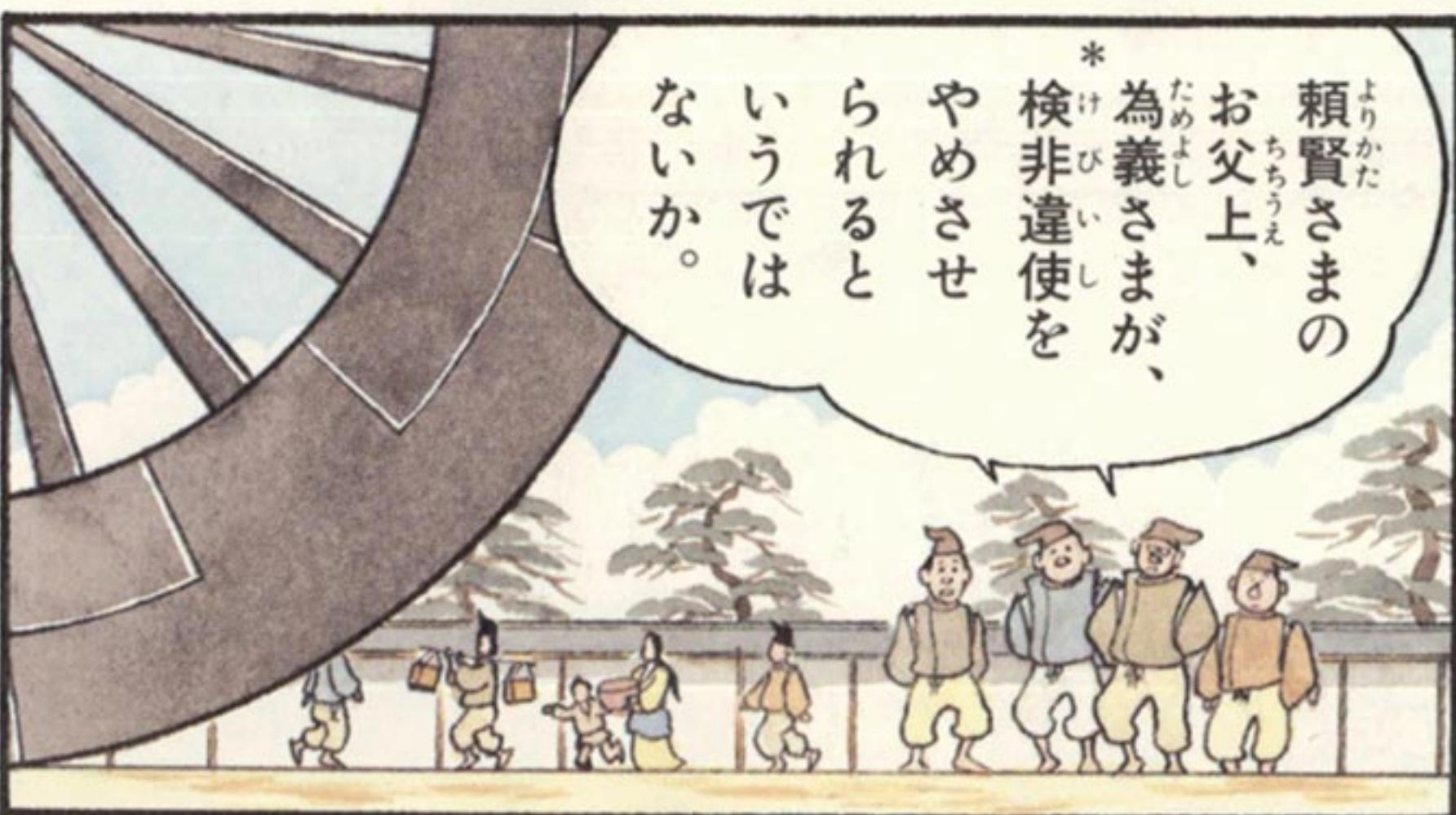
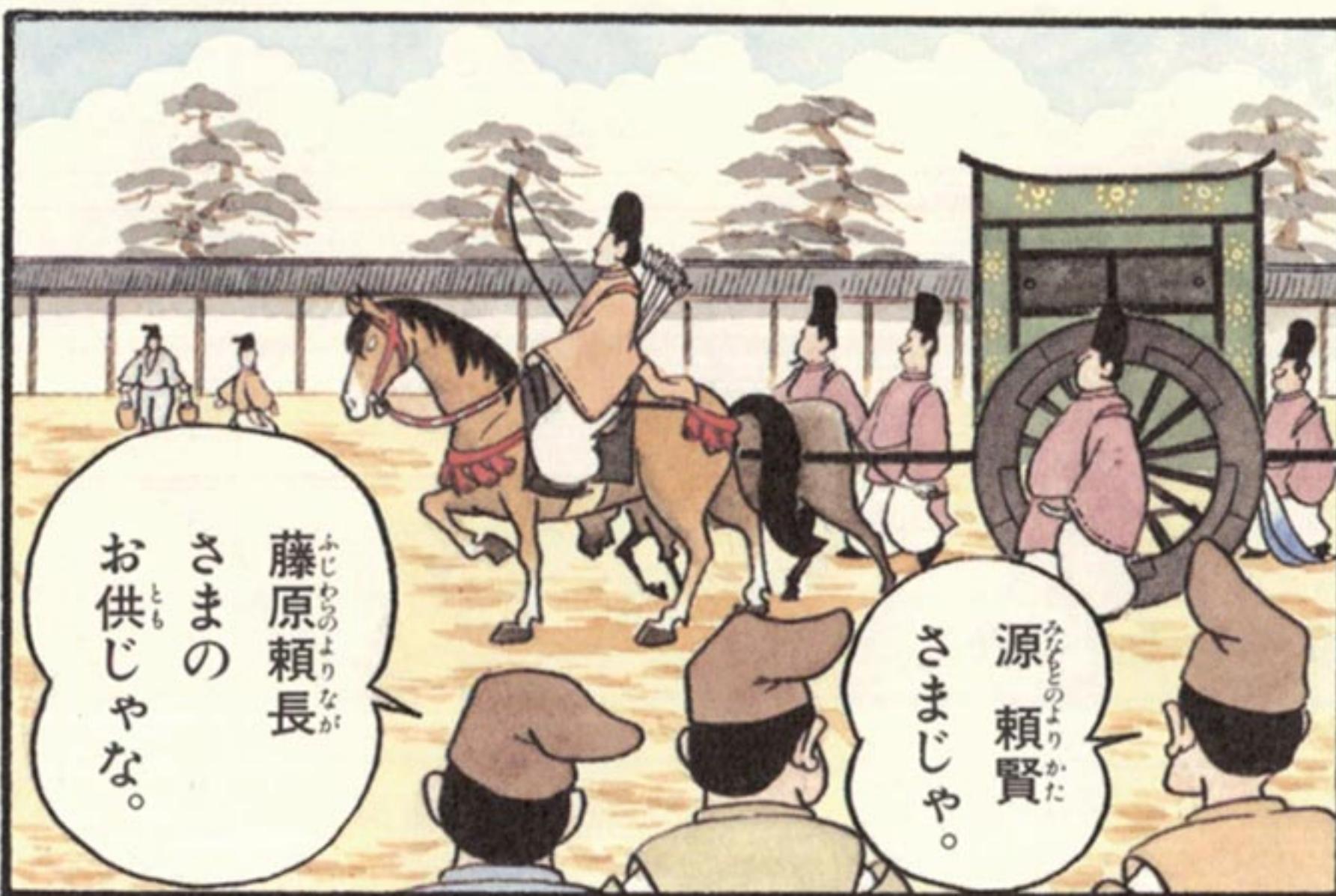
*摂関家：天皇をたすけて政治を行なう役職（摂政と関白）を代だいついでいる貴族の家のこと。

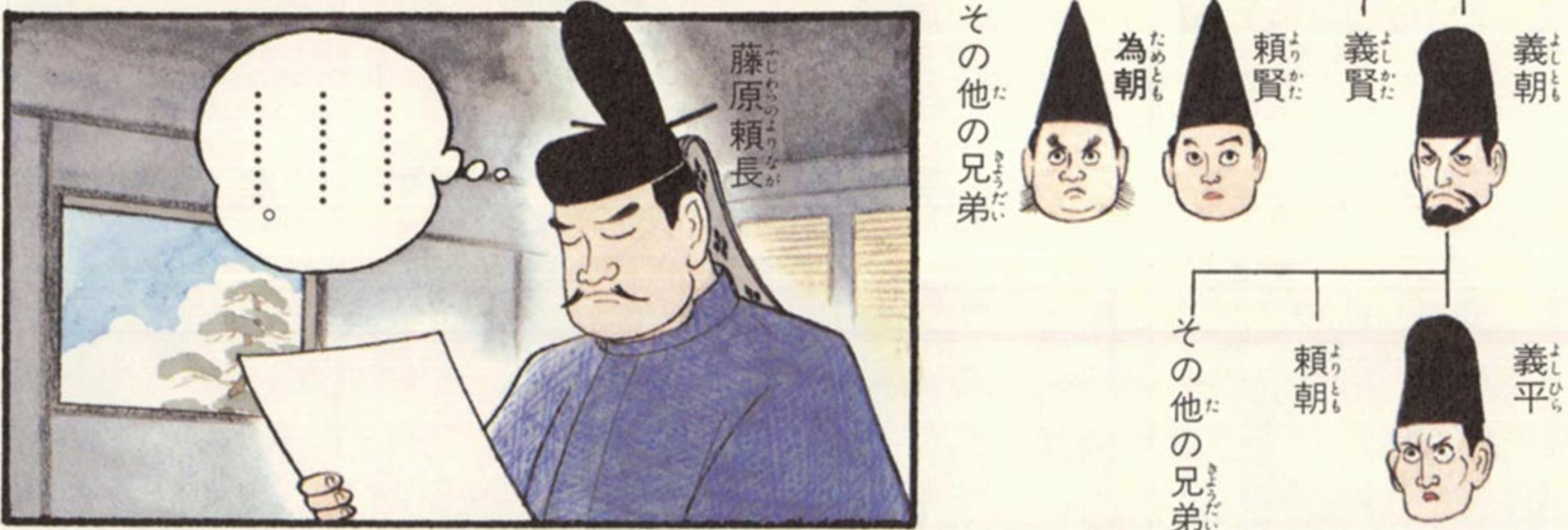
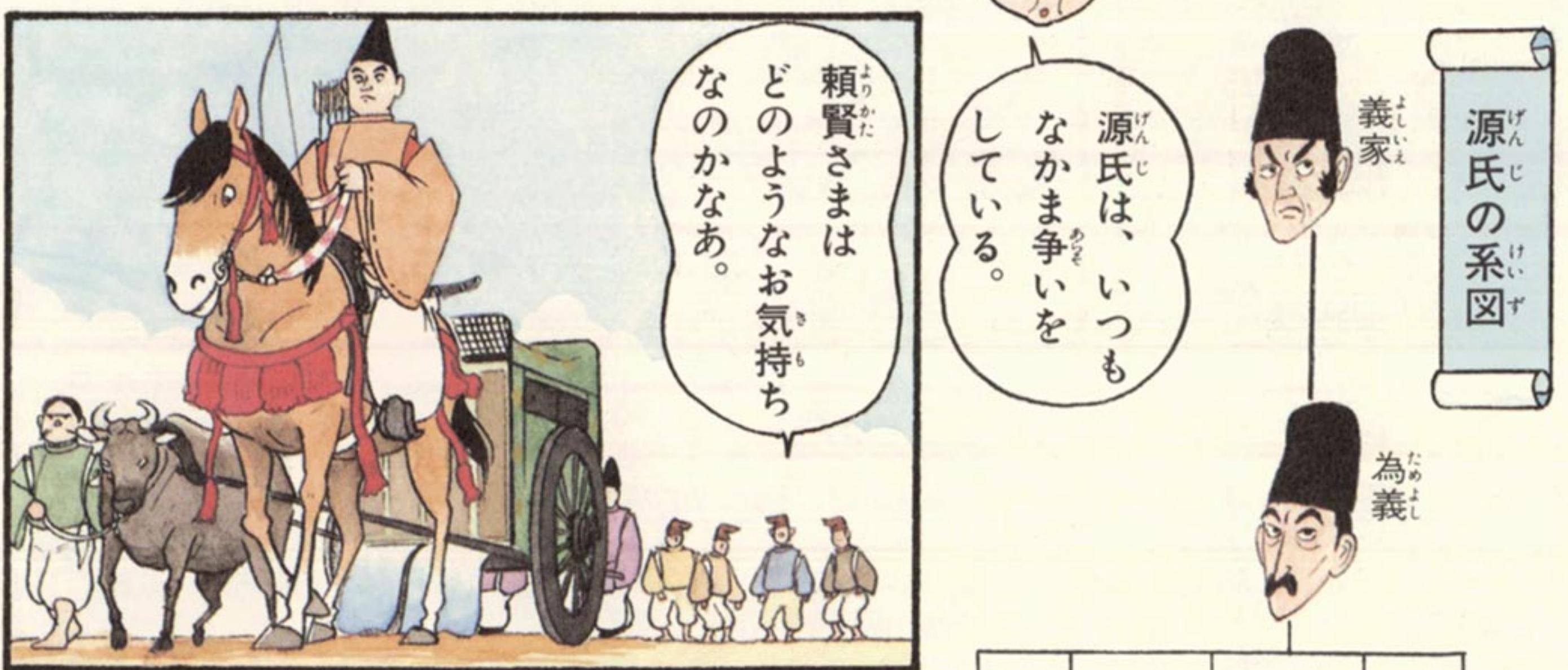
藤原氏の系図

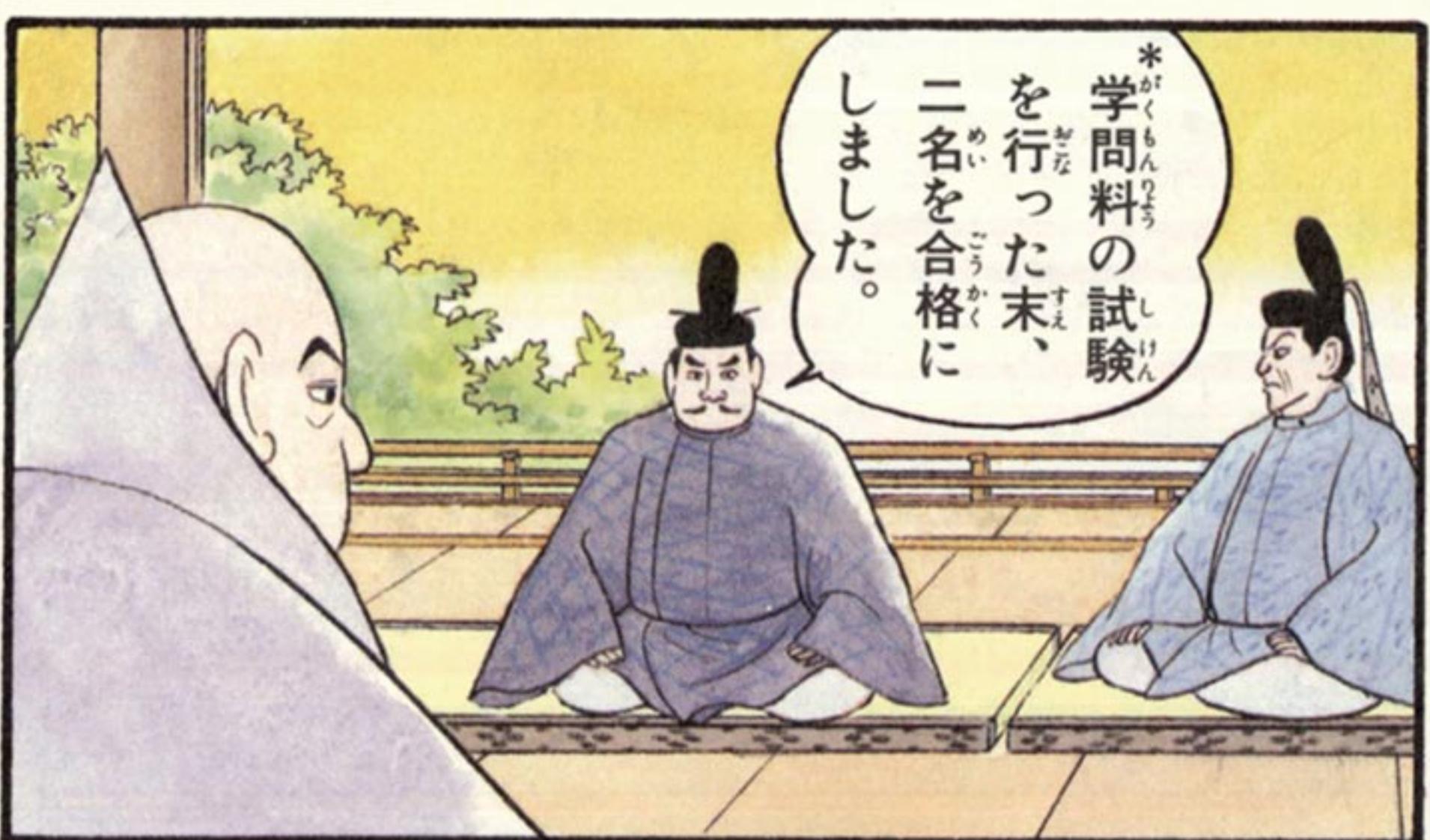
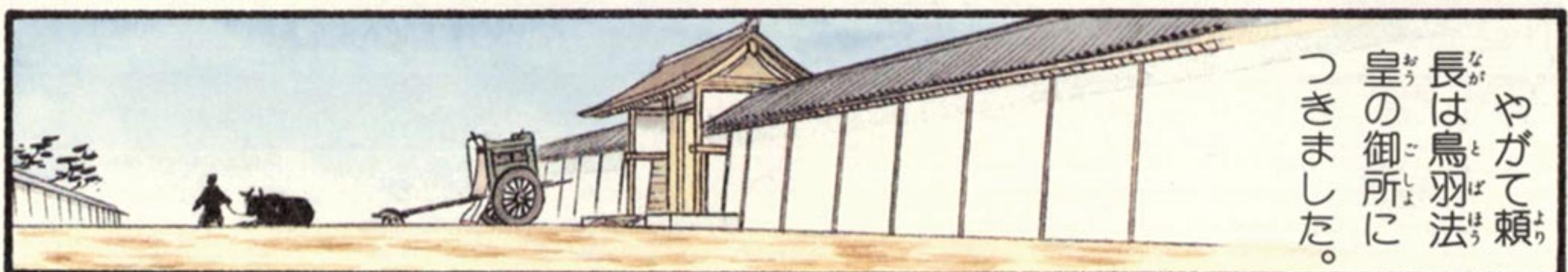


* 摂政：おさない天皇にかわって政治を行ふ役職。

* 法皇：位をしりぞいて、出家した天皇。

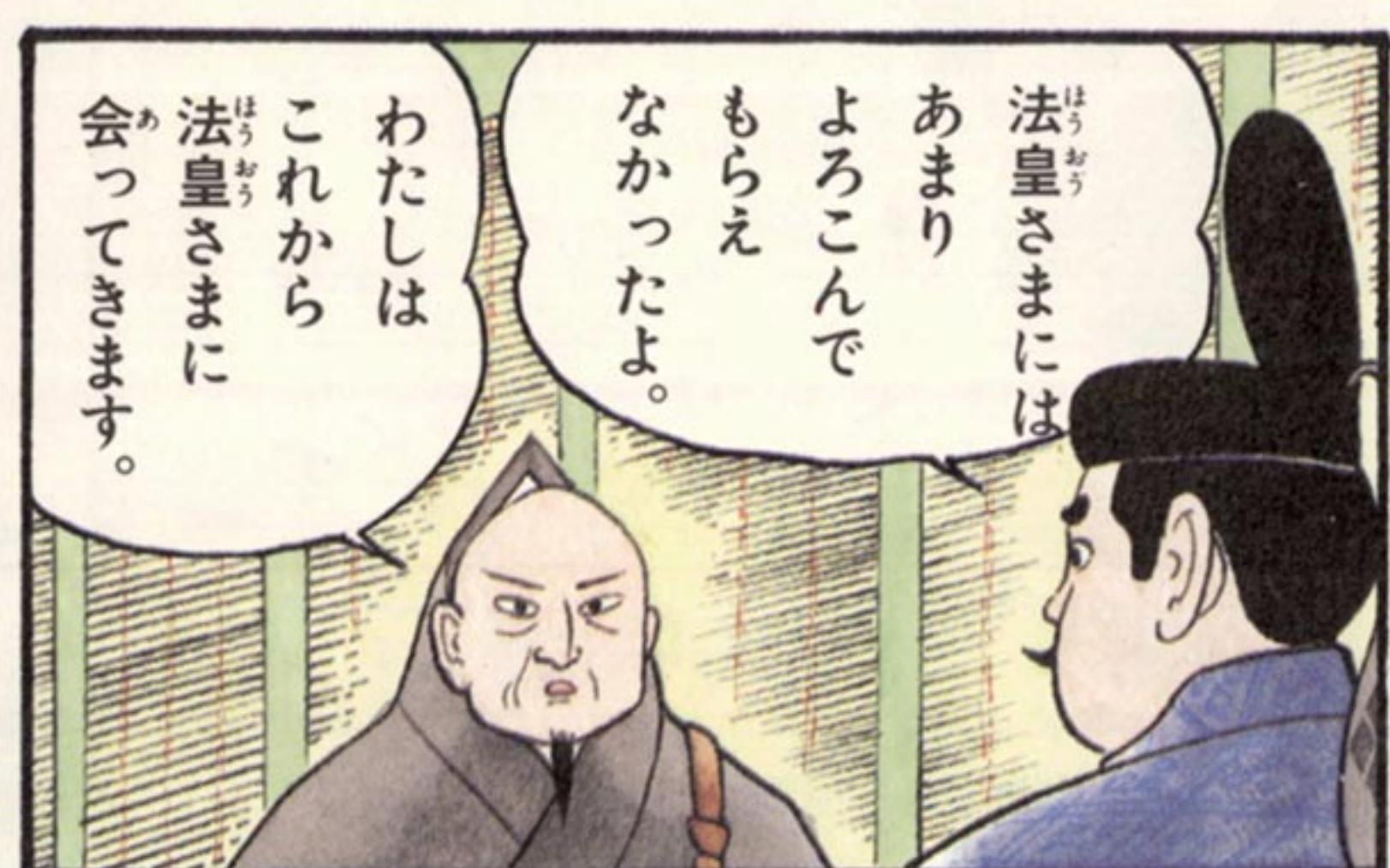
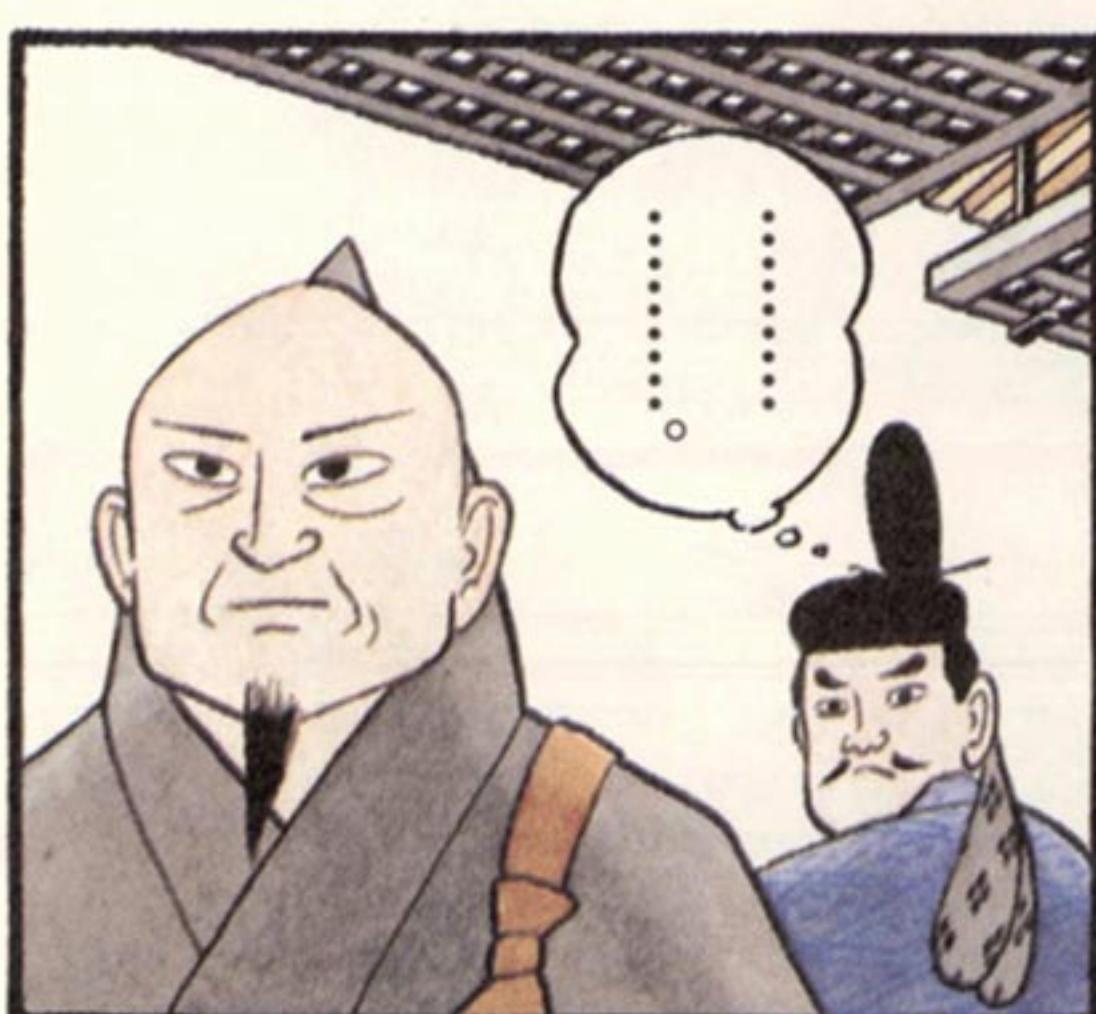
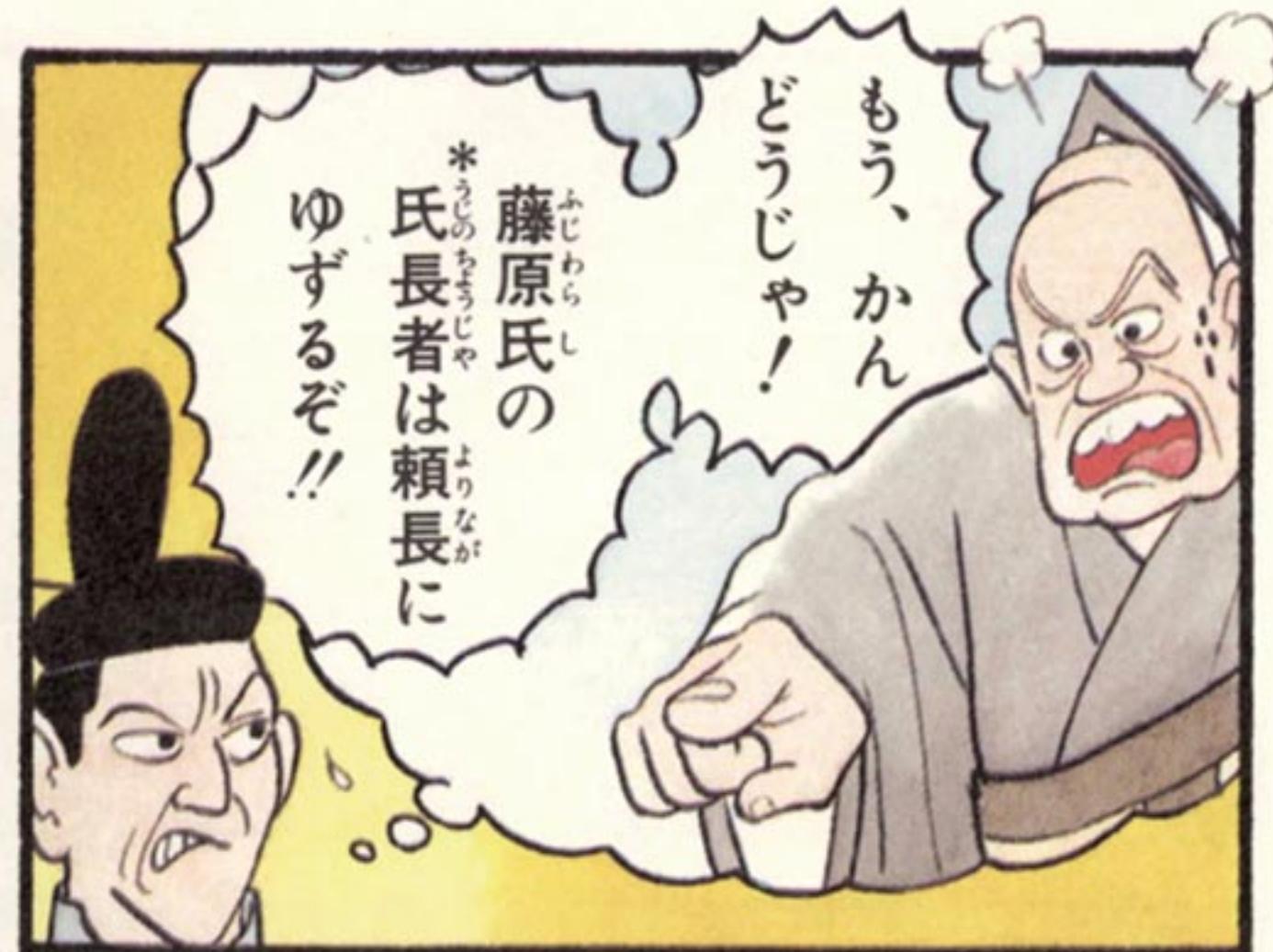


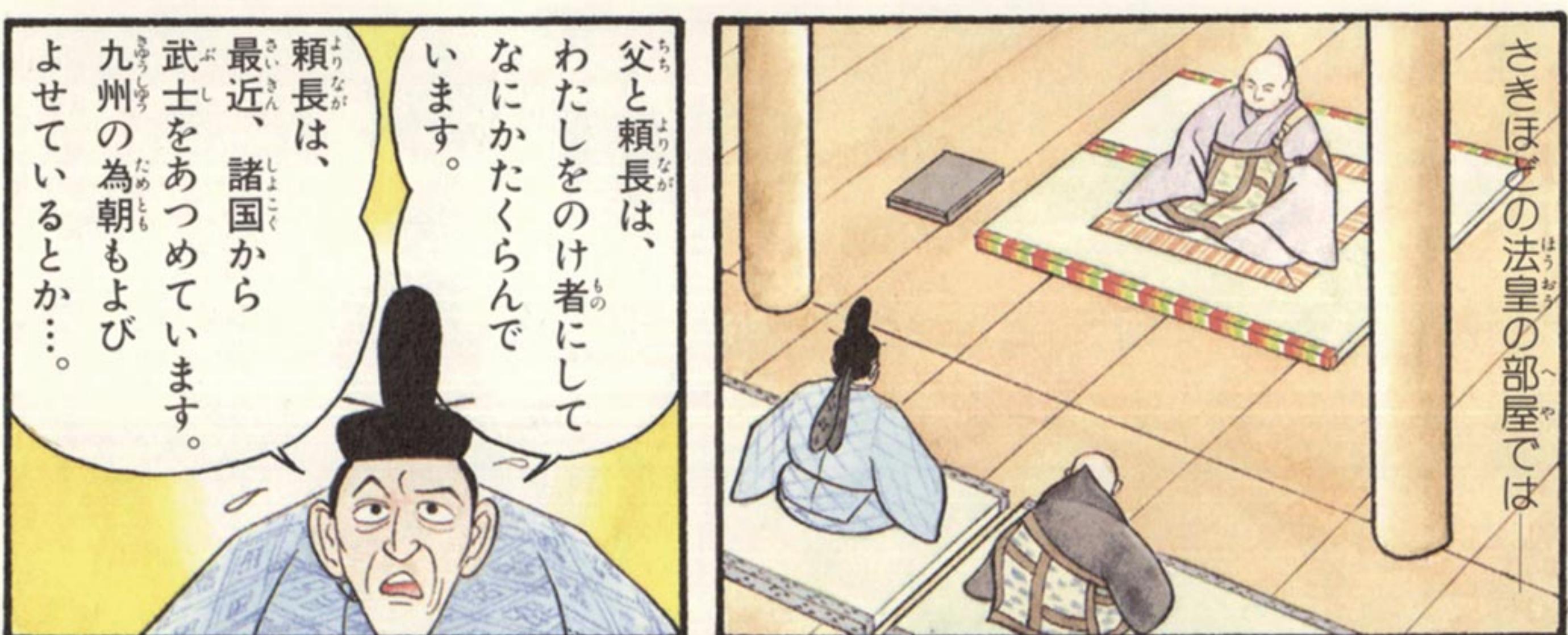
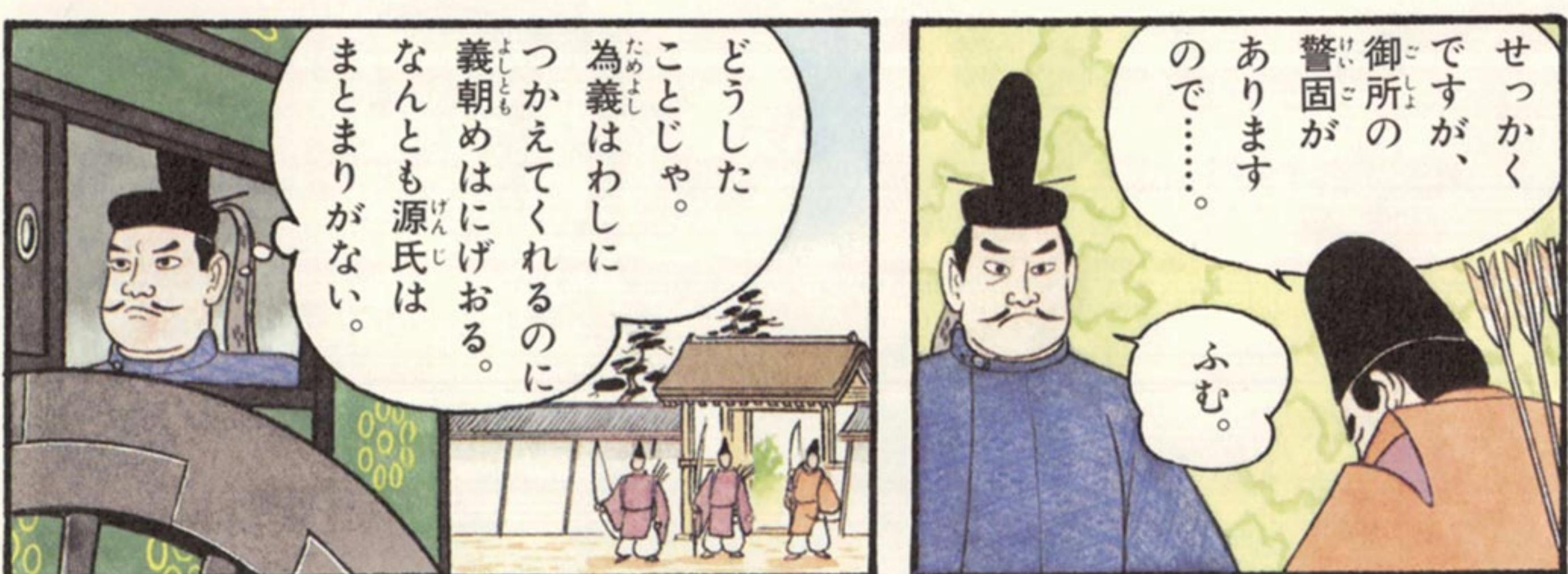
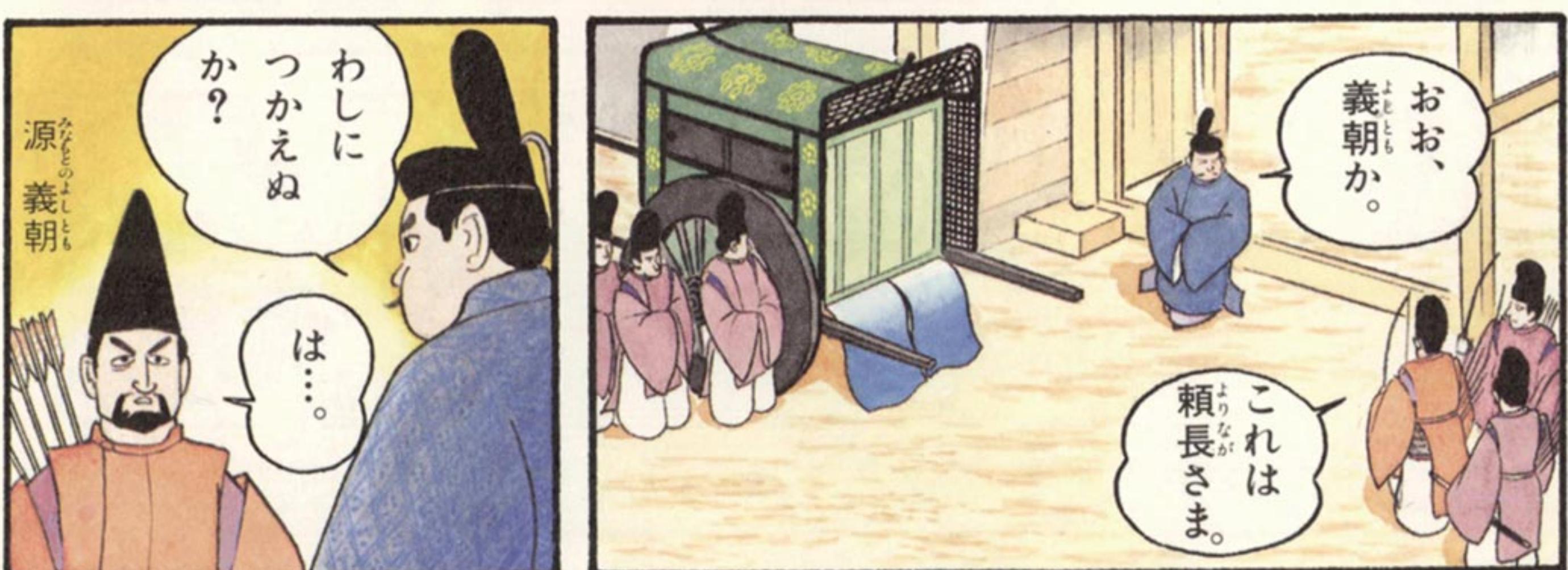




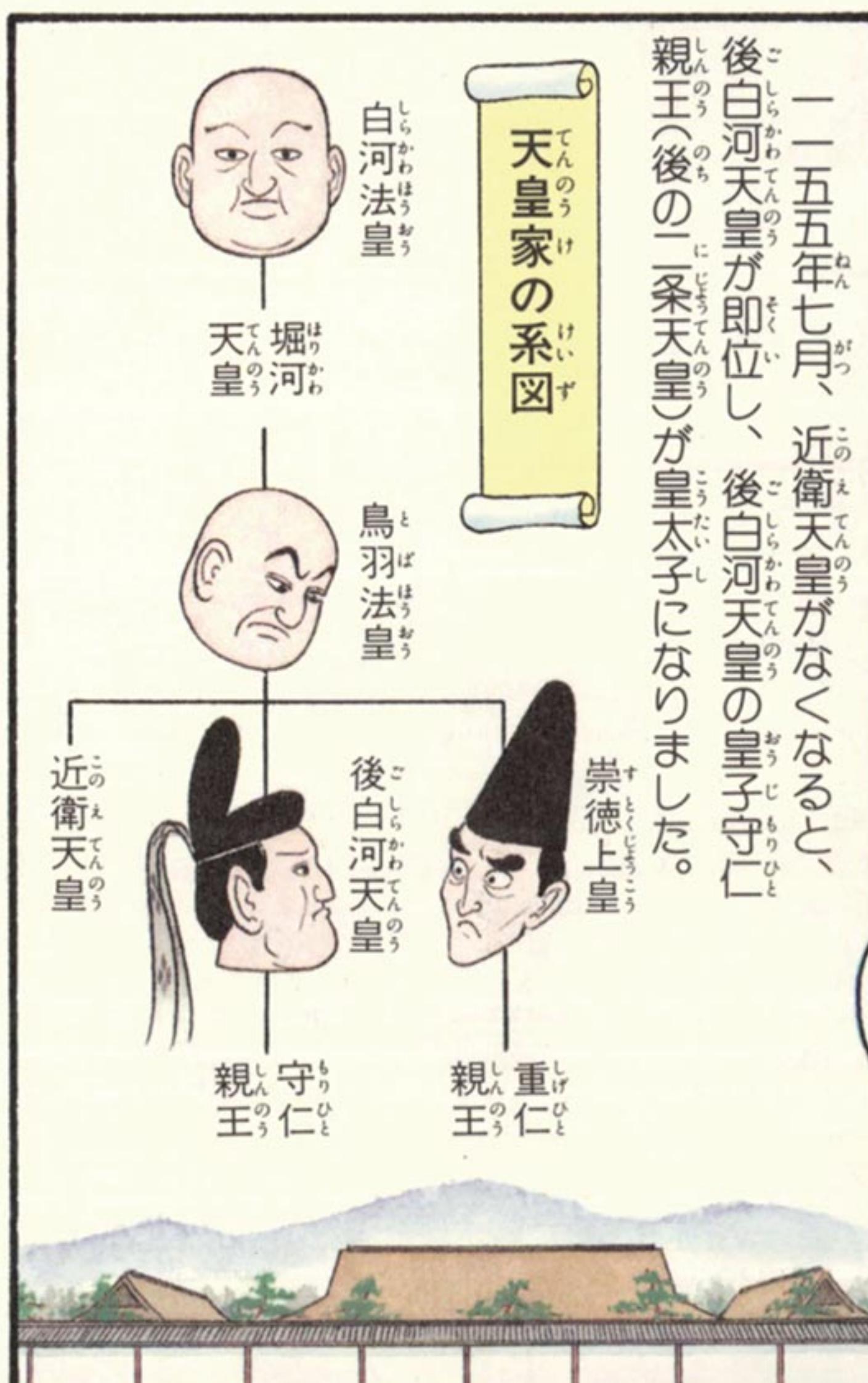
* 氏長者：藤原氏、源氏、平氏などの氏を代表する者。

* 出家：僧になること。





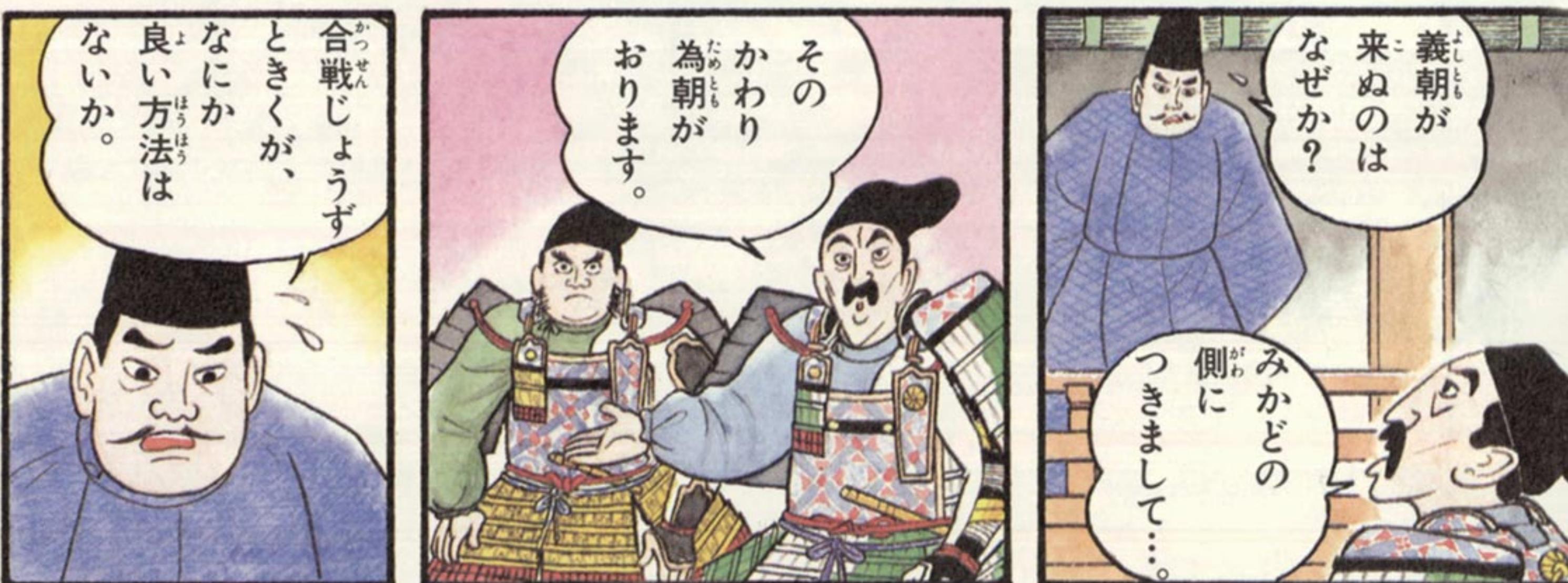
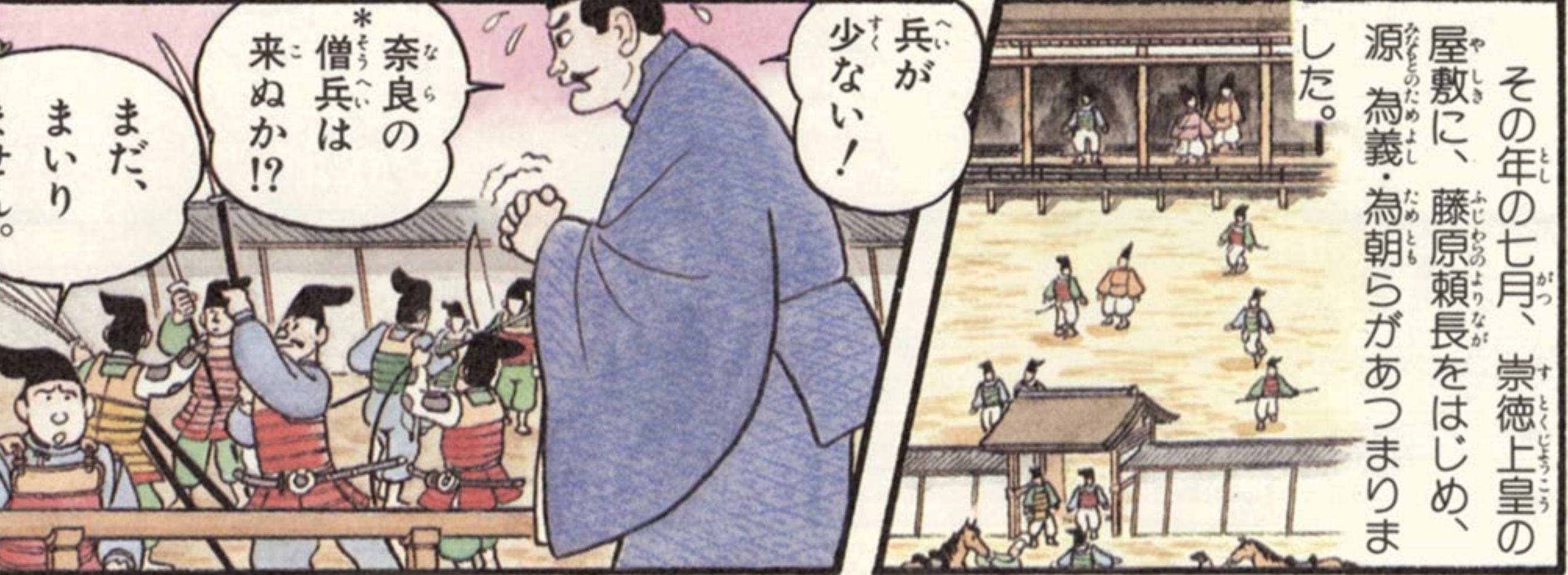
*上皇：位をしりぞいた天皇。

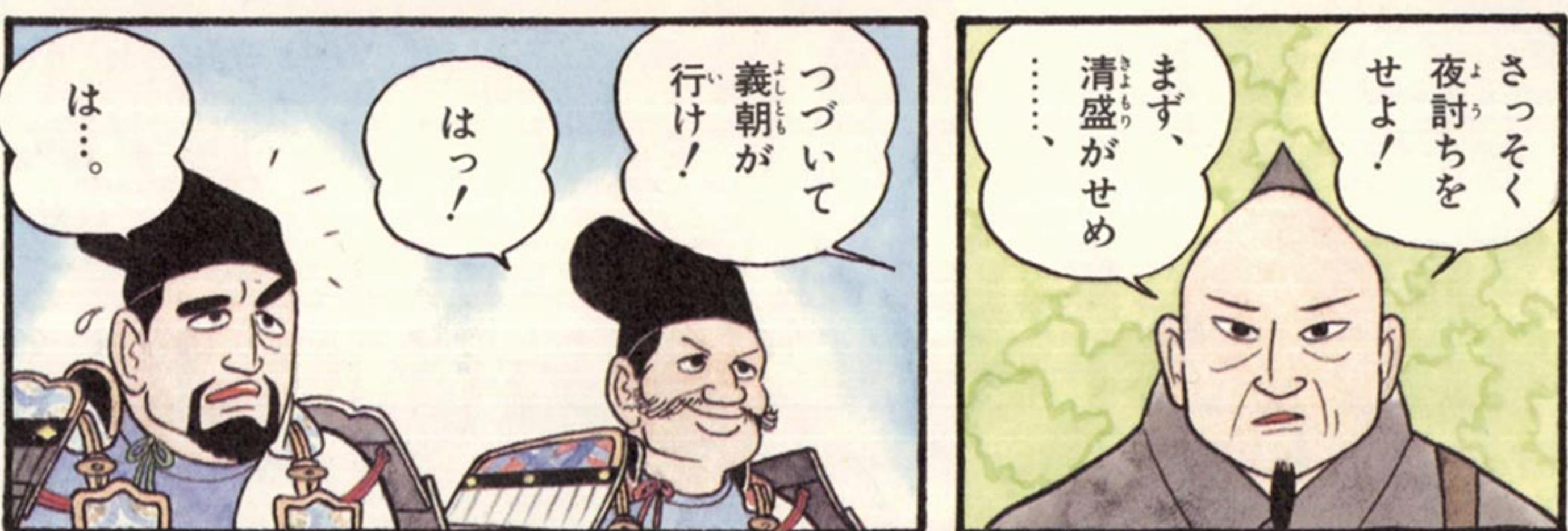
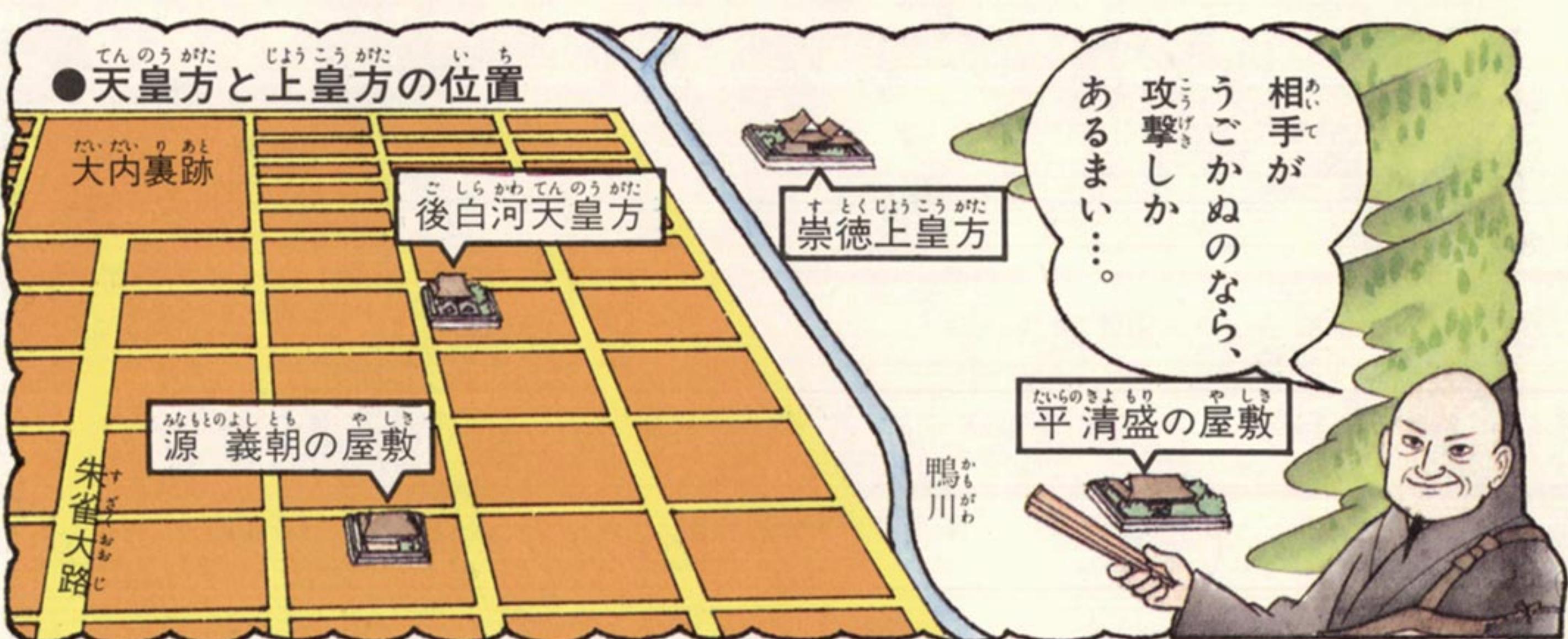
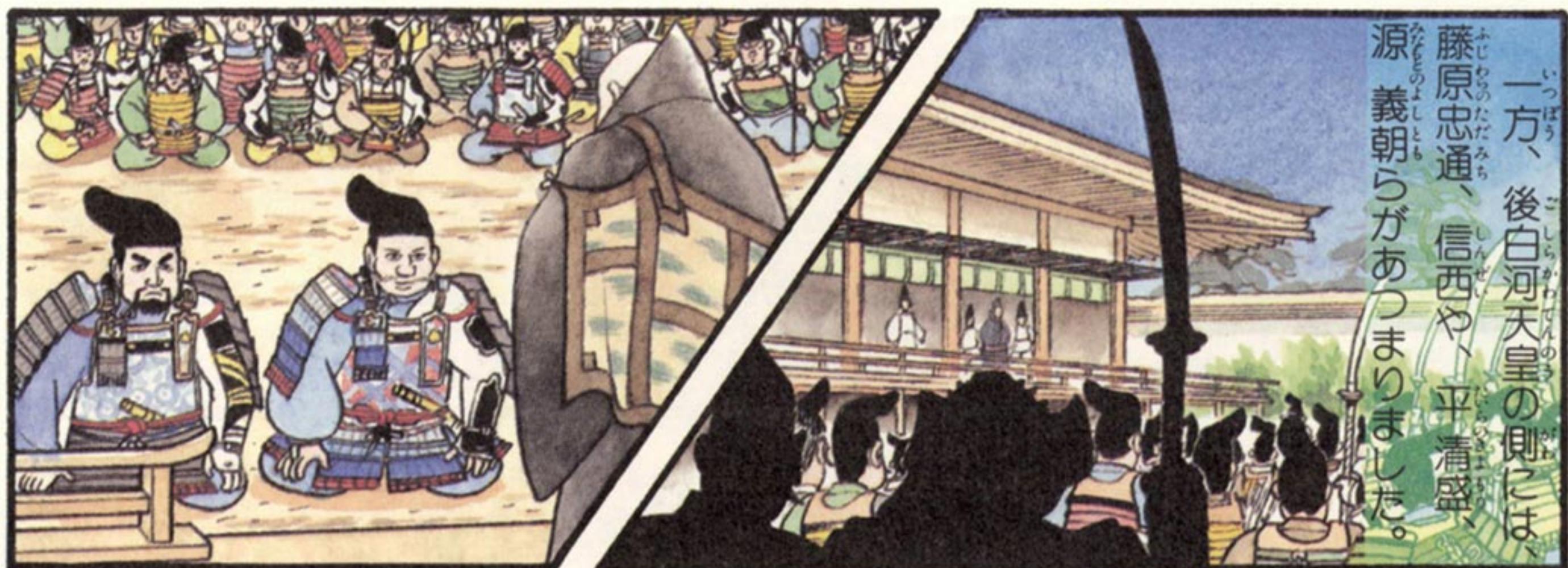


一一五五年七月、近衛天皇がなくなると、後白河天皇が即位し、後白河天皇の皇子守仁親王(後の一條天皇)が皇太子になりました。

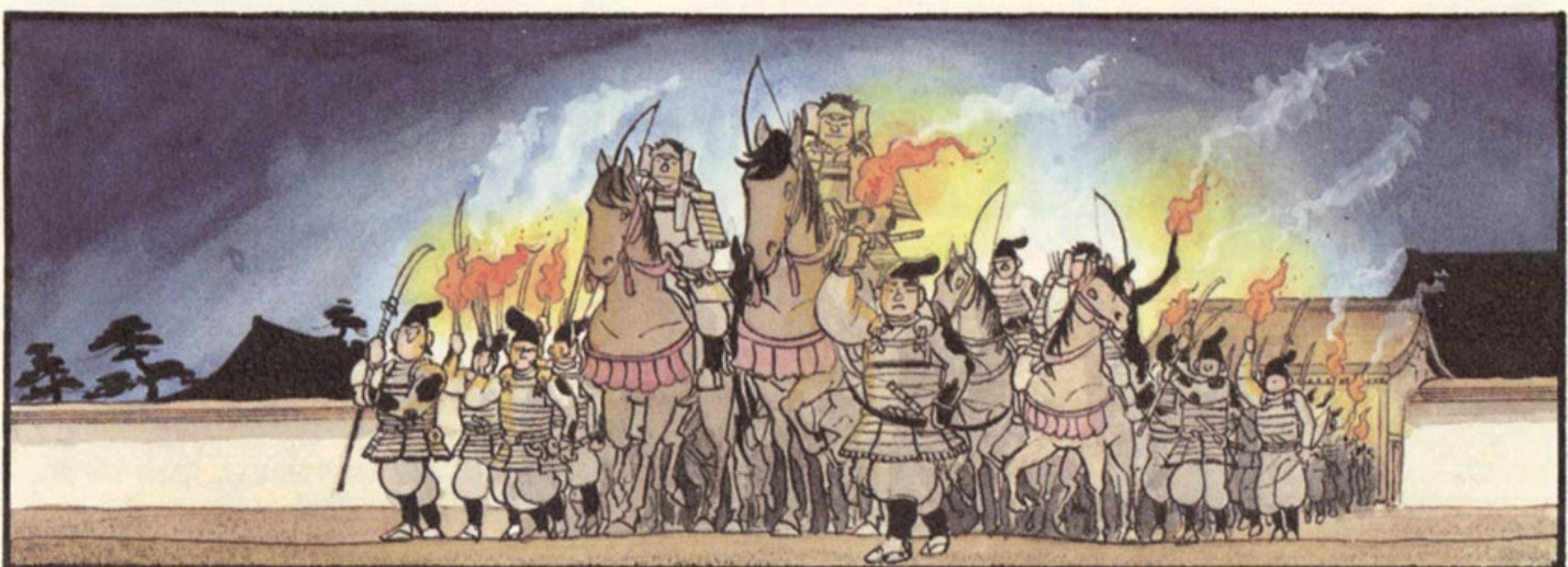


一一五六六年四月、年号が保元とあらためられました。まもなく、鳥羽法皇は重い病気にかかり、なくなりました。





*先陣…敵のいる所に、まっさきに馬をのり入れること。一番乗りともいう。





ほうげん らん てき みかたひよう 保元の乱の敵・味方表



上皇邸

夜討ち
じやつ!!
平氏軍の

夜討ち
じやつ!!

為朝、
そちだけが
たのみだ。

それ
みた
ことか

清盛軍の
夜討ちじゃと!?

なにつ、
来たな、
平氏の
うじ虫

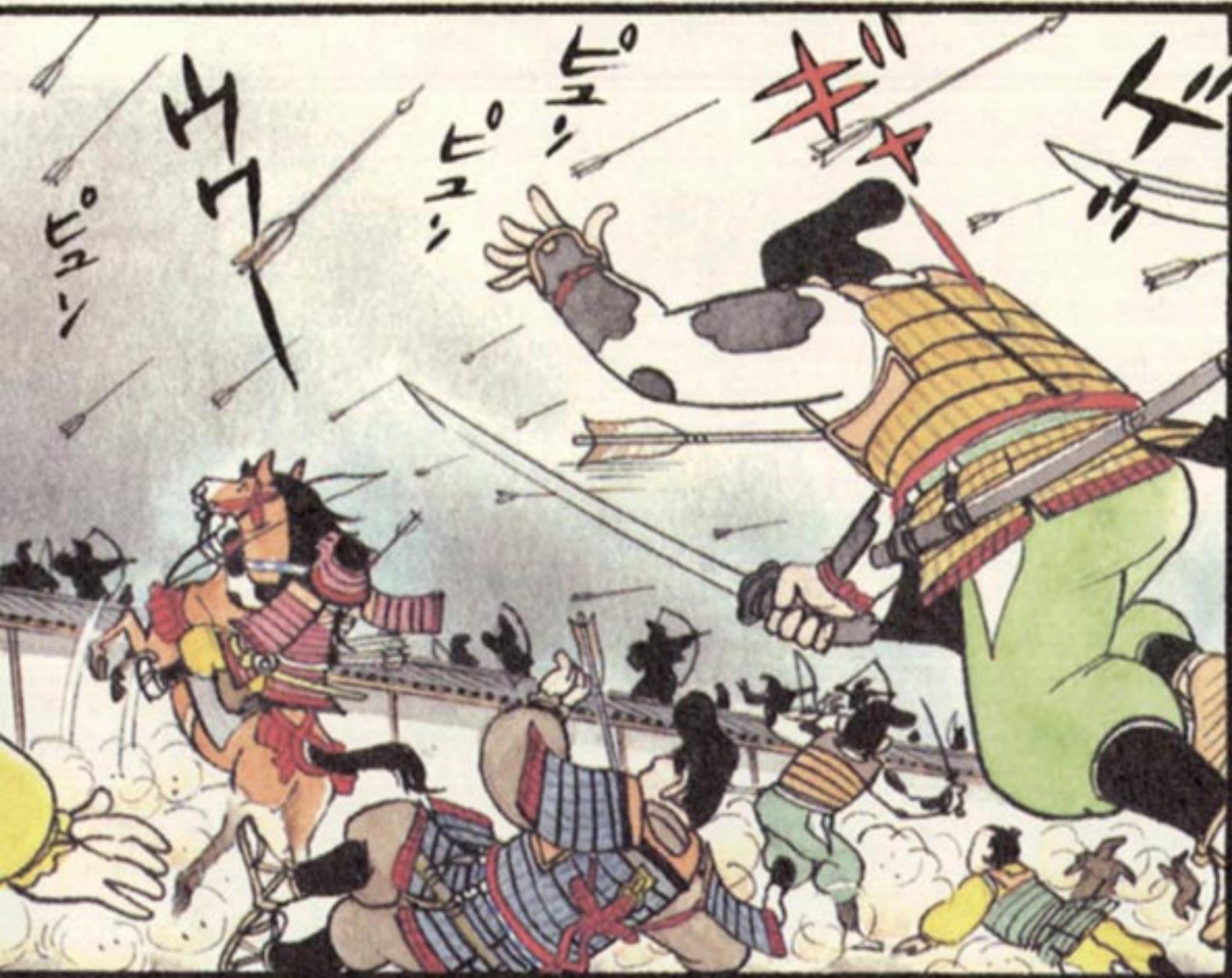
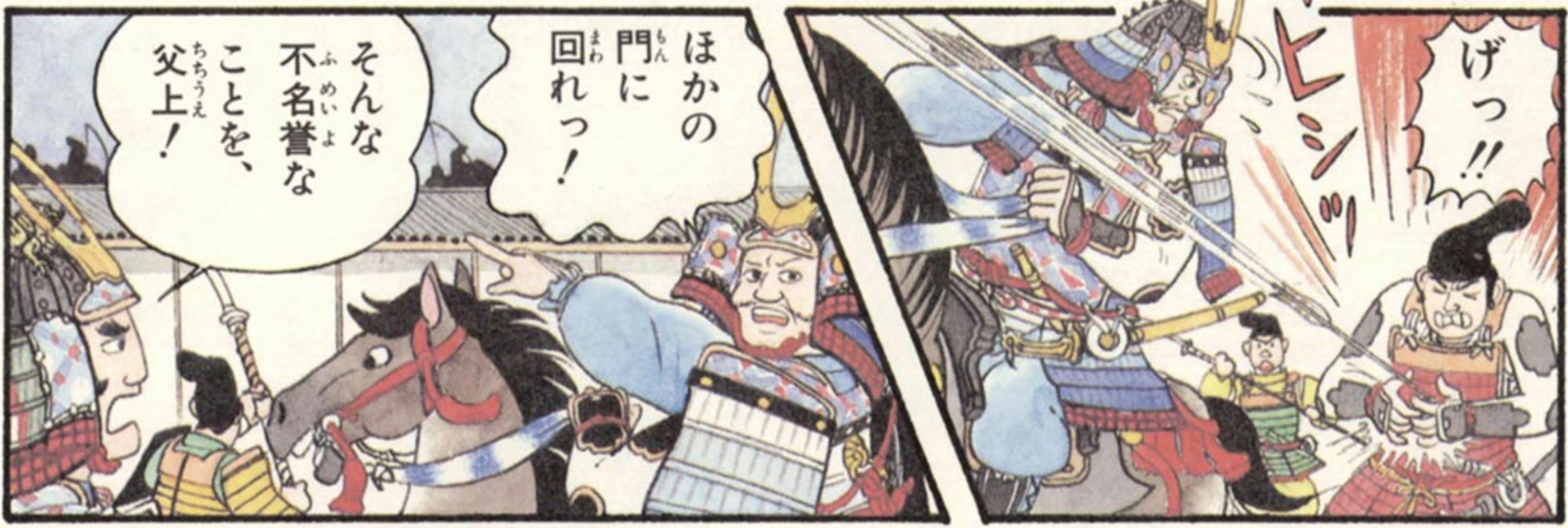
シメ

しまつた!
為朝の
いるところに
来て
しまつた!

しまつた!

あつ。

ぎ
つ!!





* 鎌倉権五郎

源義家につかえた東国

の荒武者。

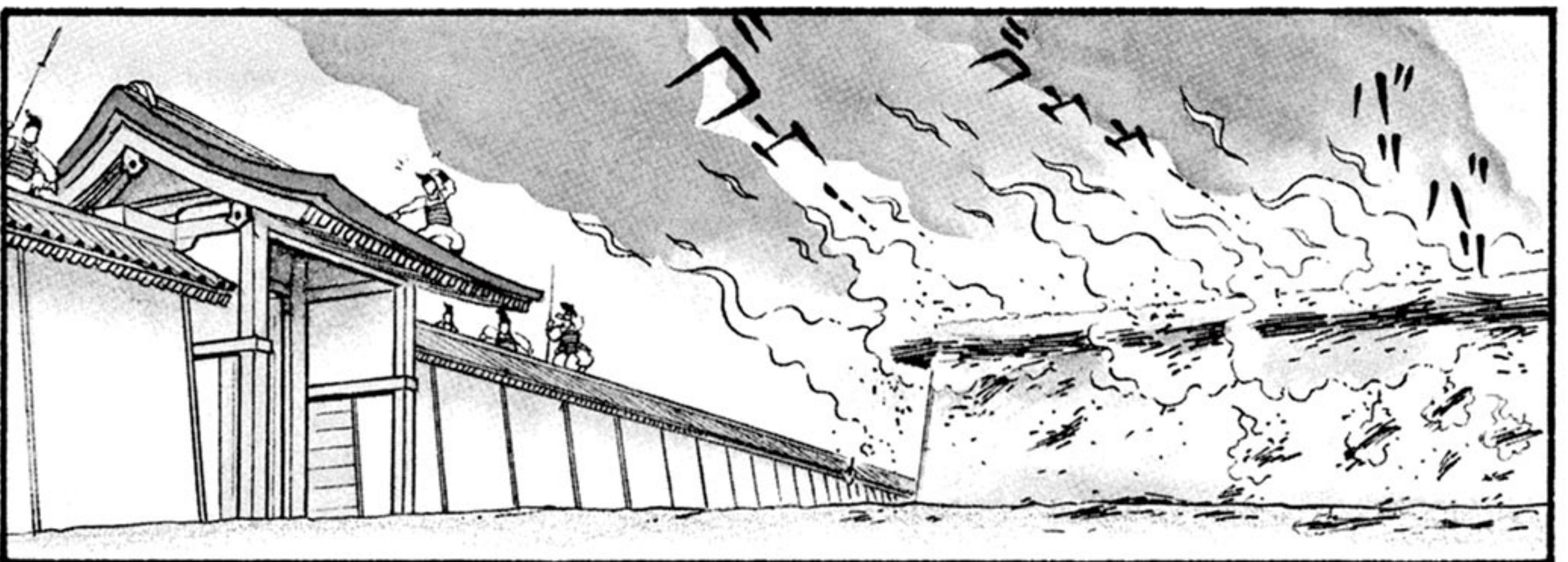
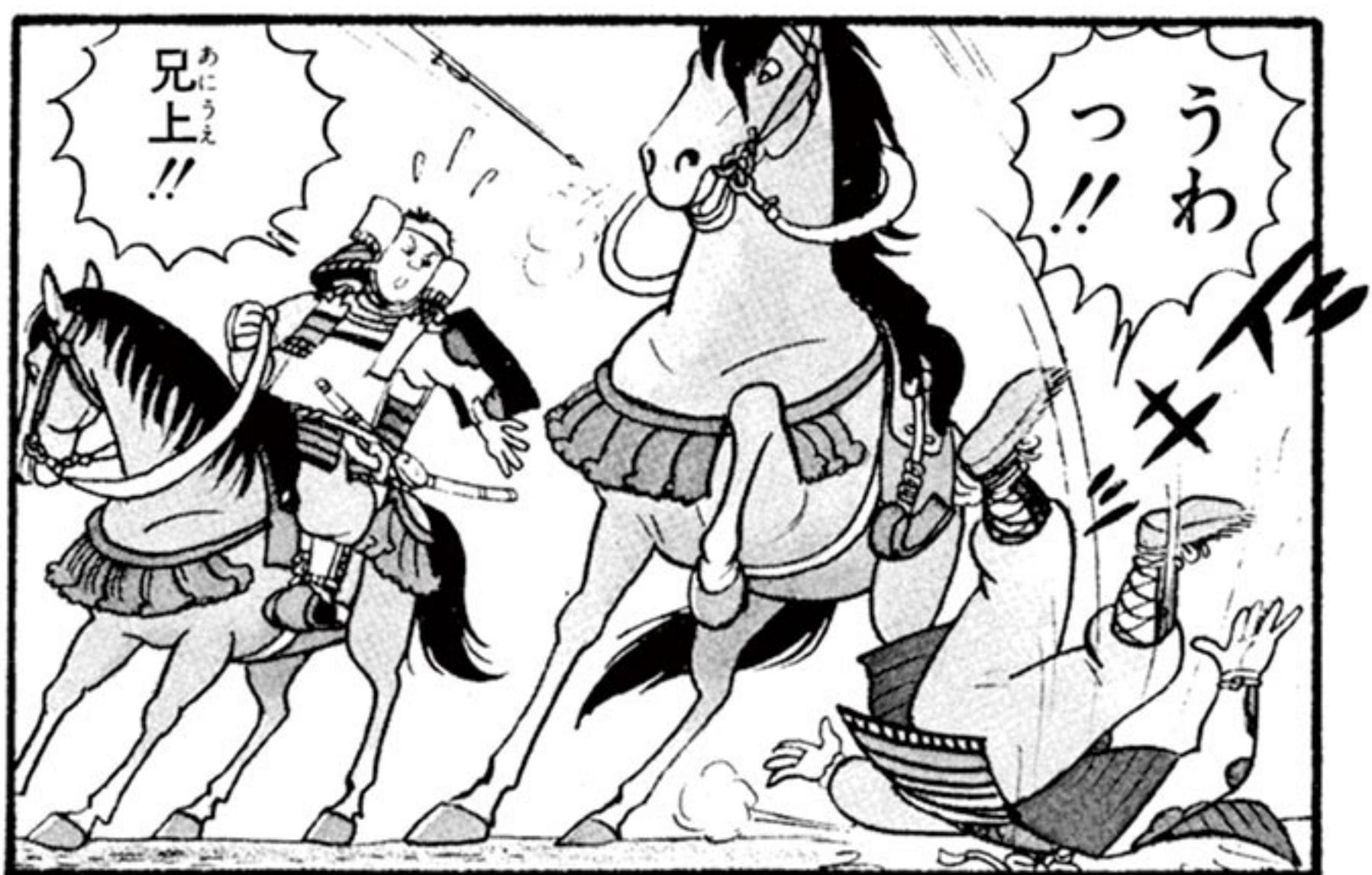
大庭兄弟は、ひ孫にあたる。

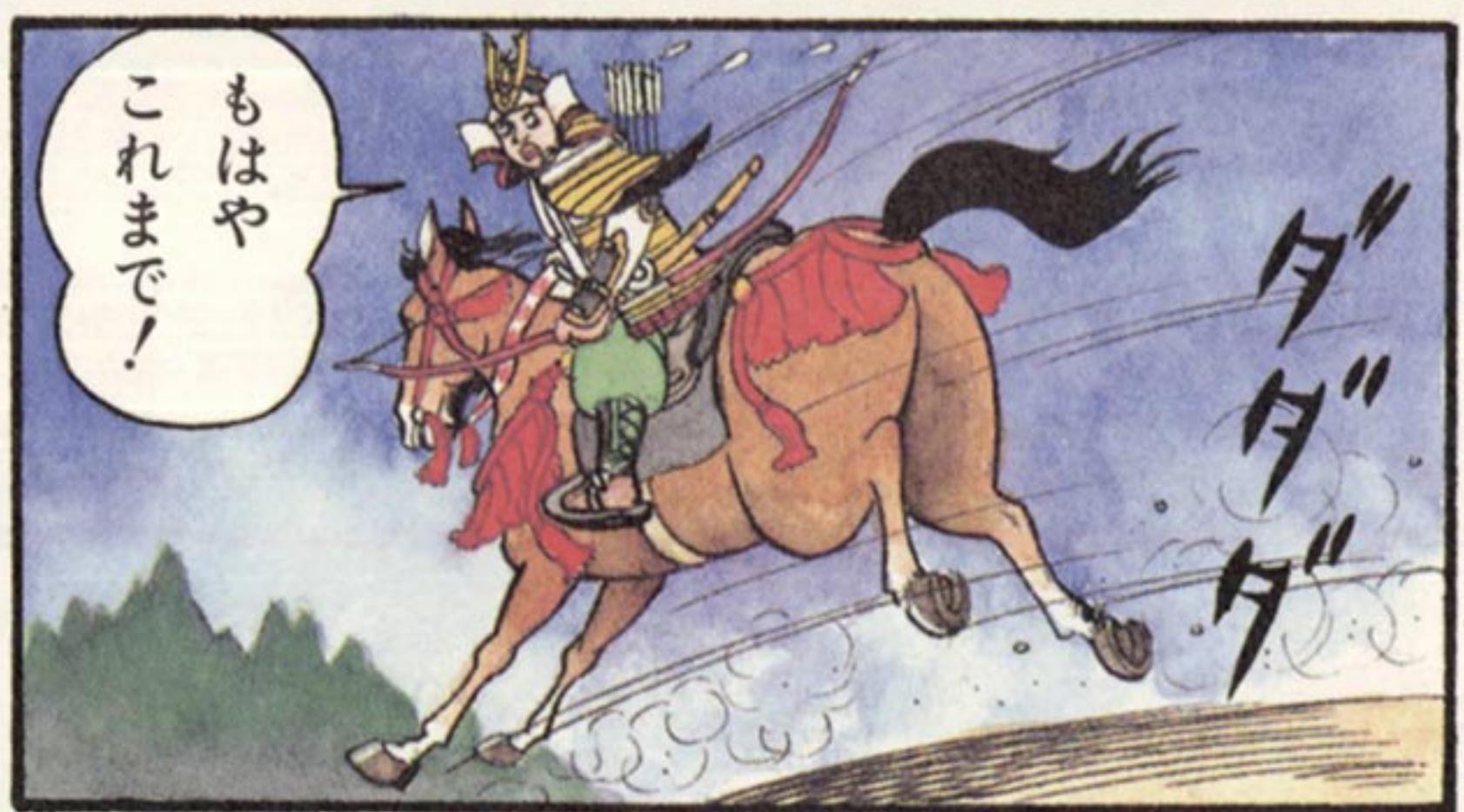
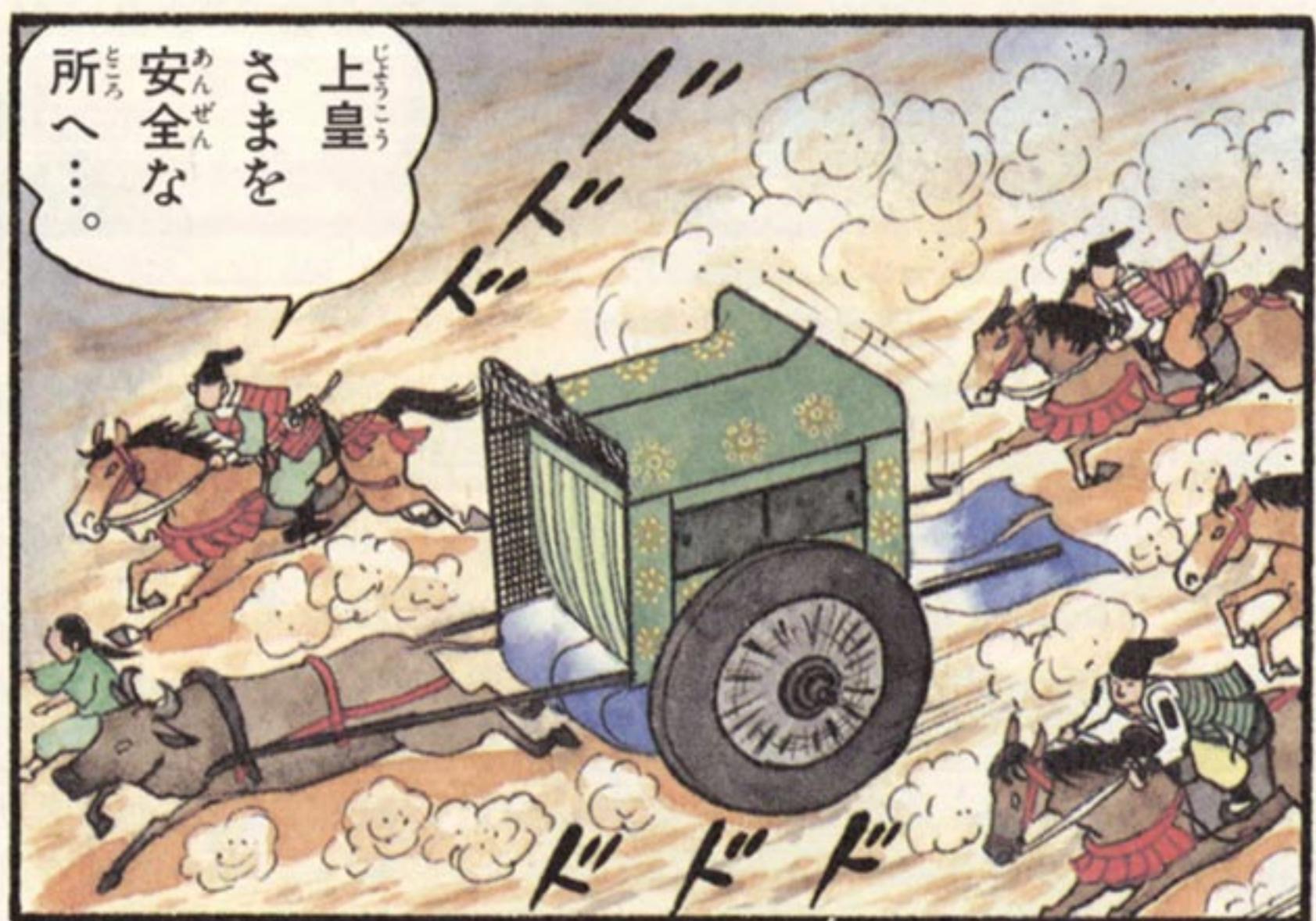
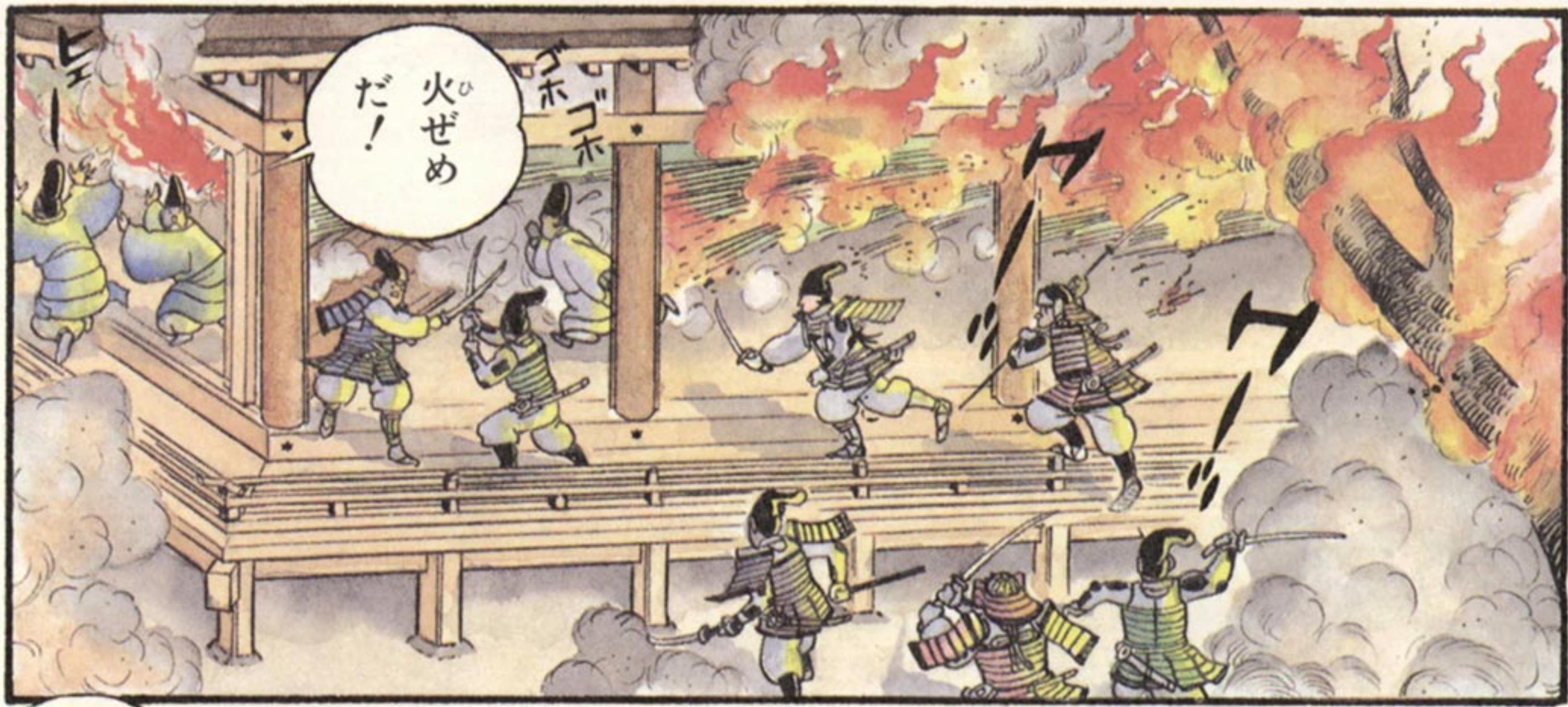


* 鎌倉権五郎

源義家につかえた東国

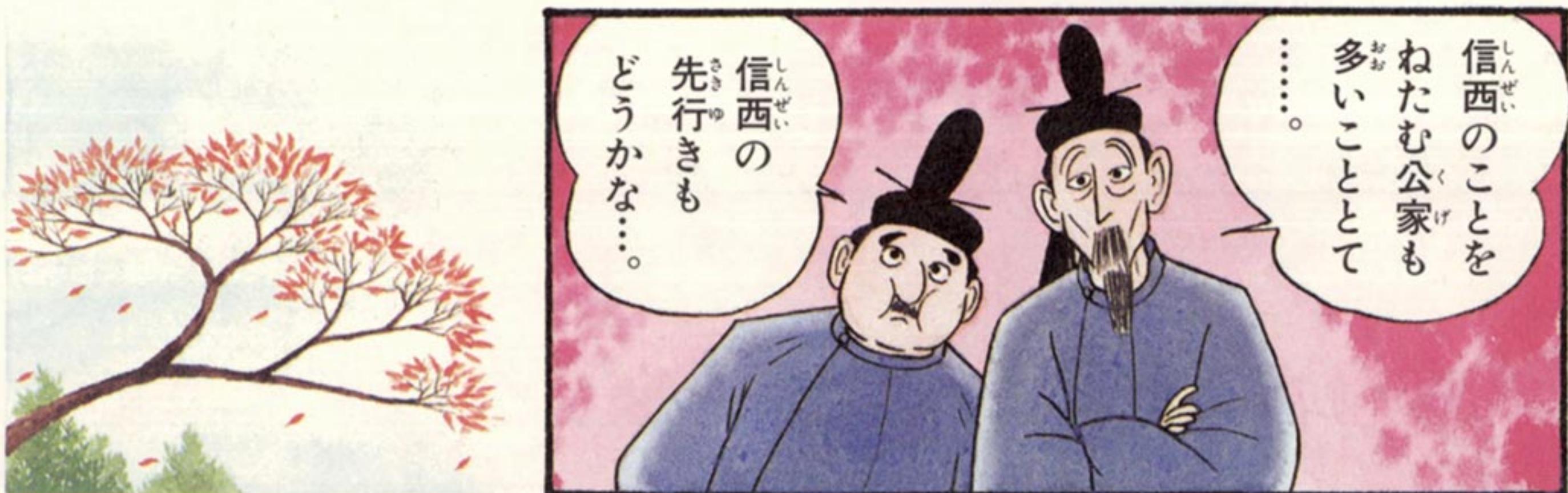
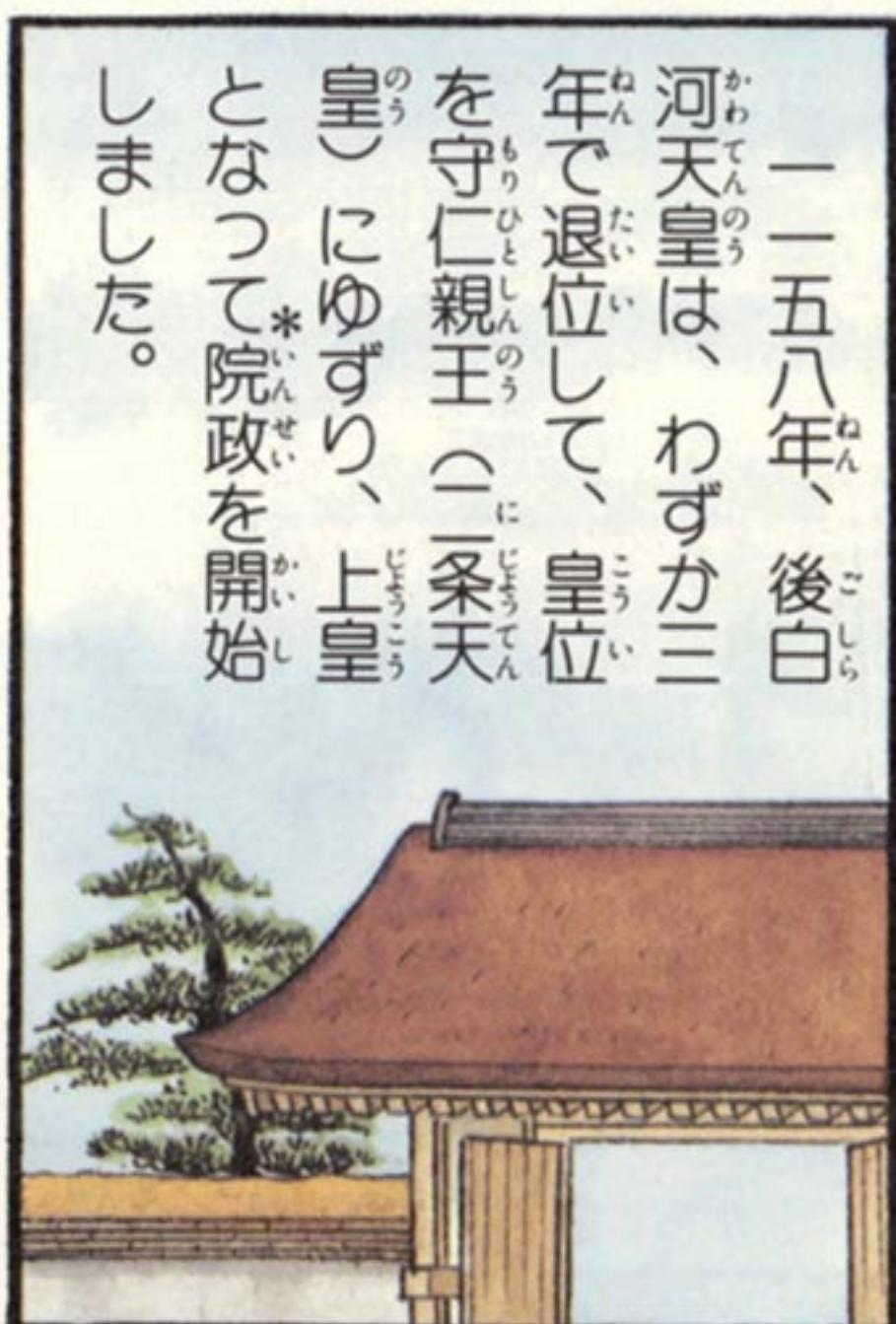
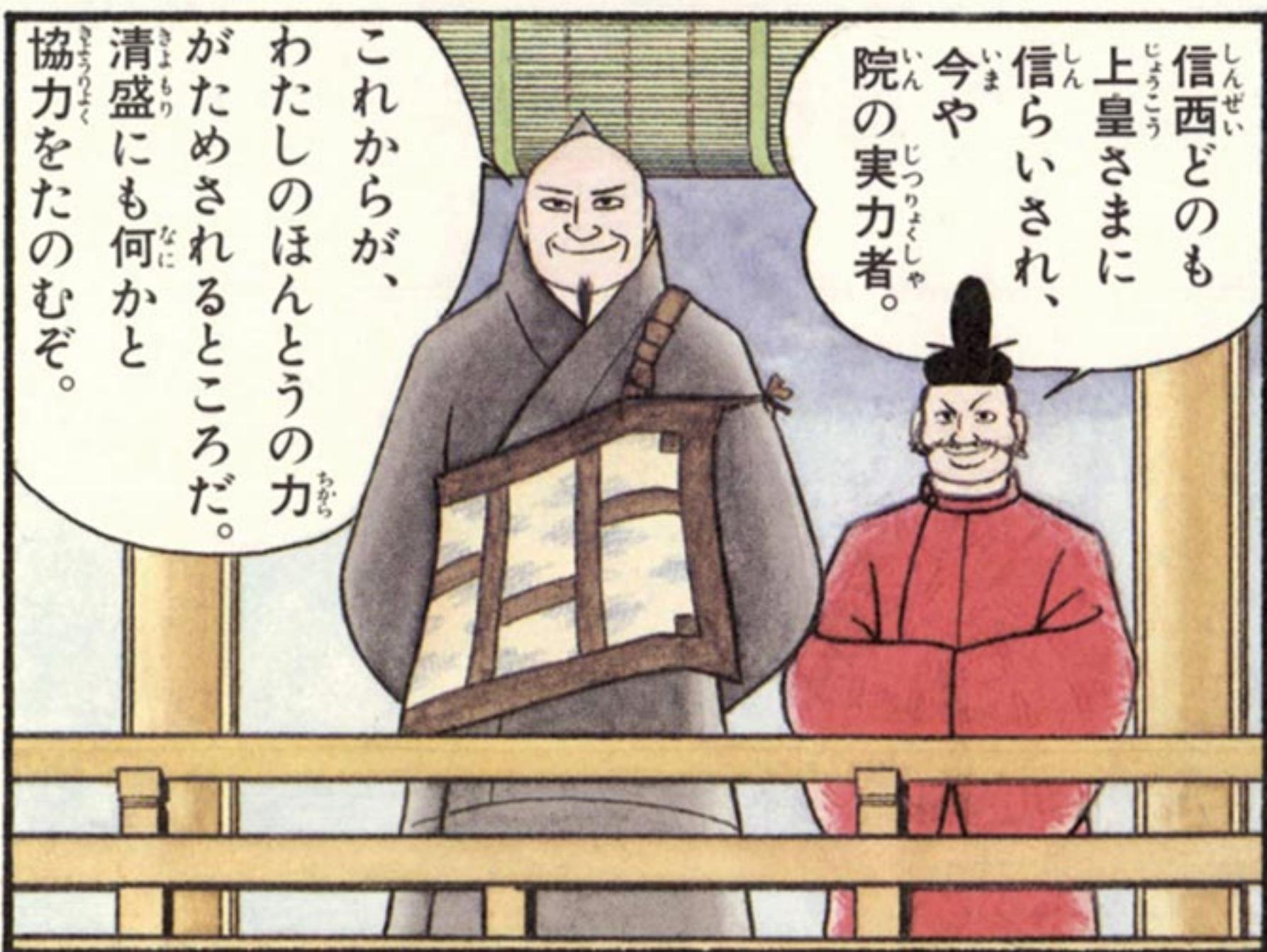
の荒武者。





*院政：上皇や法皇が行う政治。

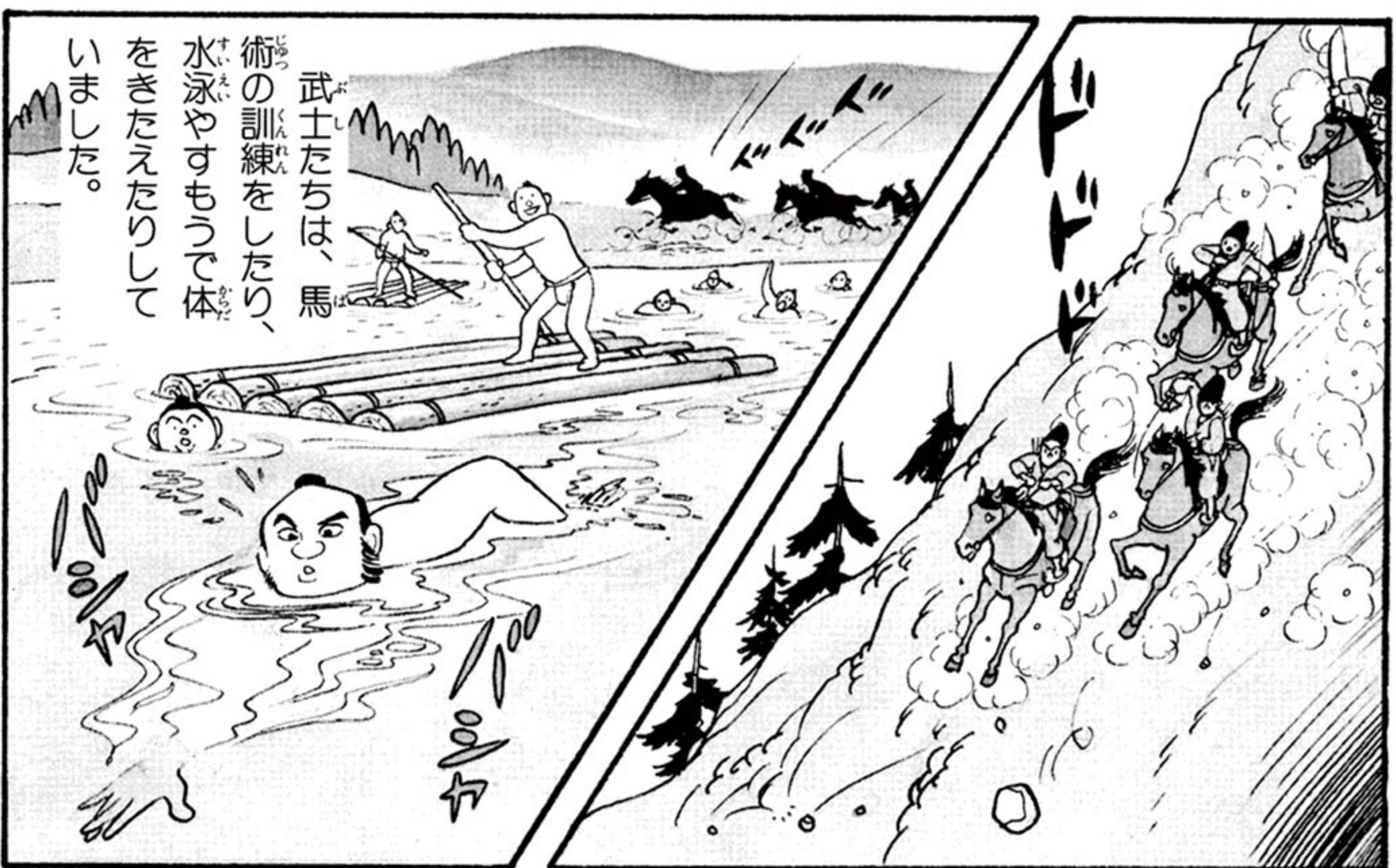
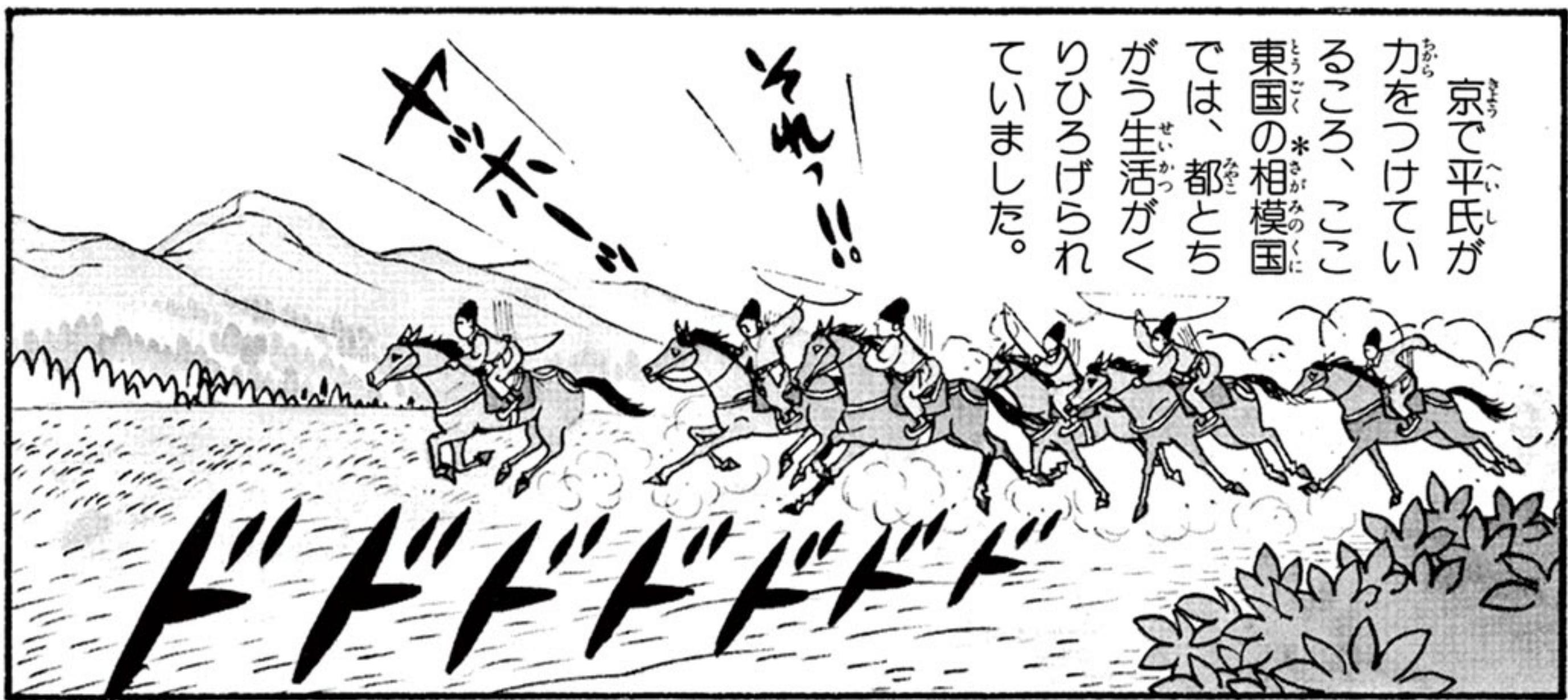
一一五八年、後白河天皇は、わずか三年で退位して、皇位となつて院政を開始しました。

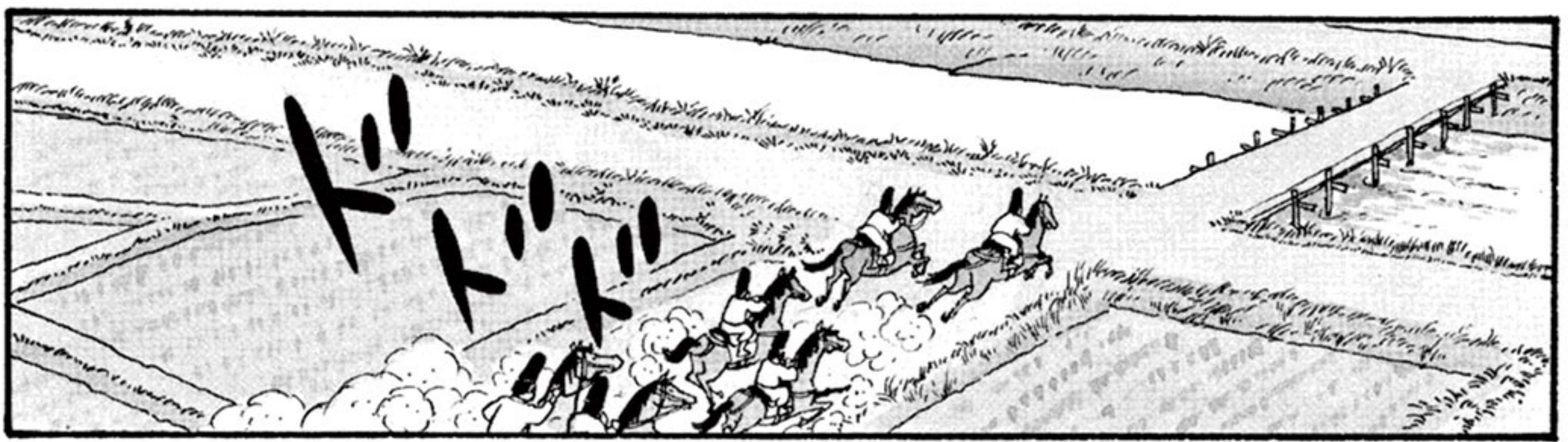
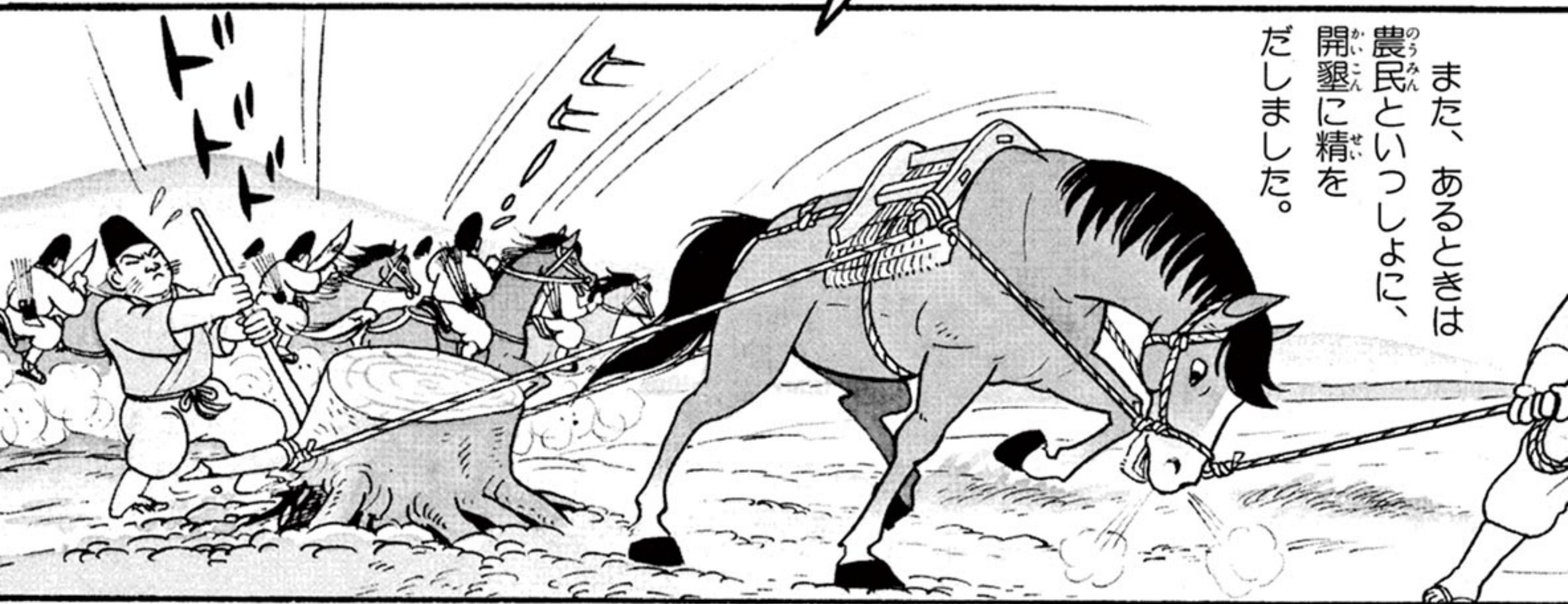
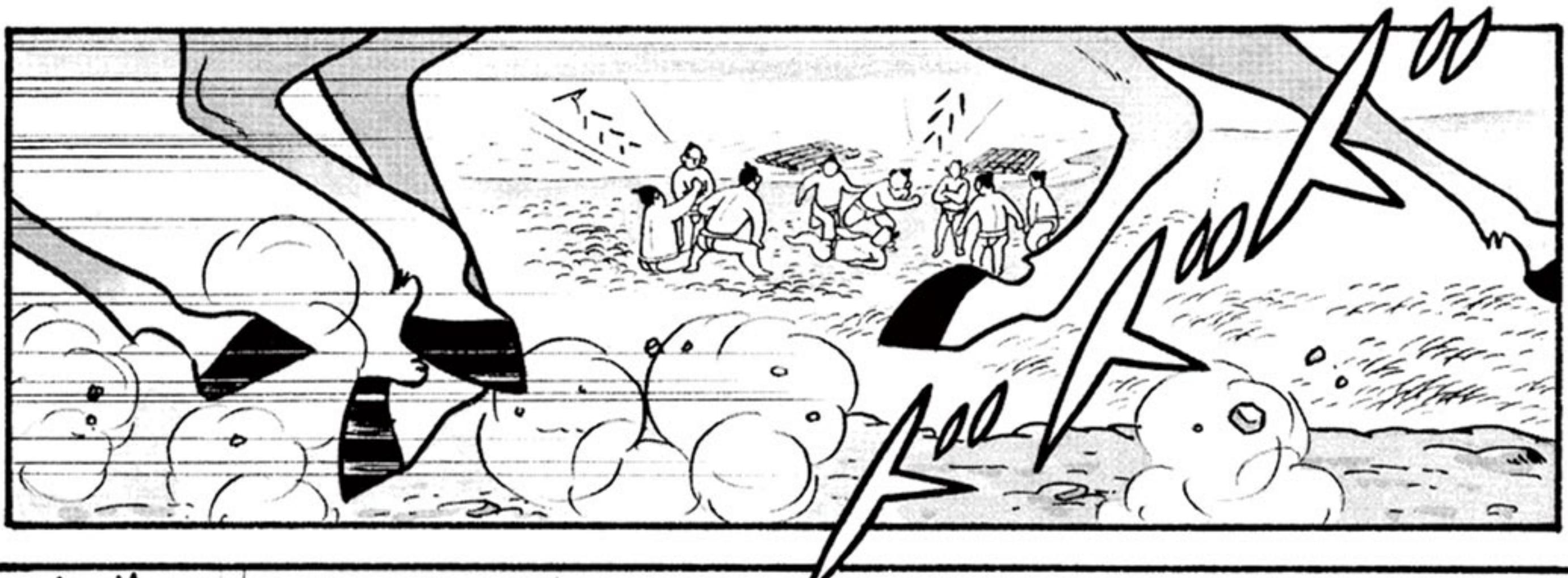


*播磨守：播磨国（兵庫県の西南部）の国府の長官。

*相模
模：神奈川県

京で平氏が力をつけているところ、ここ東国*の相模國では、都とちがう生活がくりひろげられていきました。



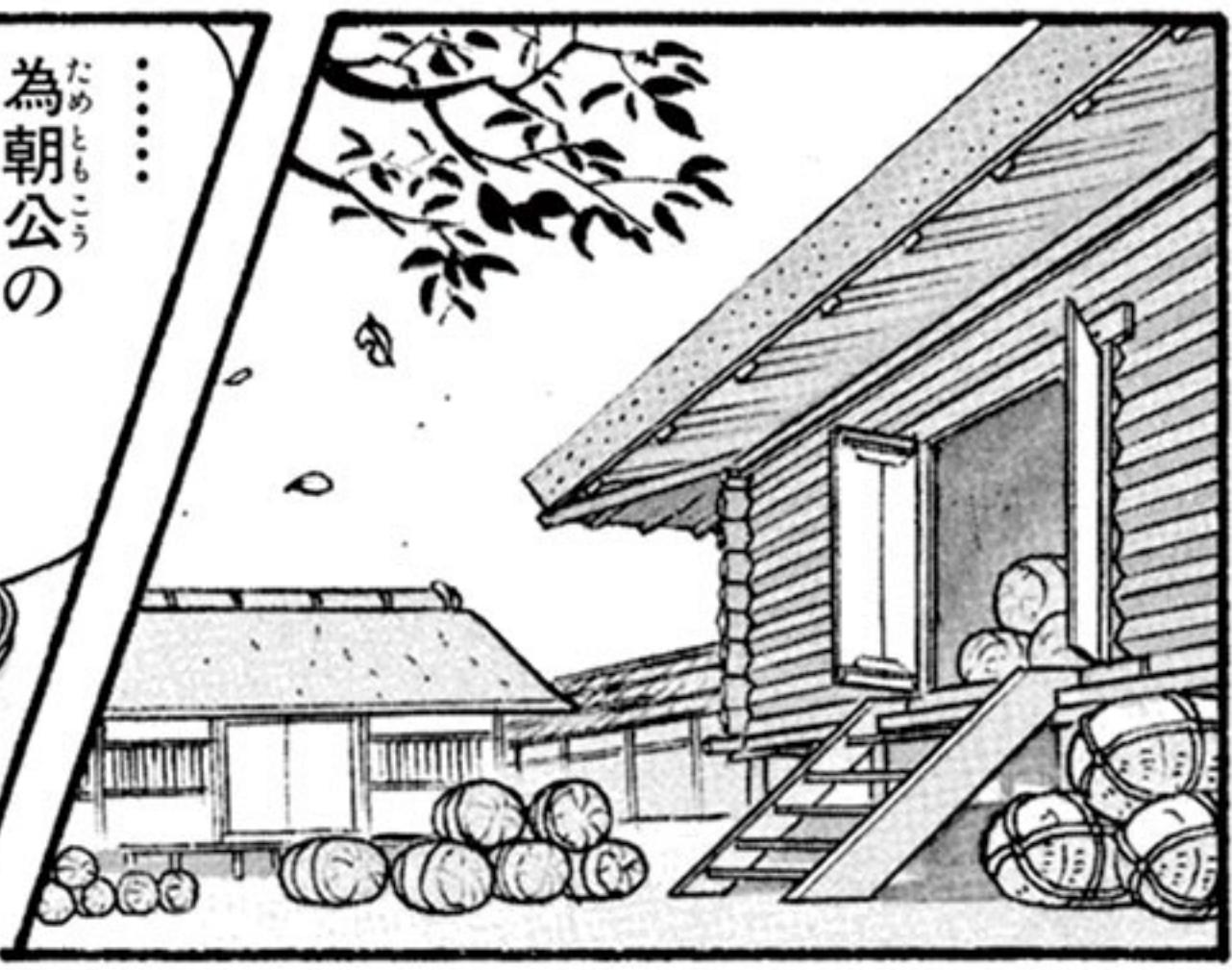


武士のすむ館は、山野のふもとにたてられました。近くの川から水を引き、それを農耕や堀に利用していました。館のまわりには板塀をめぐらし、門の上には物見櫓をもうけて、外敵にそなえました。館の中には、主人のすむ母屋を中心として、倉や馬小屋などが立ちならび、武芸をみがく馬場もありました。そしてここは、大庭景義の館。

わあい、
まで！







*奥州

・福島県

・宮城県

・岩手県

・青森県



*熊野詣：熊野（和歌山県南部）にある三つの神社におまいりすること。

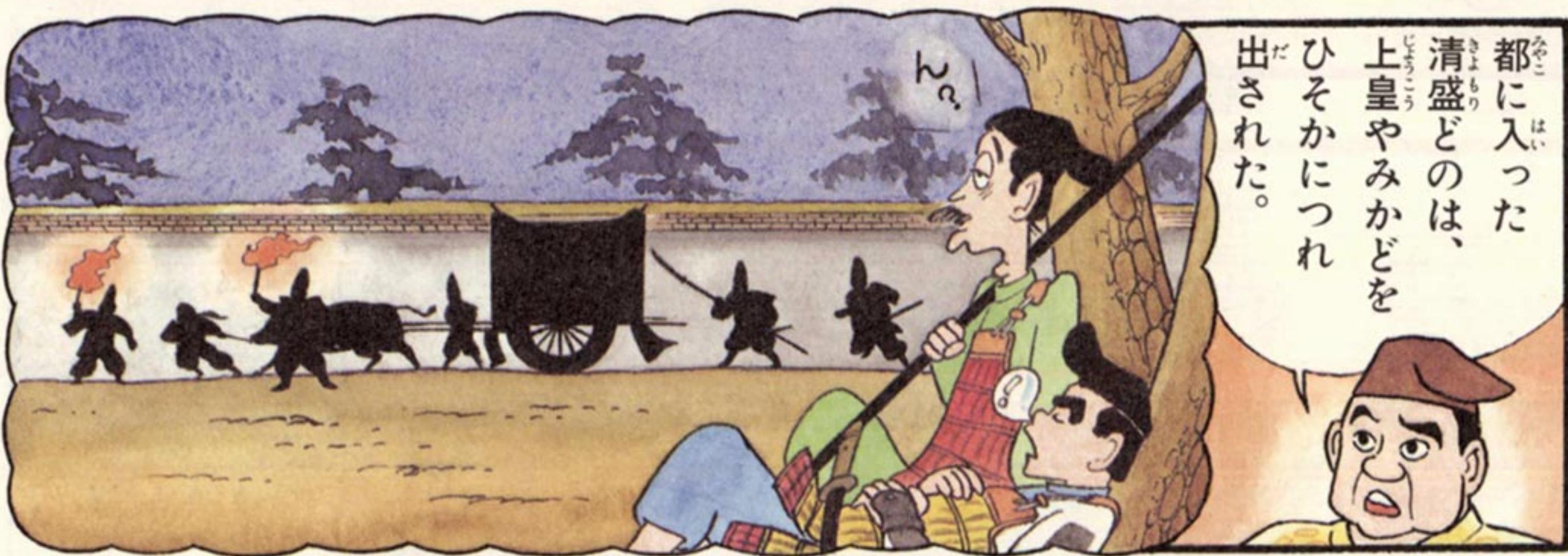
当うじ
當時、公家や貴族たちの間でさかんに行われた。

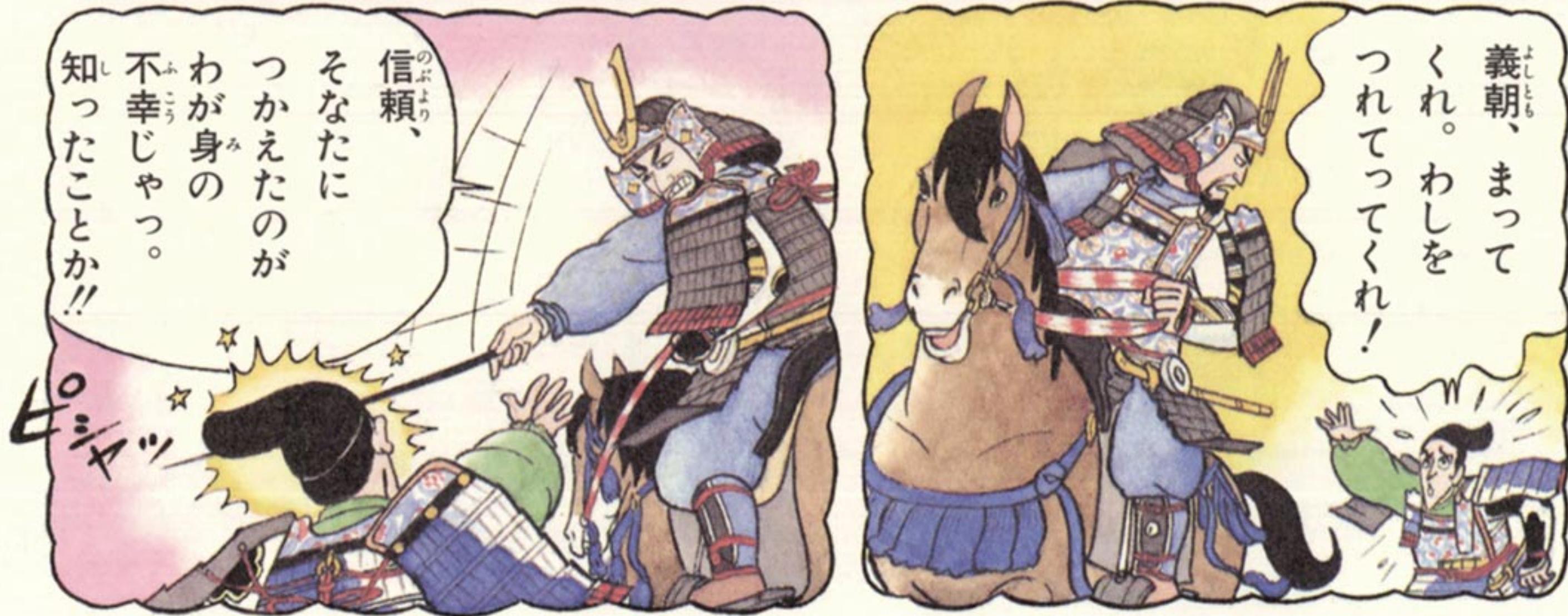


*宇治：京都府宇治市あたり。

*怨靈：うらみをいだいて死んだ人の魂。

*初陣：はじめて戦場に出ること。







*安房…千葉県の南部。



*上総…千葉県の中央部。

*下総…千葉県の北部と茨城県の一部。



。



*安房…千葉県の南部。

*上総…千葉県の中央部。

*下総…千葉県の北部と茨城県の一部。

*常陸・茨城県
*下野・栃木県

*甲斐源氏：甲斐国（山梨県）にすみついた源氏の一族。

武田氏、一条氏、安田氏などがいた。



小学館 eBooks

だい しょう
第二章

へい し
さかえる平氏
へい あん じ だい まつ き
——平安時代末期——

*法華經：仏教の經典の一つ。妙法蓮華經の略。

*平家納經：平清盛が平氏一門の繁栄をねがつて、

厳島神社におさめたお經。

一一六四年、清盛は、*法華經を書きうつして、厳島神社にあさめました。これが、*平家納經とよばれる美しいお經です。

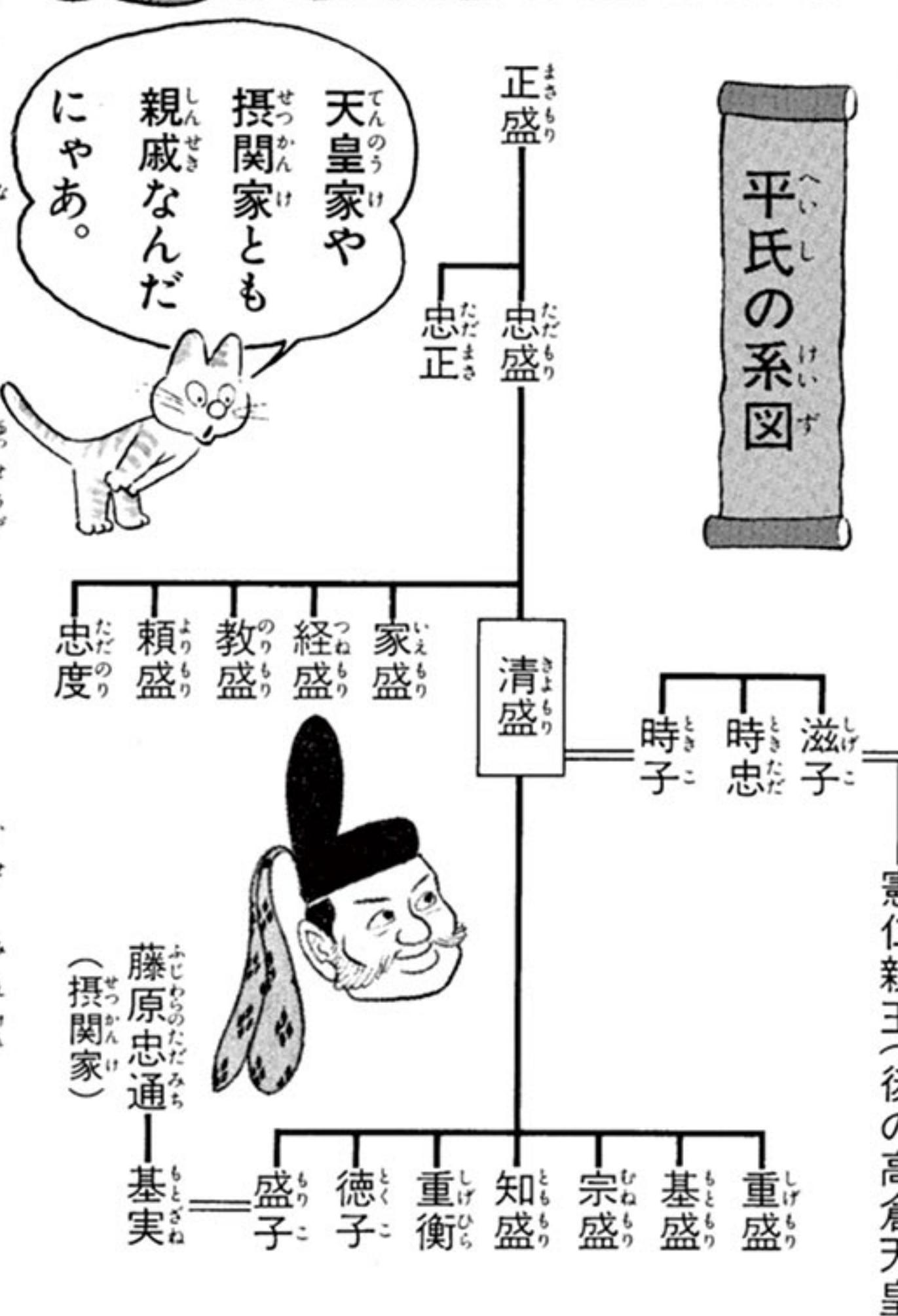


*安芸守：安芸国（広島県の西部）の国府の長官。

*中納言：

大納言の下で、参議の上の官職。

*スズキ：近海にいる魚で、成長するにつれ、「せい」「ふつ」「すずき」と名がかわり、出世魚といわれる。
*伊勢：三重県



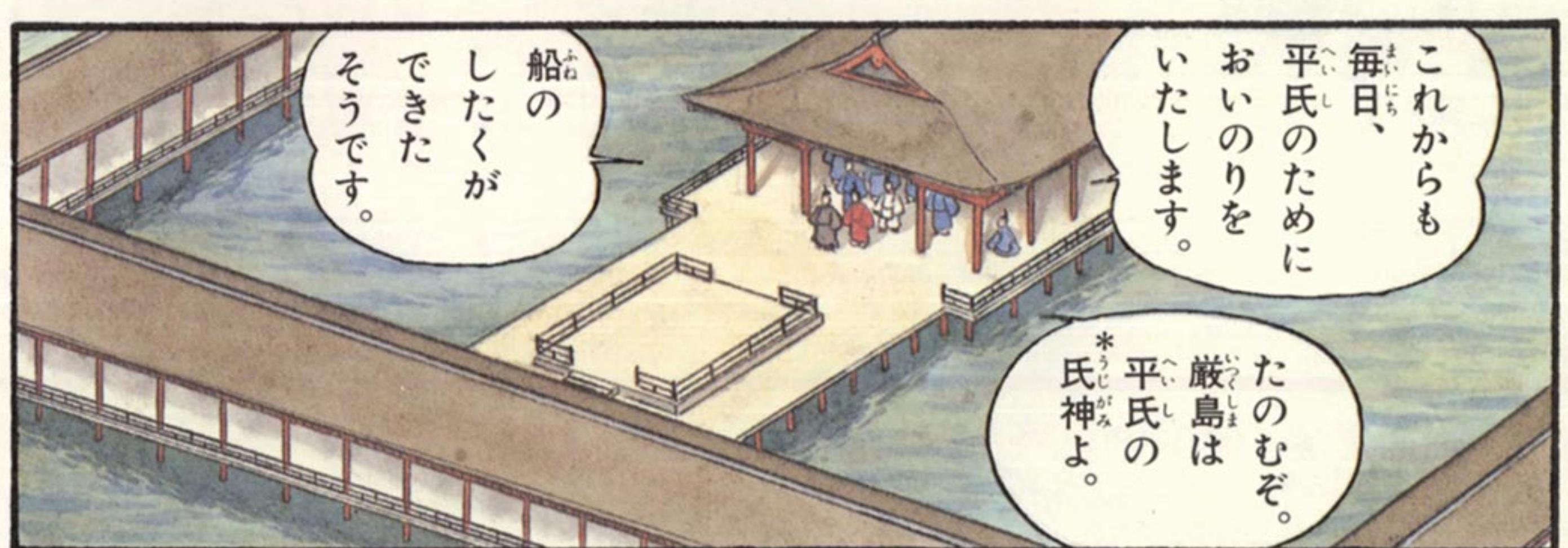
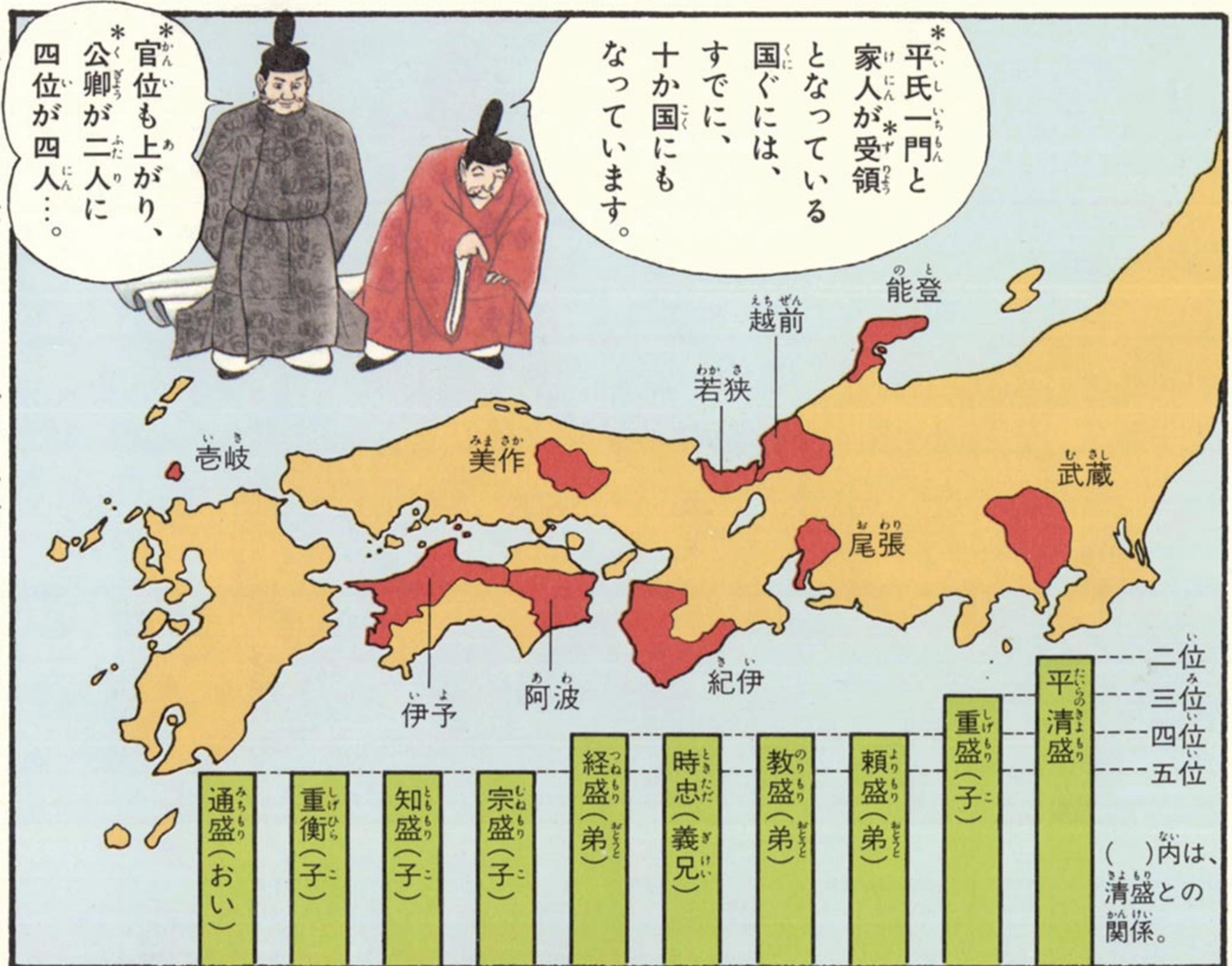
—は結婚、
——は兄弟姉妹関係。

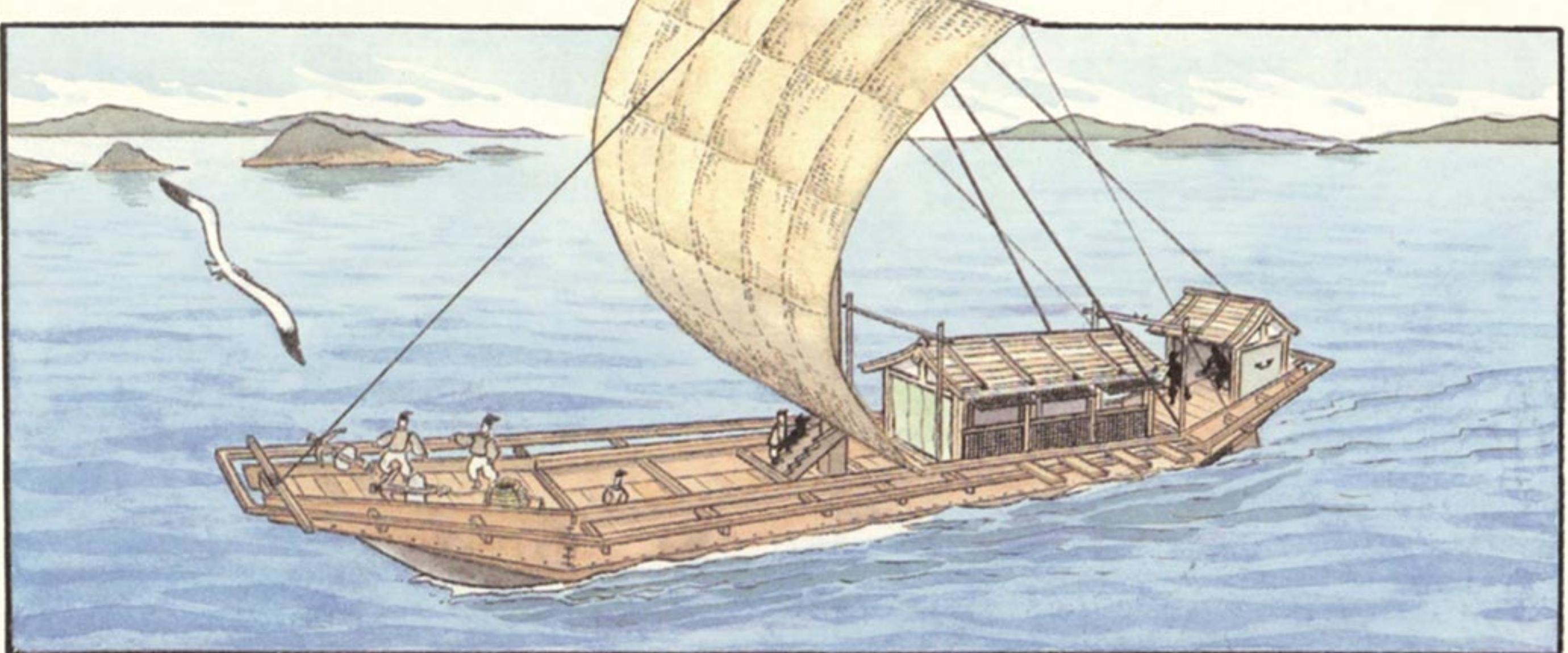


* 平氏一門と家人：平氏一門は清盛の一族、家人はそれにつかえる武士のこと。

* 公卿：官位の高い役人のこと。

参議以上と三位以上の貴族をさす。





*宋：九六〇年から一二七九年までつづいた中国の国家。



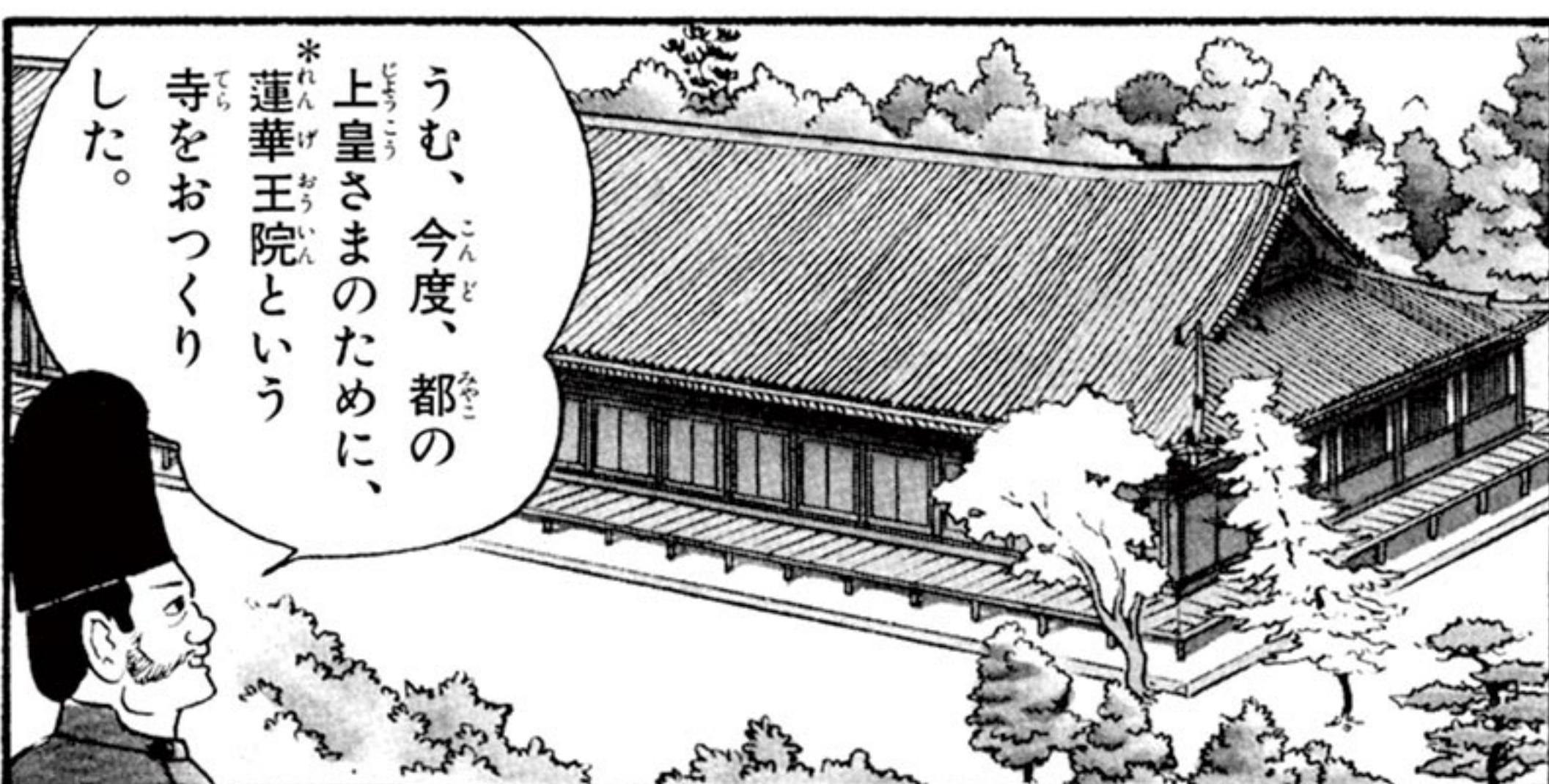


*備後國尾道
…広島県尾道市。



*蓮華王院
…京都市東山区にある寺。

今、本堂(三十三間堂)は鎌倉時代にたてなおしたもの。



あの、仏さまが千体もあるという…。





*宋錢：宋の貨幣。わが国にも輸入されて、さかんにつかわれた。

かわれた。



*合子：ふたのついた小型の器。

香入れなどにつかわれた。



そのころ、 奥州の平泉では、 藤原氏が、 三代にわたつて大きな勢力をふるつっていました。 その力の源となつていたのが 奥州産の金で、 ここには、 黄金文化が花ひらいていました。

*瓶子：細長く、口のせまい容器で、おもに酒を入れるのに用いた。

*女房：宮中や貴族につかえる女人。

*平泉：岩手県西磐井郡平泉町

平泉には、中尊寺や毛越寺などの大寺院があり、そこには八十以上ものお堂や塔がたてられていました。

そしてここは、藤原秀衡の祖父清衡がたてた中尊寺の金色堂です。

上皇さまは、金や馬と引きかえに、お望みの位をあたえたいと、いつておられます。

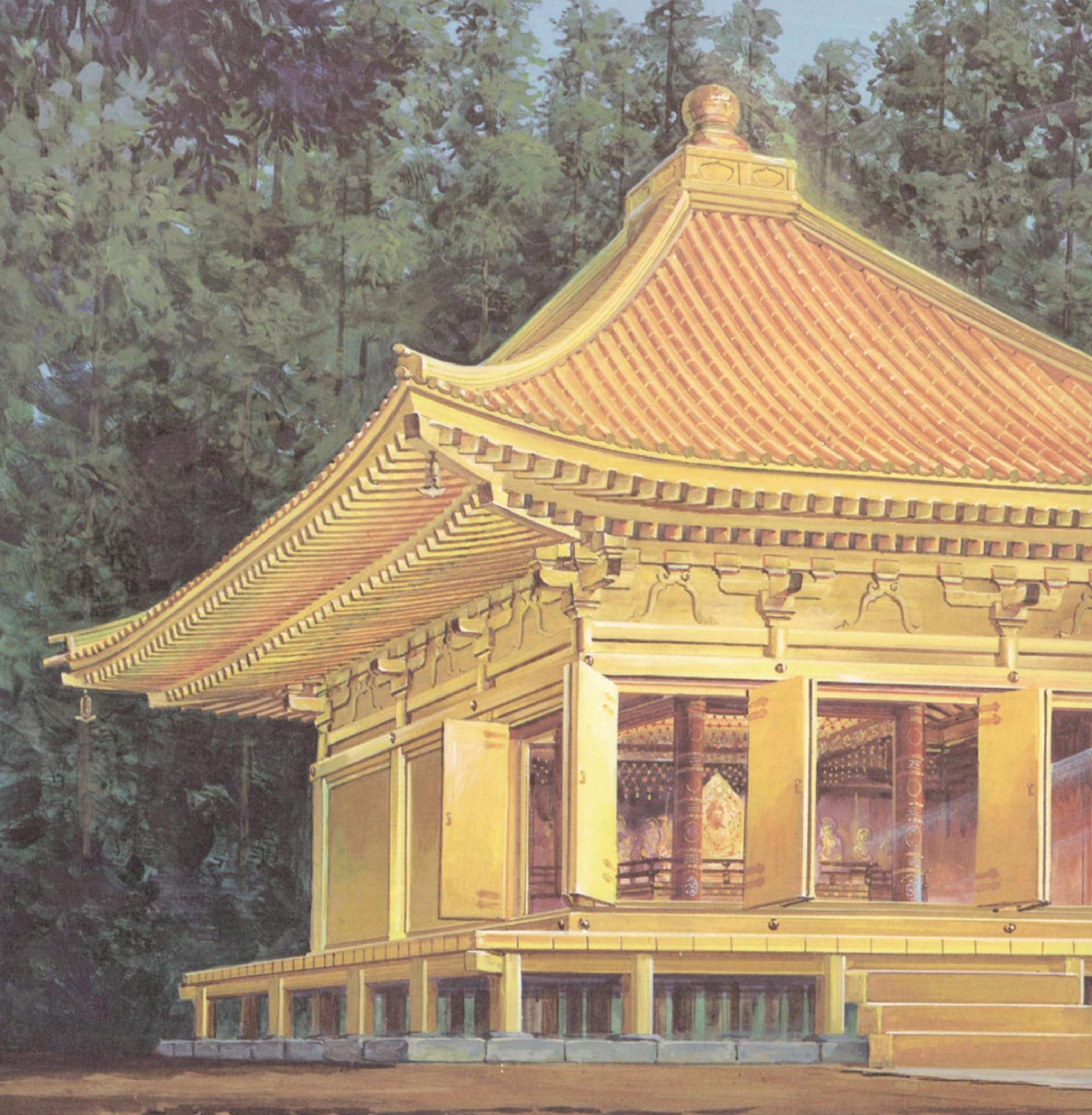
うへえ、これはみんな金なのか。

ははは…。われらが先祖は、このみちのくに自由な天地をきずいてきた。朝廷など、ものの数ではないわ。

藤原秀衡

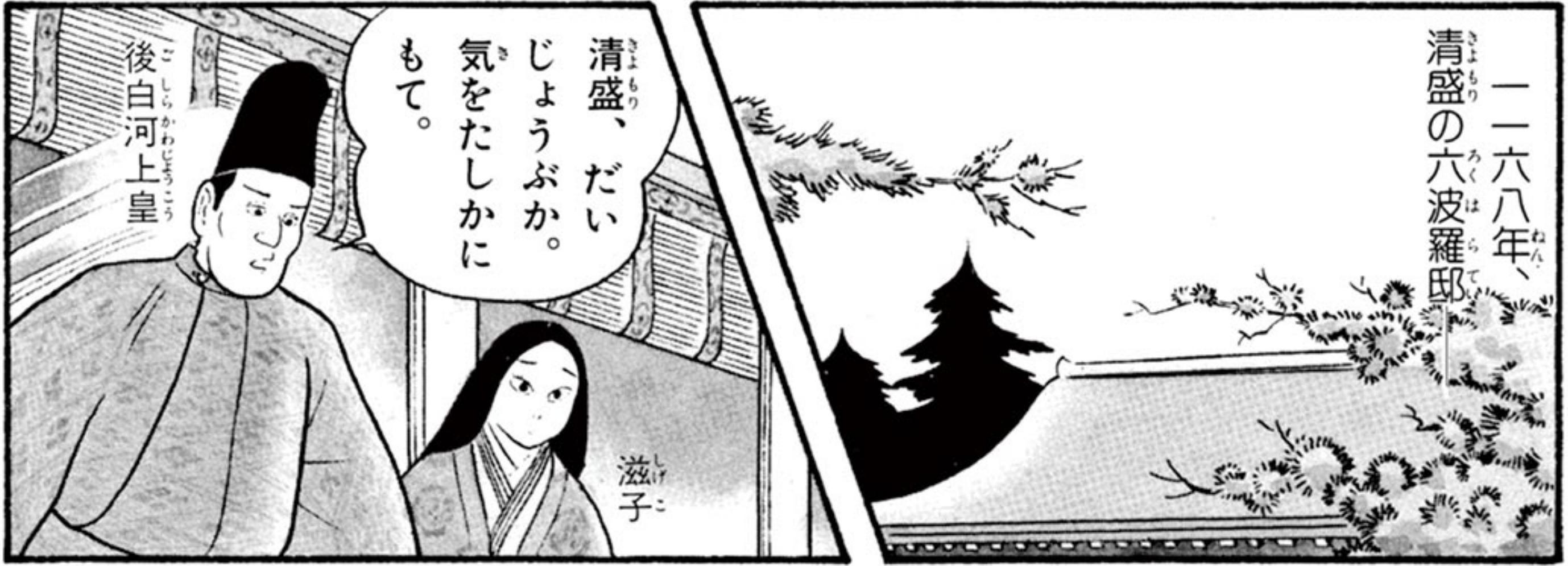


* 鎮守府将軍…東北地方をおさめる役所の長官。



*太政大臣：國家の政治を行ふ最高の官職。

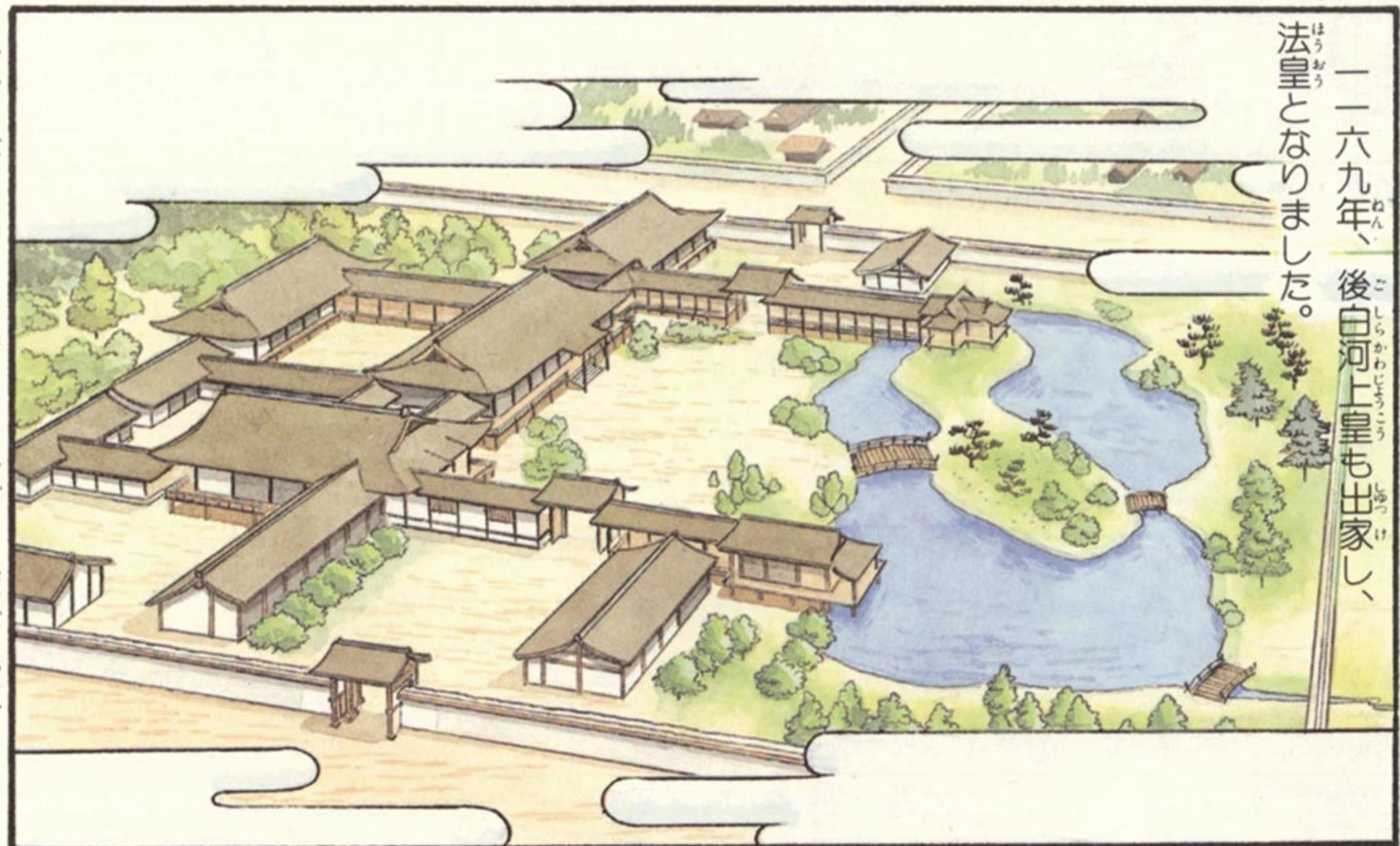




*和歌：古くからわが国にある詩歌で、短歌・長歌などがある。

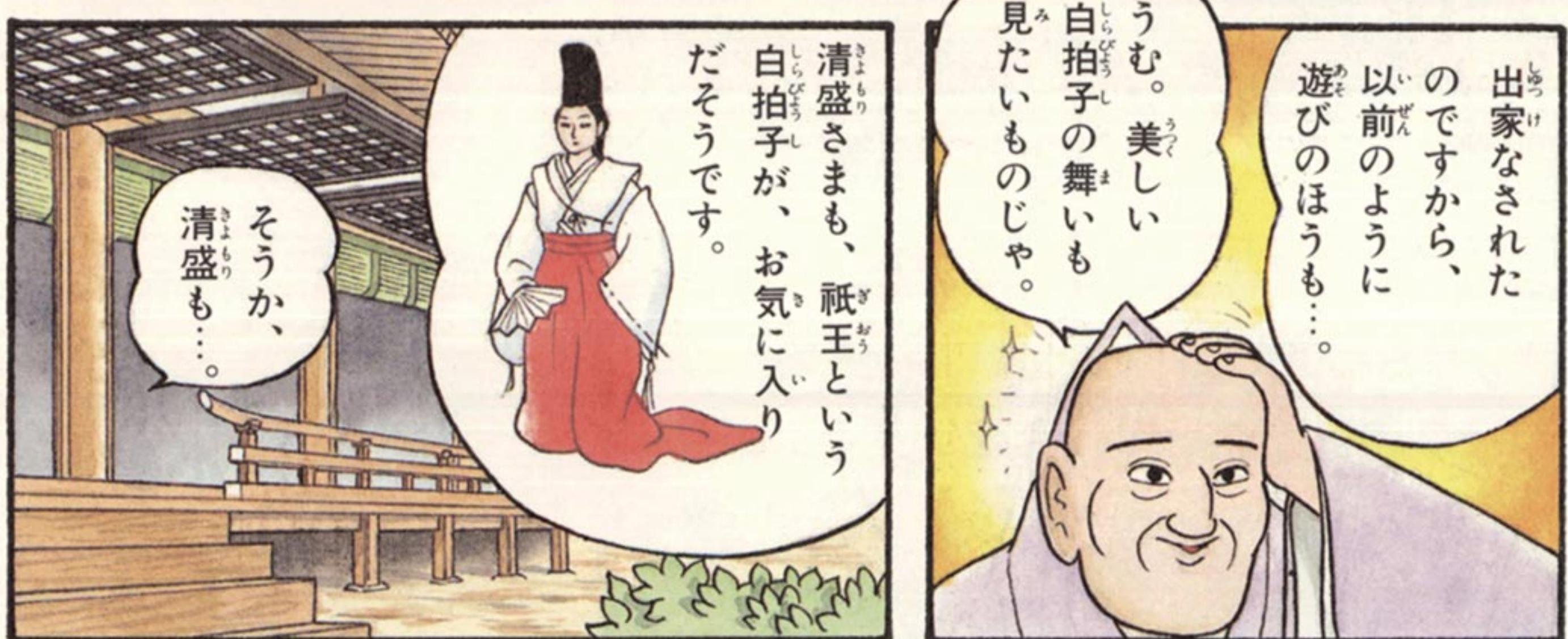
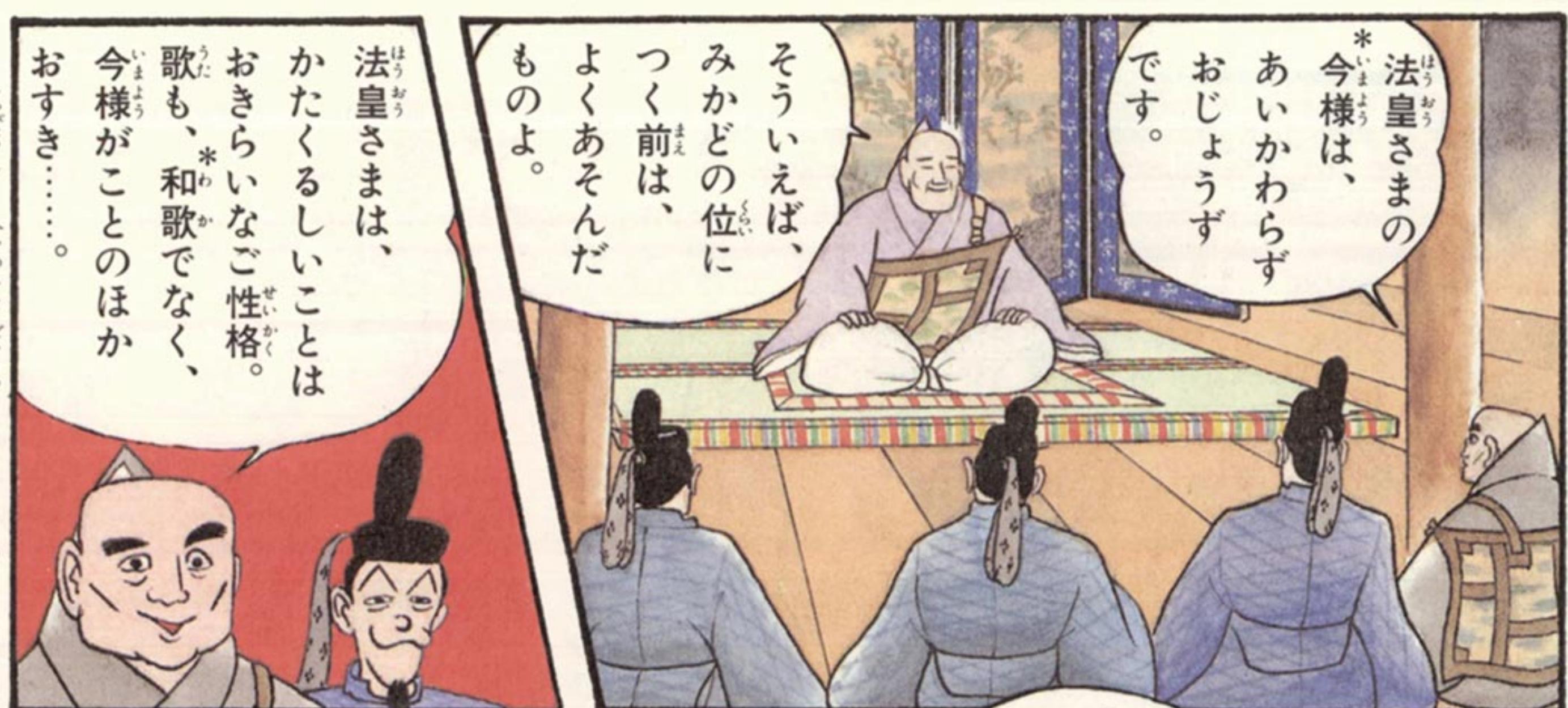
*白拍子：平安時代末、

今様に合わせて舞をまつた踊り子のこと。



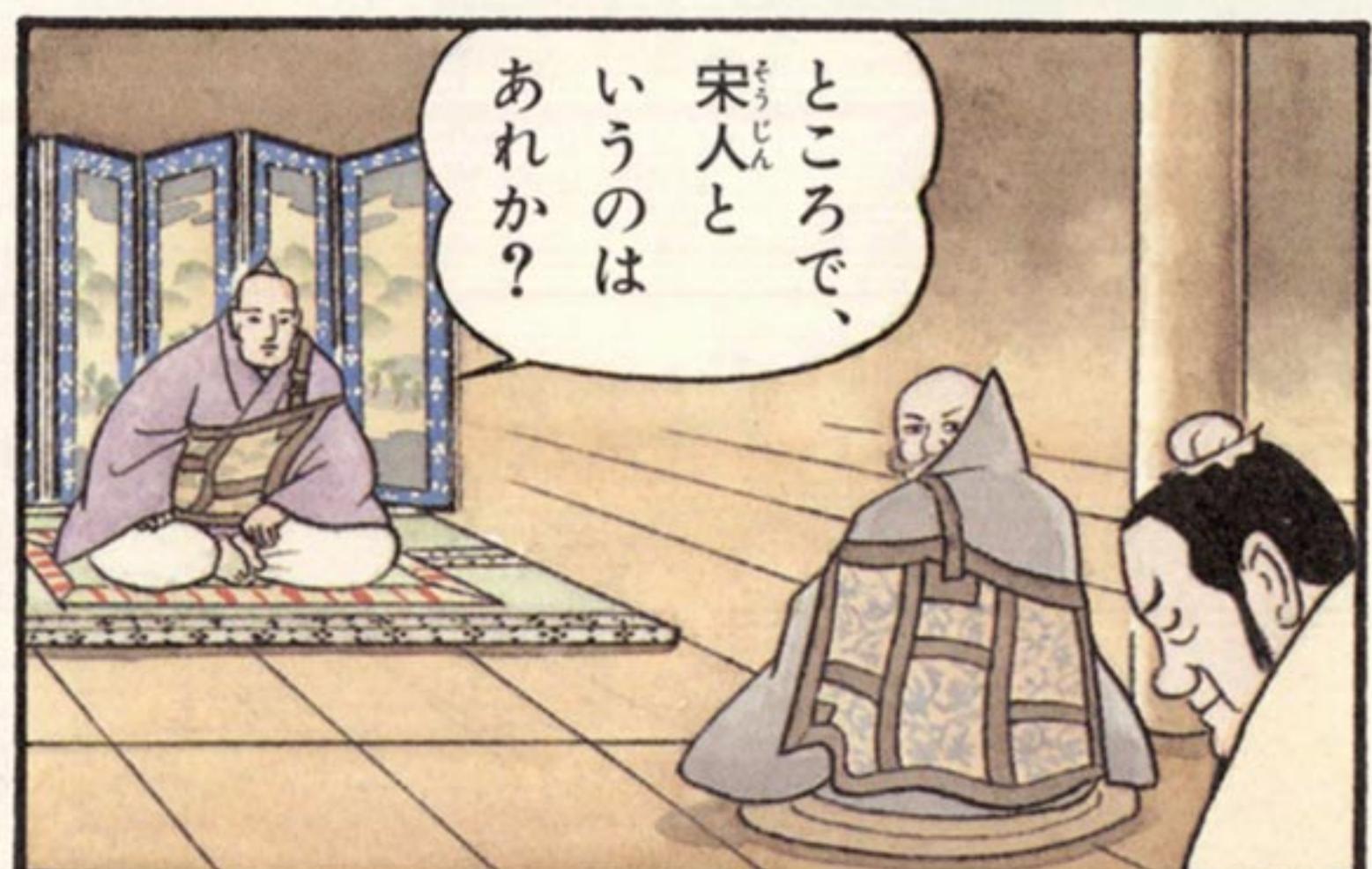
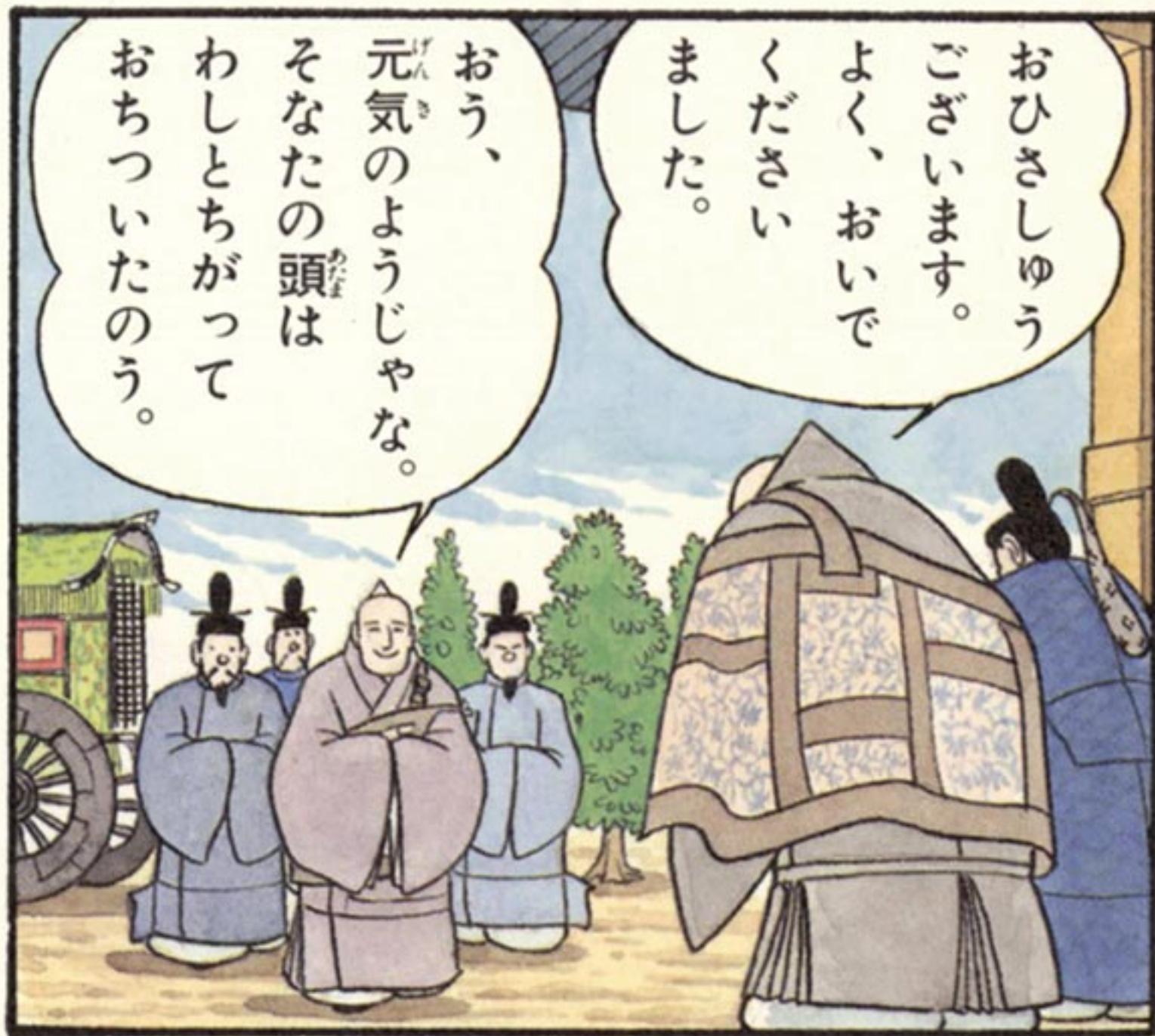
一一六九年、後白河上皇も出家し、法皇となりました。

*今様：平安時代の末ごろ、貴族の間で流行した歌。



「今様」とは当世風(今風)という意味。

それから一年たつた
清盛の福原別荘

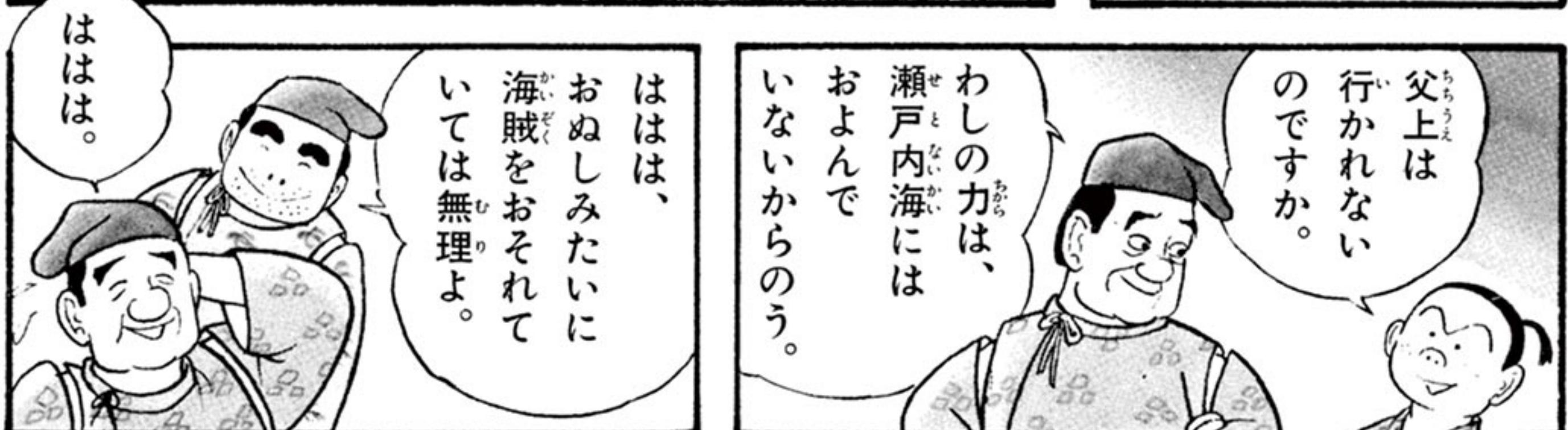


*大輪田泊：今の神戸港。

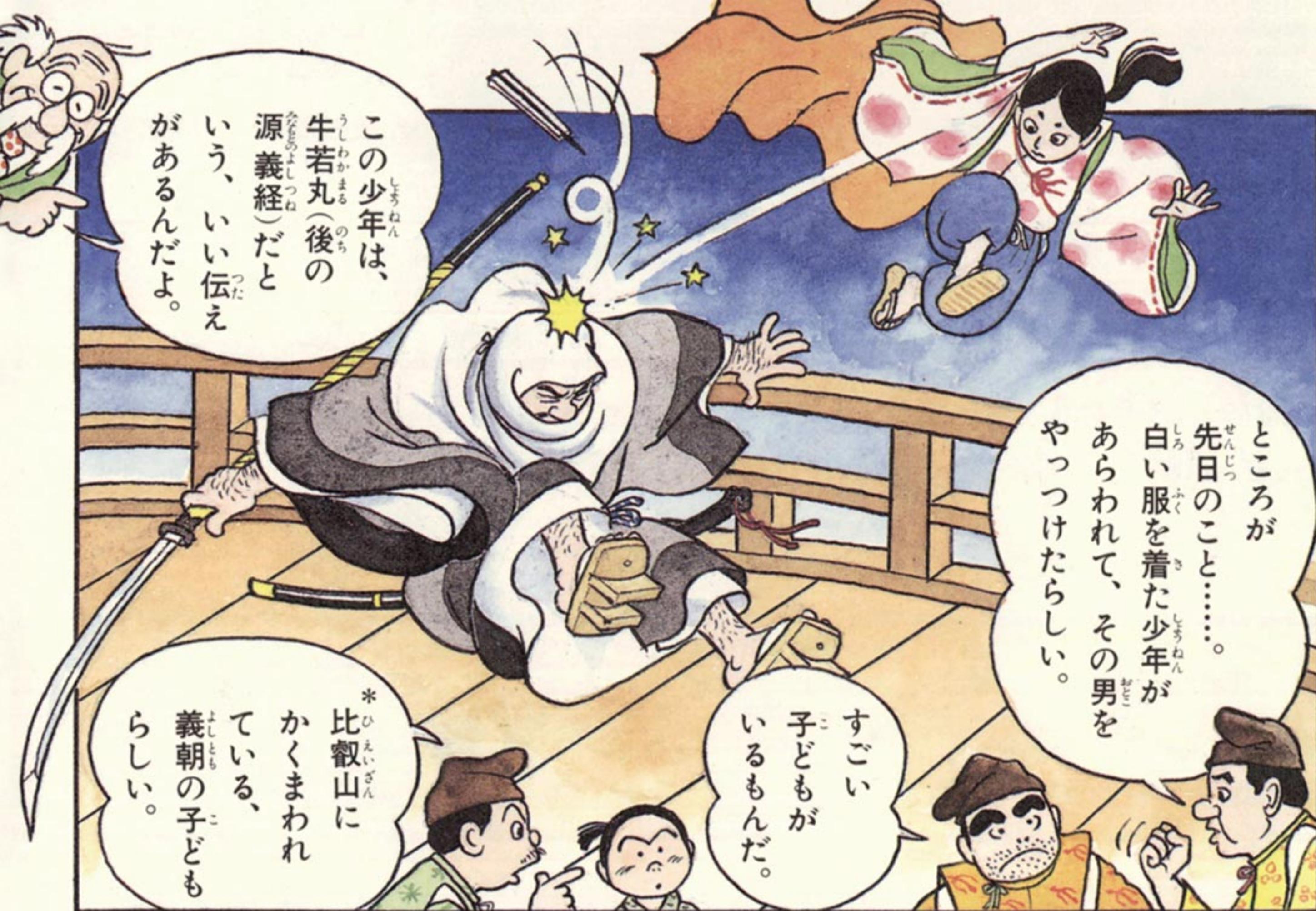
一一七二年、清盛は、
福原近くの港、*大輪田
泊の工事を行い、京の
外港として、日宋貿易
の発展につとめました。

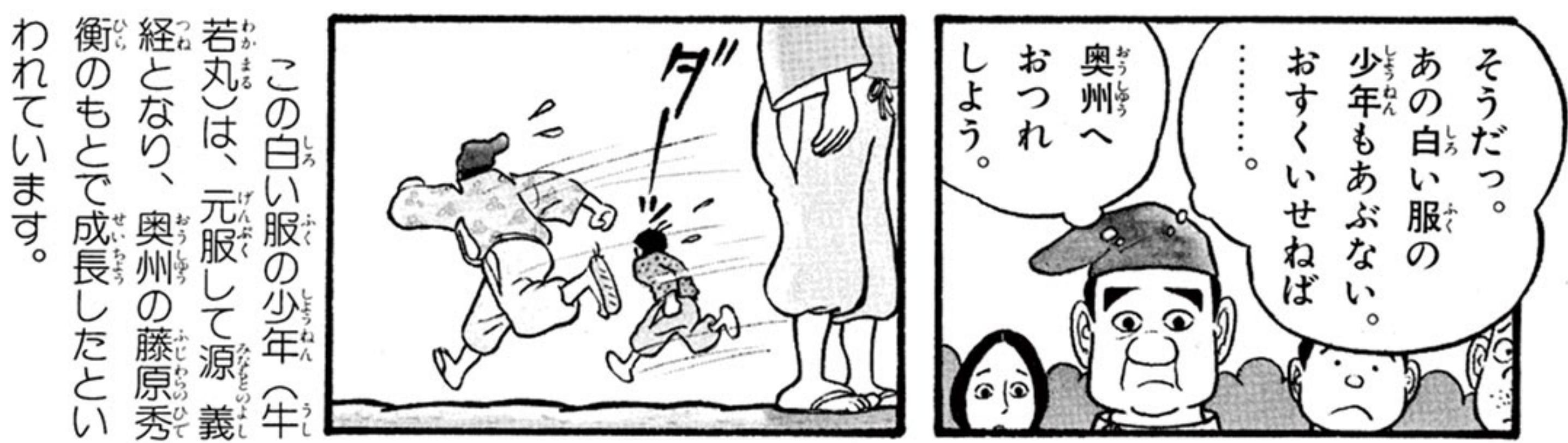
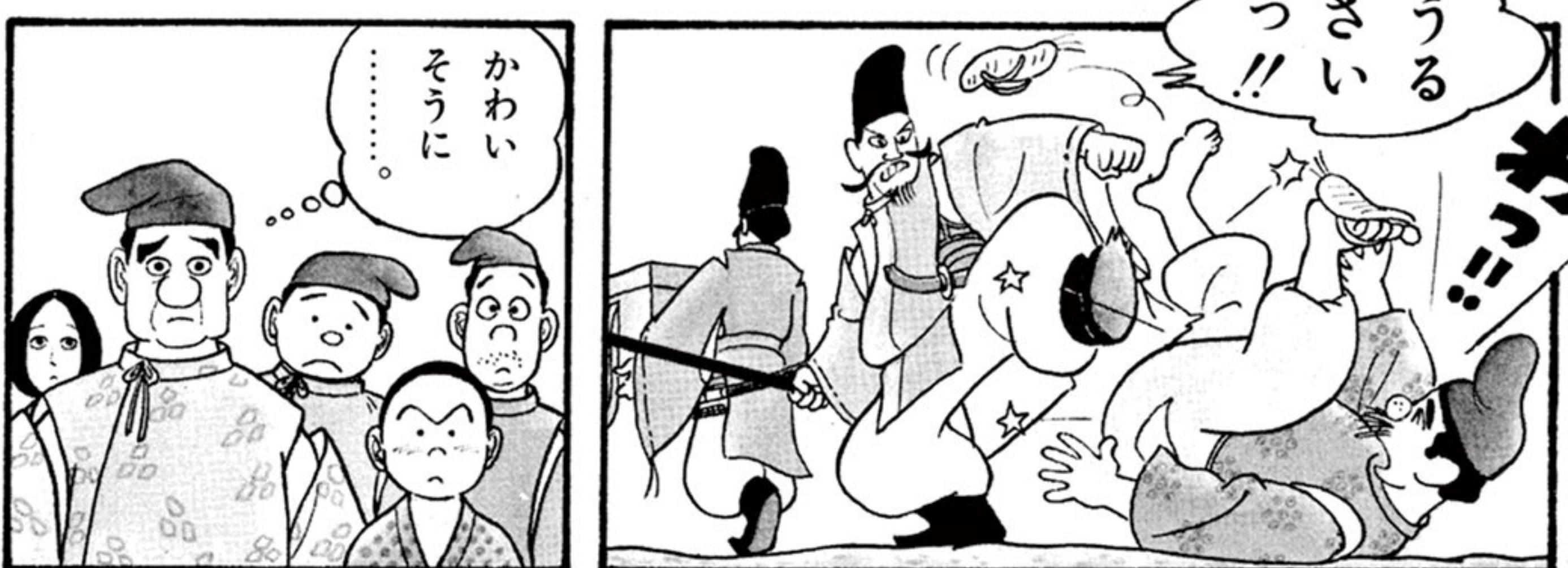


一一七四年
商人の家では



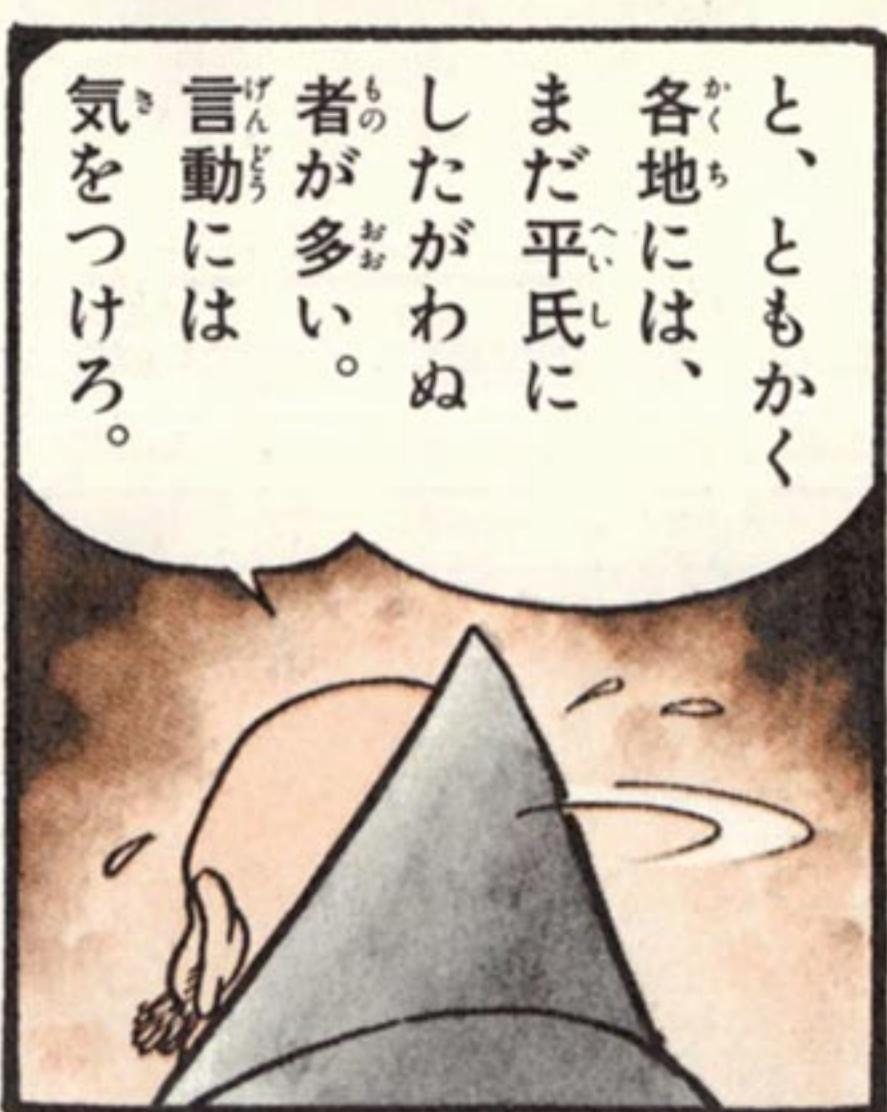
* 比叡山：延暦寺（最澄のひらいた天台宗の中心の寺）のこと。
滋賀県大津市。





一一七四年、

清盛の西八条邸

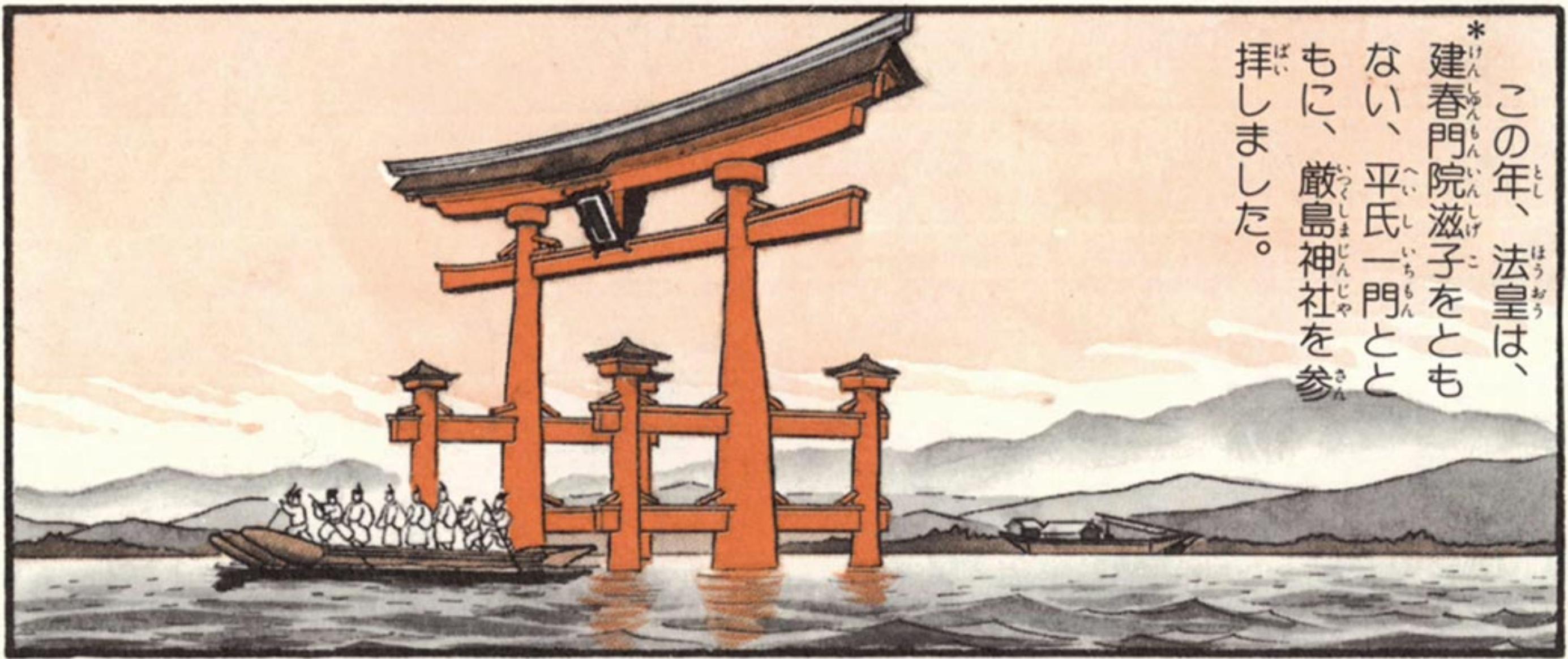


*この年、法皇は、建春門院滋子とともに、平氏一門とともに、厳島神社を参拝しました。

*建春門院：後白河法皇のきさき滋子のこと。

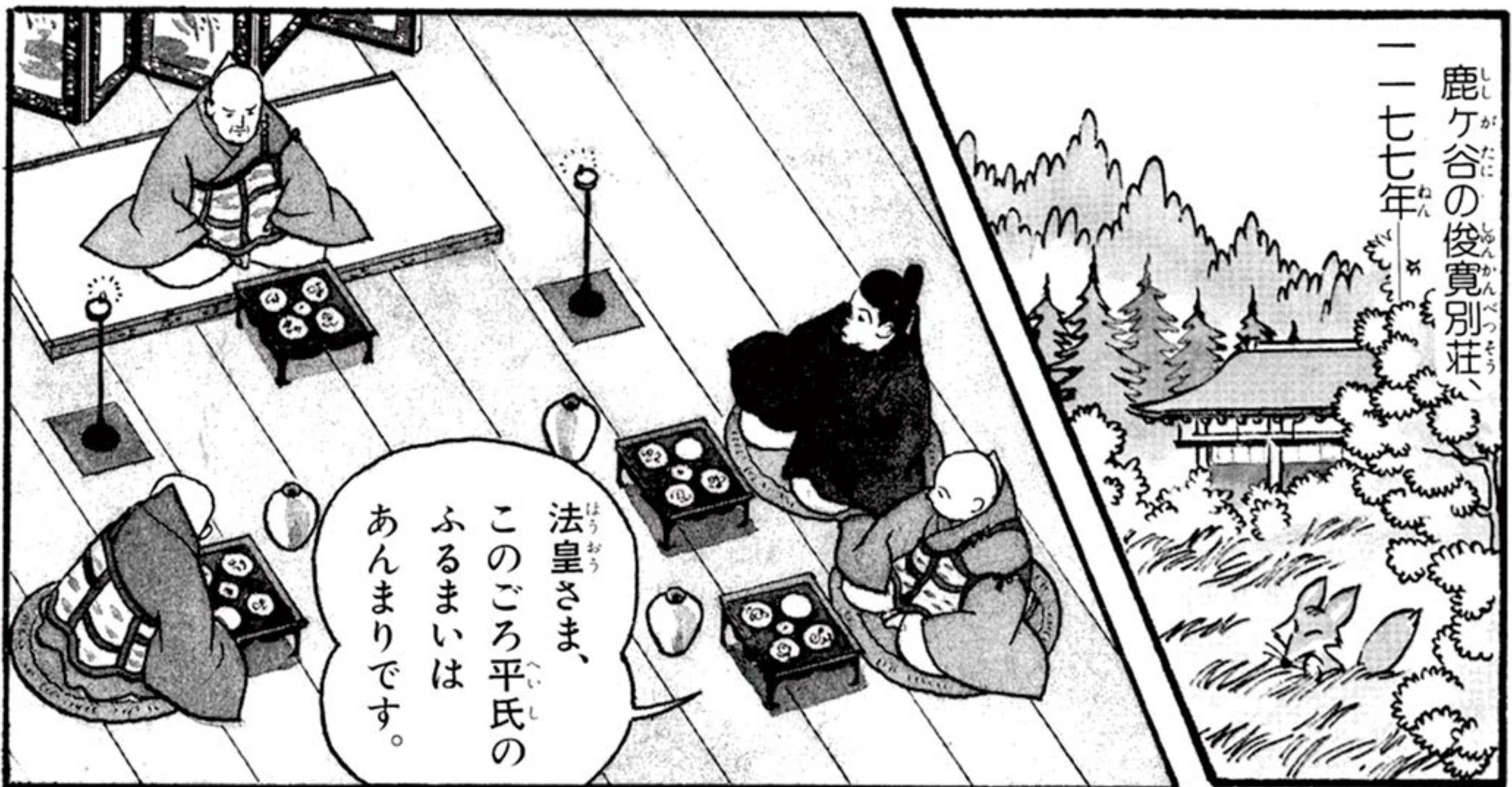
女院（女性の院）になつてからの名。

二年後の一一七六年、法皇のきさき建春門院滋子がなくなりました。そのため、平氏と法皇とのつながりは、うすくなつてしましました。



*大納言：大臣につぐ官職。

一七七年
鹿ヶ谷の俊寛別荘



* 摂津源氏：摂津国（大阪府・兵庫県の一部）にいた源氏の一族。

* へいじ：瓶子。「へいし」ともいう。

今、わたしどもについている武士と
いえれば、ここにいる
だけですが。
* 摂津源氏の行綱

しかし、都には
頼政もおりまますし、
諸国には源氏がまだ
たくさんいます。

とうとう
白拍子にも
みかぎられた
か……。

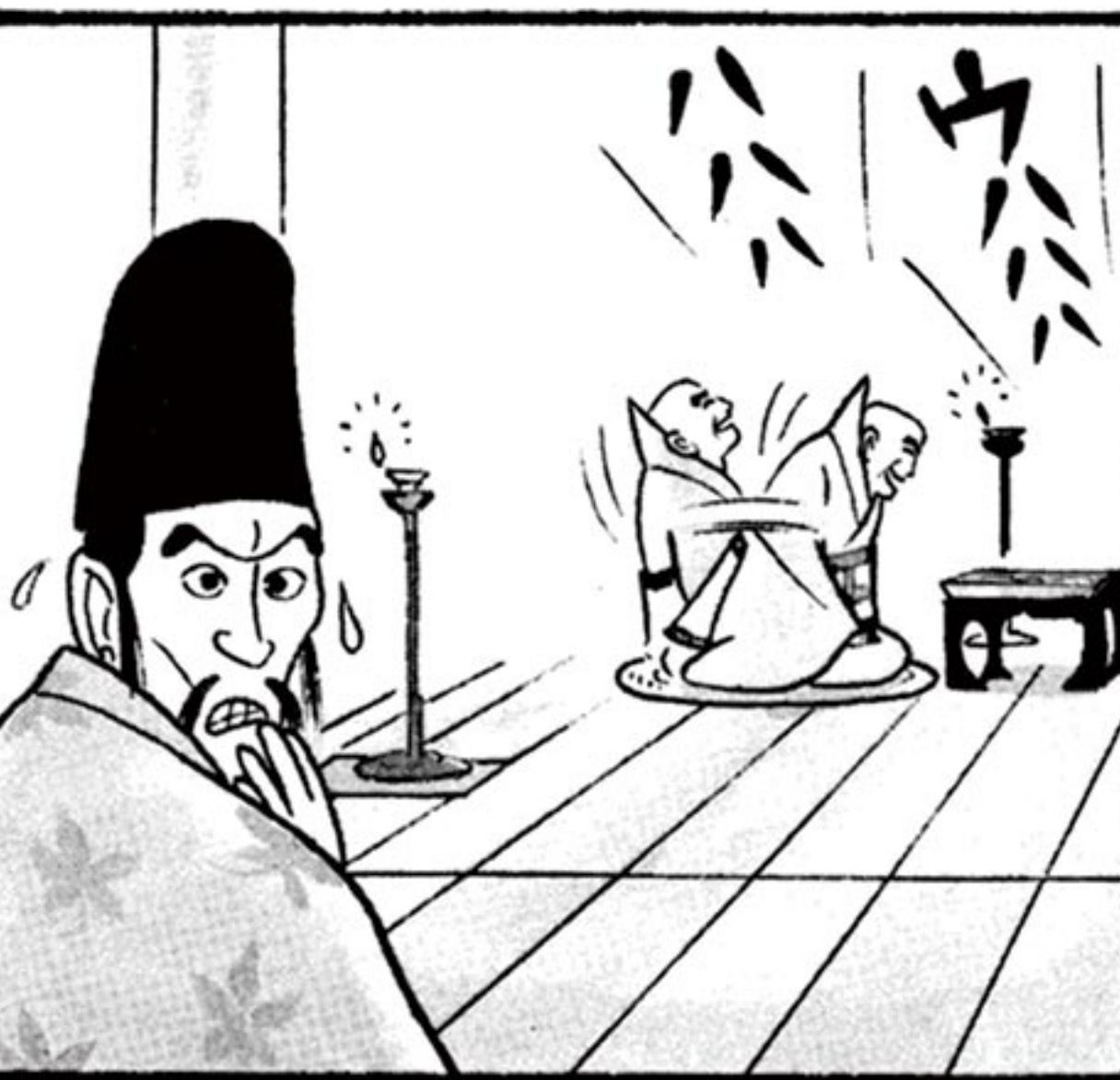
もうみな、
平氏を
みかぎっています。
なんでも、
あの白拍子の仏御前も、
祇王と同じように
清盛のもとをさつて、
出家したそうです。

なん
と！

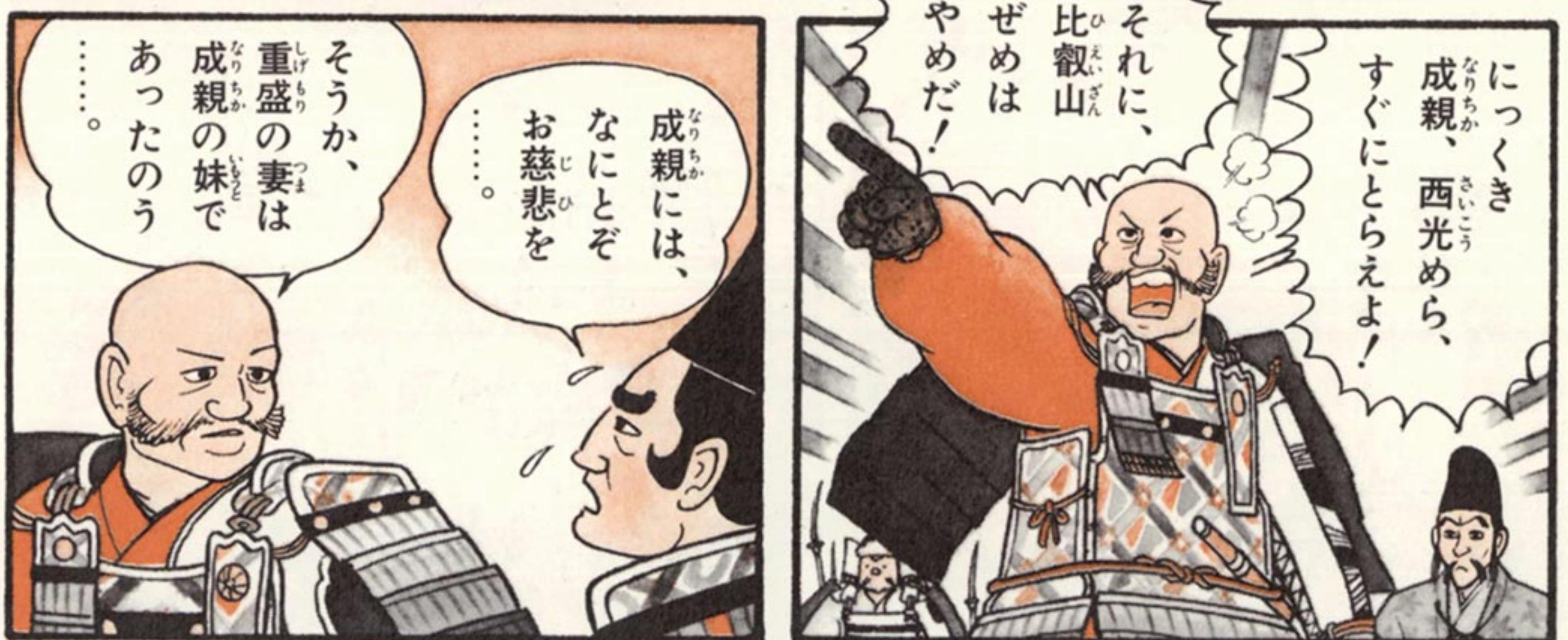
* へいじ（平氏）が
おつ、
たおれた！

ついでに
その首も
おとせ！

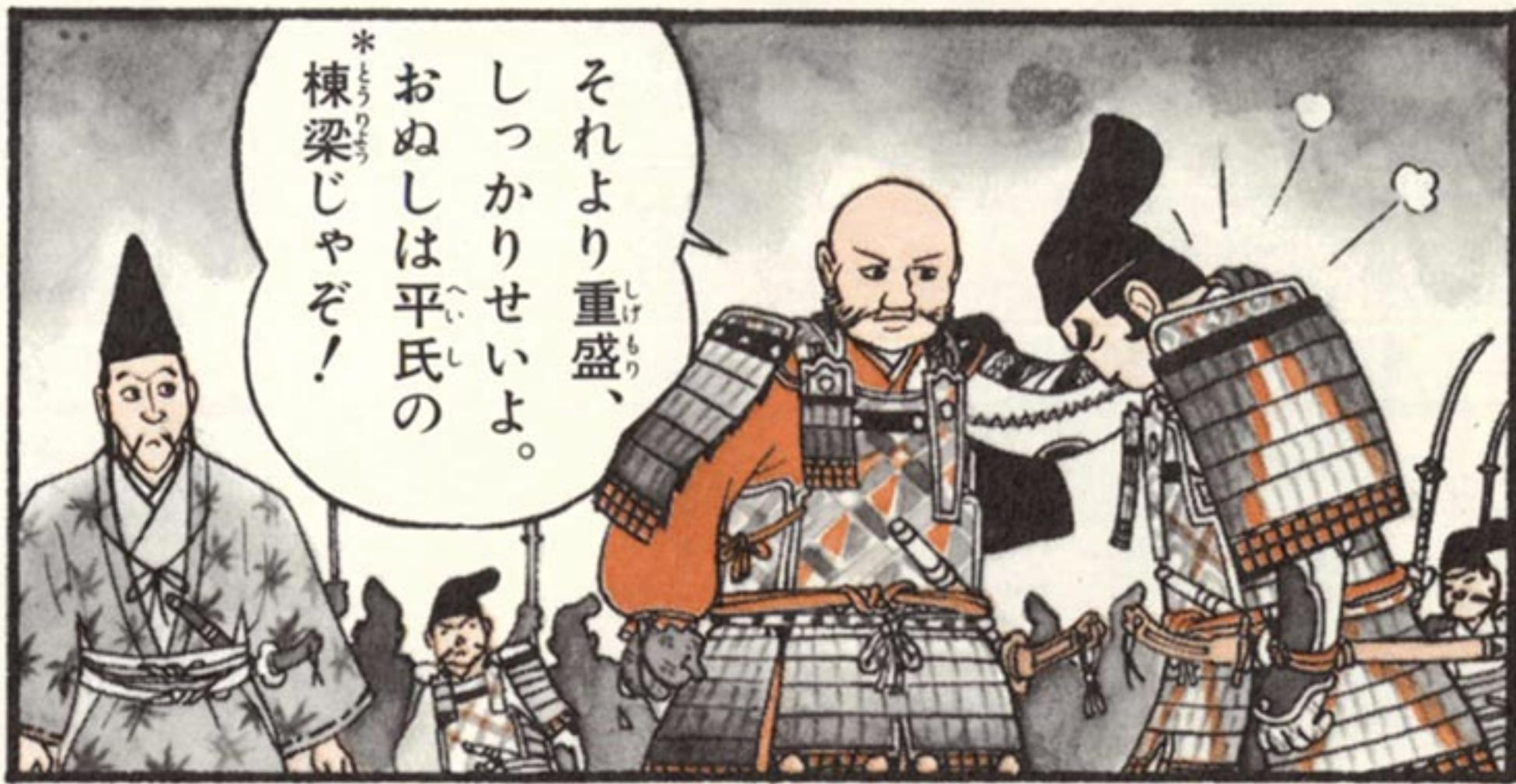
ハハハハ



それから数日後、京の清盛
の屋敷では



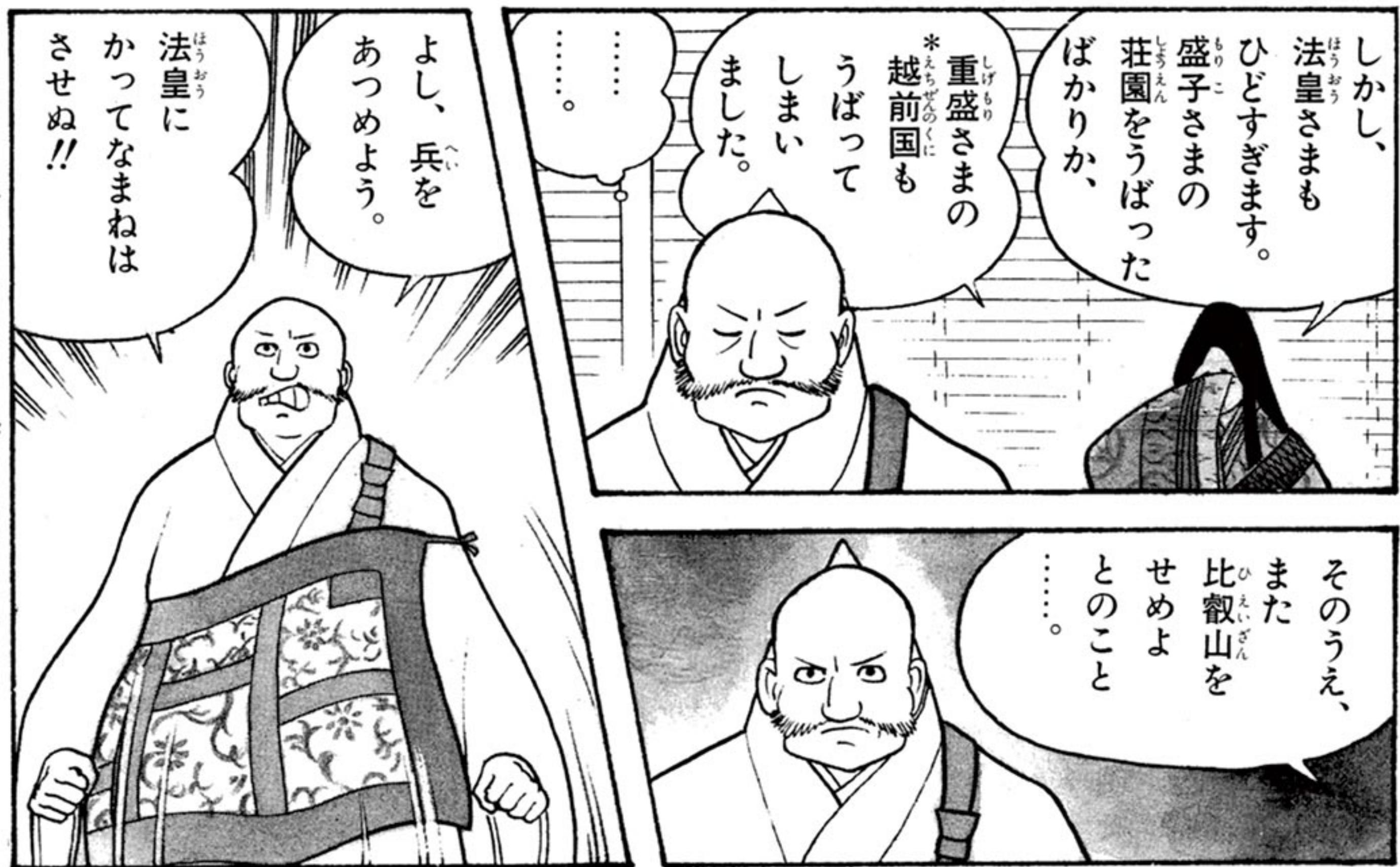
* 棟梁…多くの武士団をひきいている者。

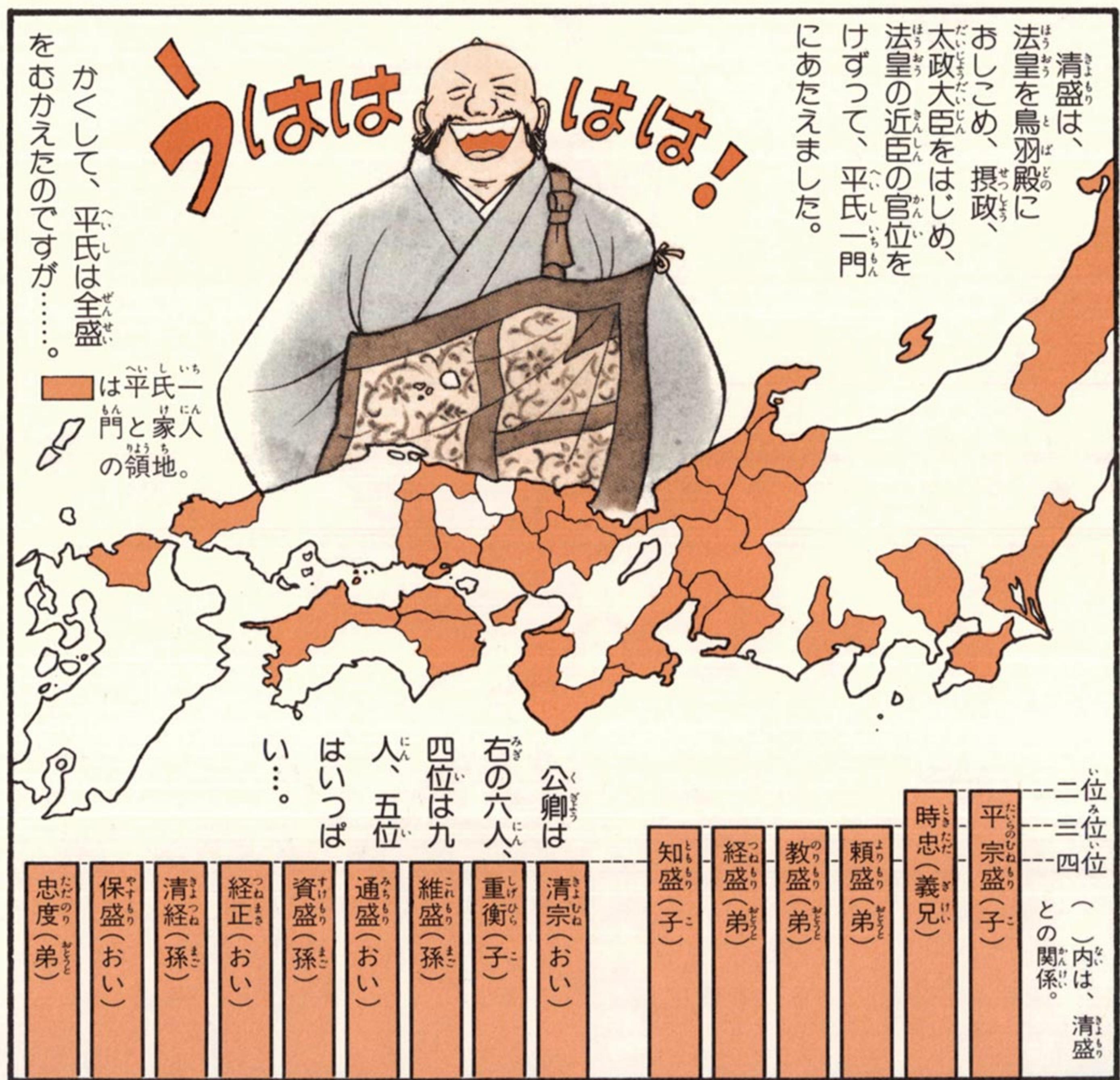
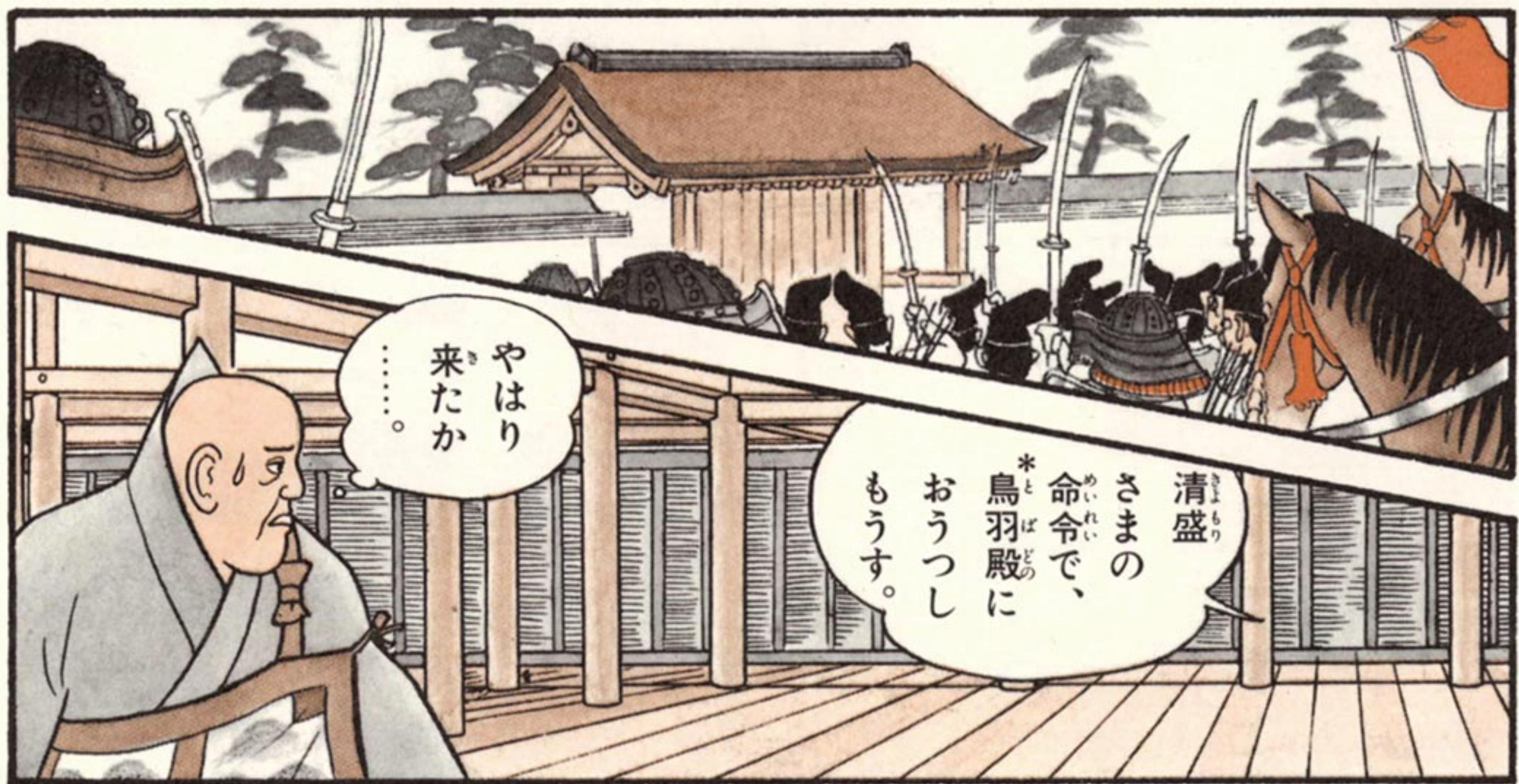


* 備前…岡山県の東部。

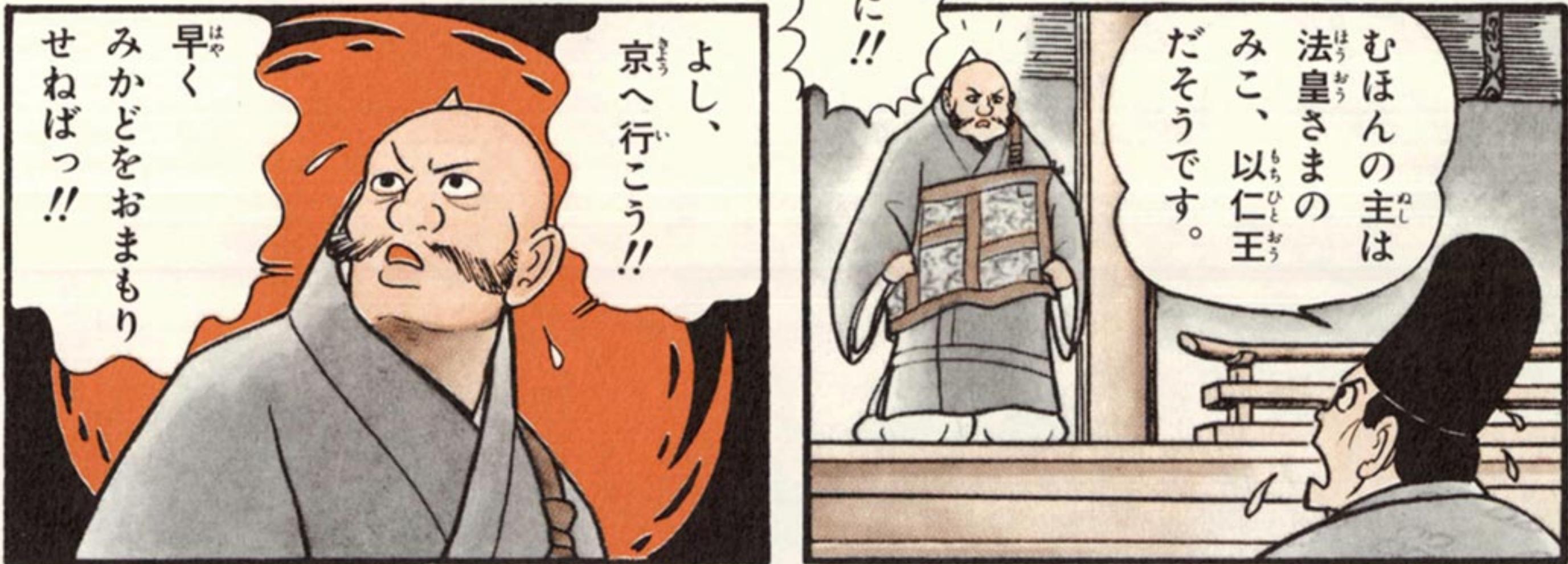
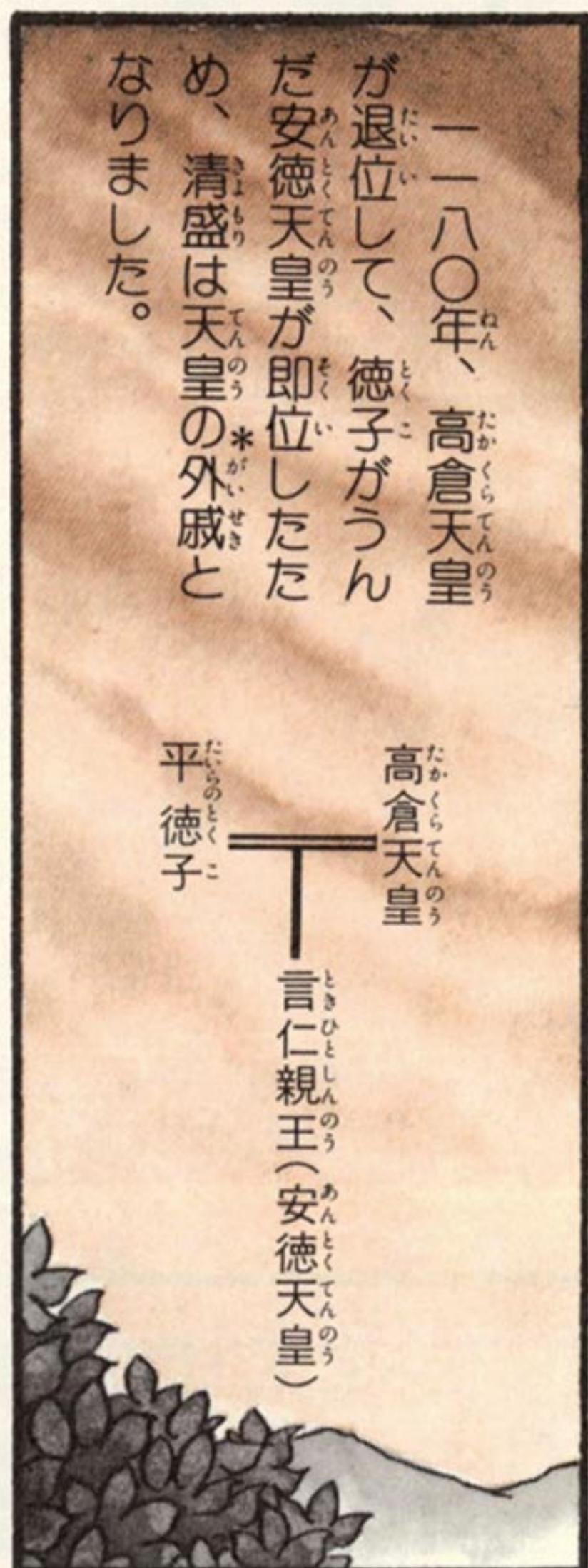
* 鬼界ヶ島…鹿児島県南部の硫黄島とされている。







*外戚：母方の親戚のこと。



*二井寺

：滋賀県大津市にある天台宗の寺。

正しくは園城寺という。

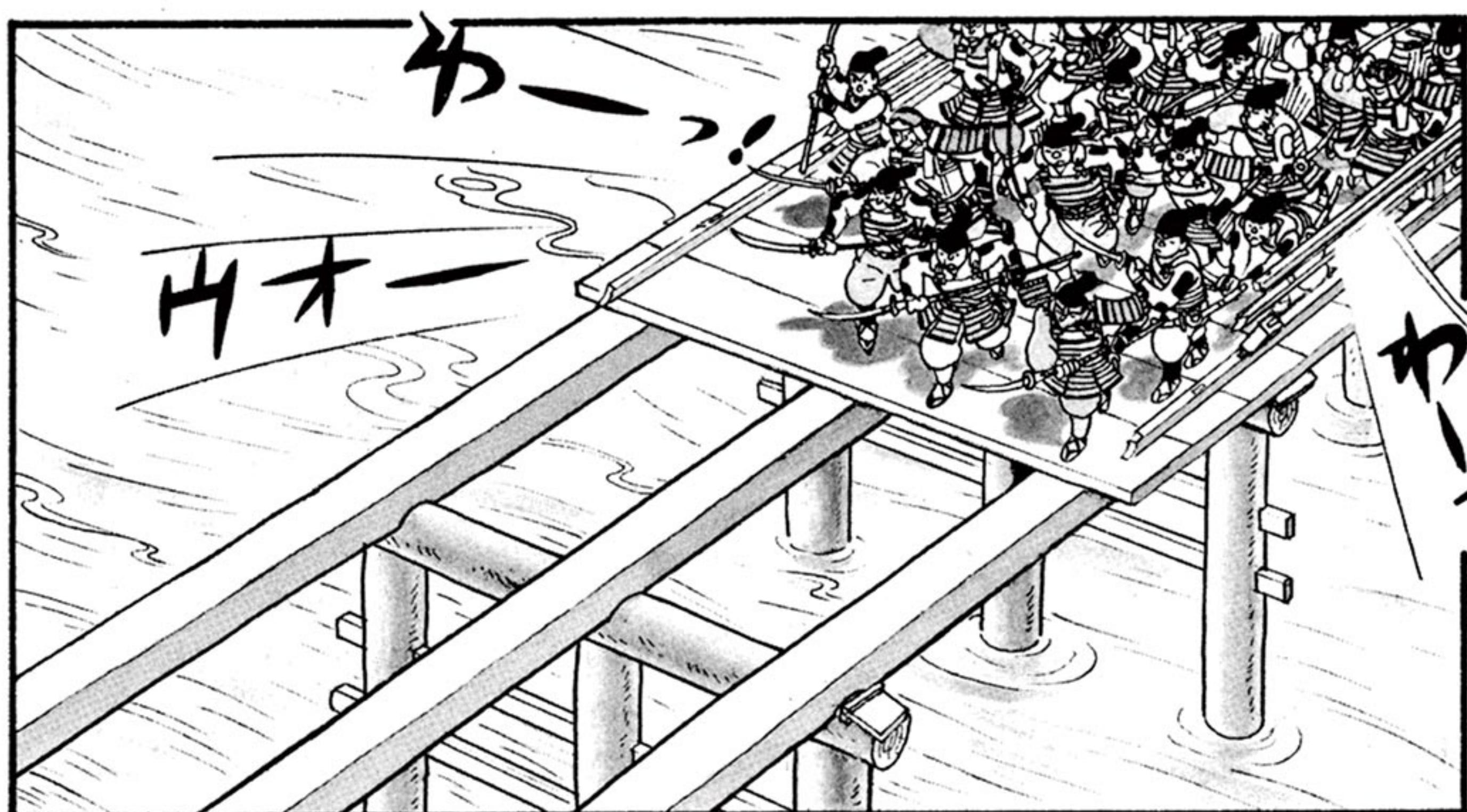
*平治の乱：第一章参照。

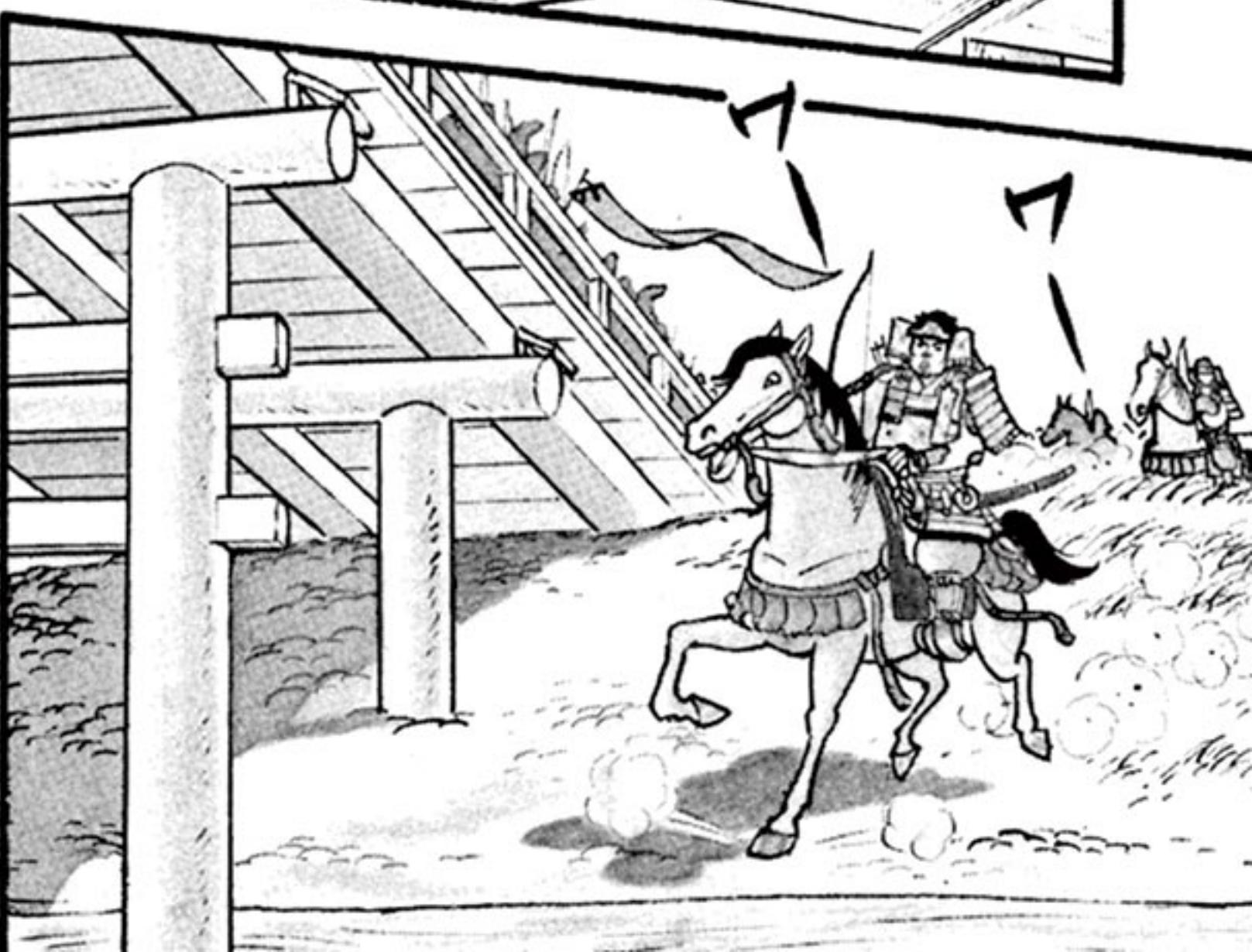
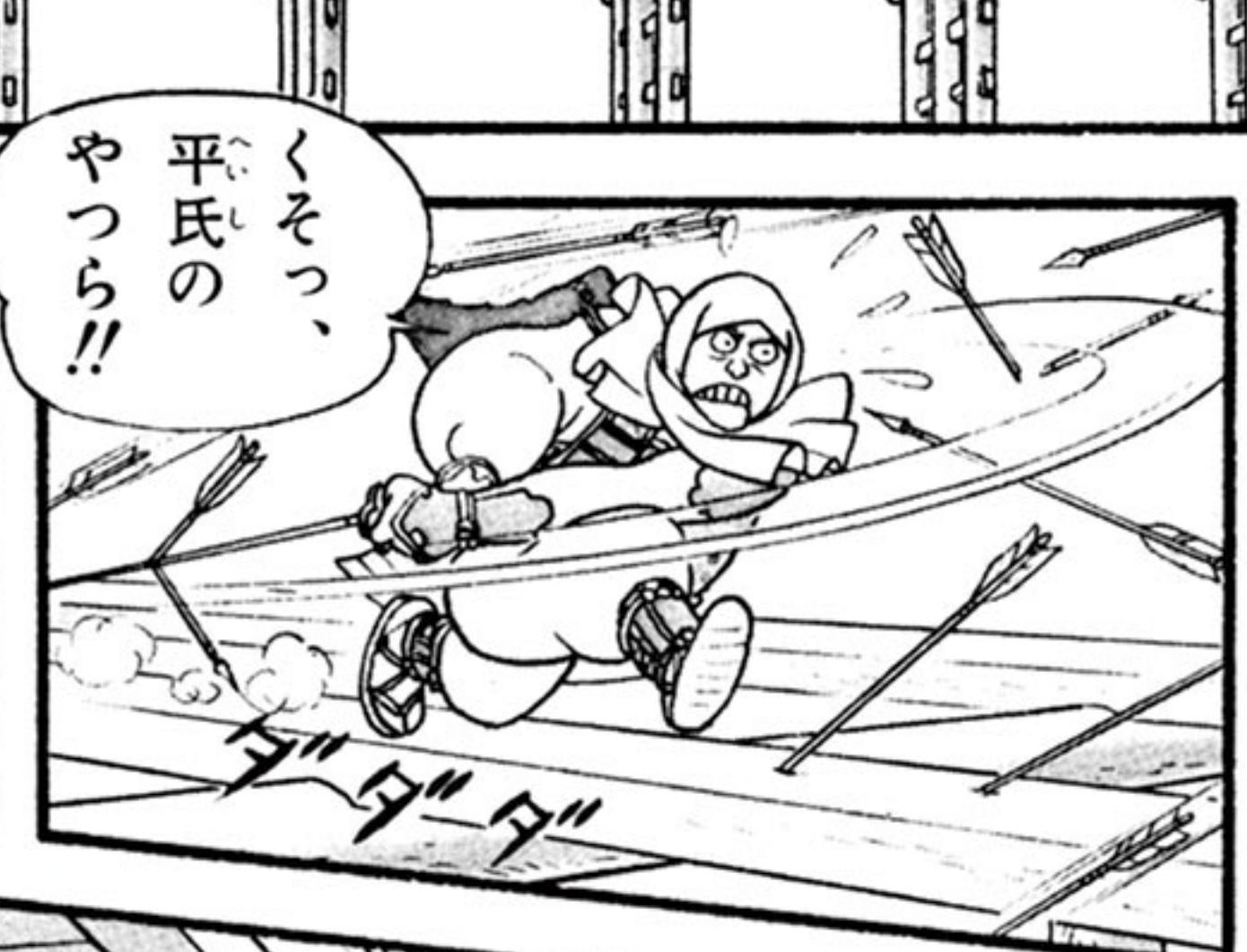
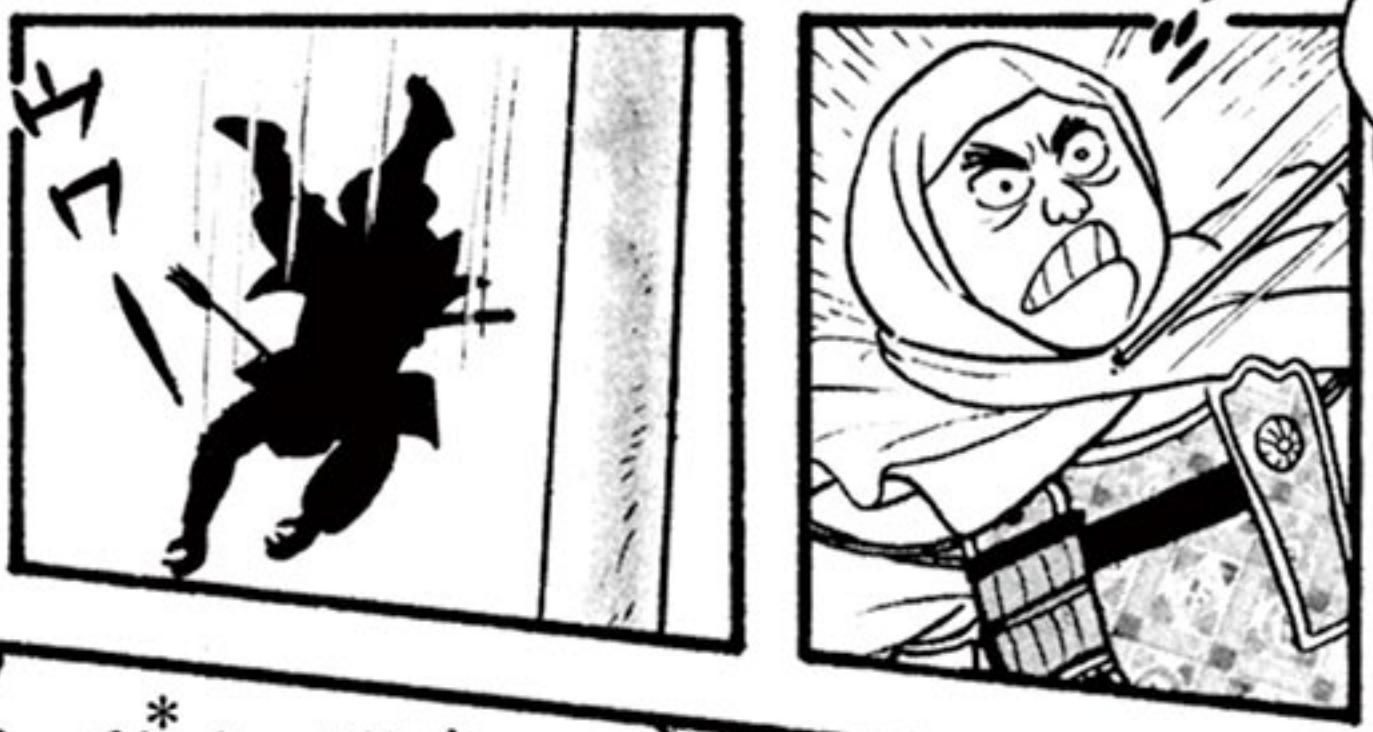
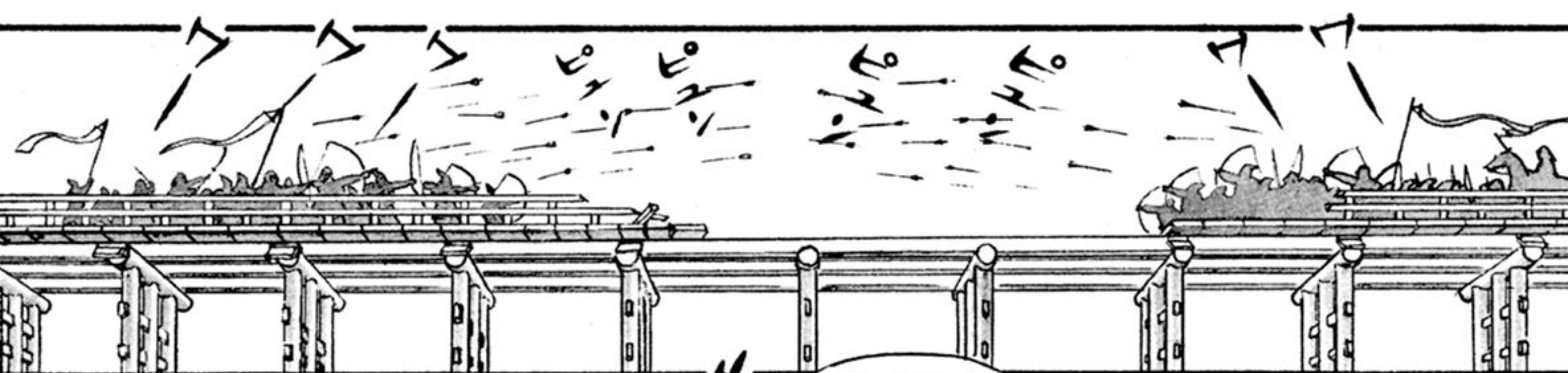
*宇治川へ
宇治川へ
*宇治川：京都府宇治市付近をながれる川。

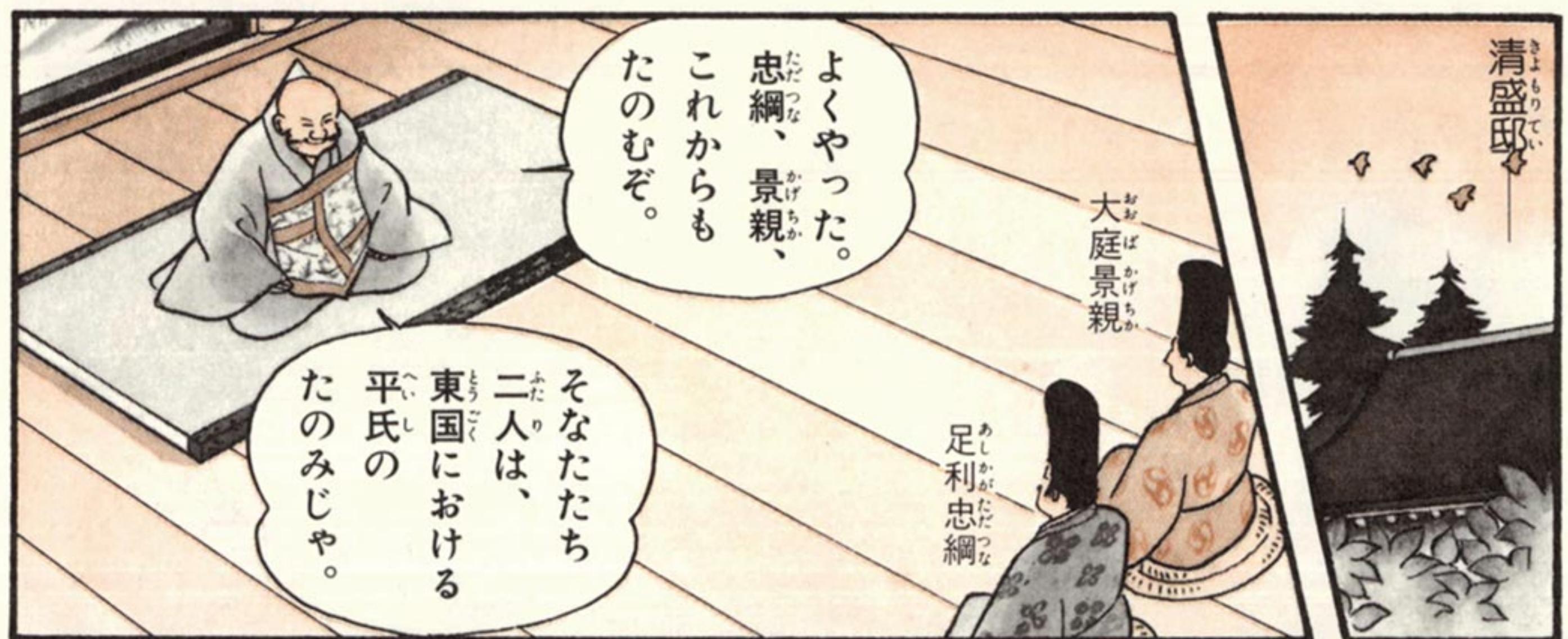
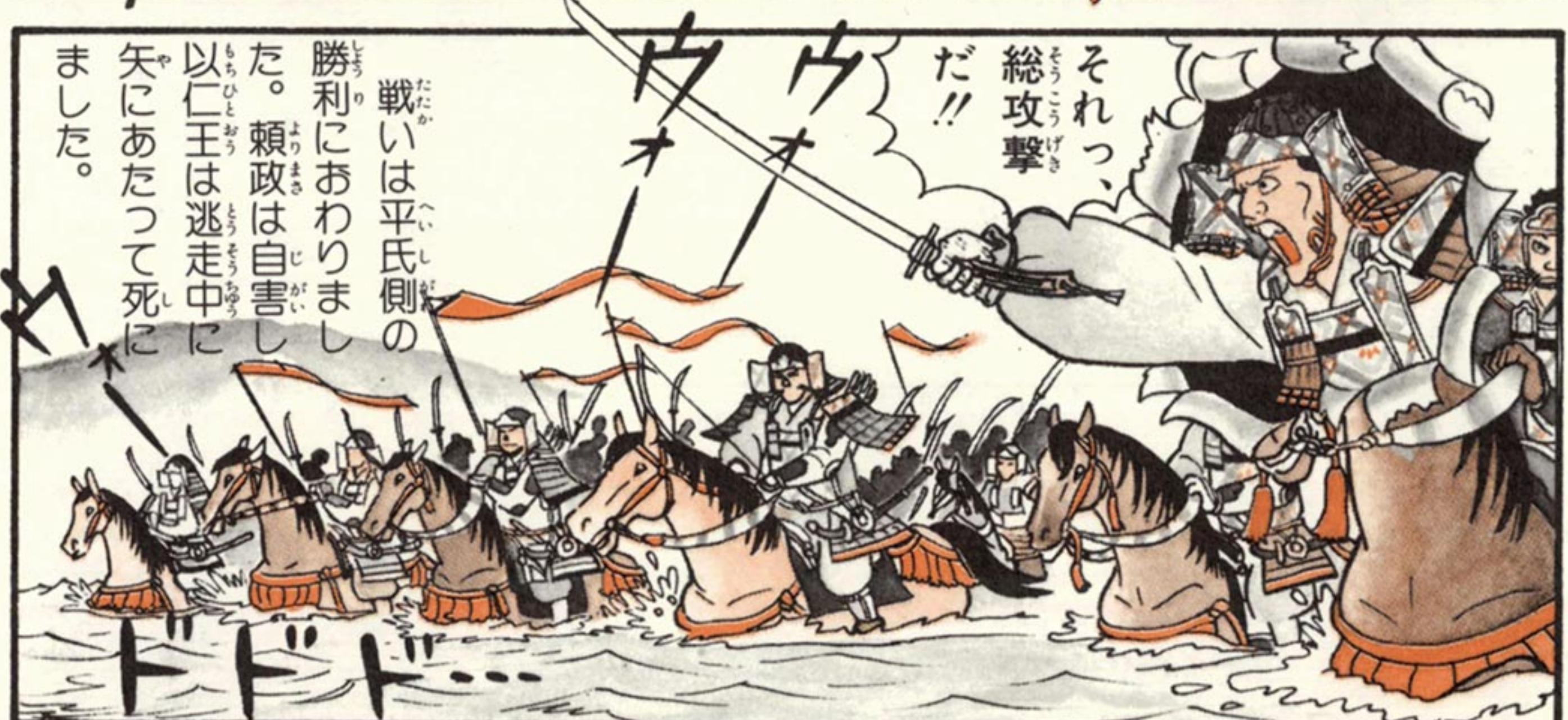
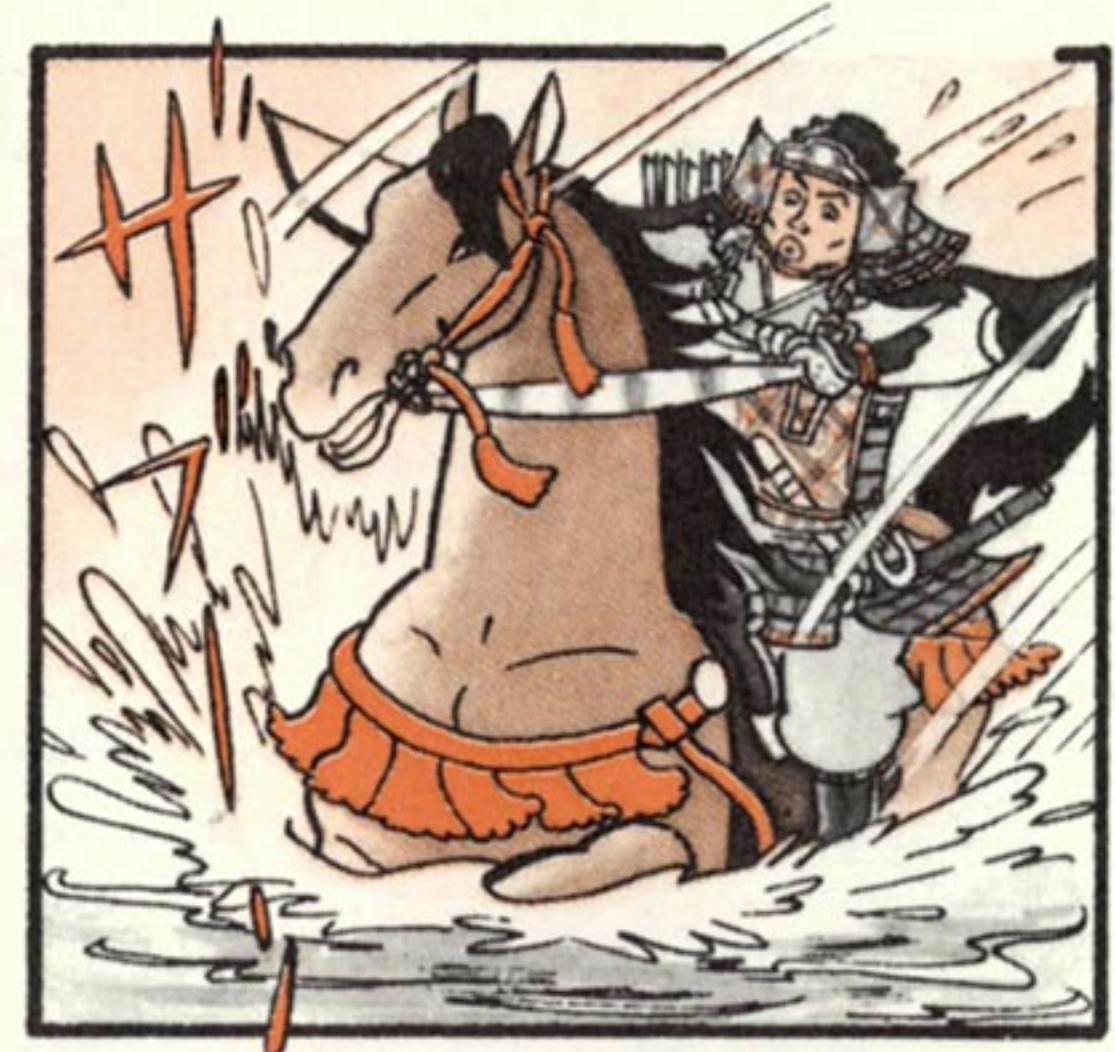
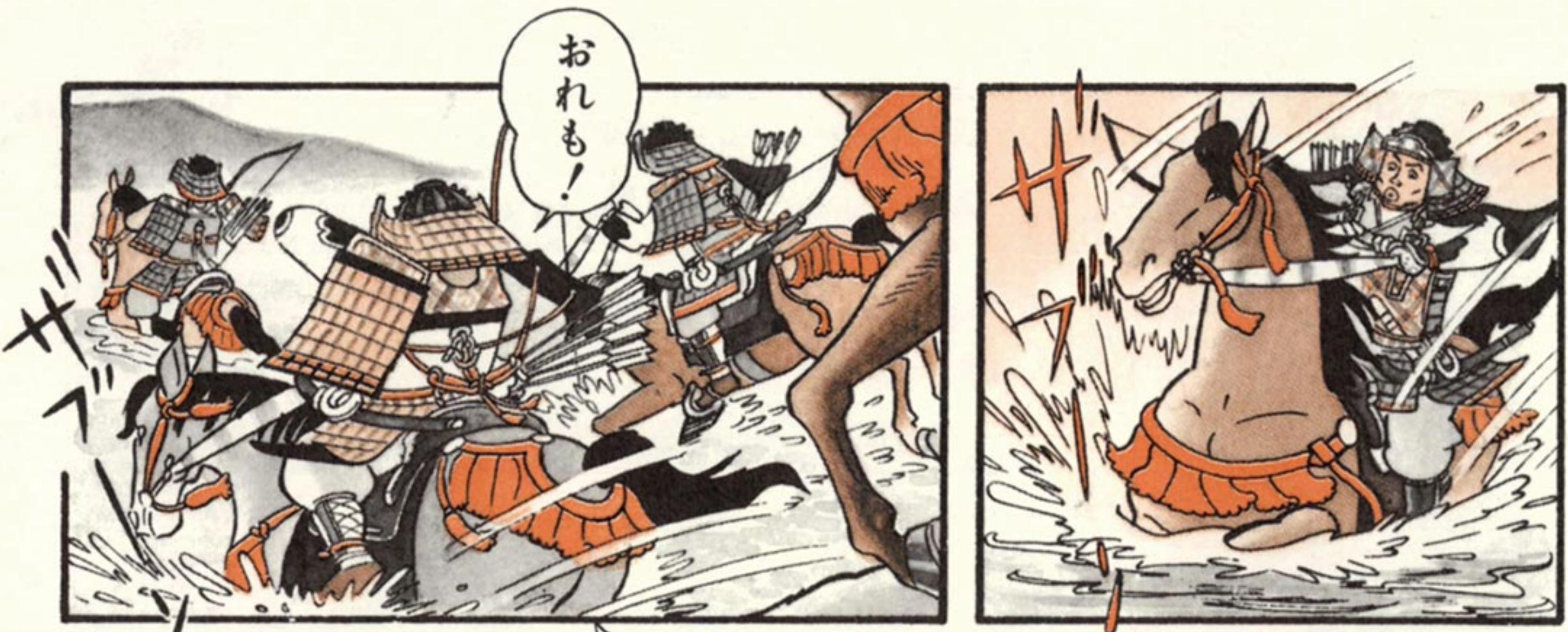


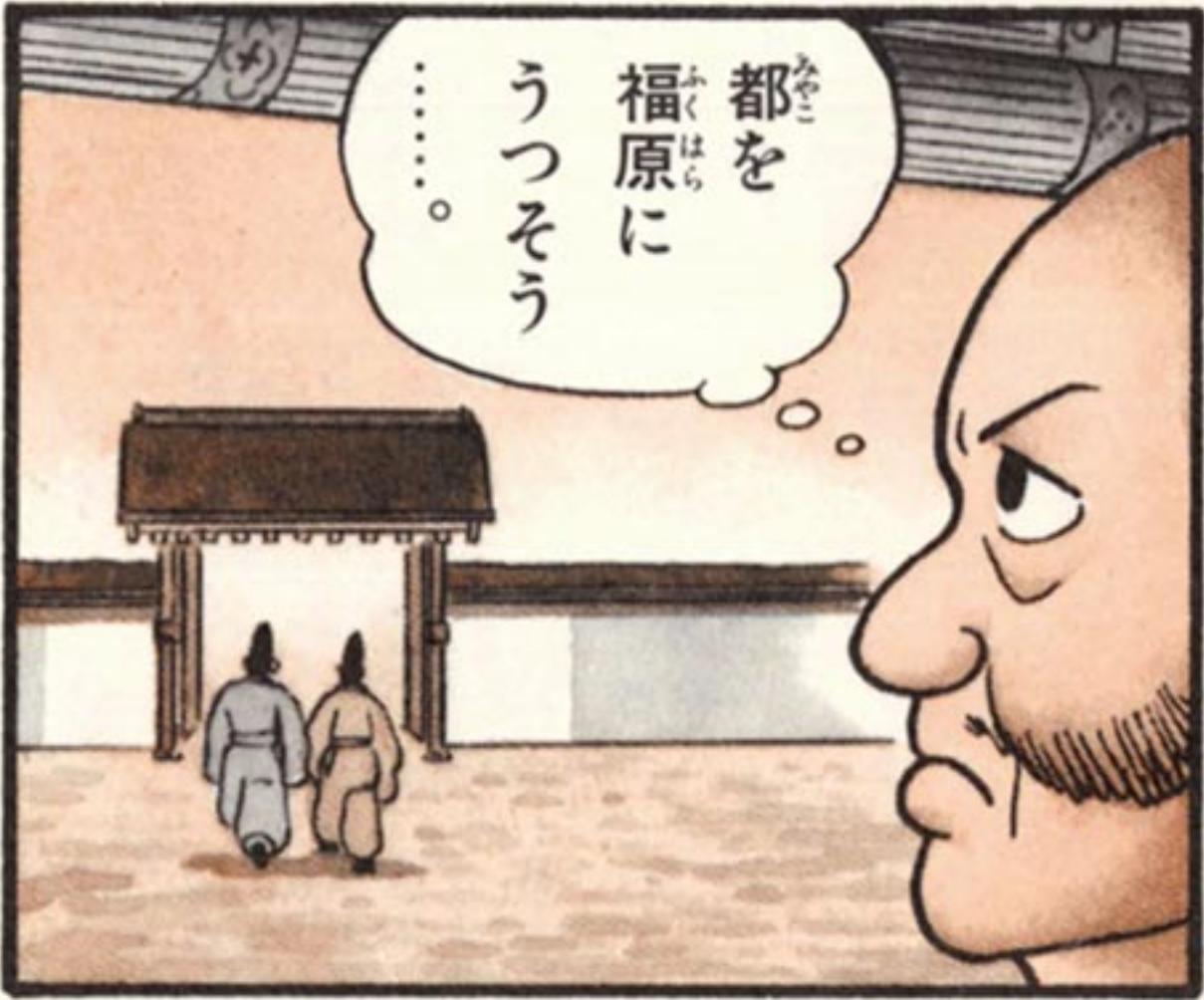
以仁王は、
三井寺から
にげたと
いう。
宇治に

おつれ
したのは、
源頼政だ
そうだ。









都がうつることになり、京では、福原への引っ越しであわただしさをまし、福原では、内裏（皇居）をはじめ、新しい屋敷がつぎつぎとたてられていました。

そのころ、以仁王の「諸国の源氏よ、平氏をうて」の命令が、各地にもたらされていました。全国の半分近くの国をひとりじめした平氏の横暴に、諸国の武士団は、ためていた力を、いよいよ発揮することになります。



小学館 eBooks

だい しょう
第三章

より とも きよ へい
頼朝の拳兵
へい あん じ だい まつ き
—平安時代末期—

一一八〇年
北条時政の館

頼朝どのは
ここにおられる
と聞いたが？

!! だれだ



山木兼隆が
せめてくるかも
しれぬのだ。

何に
あるのか？

山木の
者では
なさそうじや。
入れよう。

おじの
源行家
といふ
者じや。



* 令旨…皇太子など皇族の命令を書いた文。

* 流人…罰をうけて、遠くへ追放された者。

身のため、わたしは流人の兵とてございません…。

ははつ

源
頼朝

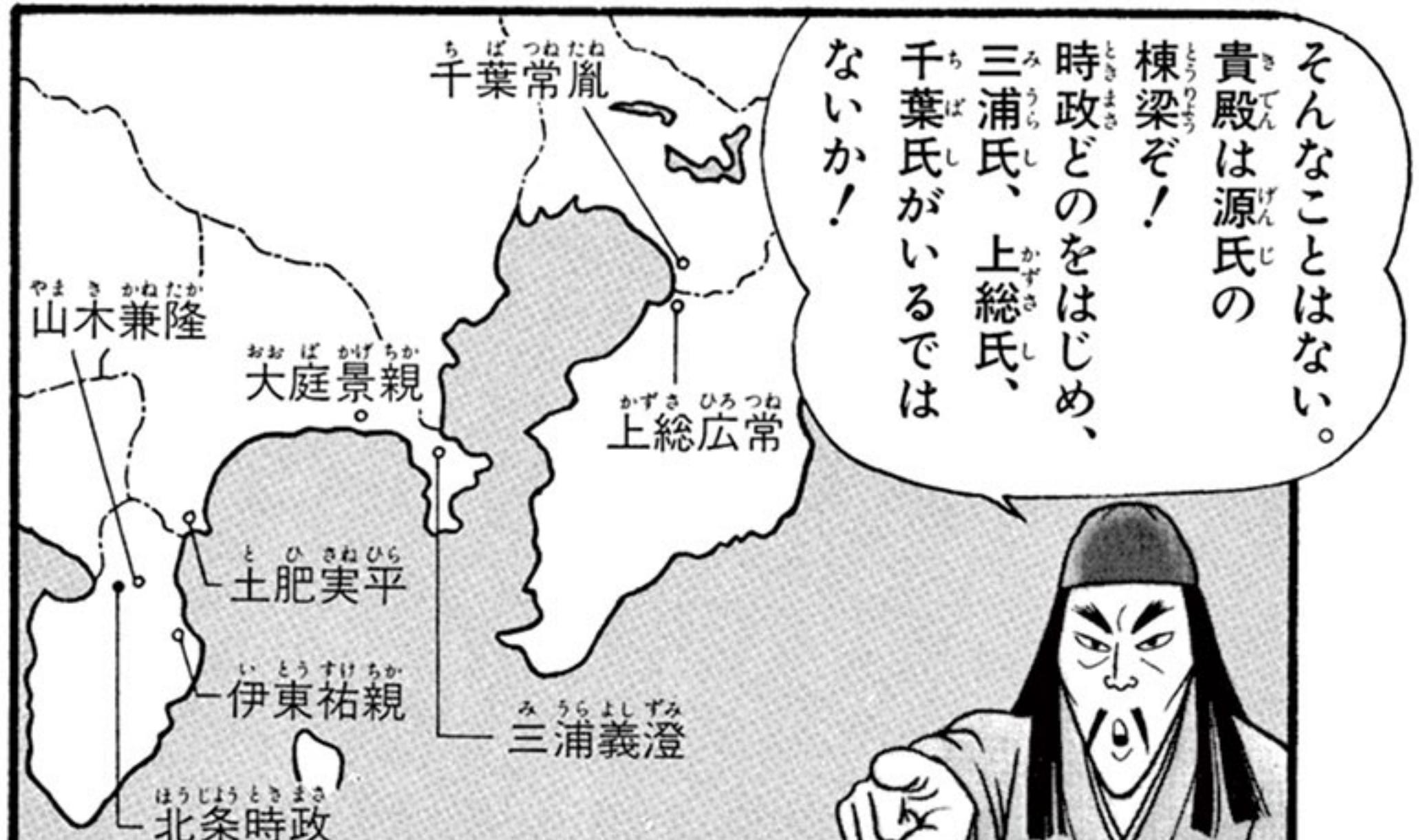
以仁王さまの
令旨である。

しかし、わたしは流人の
身のため、
兵とてござい
ません…。

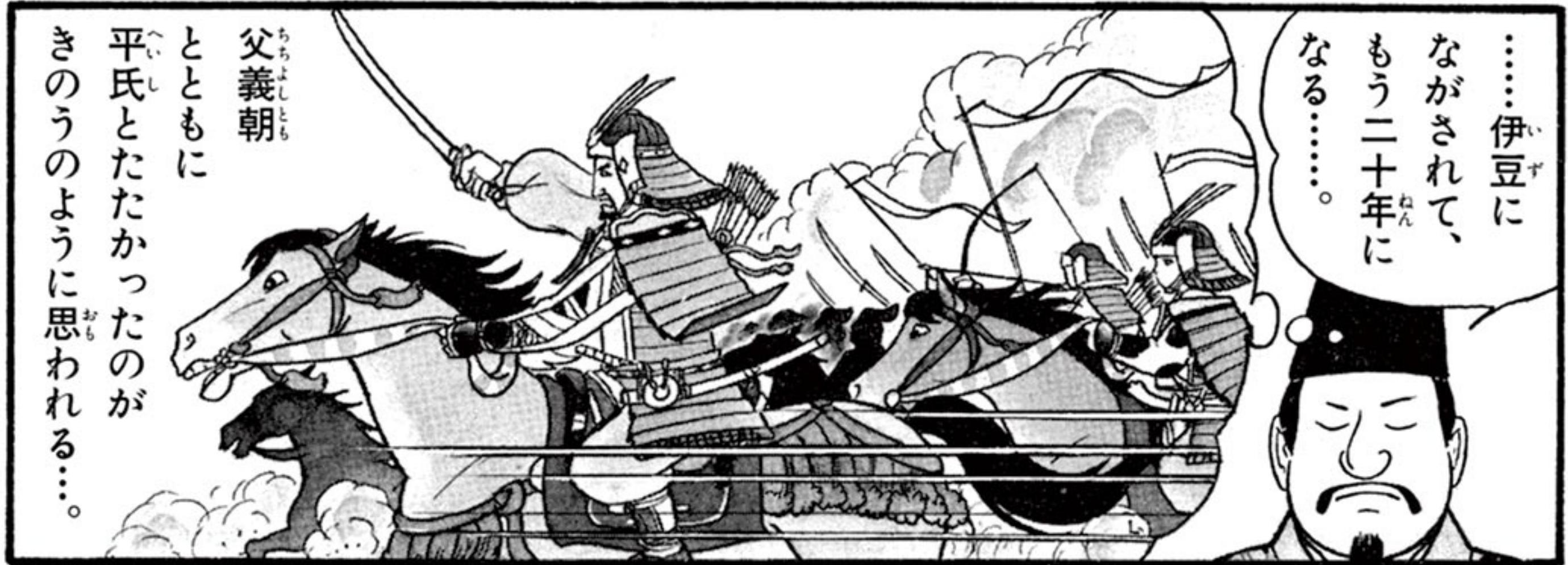
それは
ねがつても
ないことで
ございます。

国ぐにの源氏は
とのご命令じや。
兵をあげよ、

そんなことはない。
貴殿は源氏の
棟梁ぞ！
時政どのをはじめ、
千葉氏がいるでは
ないか！



これから、
東国(とうごく)の源氏(げんじ)
や
武士(ぶし)に反対(はんたい)
する
よ
く考
え
て
く
れ。



……伊豆に
ながされて、
もう二十年に
なる……。

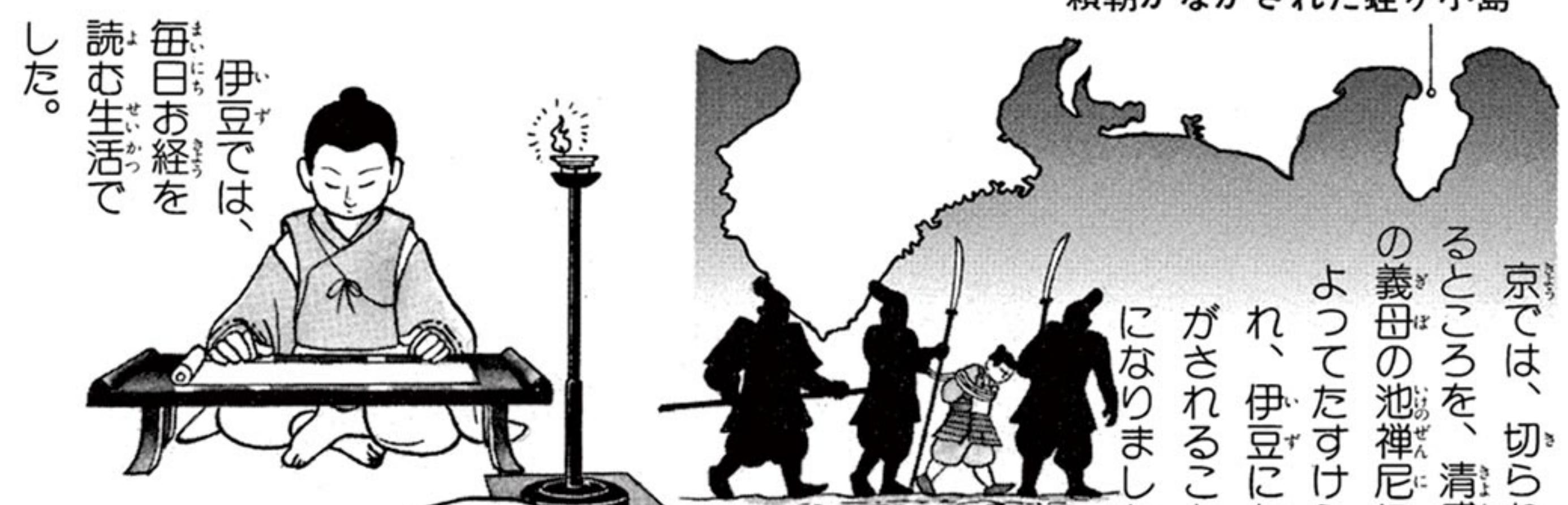
父義朝
ちちよしとも



十三歳の少年頼朝は、平治の乱が初陣でした。しかし、源氏はやぶれ、父につれられて、雪深い山道を東国めざして、逃げました。

とちゅうで頼朝は義朝
かりはぐれ、*美濃国でつ
かまつ、京にへられま

した。



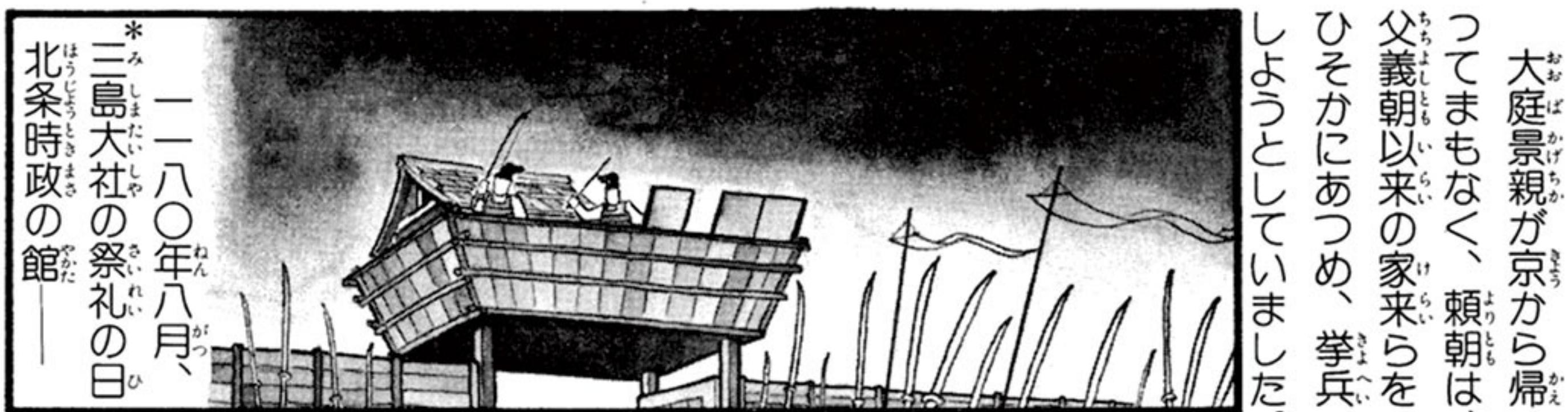
京では、切られ
るところを、清盛
の義母の池禪尼に
よつてたすけら
れ、伊豆にな
がされること
になりました。

* 美濃・岐阜県の南部



以仁王の令旨によつて、頼朝は
拳兵の決意をかためました。ちよ
うどそのころ、都近くで兵をあげ
た以仁王や源頼政らは、宇治川の
戦いで平氏軍にやぶれさりました。



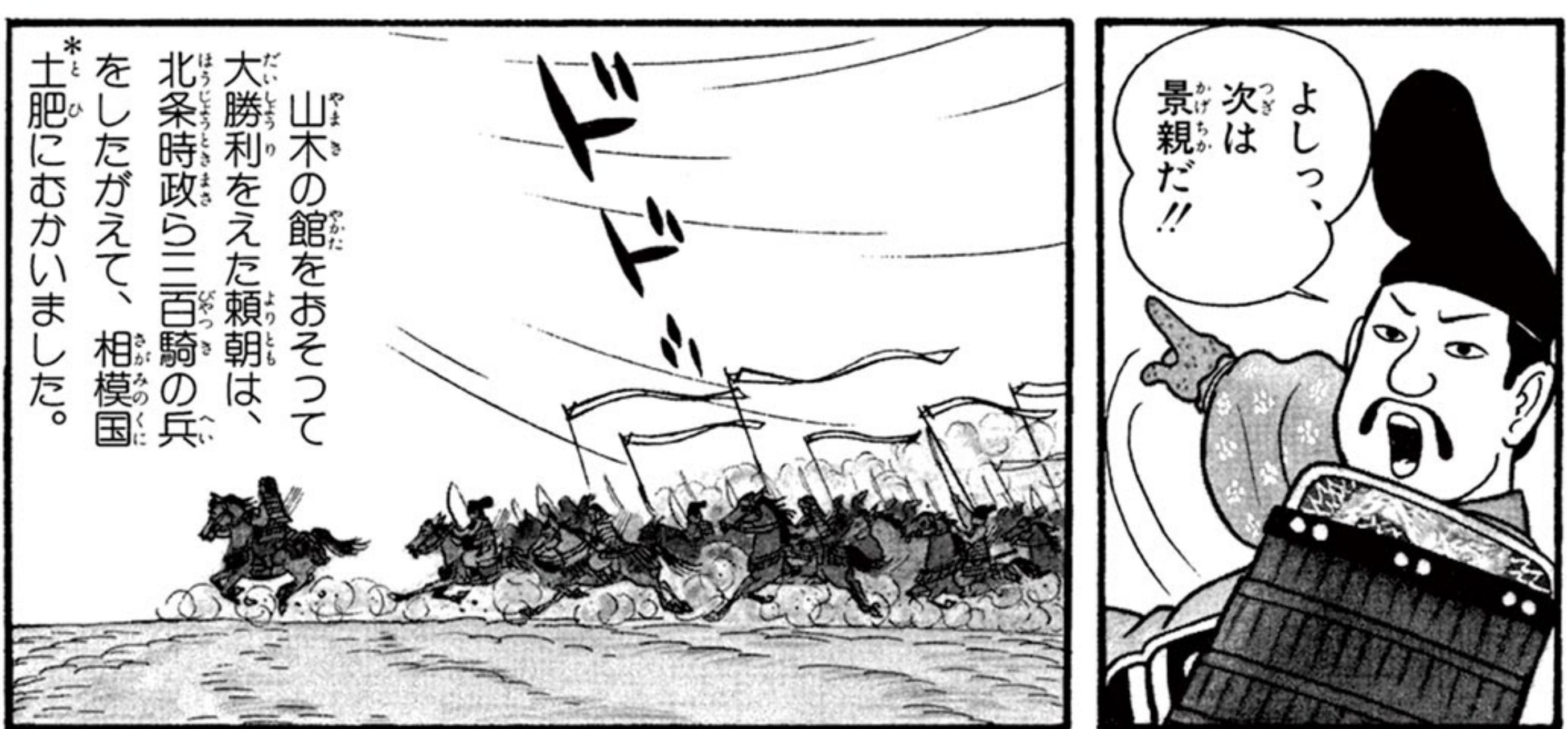
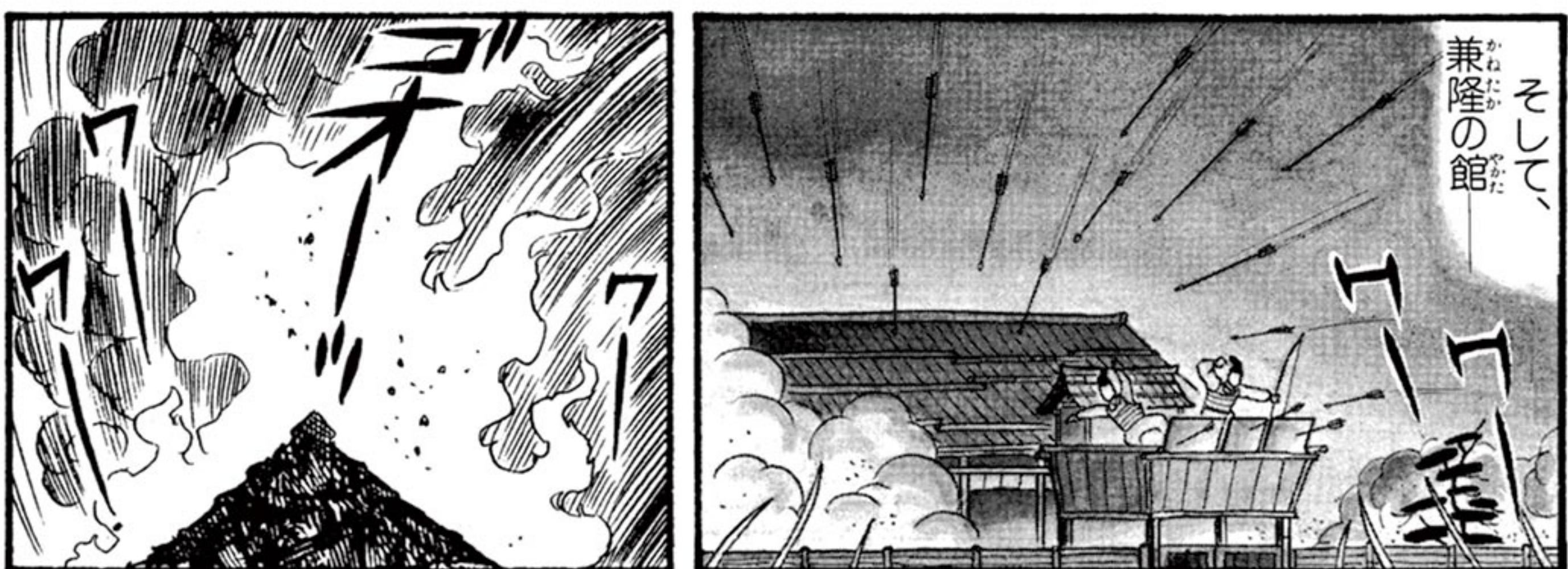


つてまもなく、頼朝は、父義朝以来の家来らをひそかにあつめ、挙兵しようとしていました。



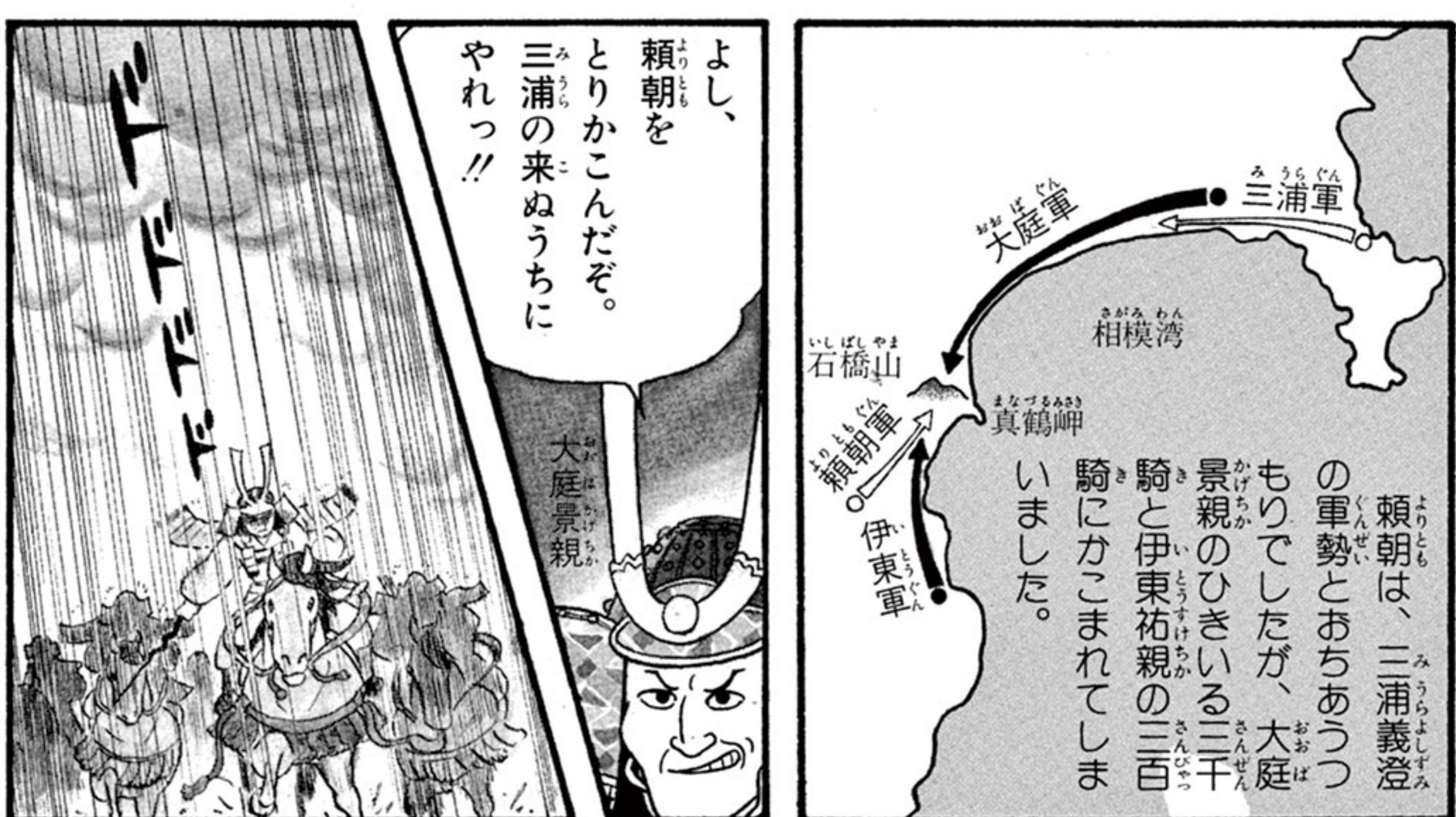
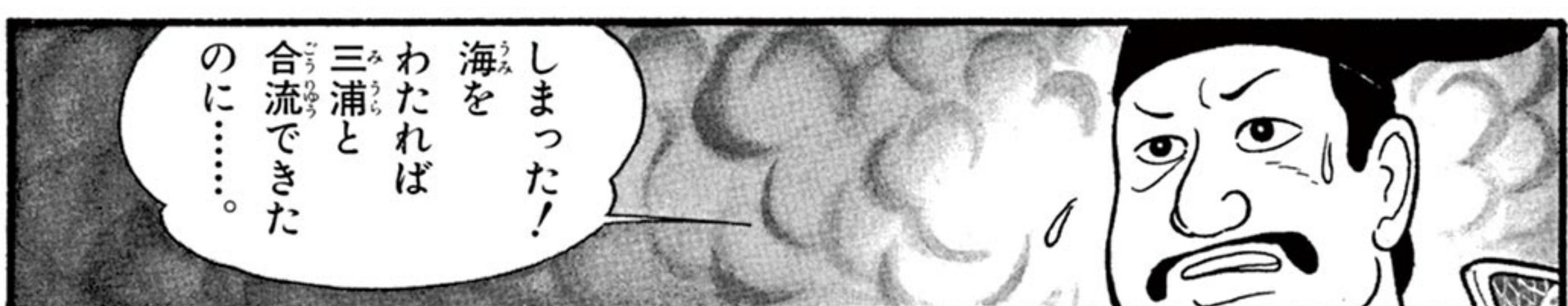
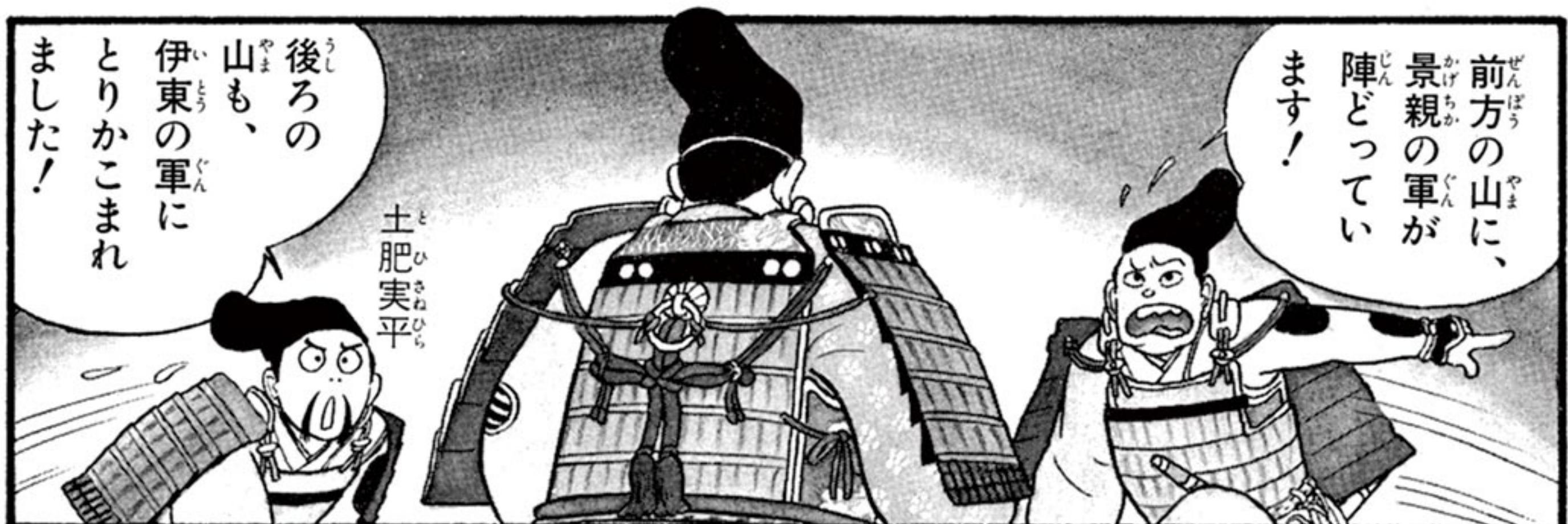
*三島大社：静岡県三島市にある神社。

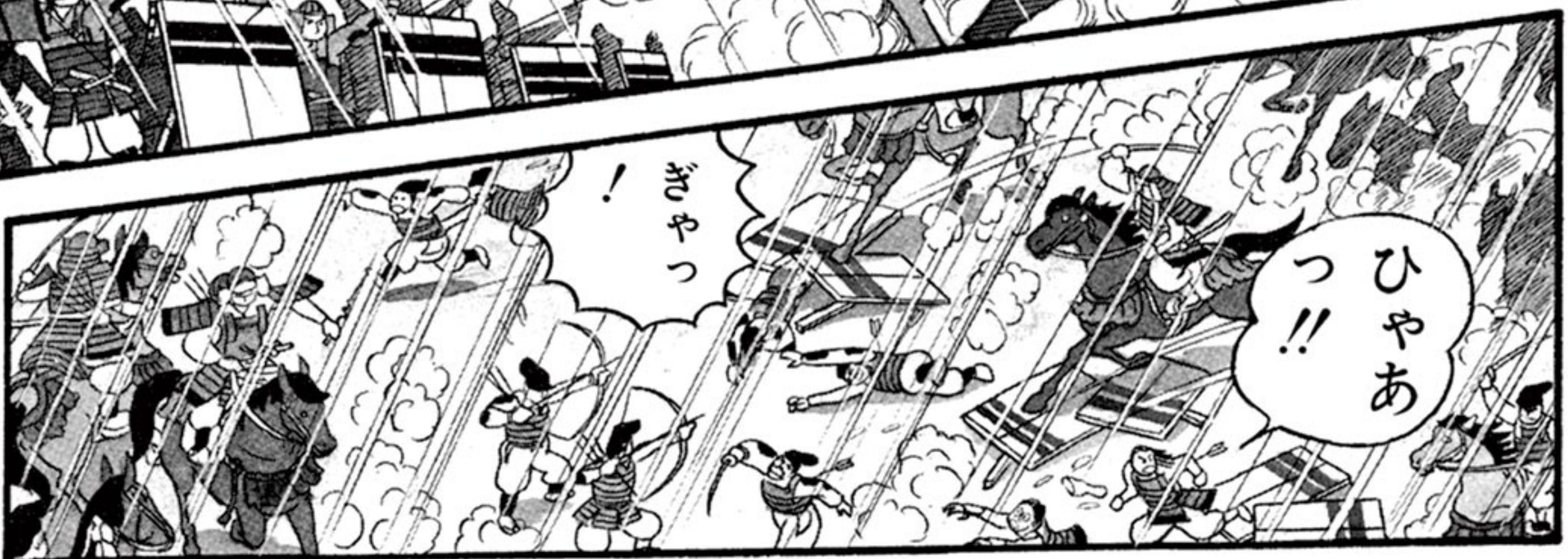




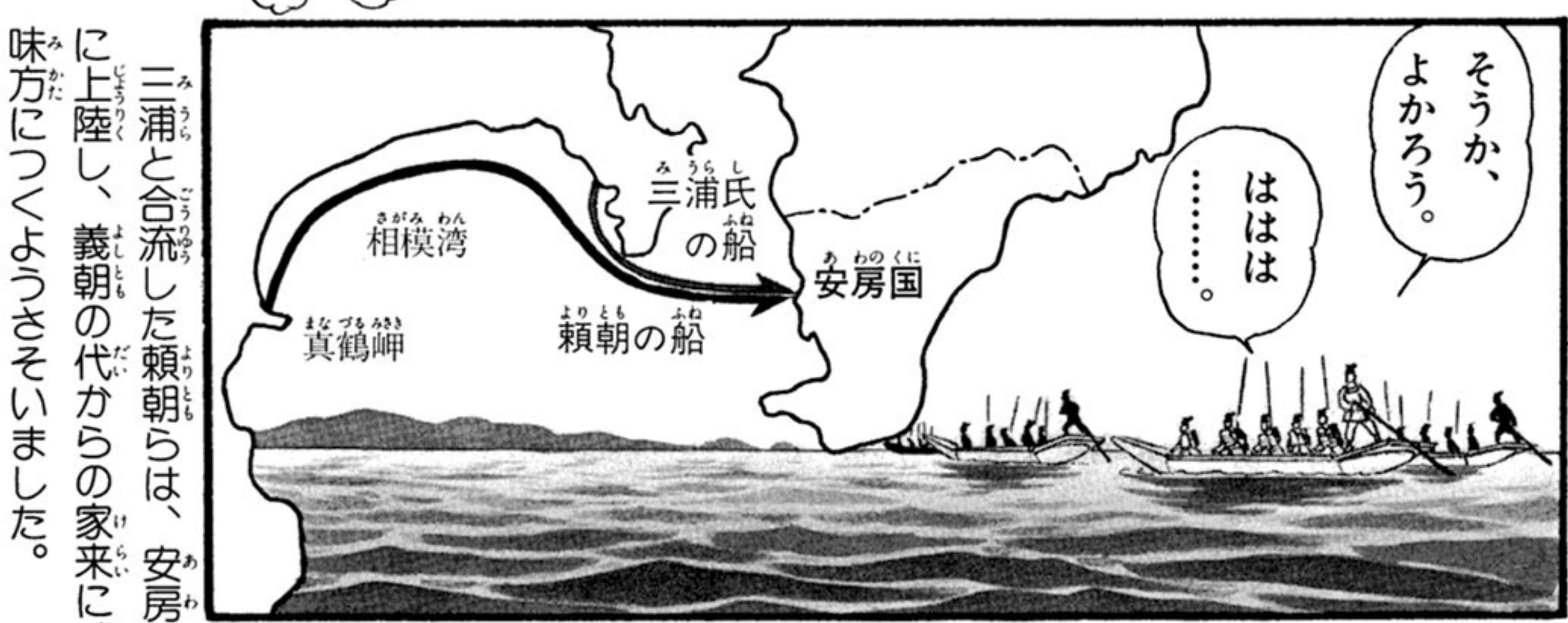
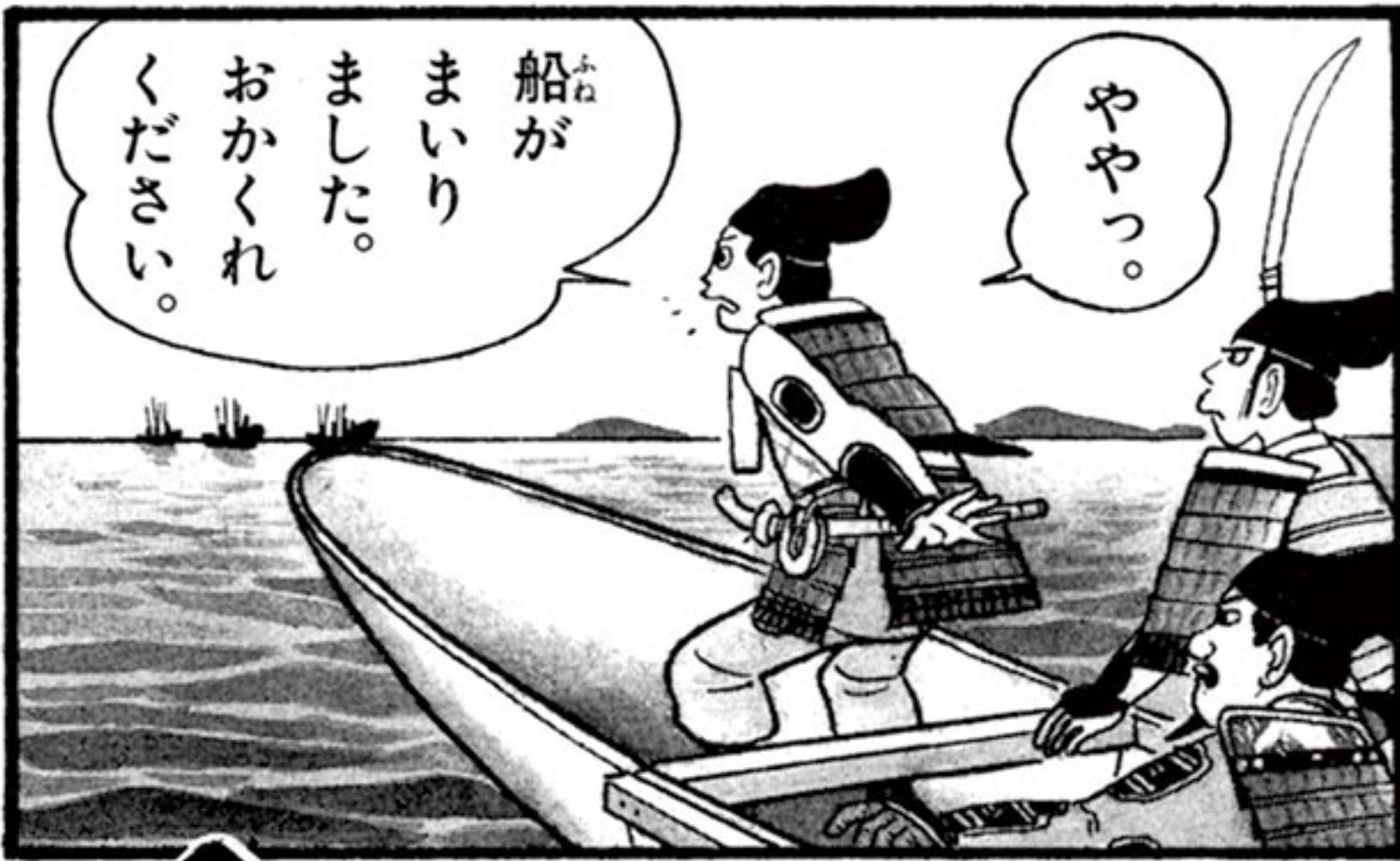
*
土肥：神奈川県足柄下郡湯河原町、真鶴町一帯。

* 石橋山：神奈川県小田原市南西にある山。





*安房…千葉県の南部





*信州：信濃國（長野県）のこと。

*木曾：長野県木曾郡



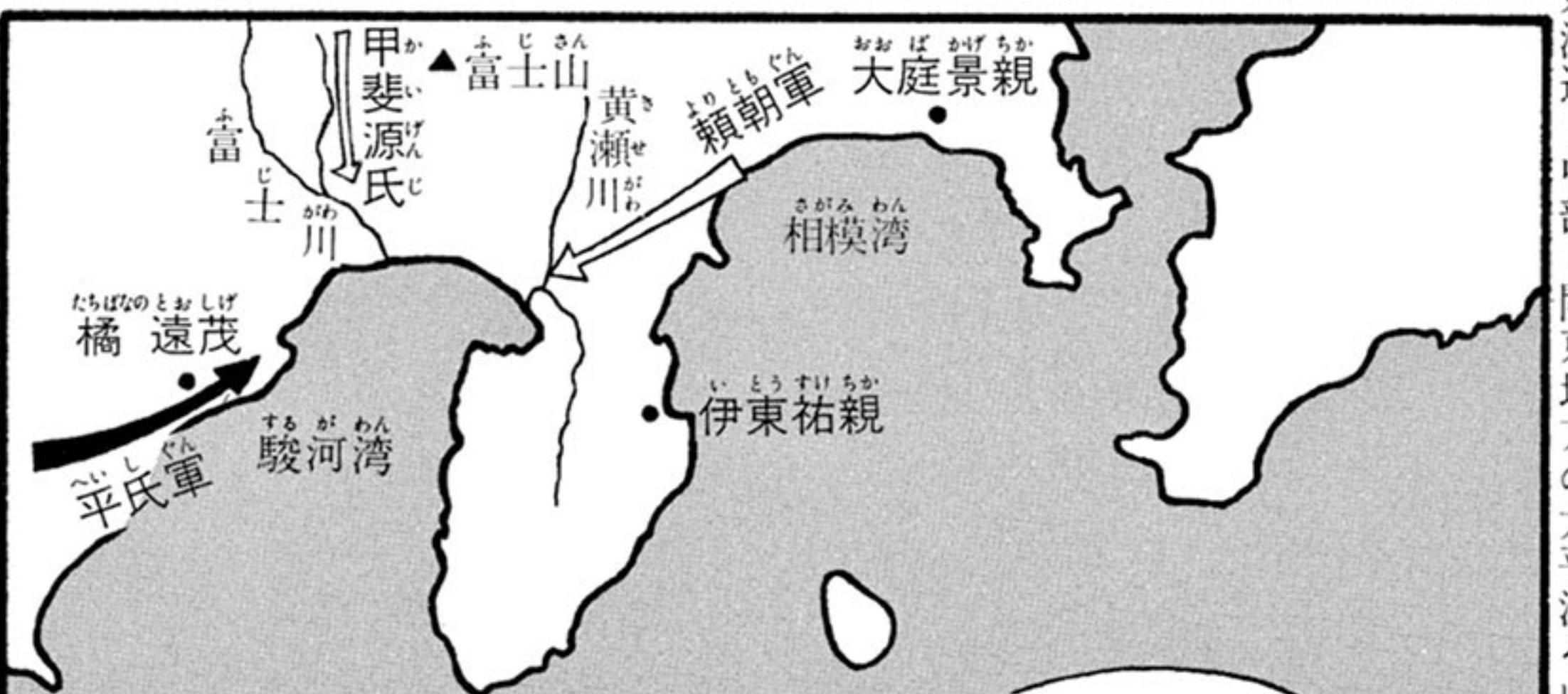


* 宣旨をうけた平氏の軍は、維盛、忠度、知度を大将として、* 東山道の兵をあつめながら東国をめざしました。

* 宣旨：天皇の命令を書いた文。

* 東海道：中部・関東地方の太平洋ぞいの地域。

しかし、十月には、たよりとしました。した相模の大庭景親、伊豆の伊東祐親、* 駿河の目代橋遠茂が、すでに源氏方にほろぼされていました。



* 目代：国司（各國をおさめる役所の長官）のかわりをする役人



* 兵：親がうたれ、子がうたれても、それをのりこえてたたかいます。





富川



山へ



いくさ
うだ。
みへ
海にげろ！



源氏の頼朝さまは、安房へ



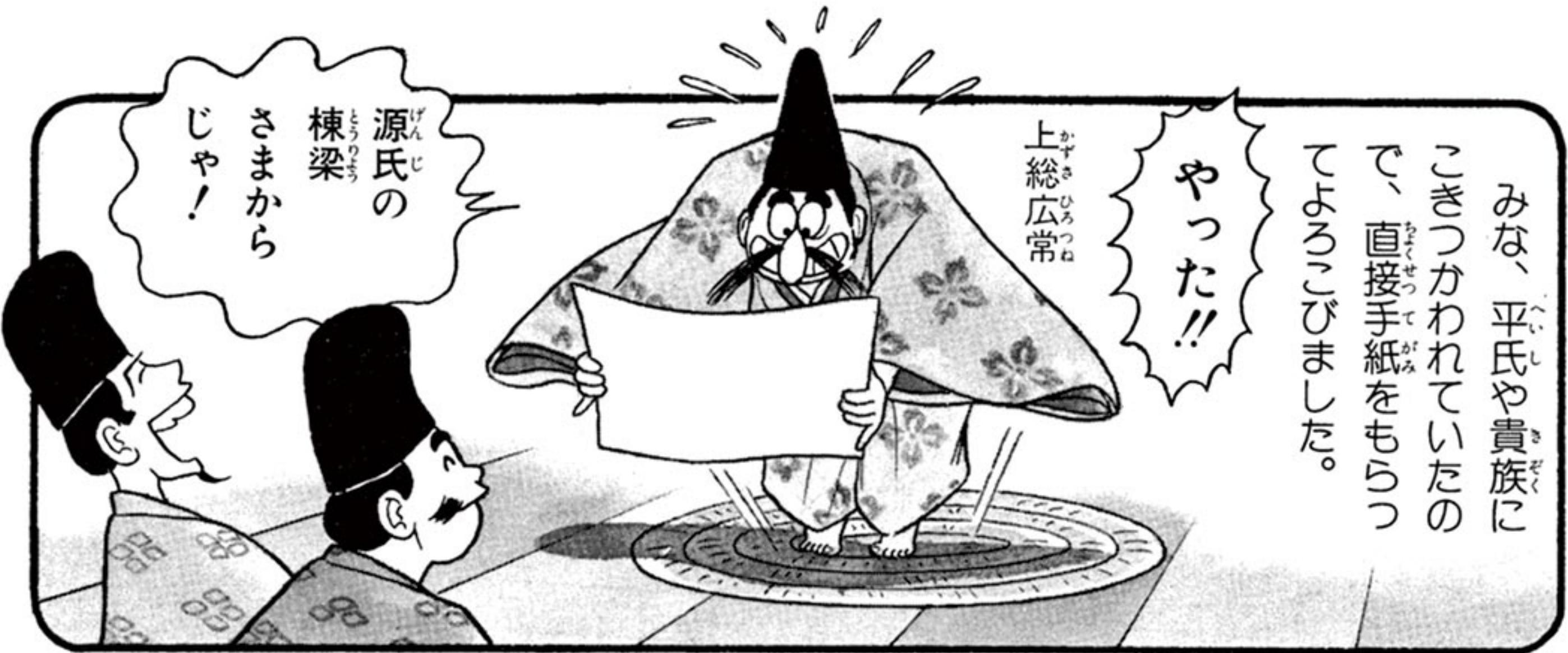
平氏は
たくさん
いるぞ！

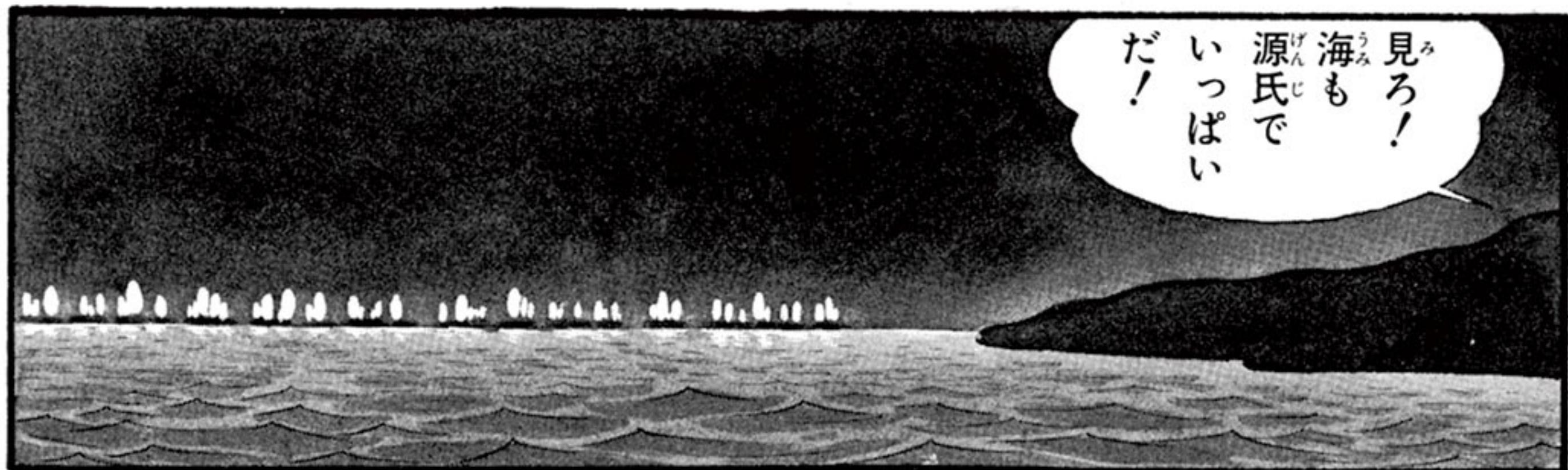
*富士川：山梨県と静岡県をながれる川

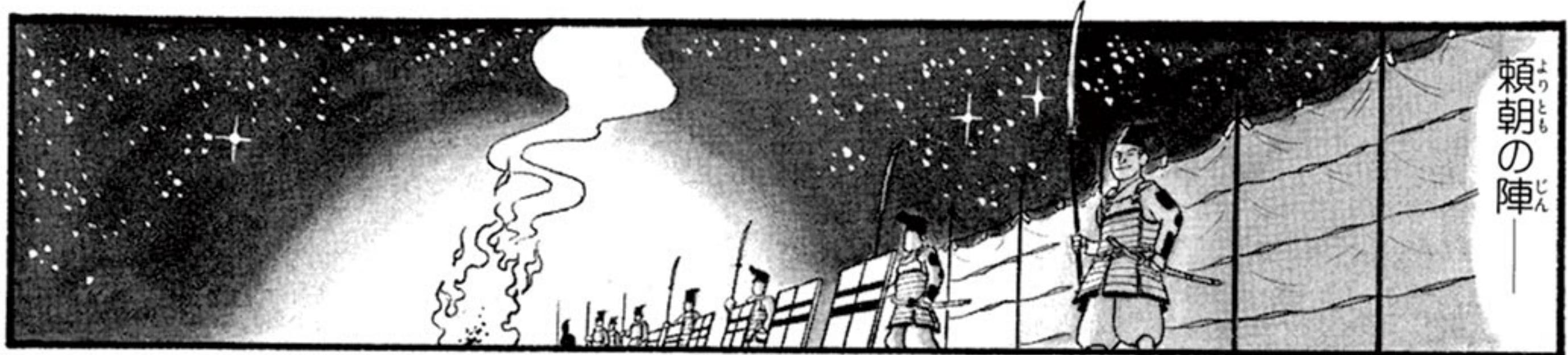
骏河湾にそそいでいる。



* 安房の頼朝は、房総半島から武藏にいたる武士団に、味方になるよう、手紙や使いを出しました。





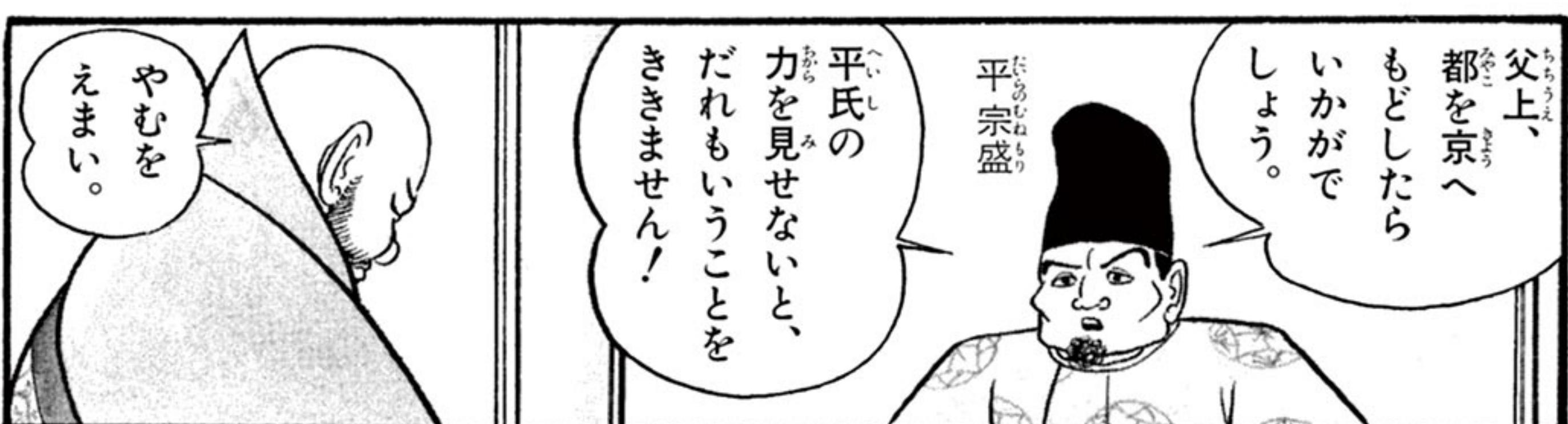




大源氏のが!!







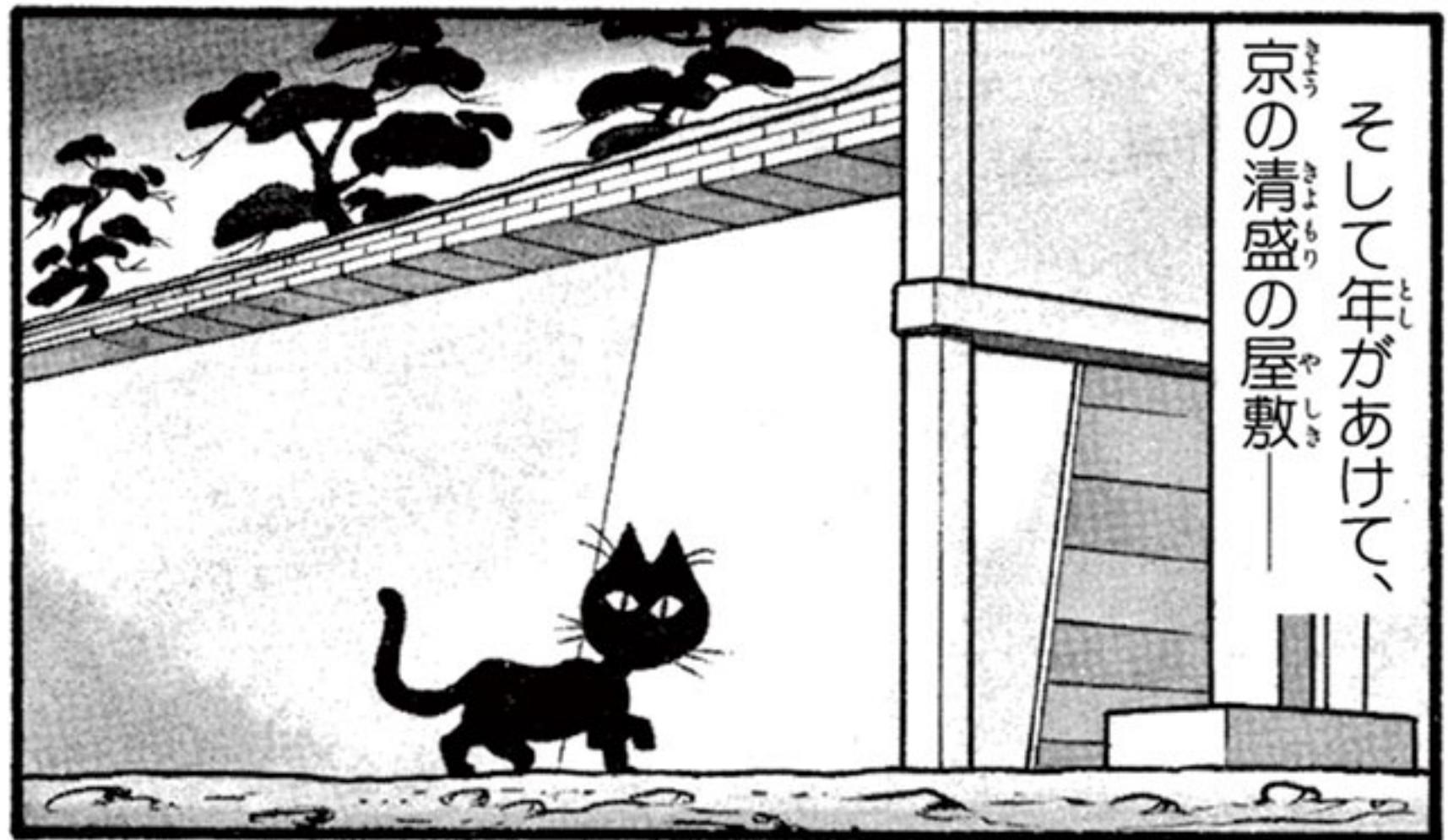


京の清盛の屋敷

そして年があけて、

清盛さまが、
たいへんな
熱病だ

そうだ。



もう、
平氏の世は
おわりじや。

奈良の都を
やいたからよ。
きっと、その
たたりじや。

清盛さまが、
たいへんな
熱病だ

そうだ。



平氏の
たおれるのを
まつて
いるのさ。

しかし、
源氏の頼朝が
都に
のぼつてこぬが、
なぜかな？



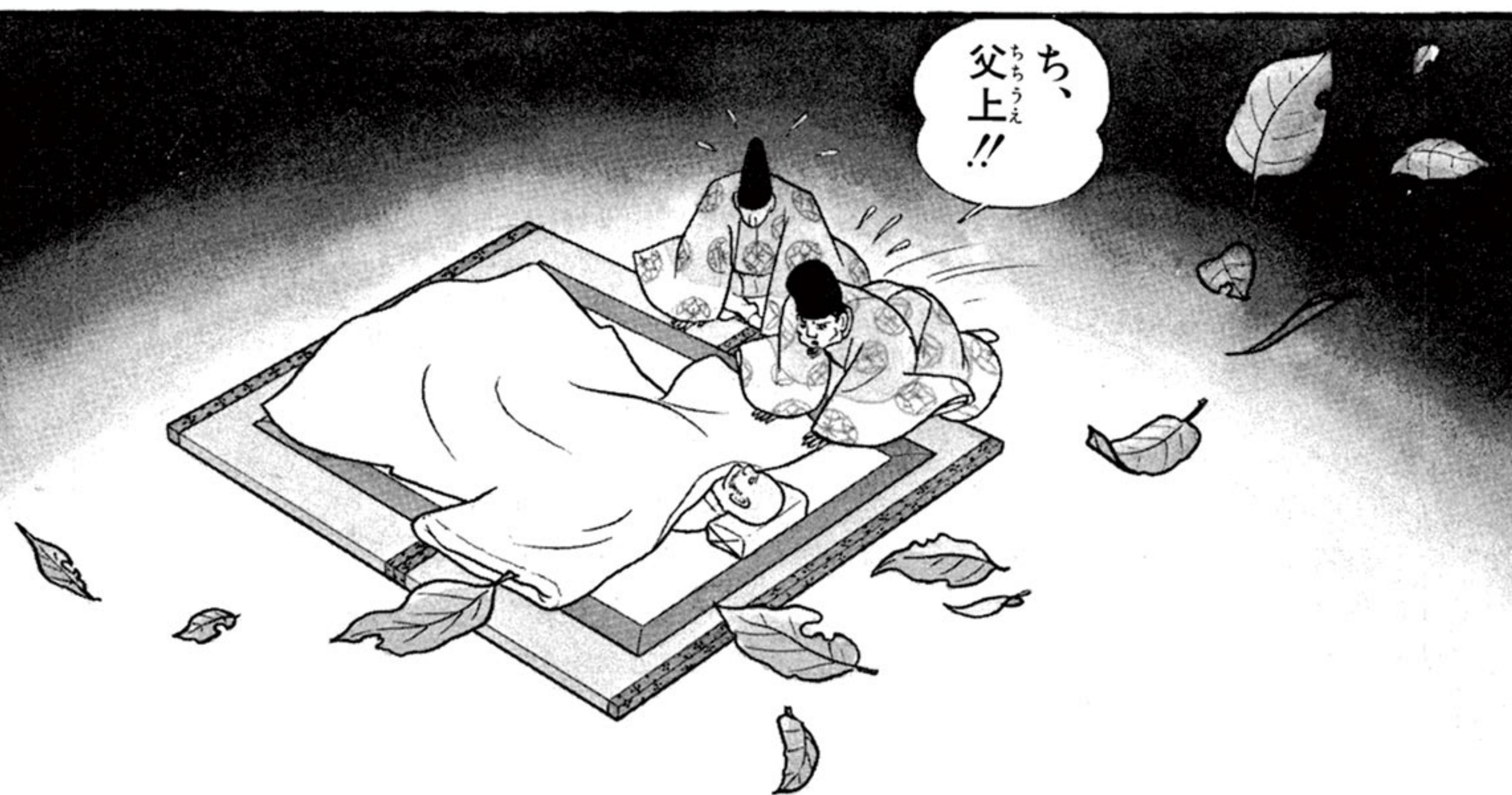
平氏も、
なんとか
まきかえしを
しようと
しているが…。

なるほど…。
強いはずじや。

頼朝は、
うばつた土地を
家来に
あたえている
そうじや。

常陸の佐竹氏も
ほろぼして、
関東は頼朝の
ものになつたと
聞く…。





諸國の兵士が兵をあげるなかで、清盛はなくなりました。平氏の繁栄をきずいてきた清盛の死によつて、平氏の行く手は、きわめてきびしいものになつたのです。

しかし、諸国の武士たちにも大きな困難がひかえていました。敵は平氏だけでなく、周辺の武士との争いにも、うち勝たねばなりません。さうに、きんによつて食糧がなくなつてきていたのです。

そうしたなかで、木曾で挙兵した源氏の義仲が、ちやくちやくと勢力をたくわえていました。

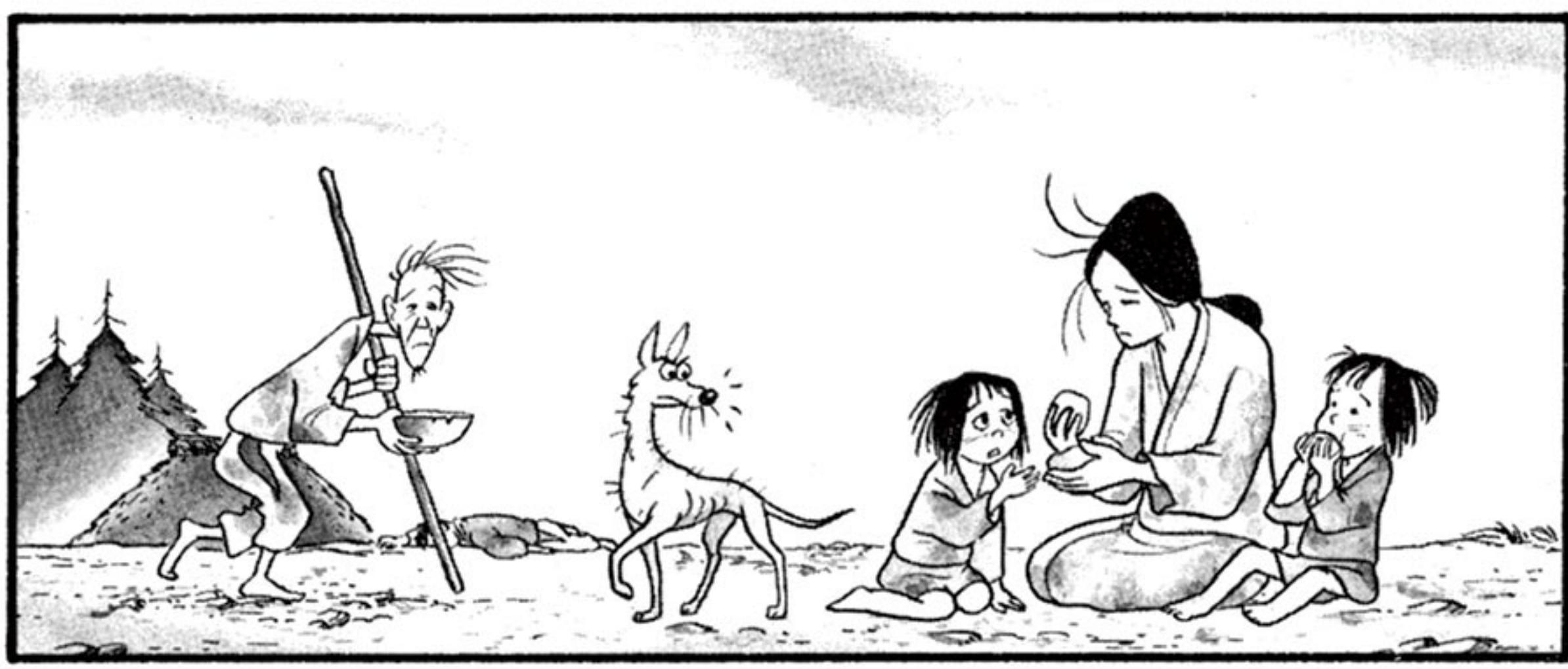


小学館 eBooks

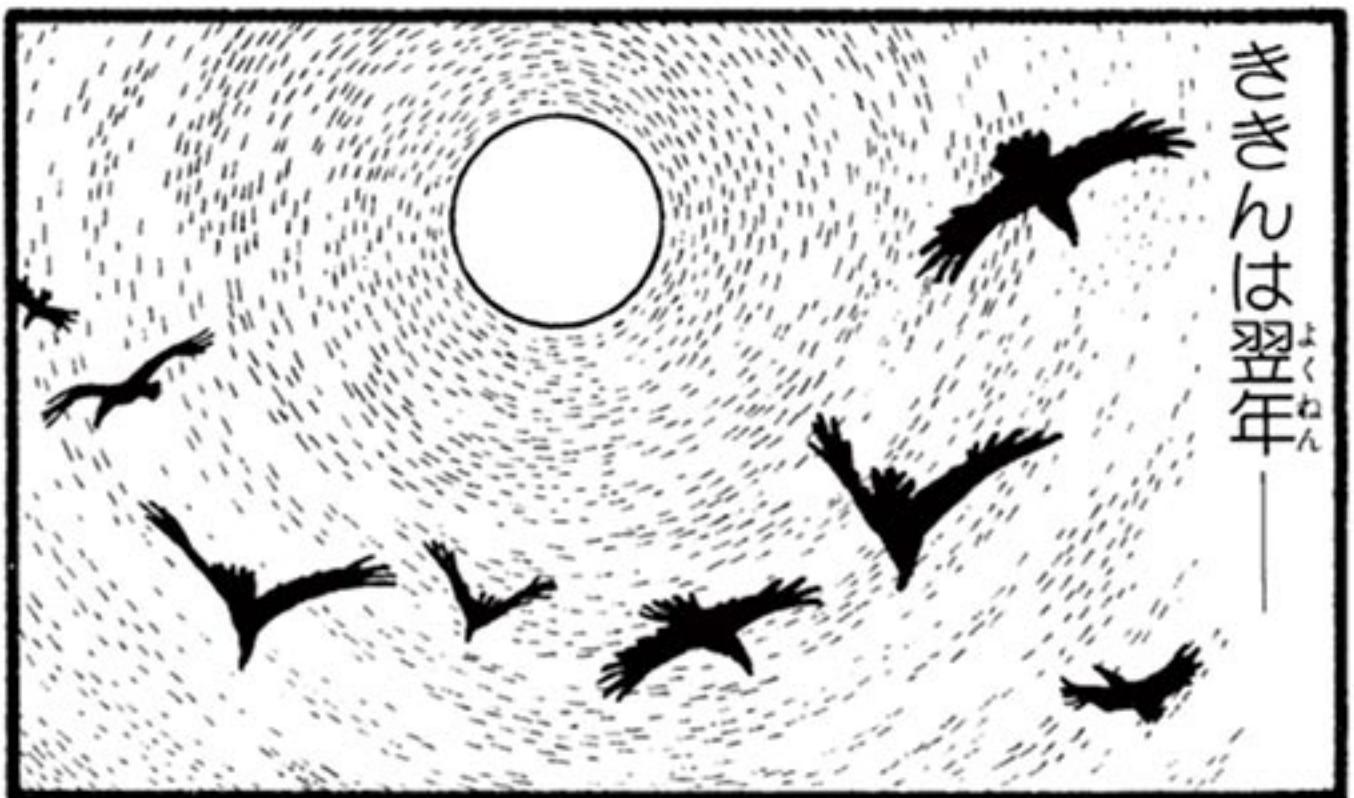
だい しょう
第四章

げん ぺい かつ せん
源平の合戦
へい あん じ だい まつ き
—平安時代末期—

一一八〇年、頼朝や義仲が兵をあげたころ、西国を中心(せいこく)にきました。きんがはじまつていました。



ききんは翌年

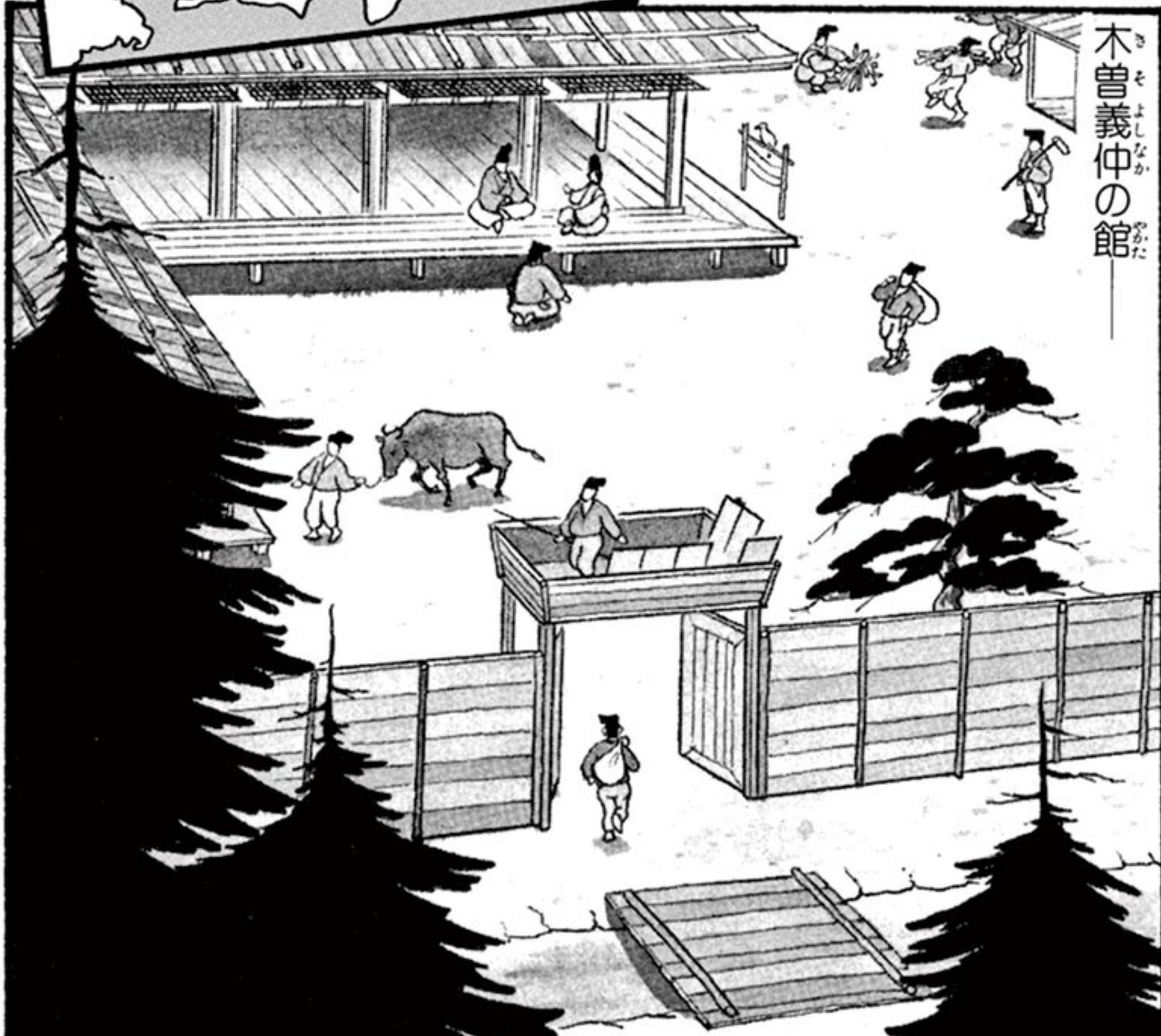


翌年といづれづき



頼朝の軍は尾張、美濃まで行つて、そのままうごかなくなりました。その間、義仲の軍は北陸道にまで広がりました。

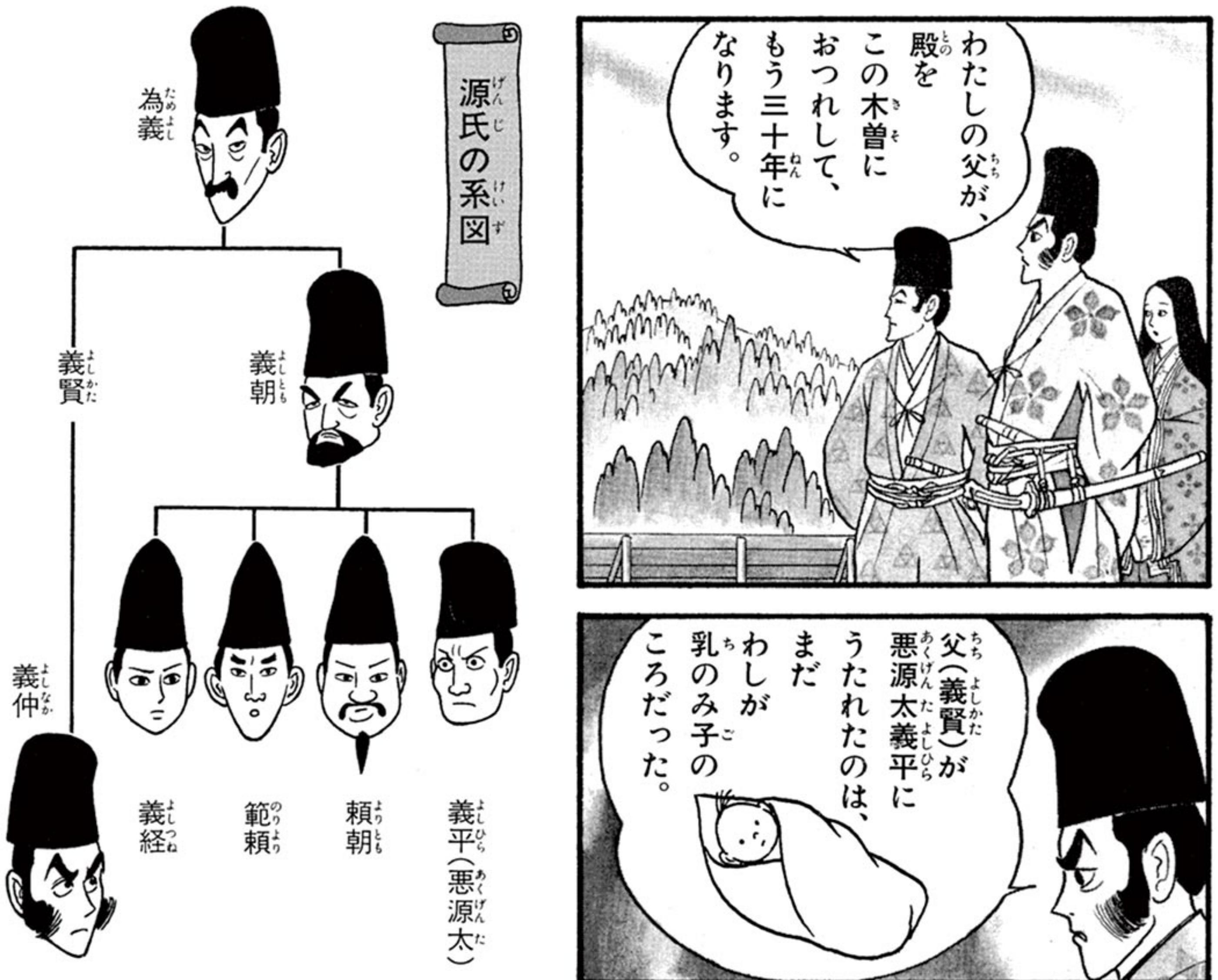
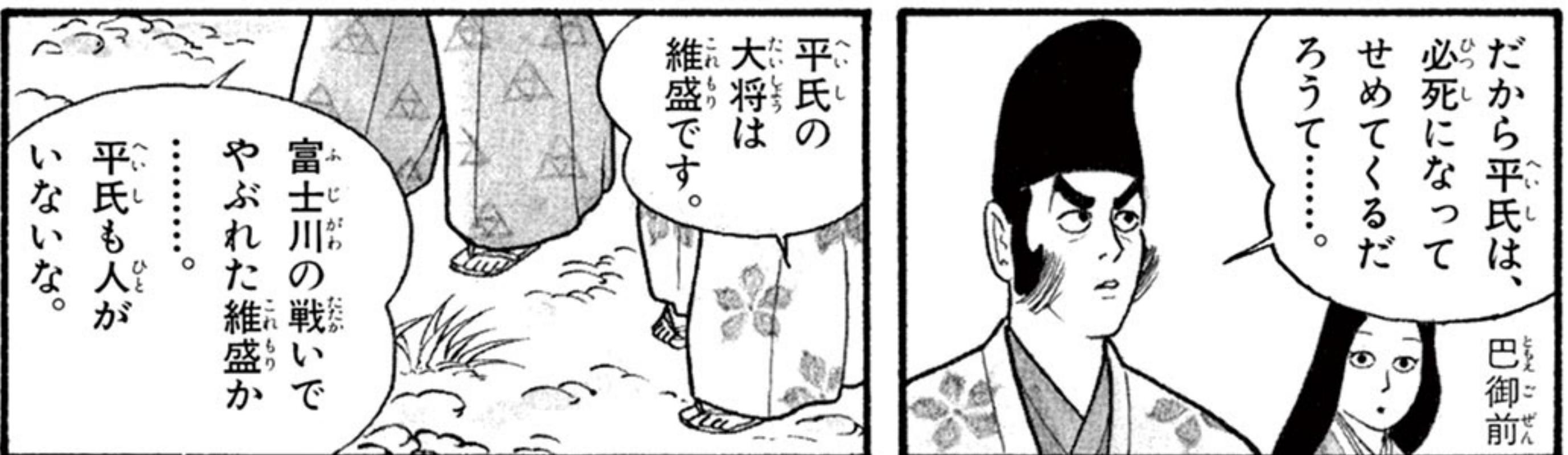
*尾張：愛知県の西部 *北陸道：中部・近畿地方の日本海沿岸地域。



木曾義仲の館



一一八二年春



* 越前：福井県の北部

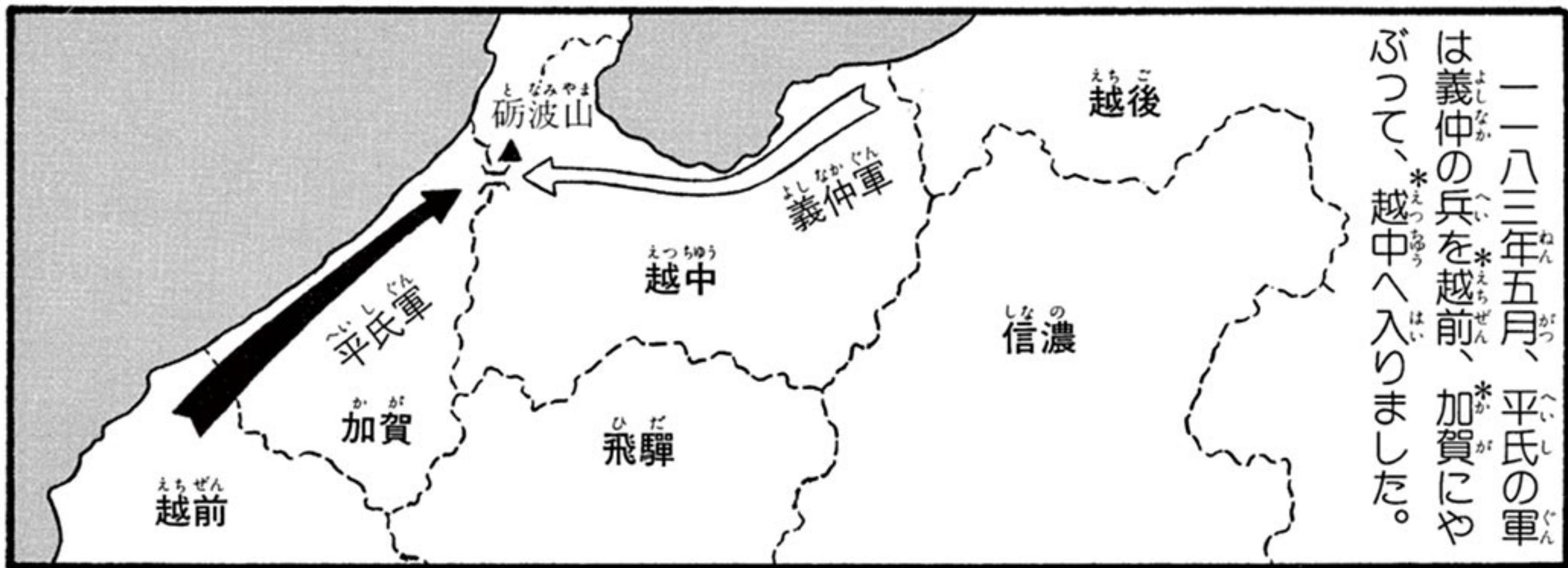
* 加賀：石川県の南部

* 越中：富山県

* 倶利伽羅谷：富山県小矢部市

現在は地

獄谷とよばれている。



一一八三年五月、
は義仲の兵を*越前、*加賀にや
ぶつて、*越中へ入りました。



一一八三年五月、平維盛、通盛に
砺波山の俱利伽羅峠で、義仲の奇襲
攻撃をうけ、大敗北をきつしました。
このとき義仲軍は、角にたいまつをつけた牛の大軍をはなつて敵を谷底へ追いあとしたという物語がつたわ
っています。



*
砺波山の俱利伽羅峠

: 石川県河北郡津幡町と富山県小矢部市の間の峠。



よし、
このまま
都へ
行くぞ!



都では――

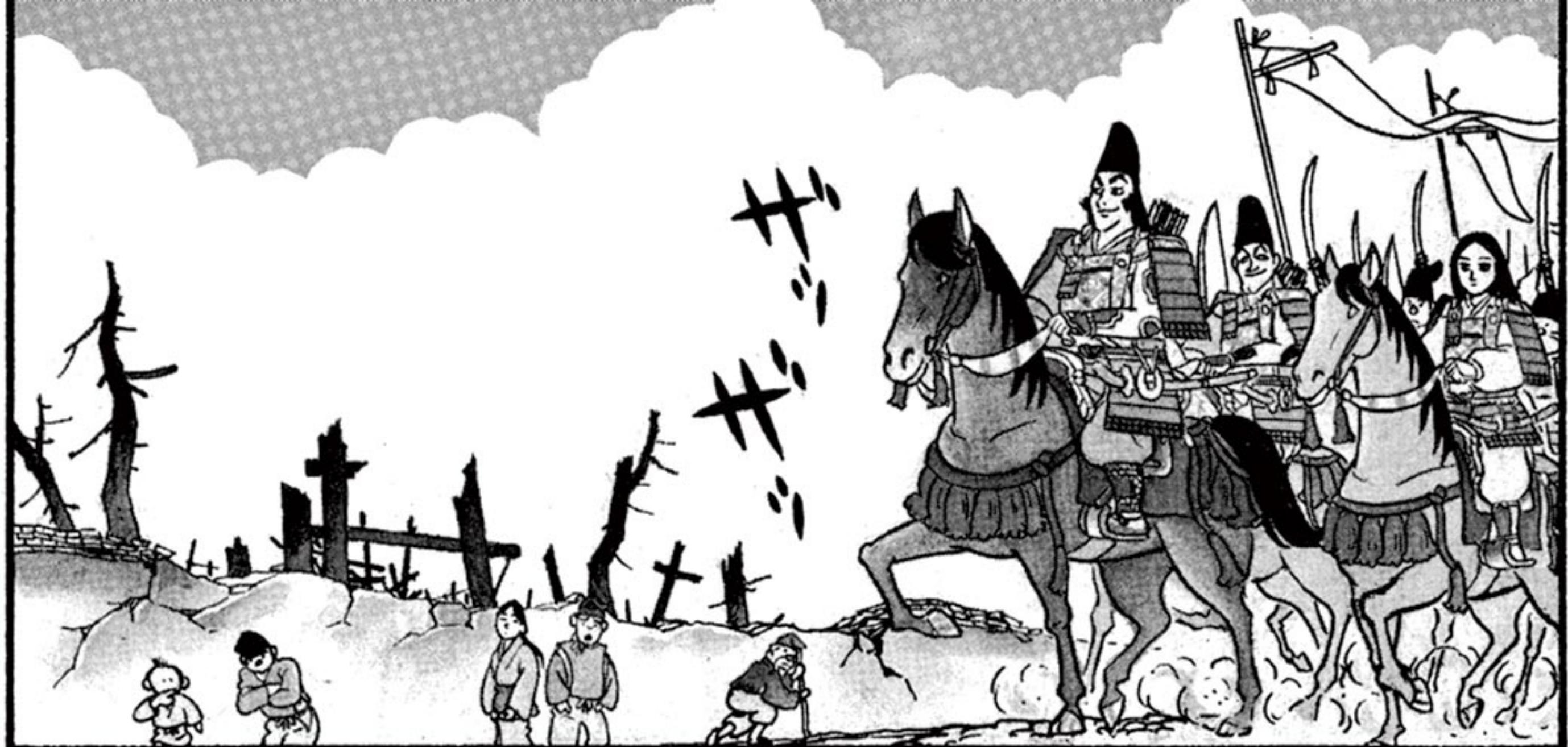


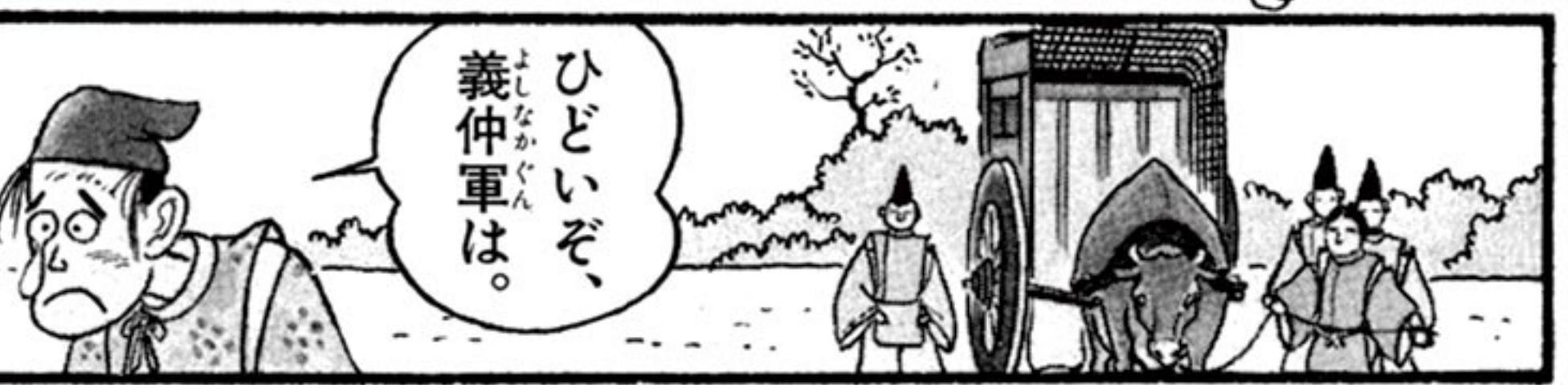
*延暦寺：滋賀県大津市にある寺で、

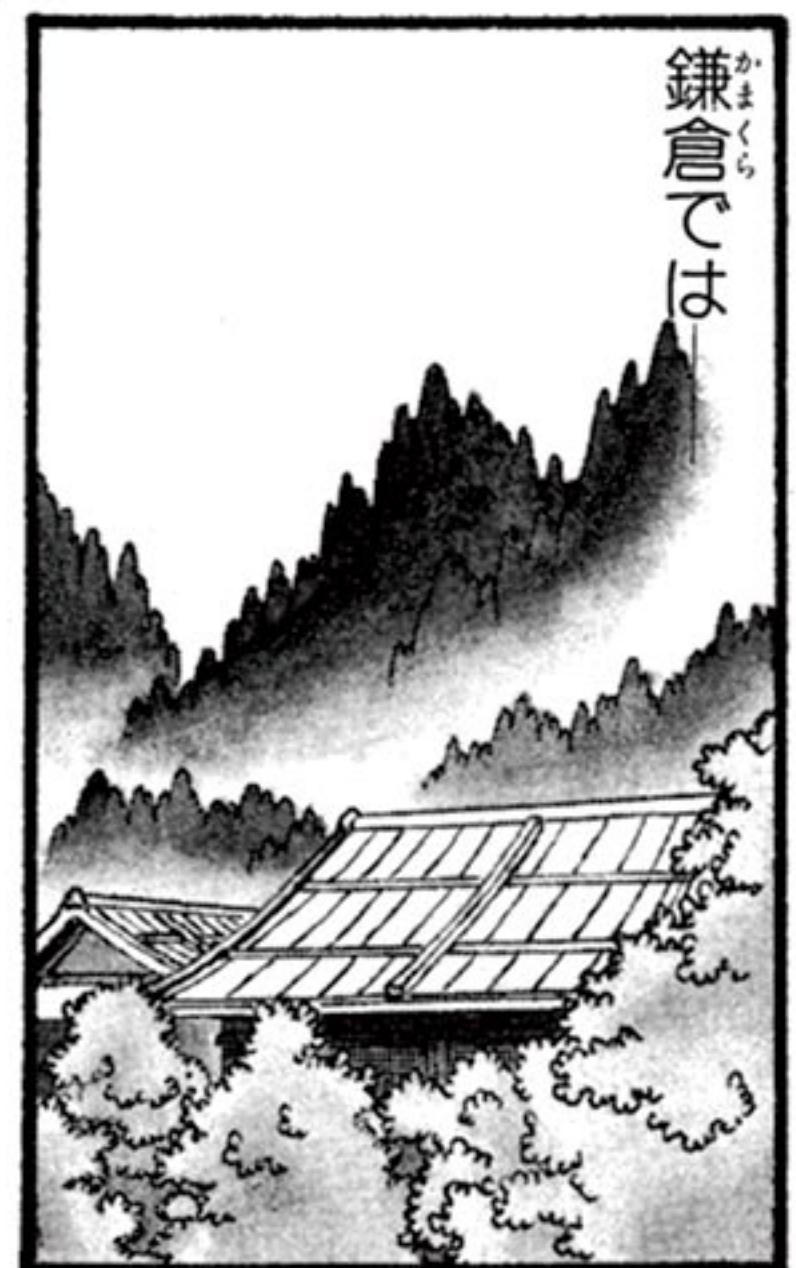
大きな勢力をふるつていた。

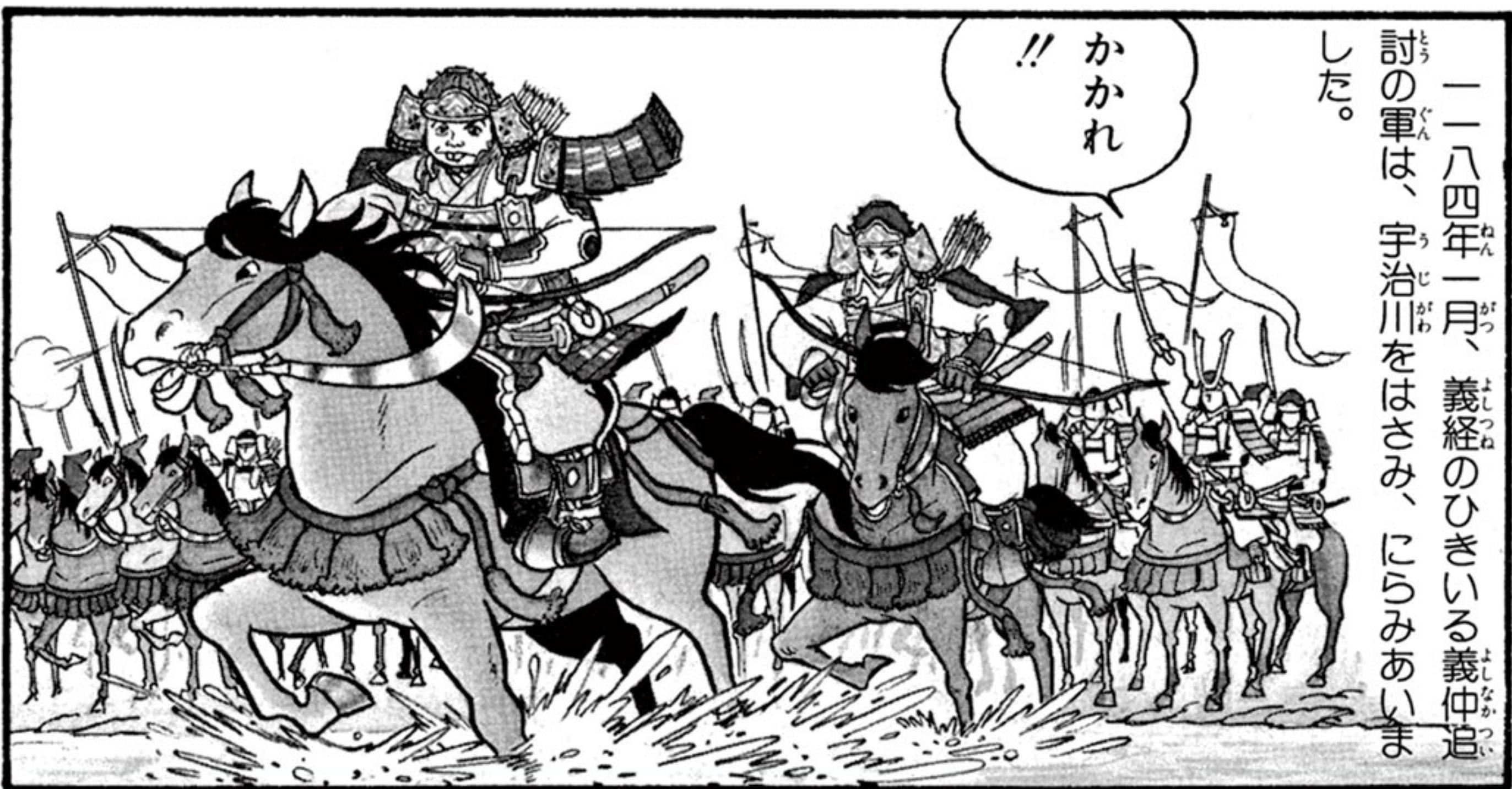
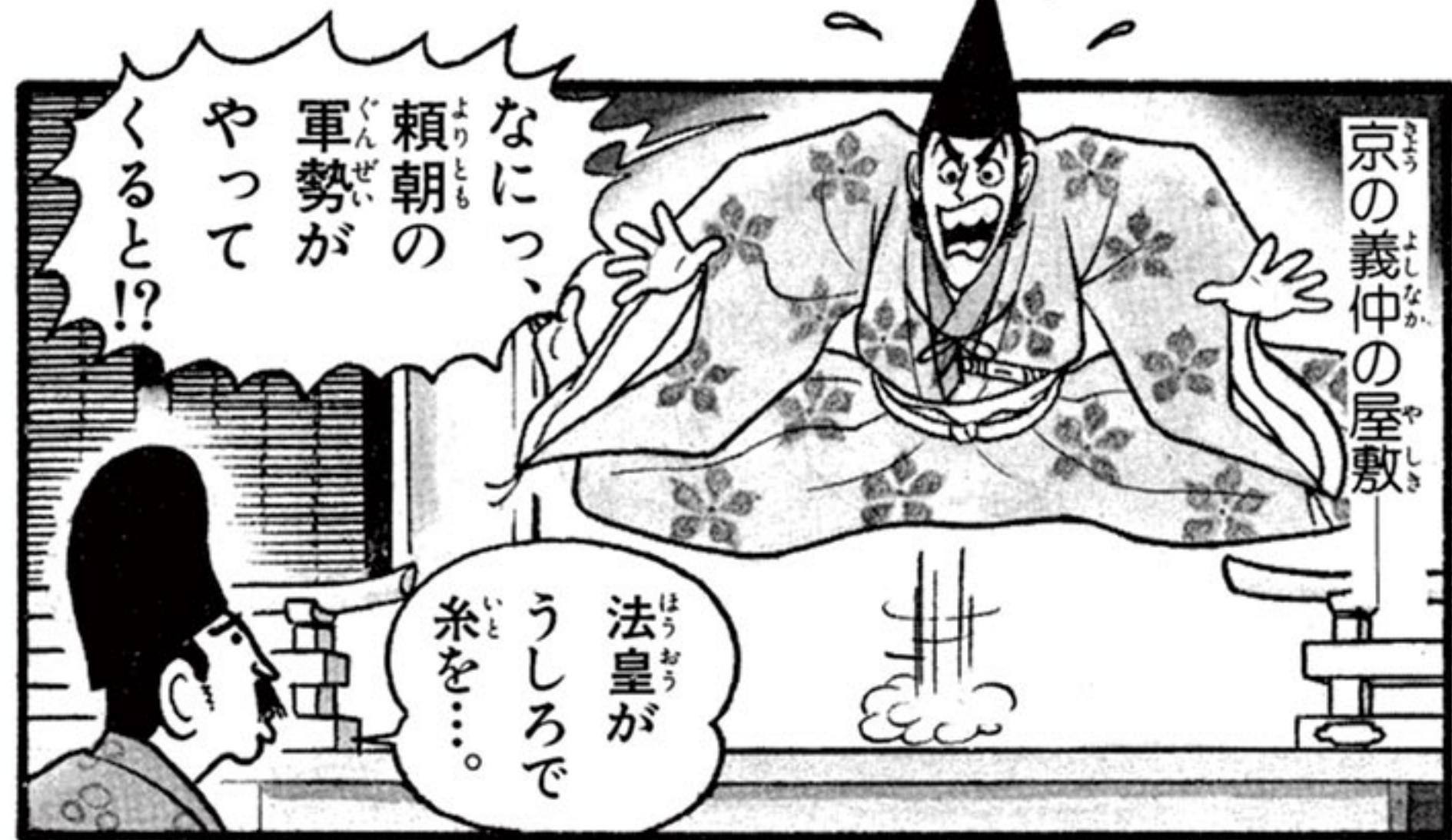


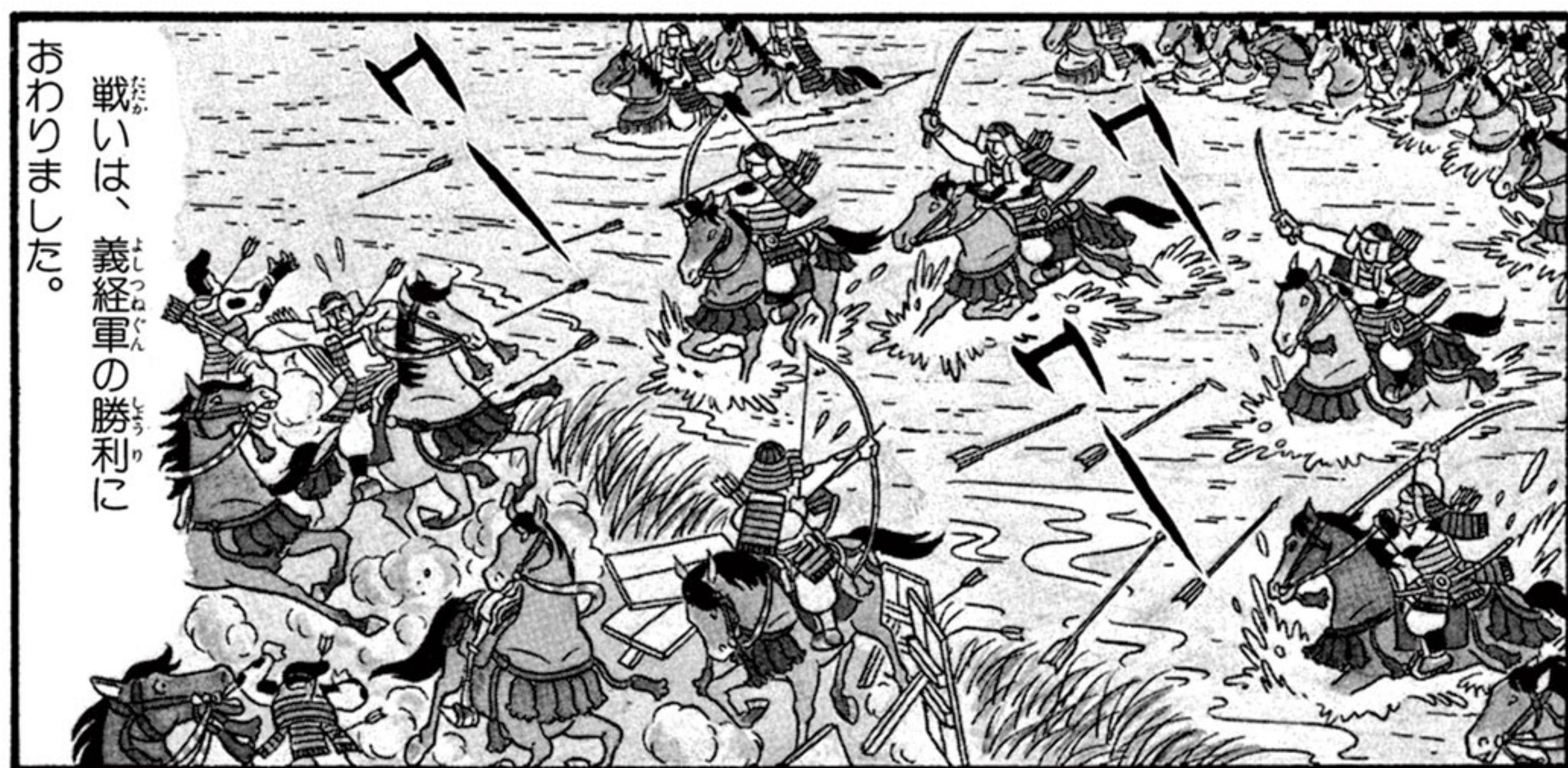
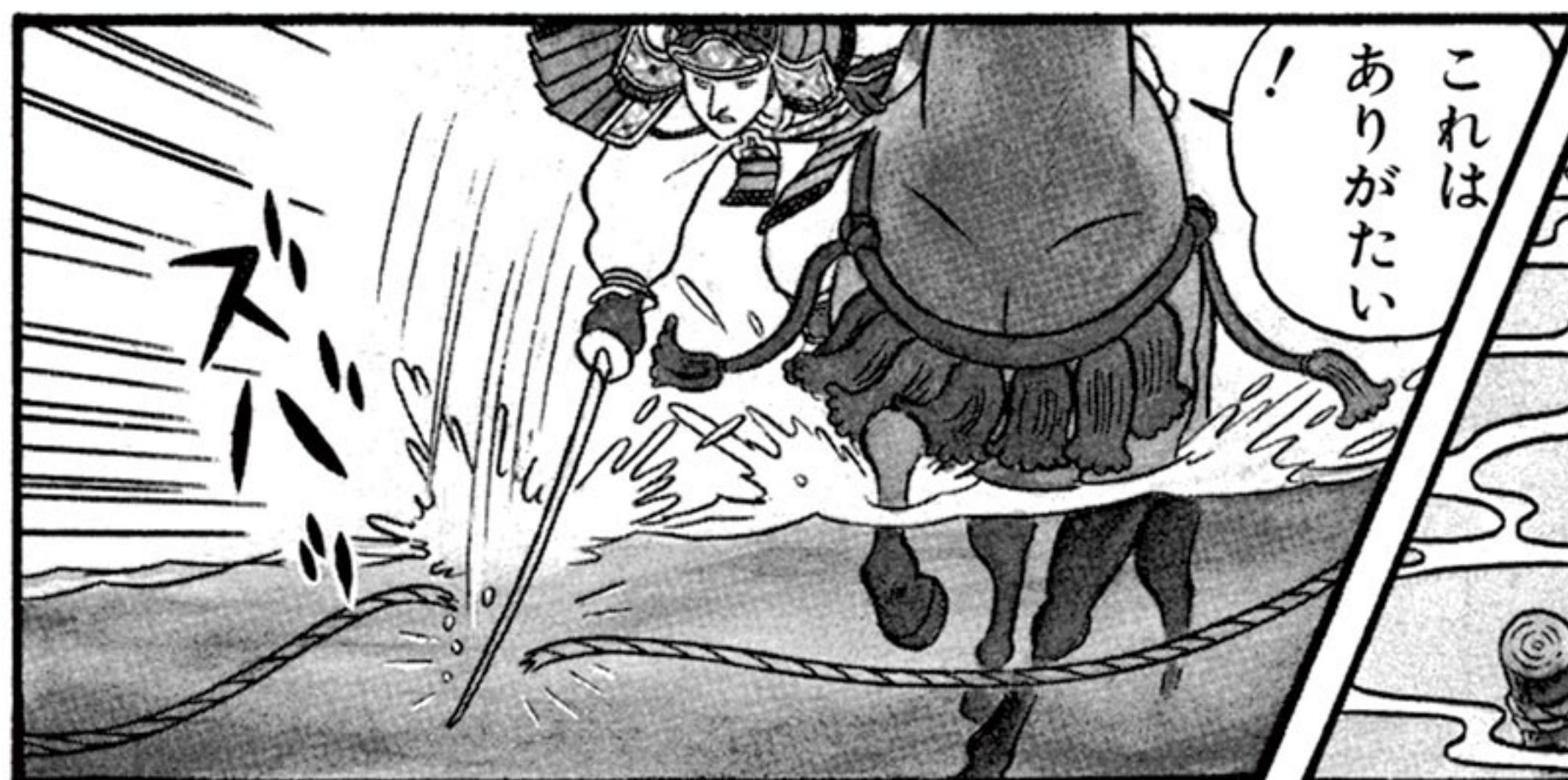
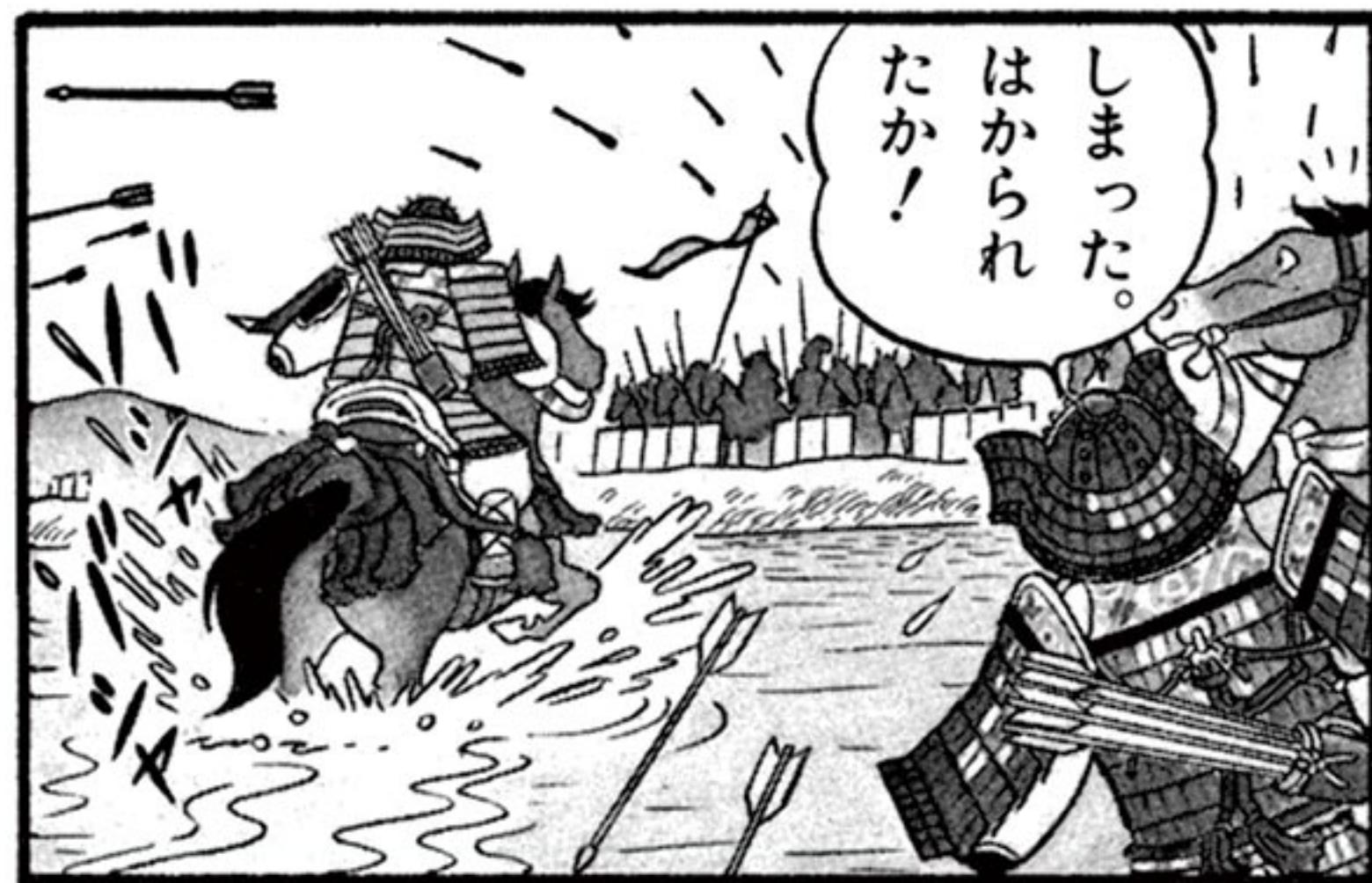
*二種の神器：代だい天皇家につたえられた鏡・剣・曲玉の三つの宝。

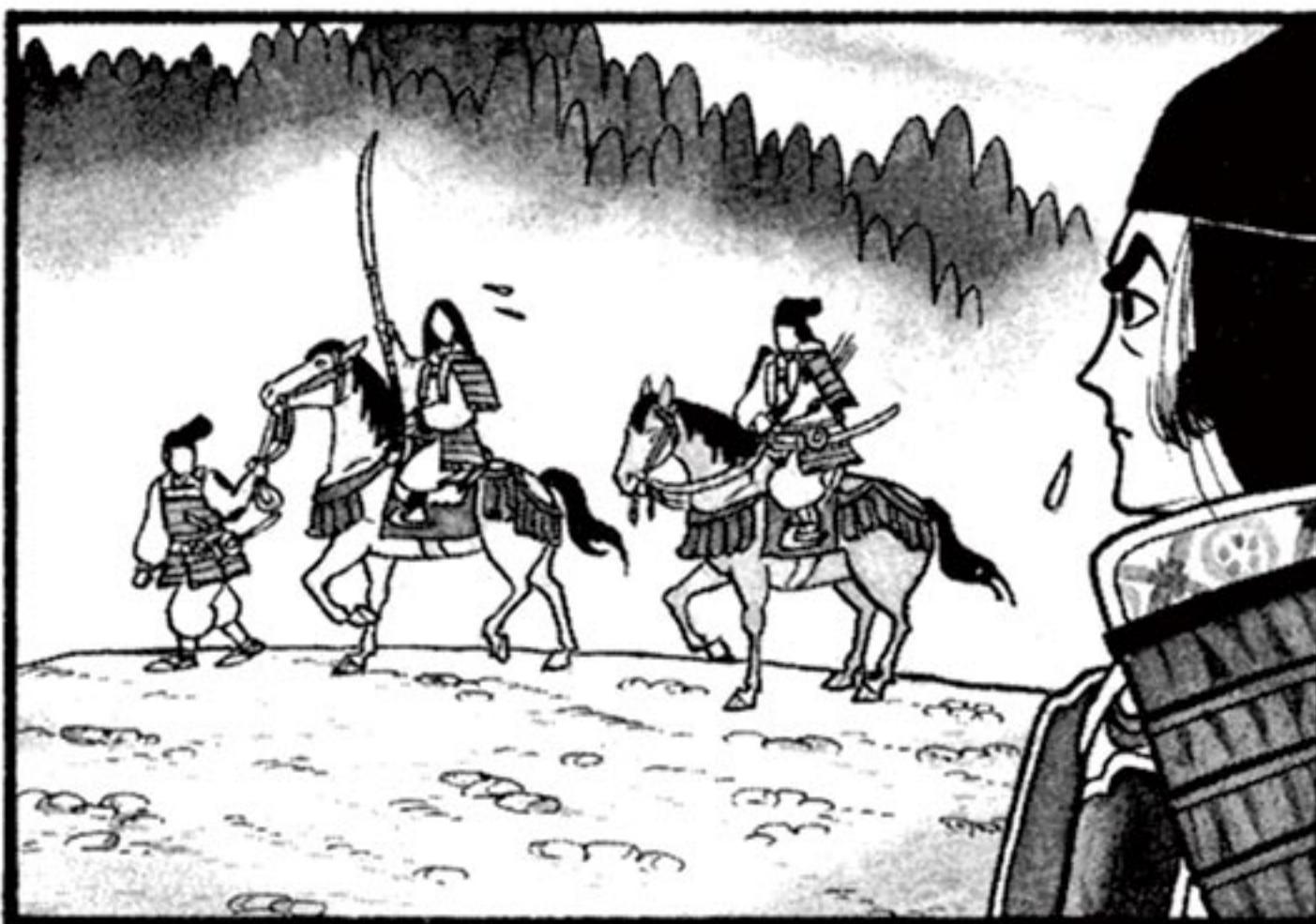
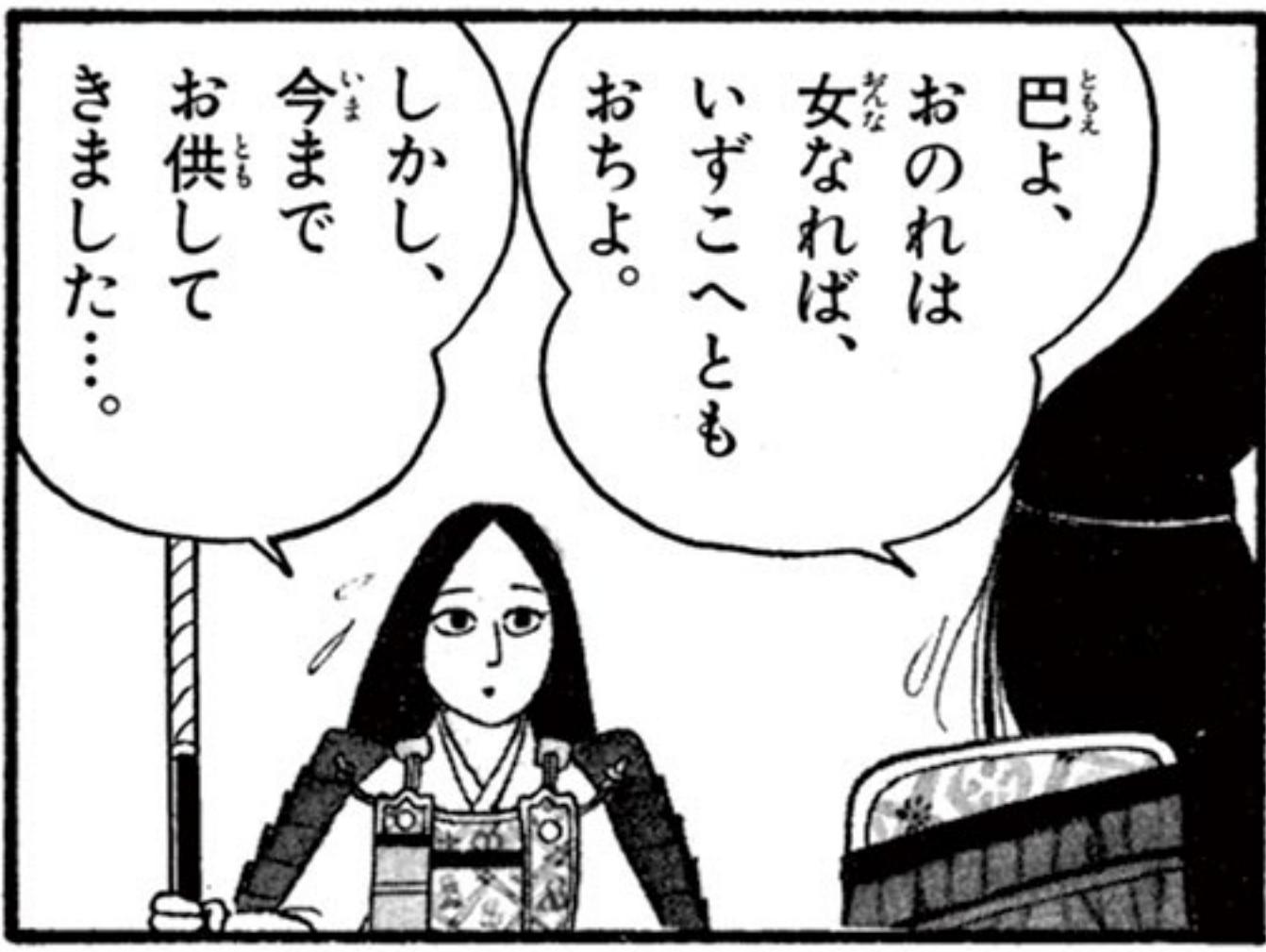




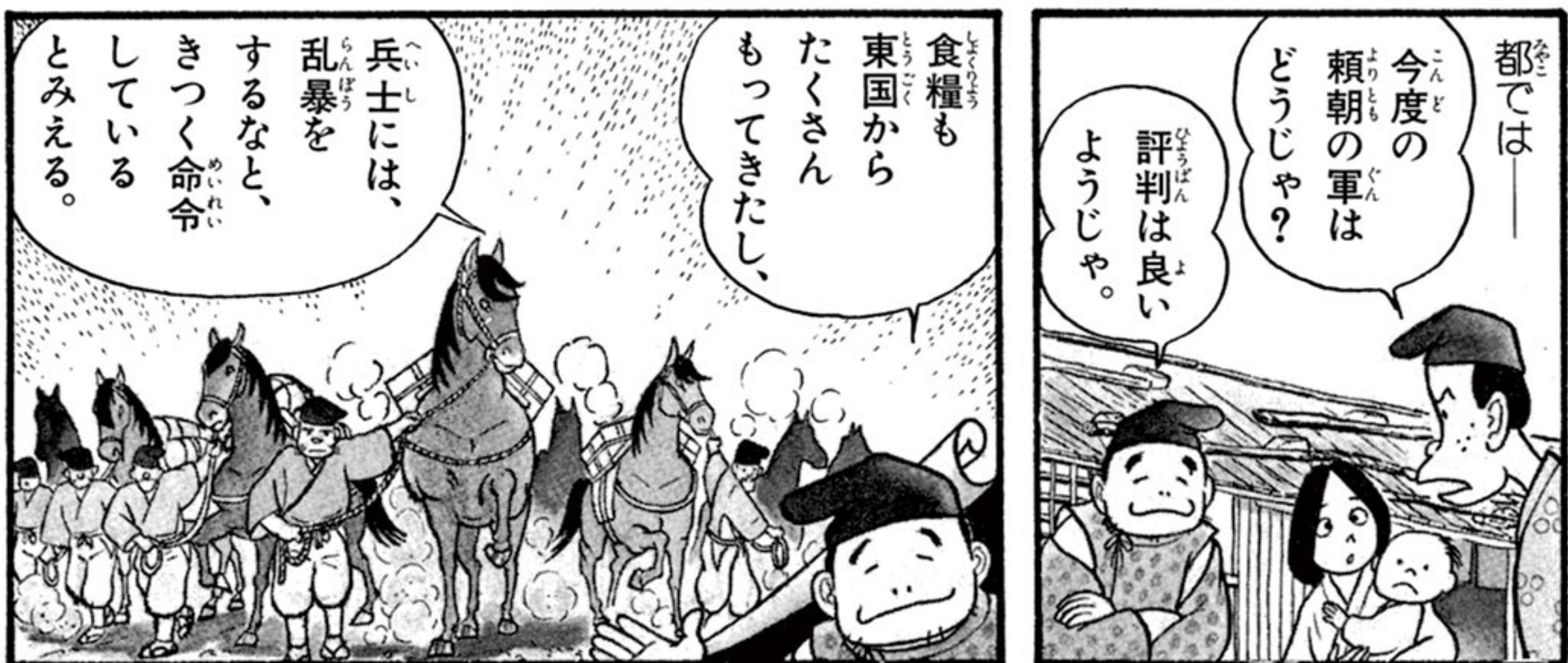


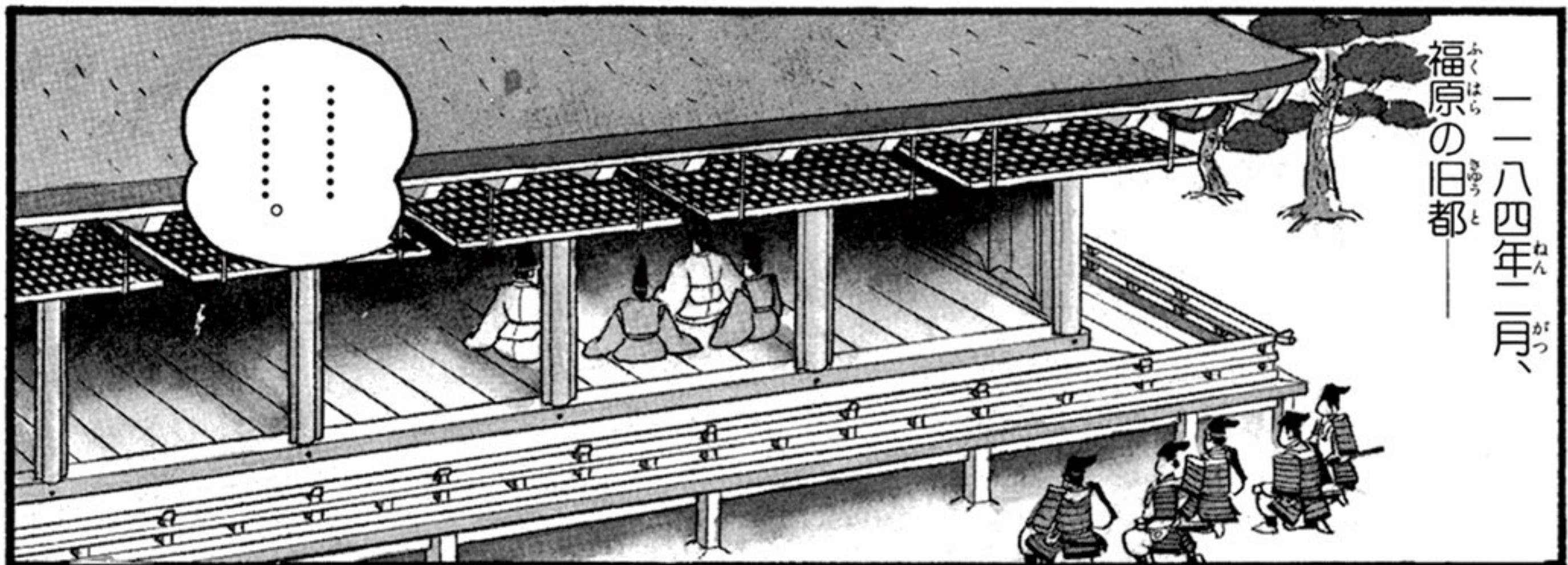






*粟津：滋賀県大津市

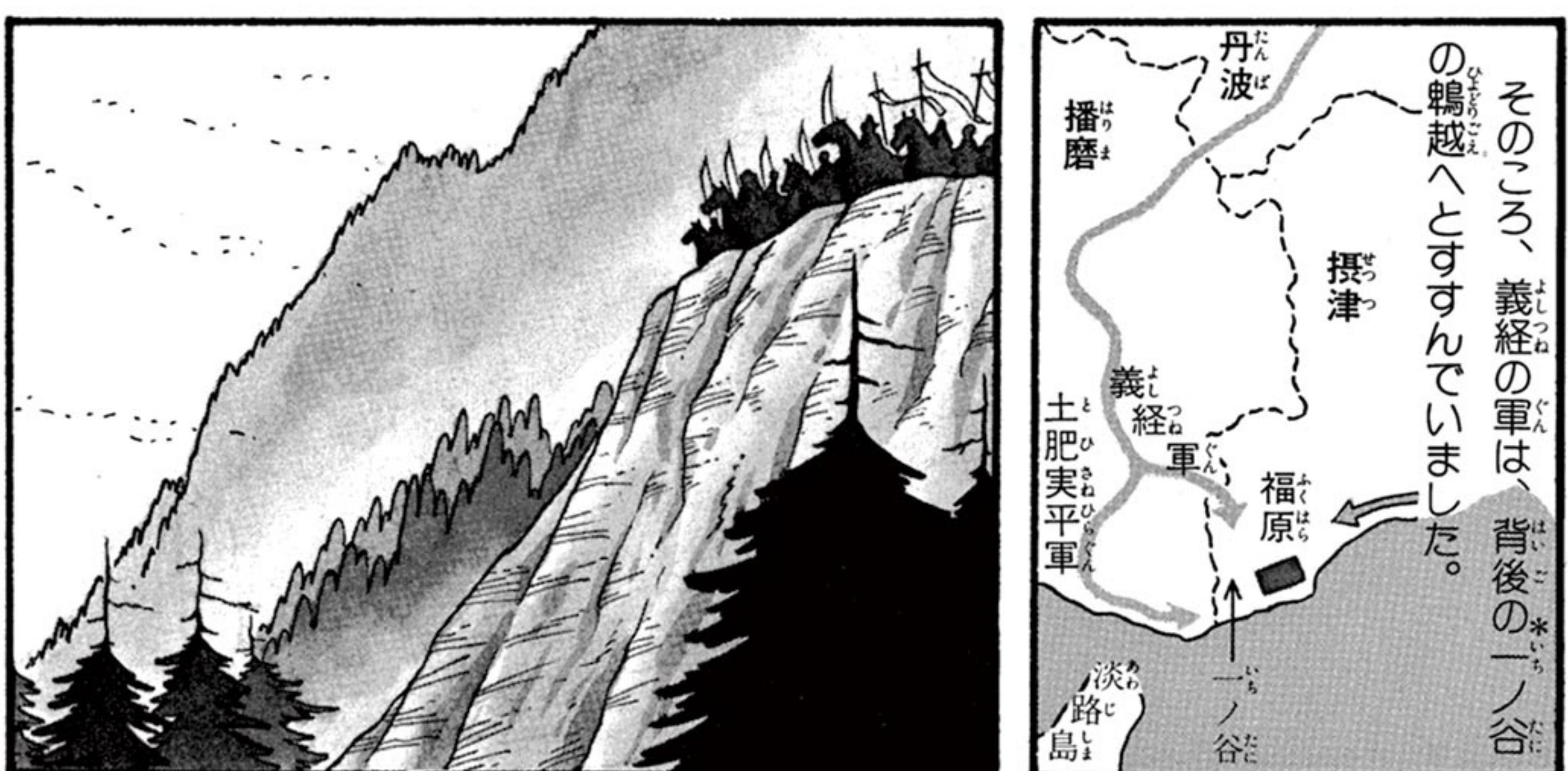


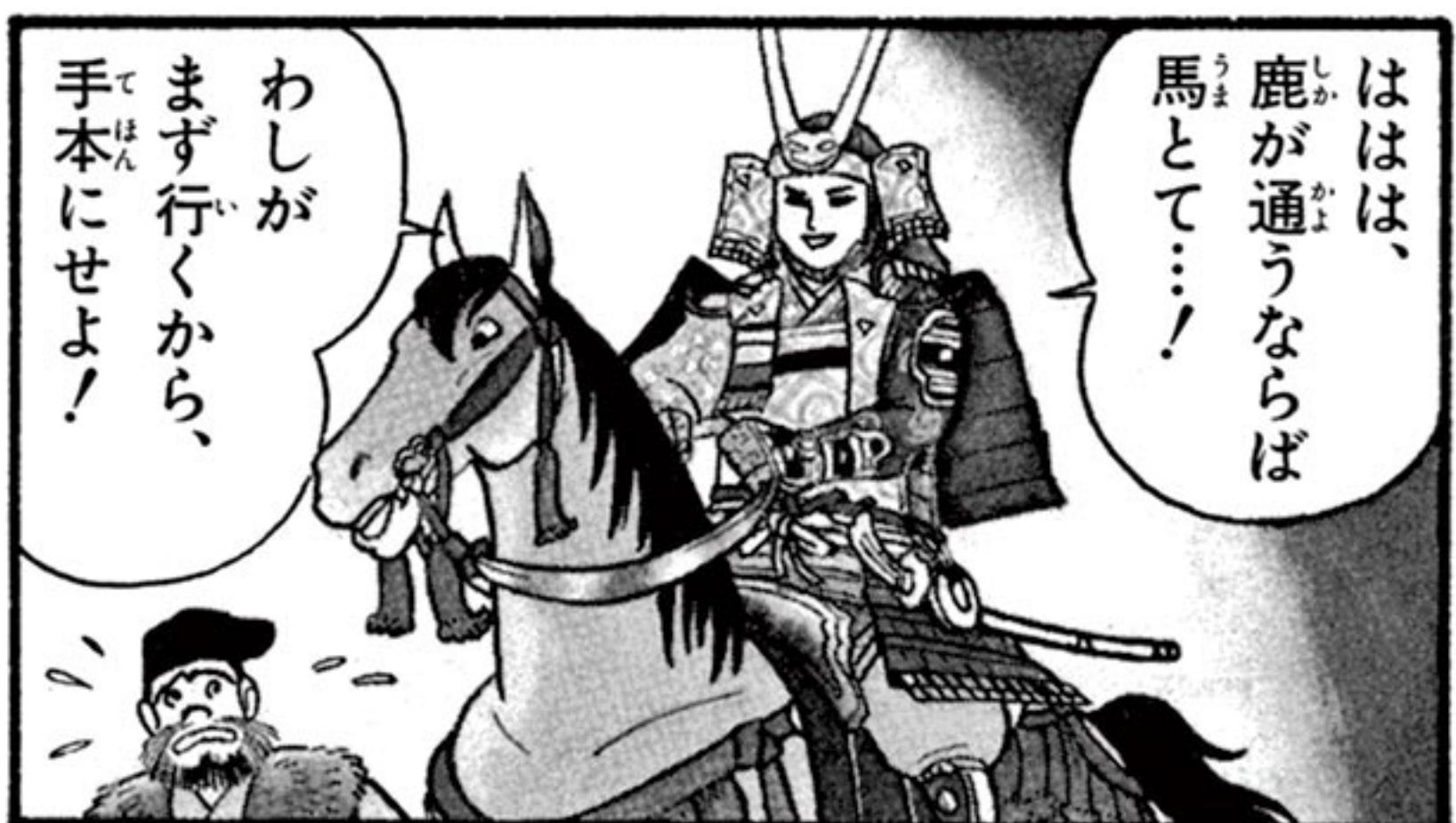


一度は西国におちた
われらも、もう都のすぐ近くまでまいりました。



頼朝の首を、という父のことばであつたが……





わっ！
だつ！
源氏の軍勢

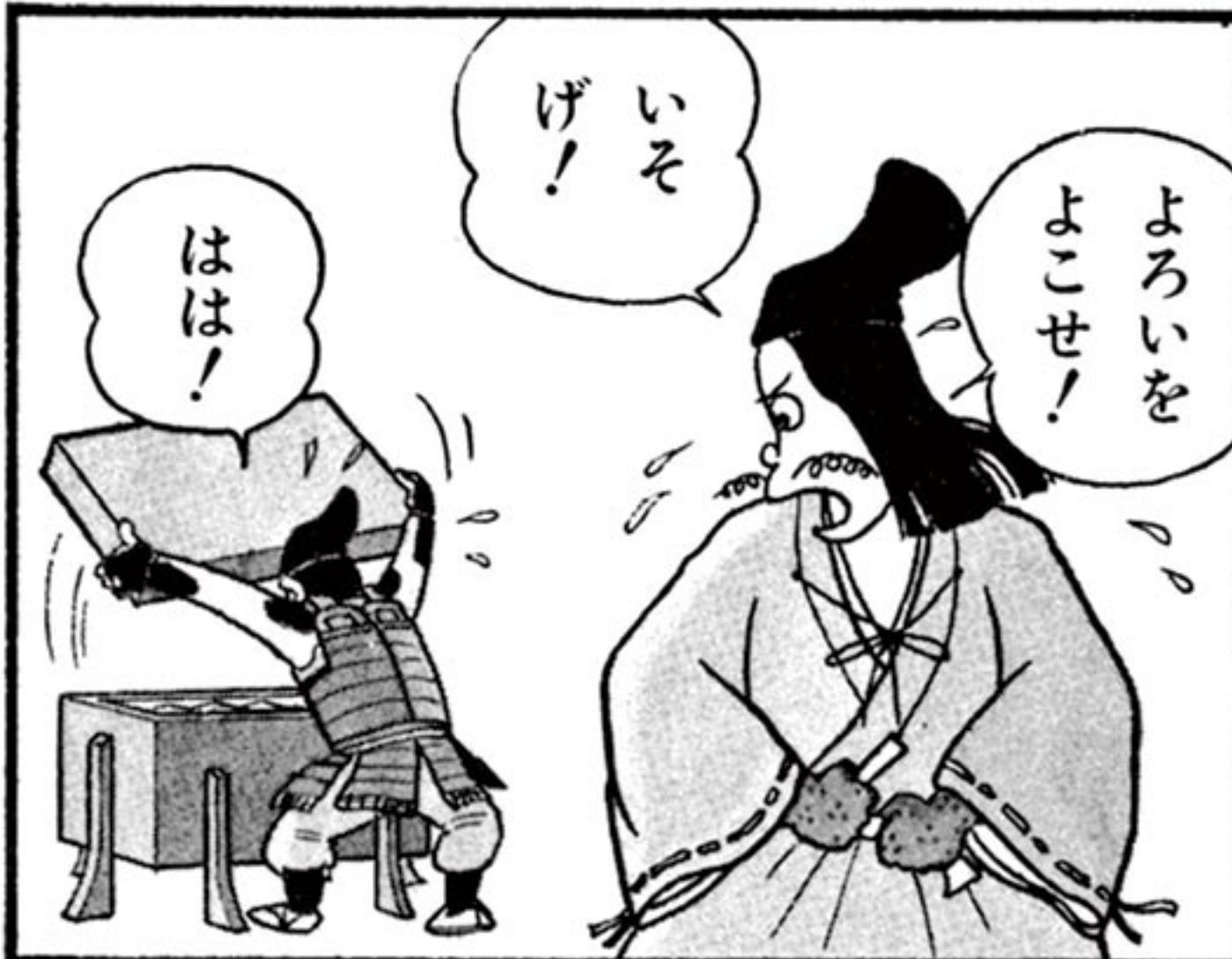


* よろい直垂…よろいや腹巻の下に着た服。

下に着た服。

* はばき…足のすねにまきつけて保護する布製のもの。

* 脇楯…大よろいの脇の右脇にあててふさぐもの。

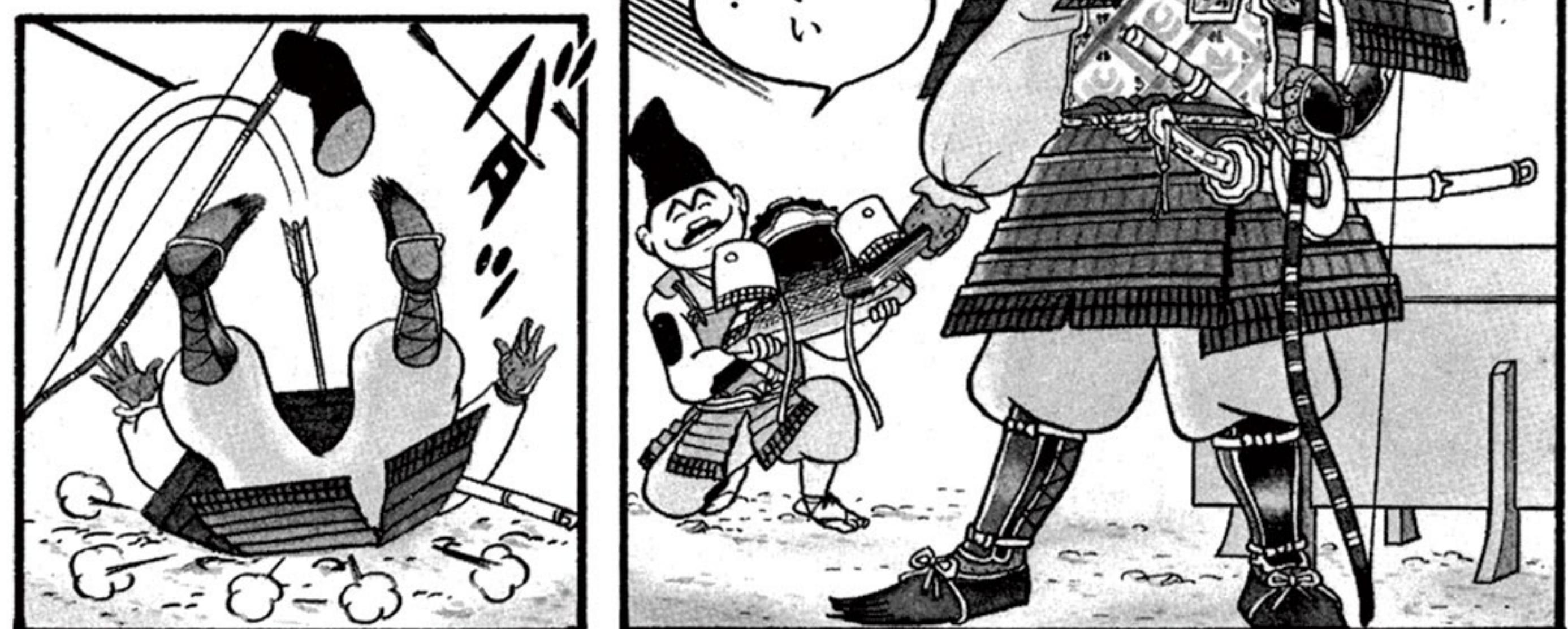
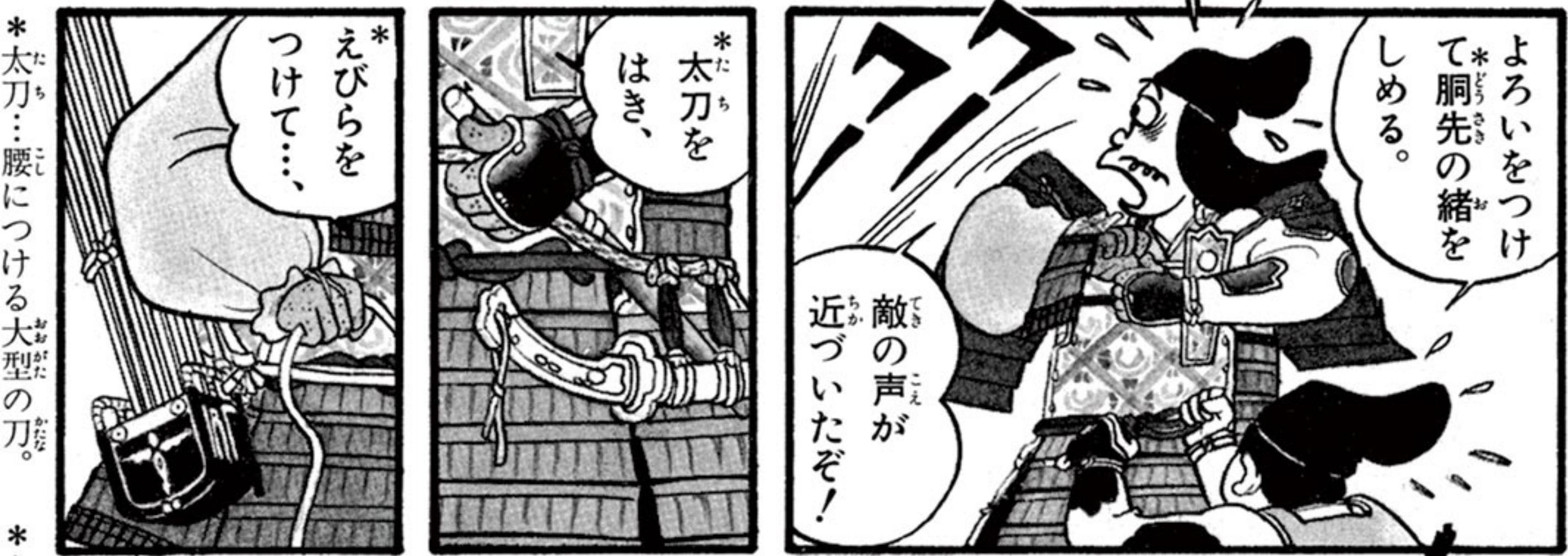


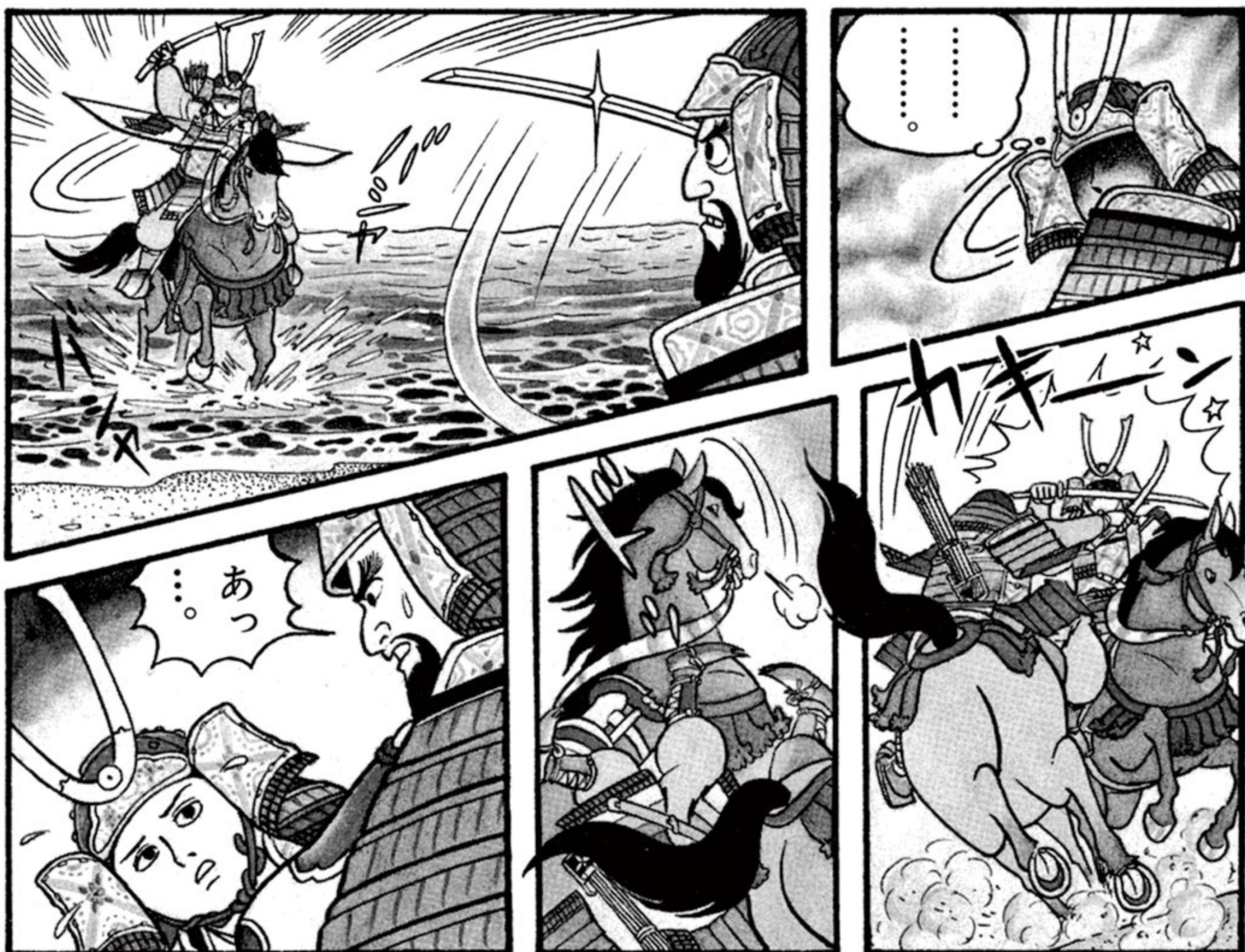
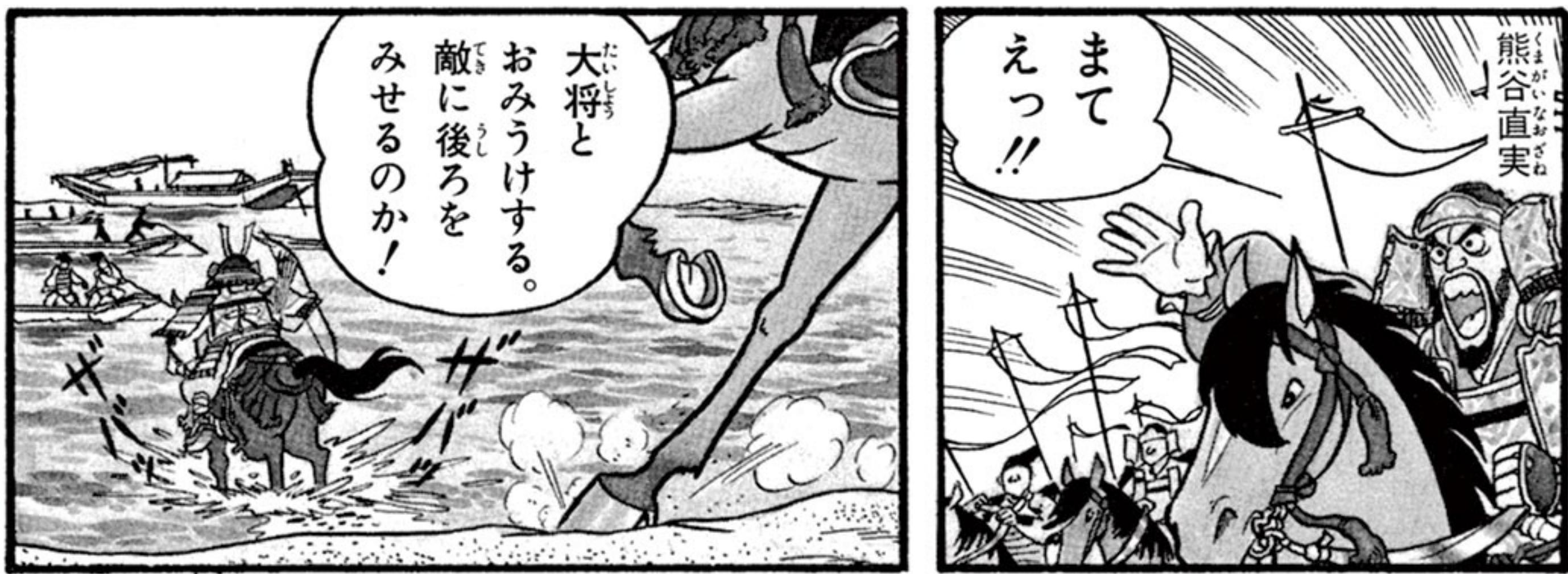
* 亂髪…ふりみだした髪。

* えぼし…黒ぬりのぼうし。

* 弓掛…弓を射るとき、手の指をきずつけぬために用いる皮の手袋。

* 胴先の緒…よろいの胴をしめるひも。





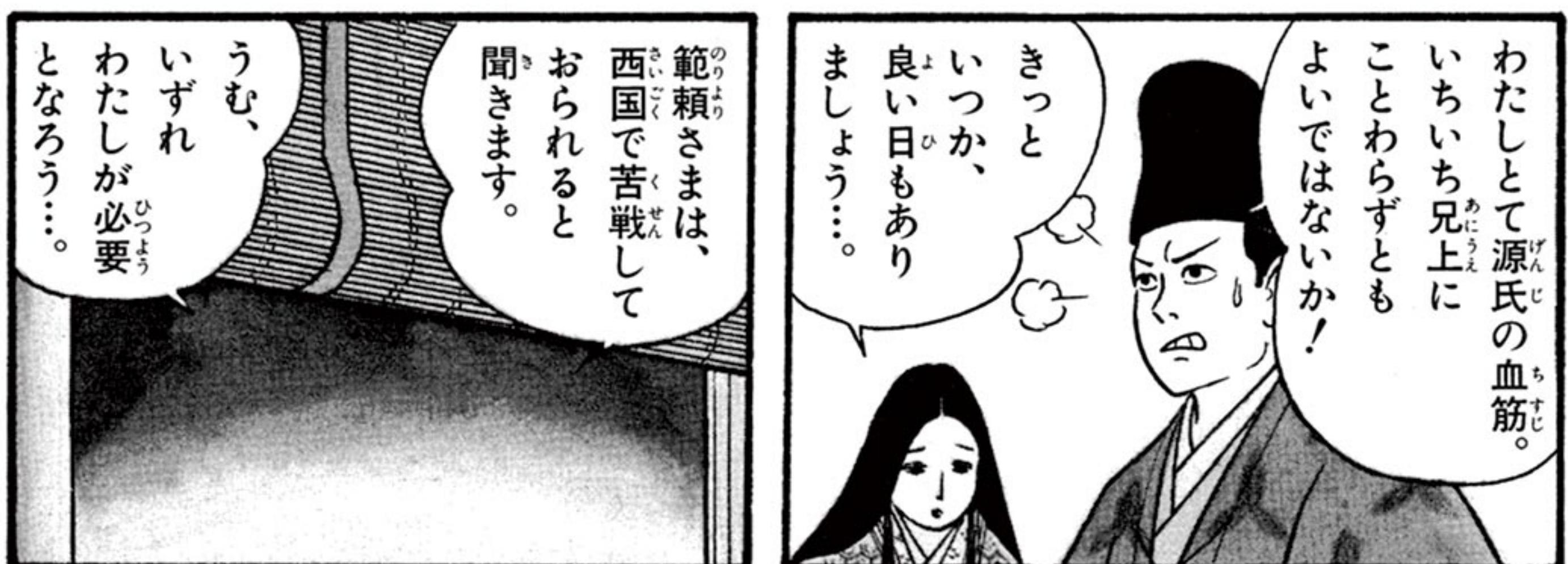
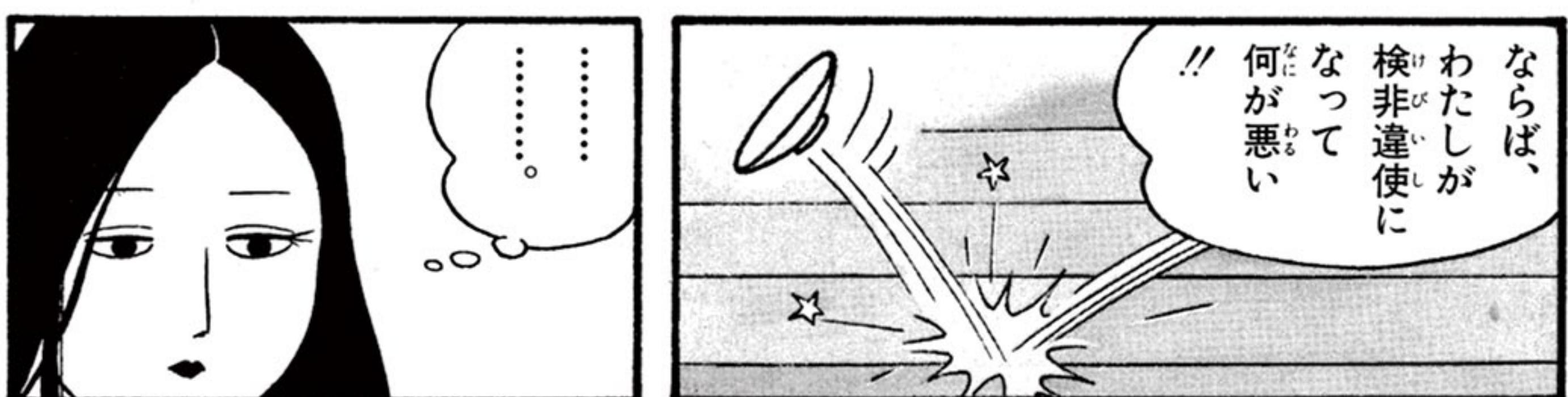
京の義経の屋敷



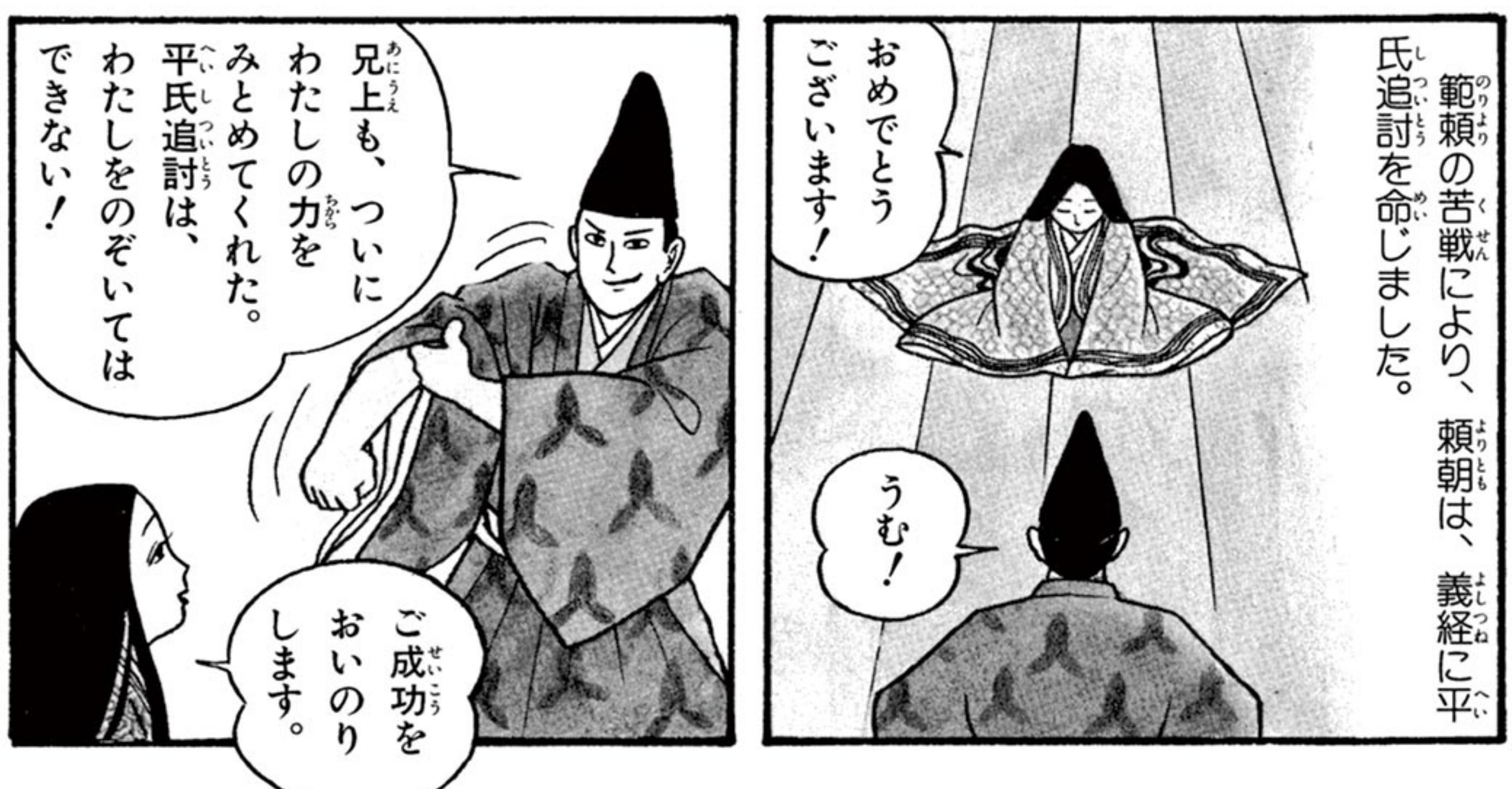
一ノ谷の合戦
は、そのてがら
をみとめなかつ
たばかりか、頼朝
がかつてに検け 義
非違使になつた
ことをいかり、
平氏追討軍から
はずしました。



*三河守：三河国（愛知県の東部）の国府の長官。



そのころ、平氏追討の指揮をとる範頼の陣では――



* 摂津国渡部

一一八五年二月十七日未明、



* 摂津国渡部

：大阪府大阪市

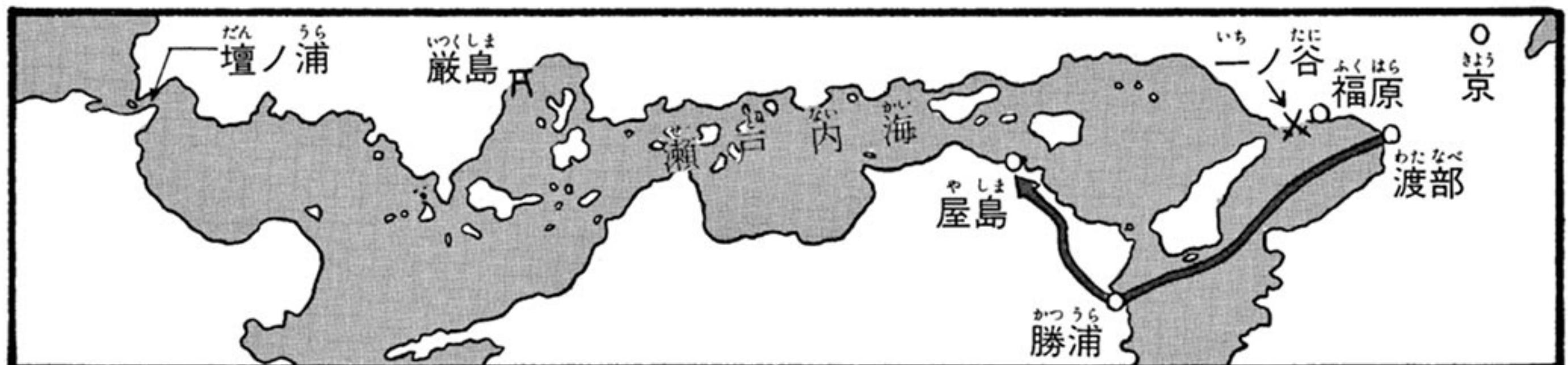
ア波に
わたらう
ぞ！



ついて、
平氏を
油断を
背後から
おそおう。



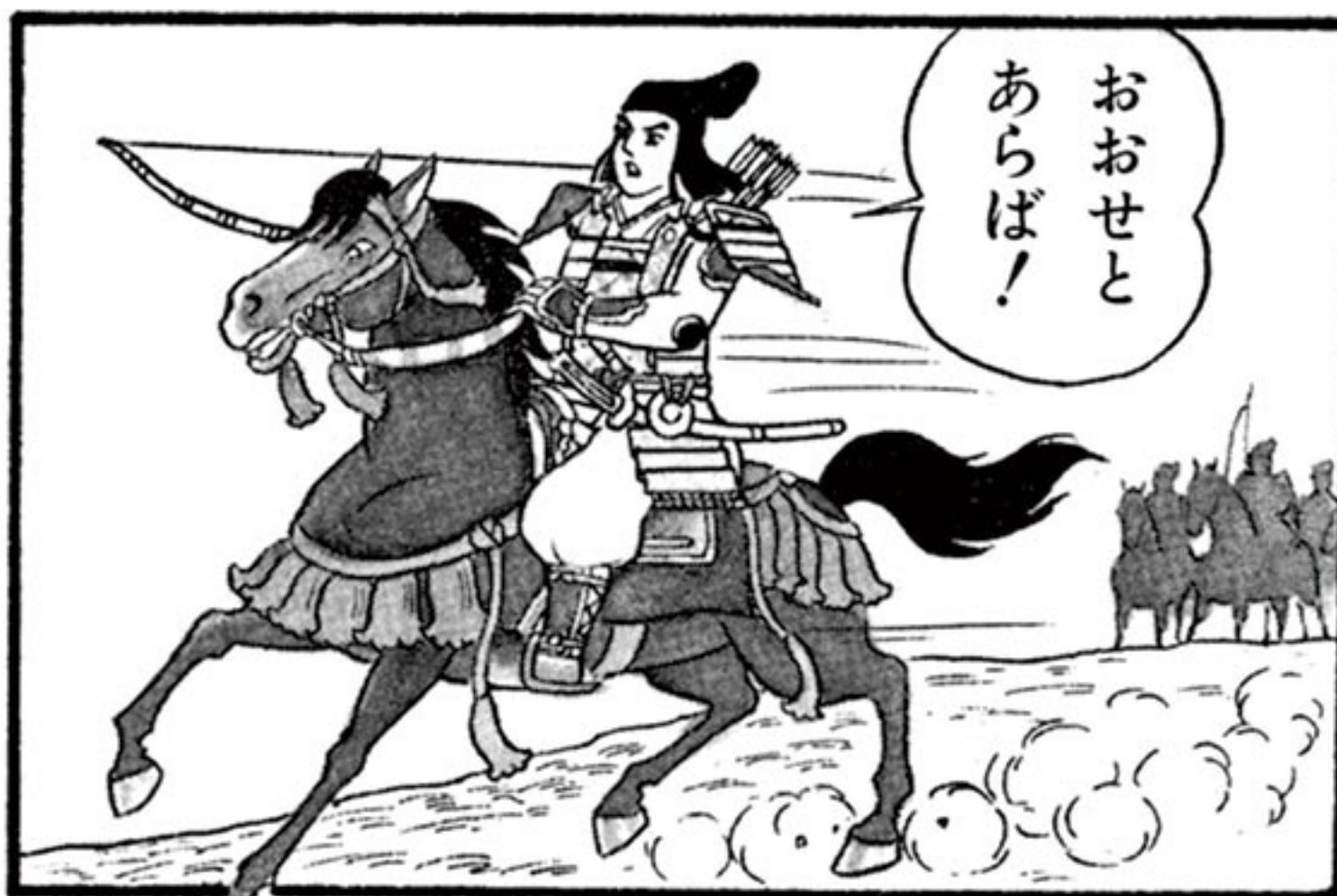
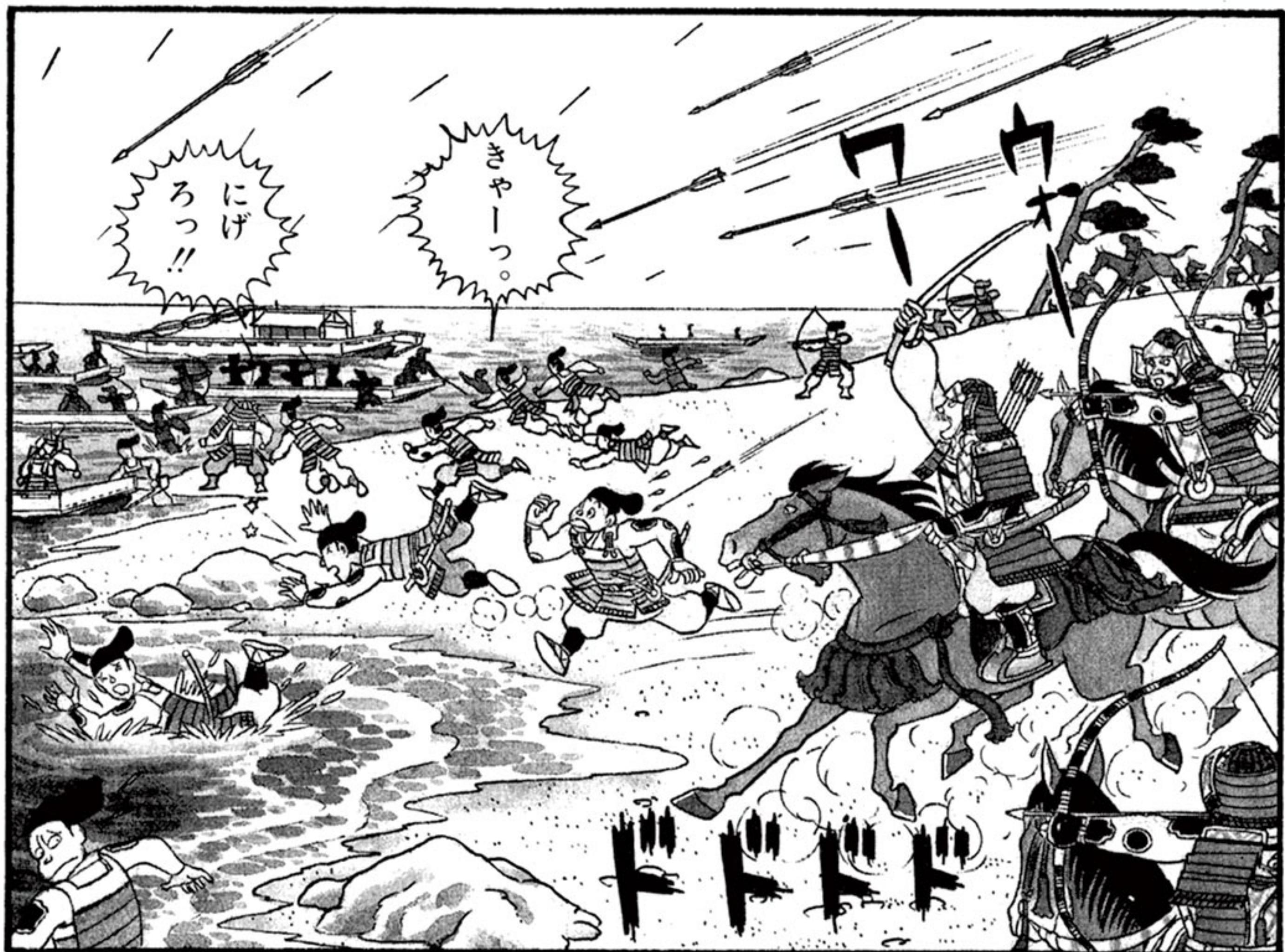
* 阿波：徳島県

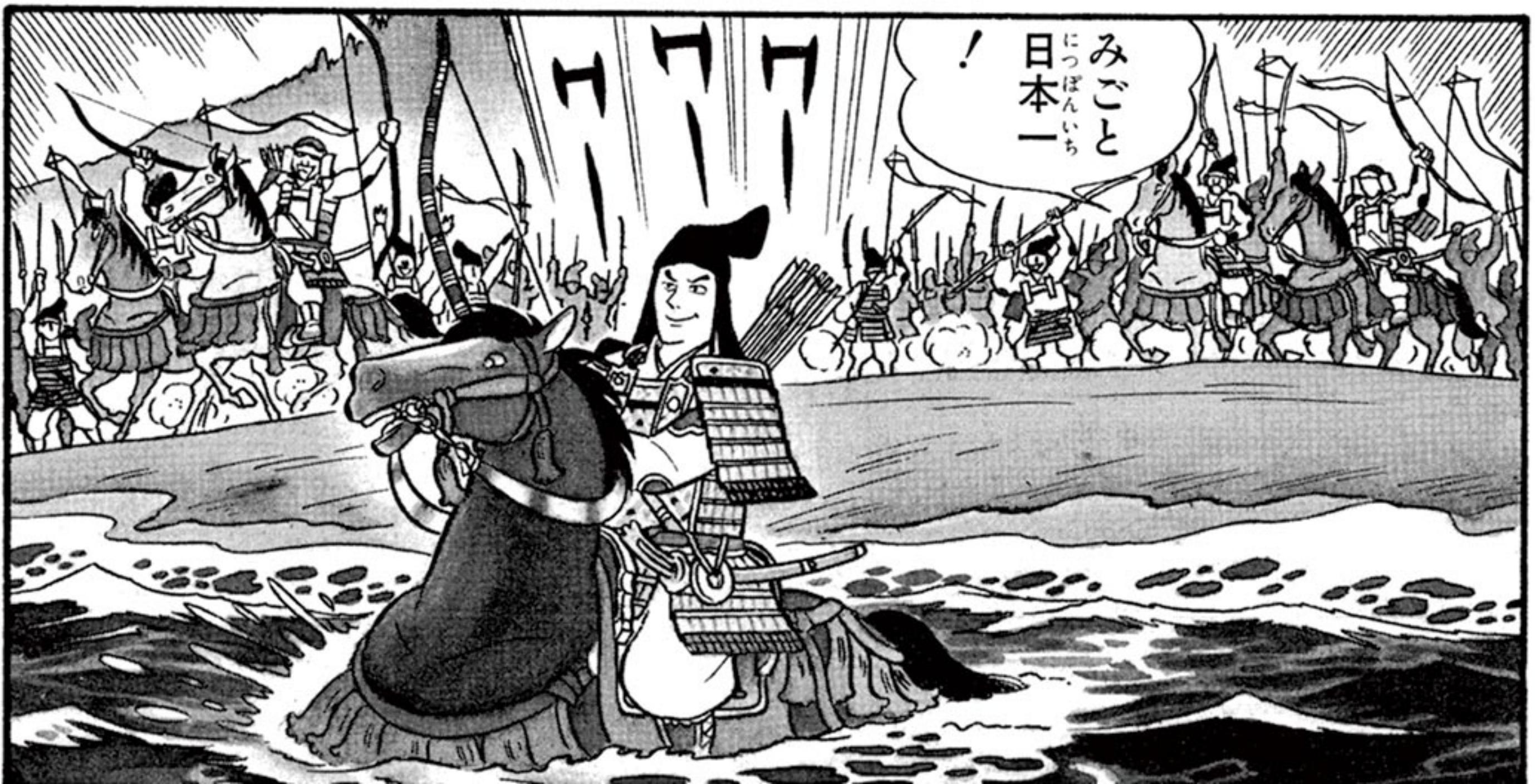
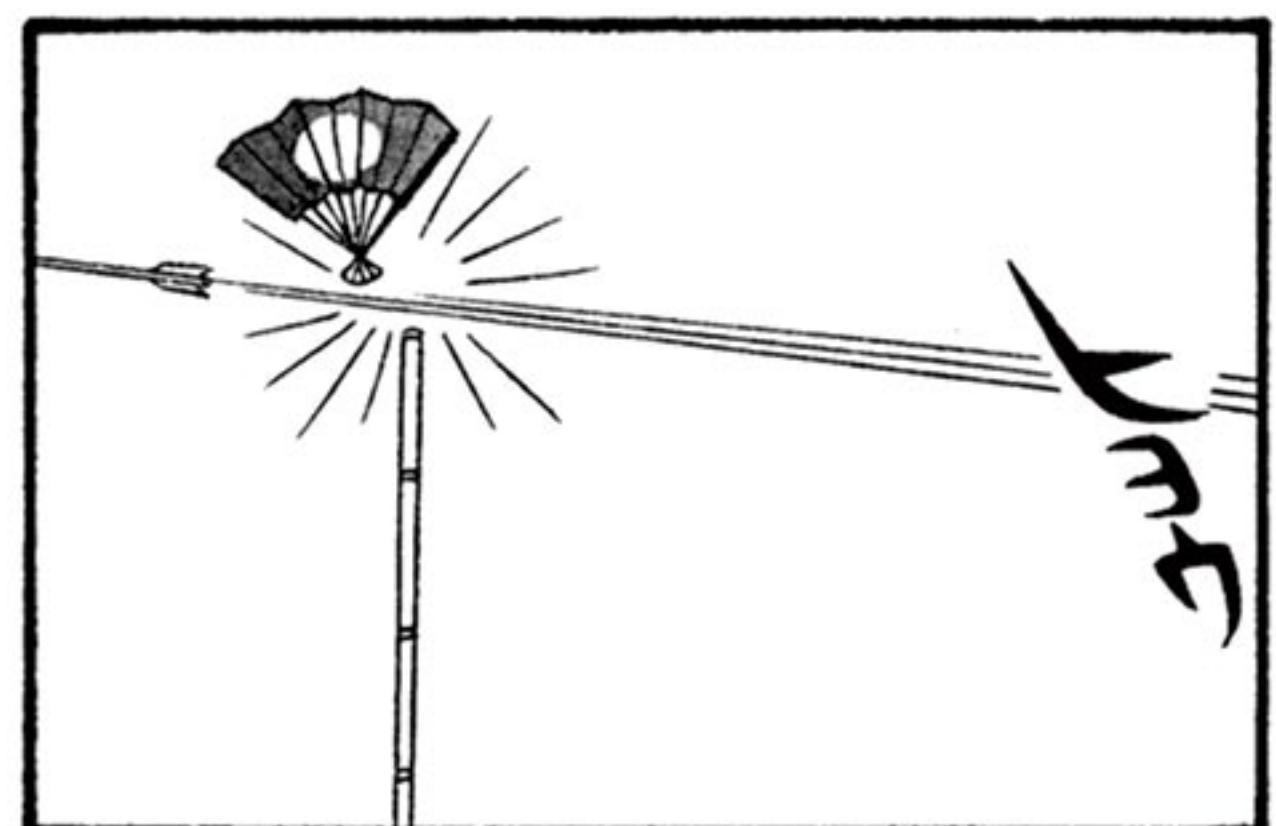
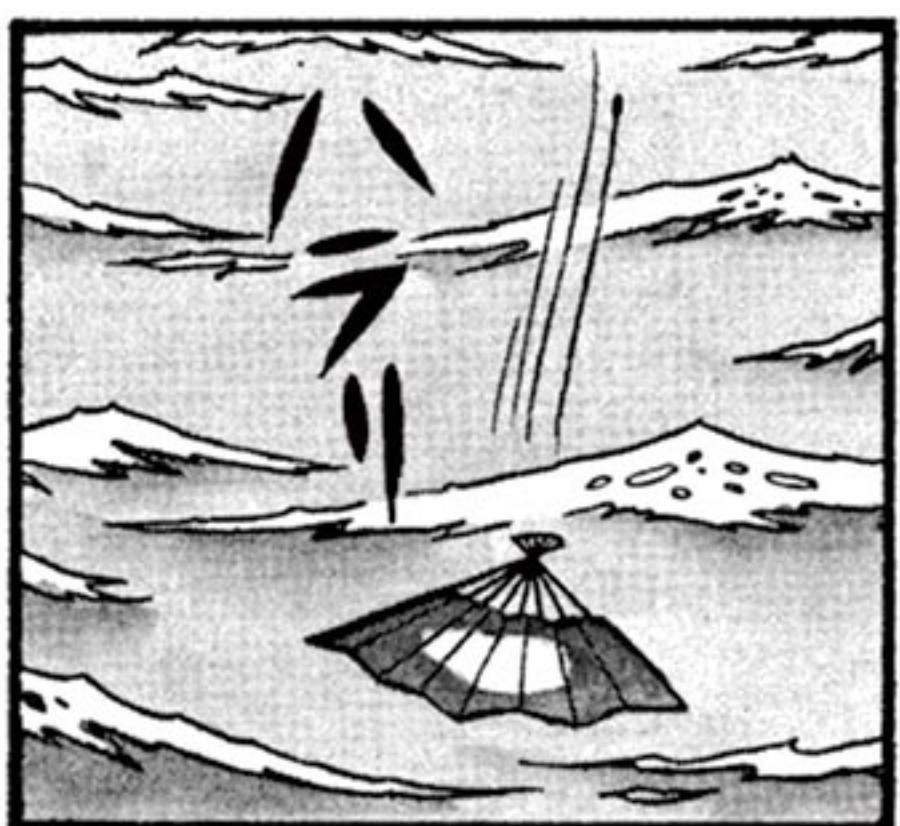
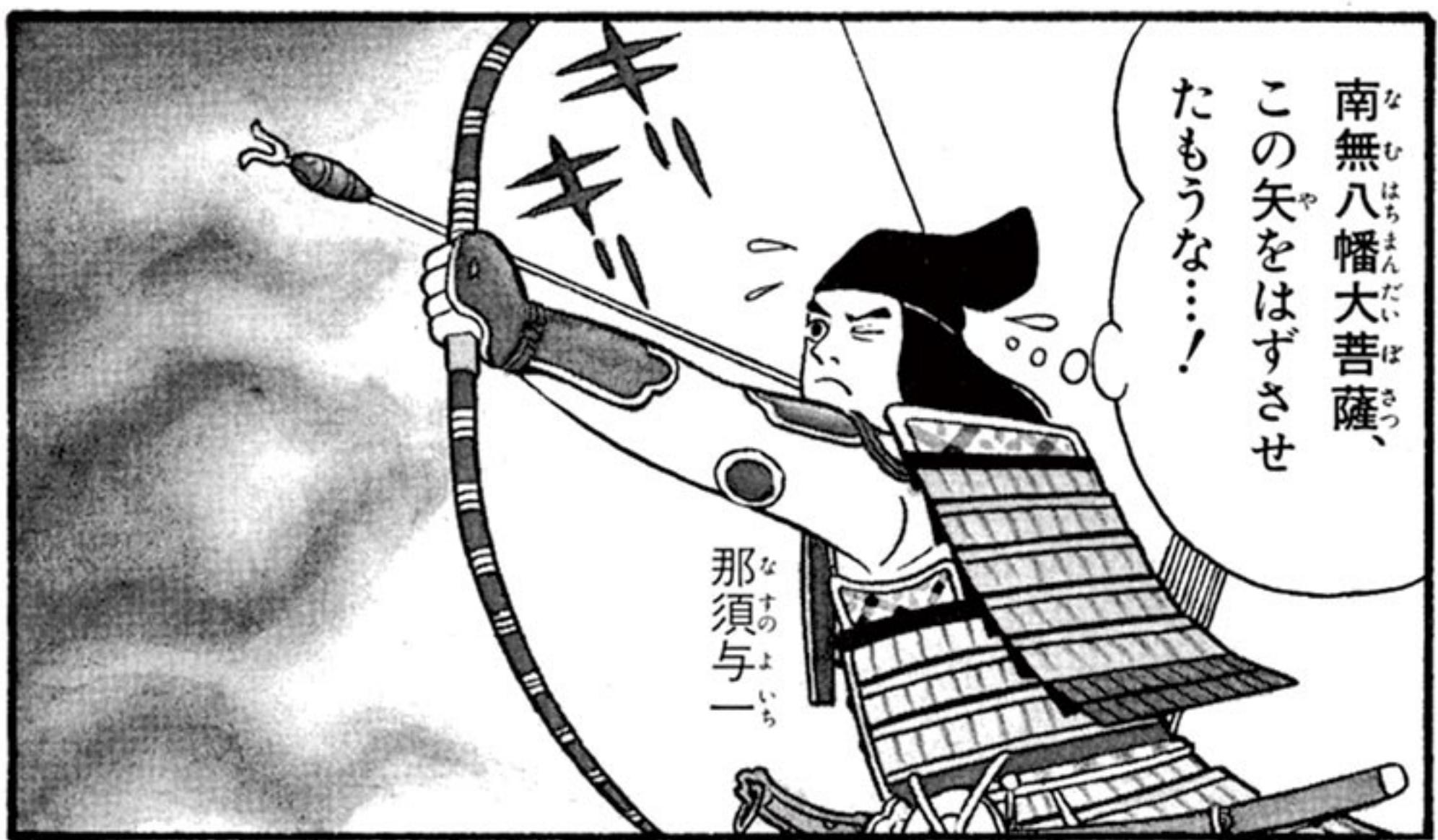


* 讀岐国屋島：香川県高松市

それつ、
油断を
している
すきに
かかれ！

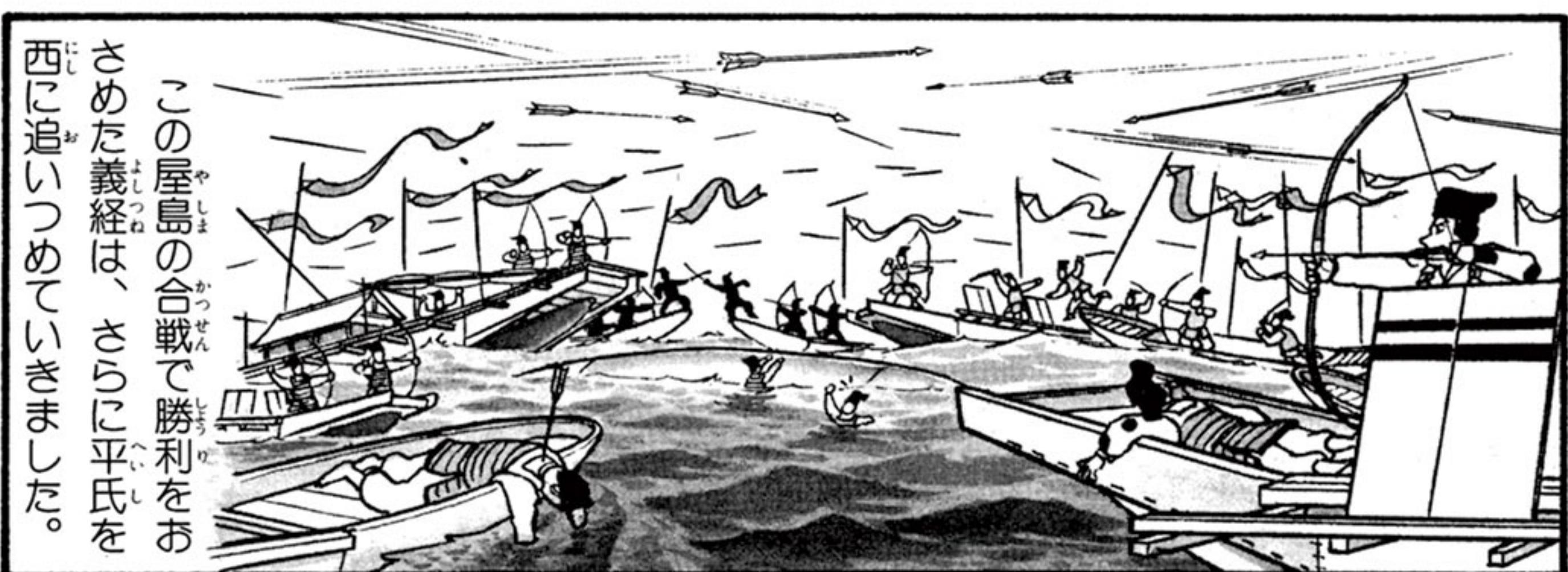




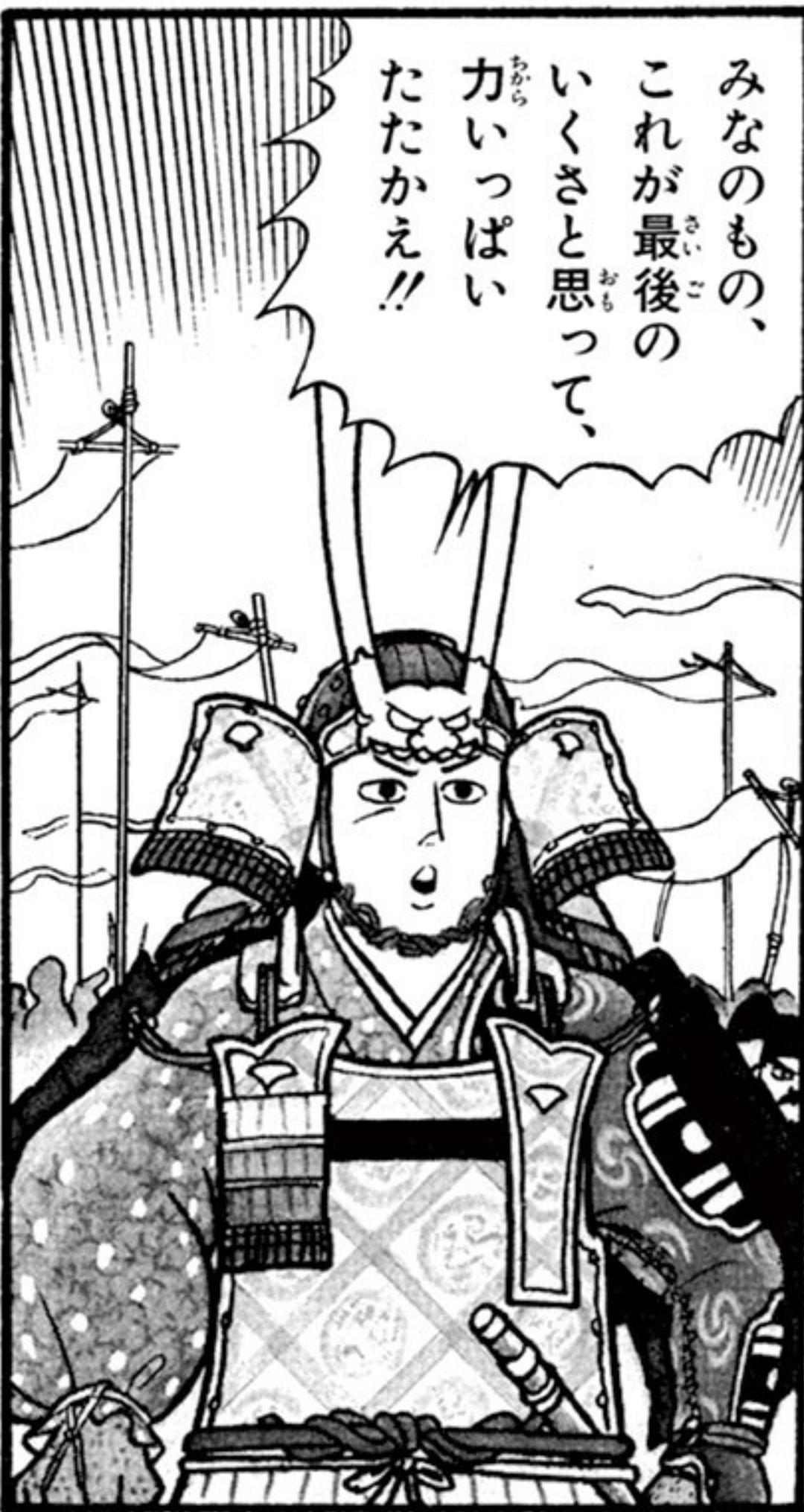


南無八幡大菩薩、

*水軍…水上輸送や海のいくさで活やくした海の武士団。



*壇ノ浦…山口県下関市の沖合。

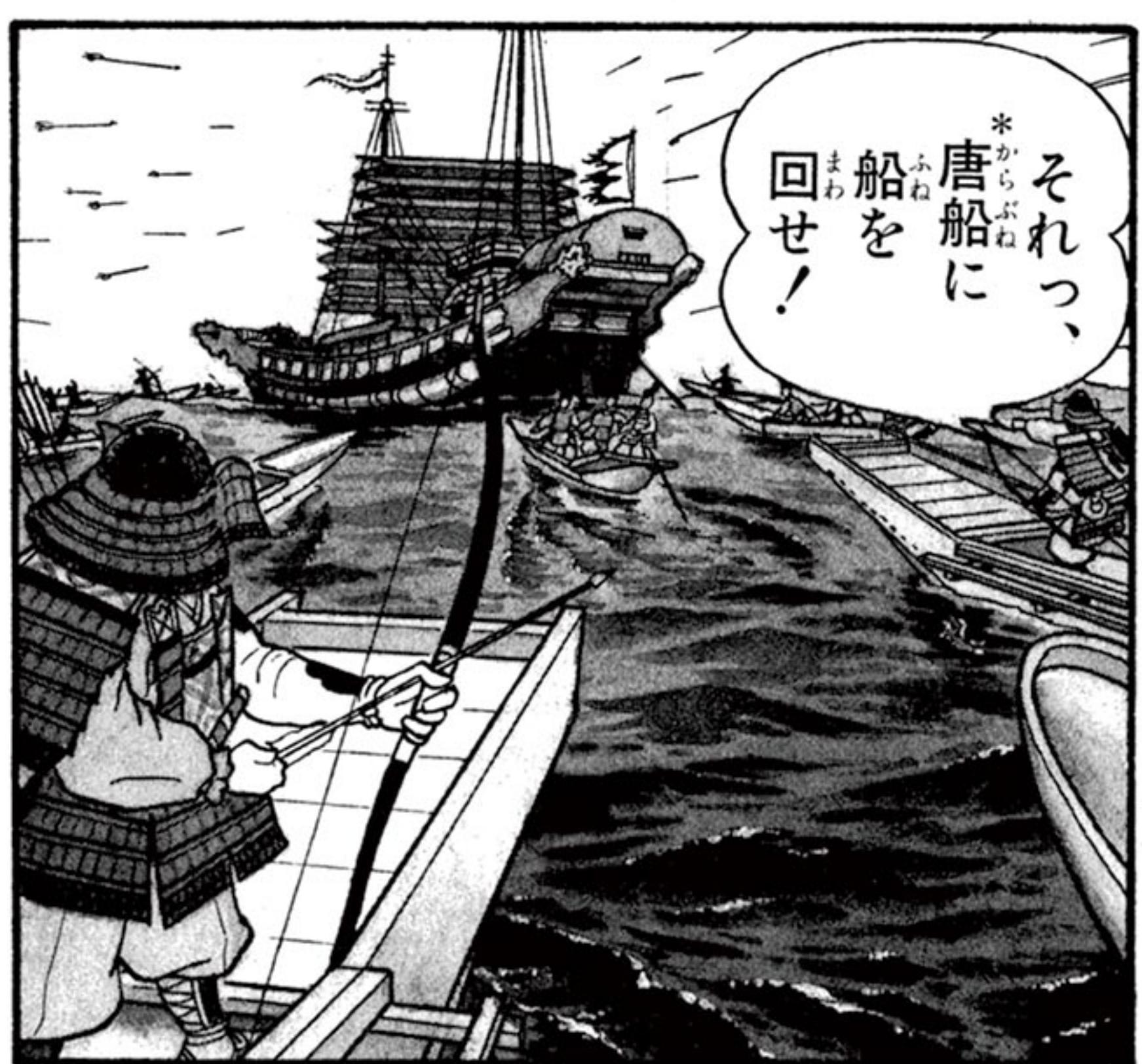
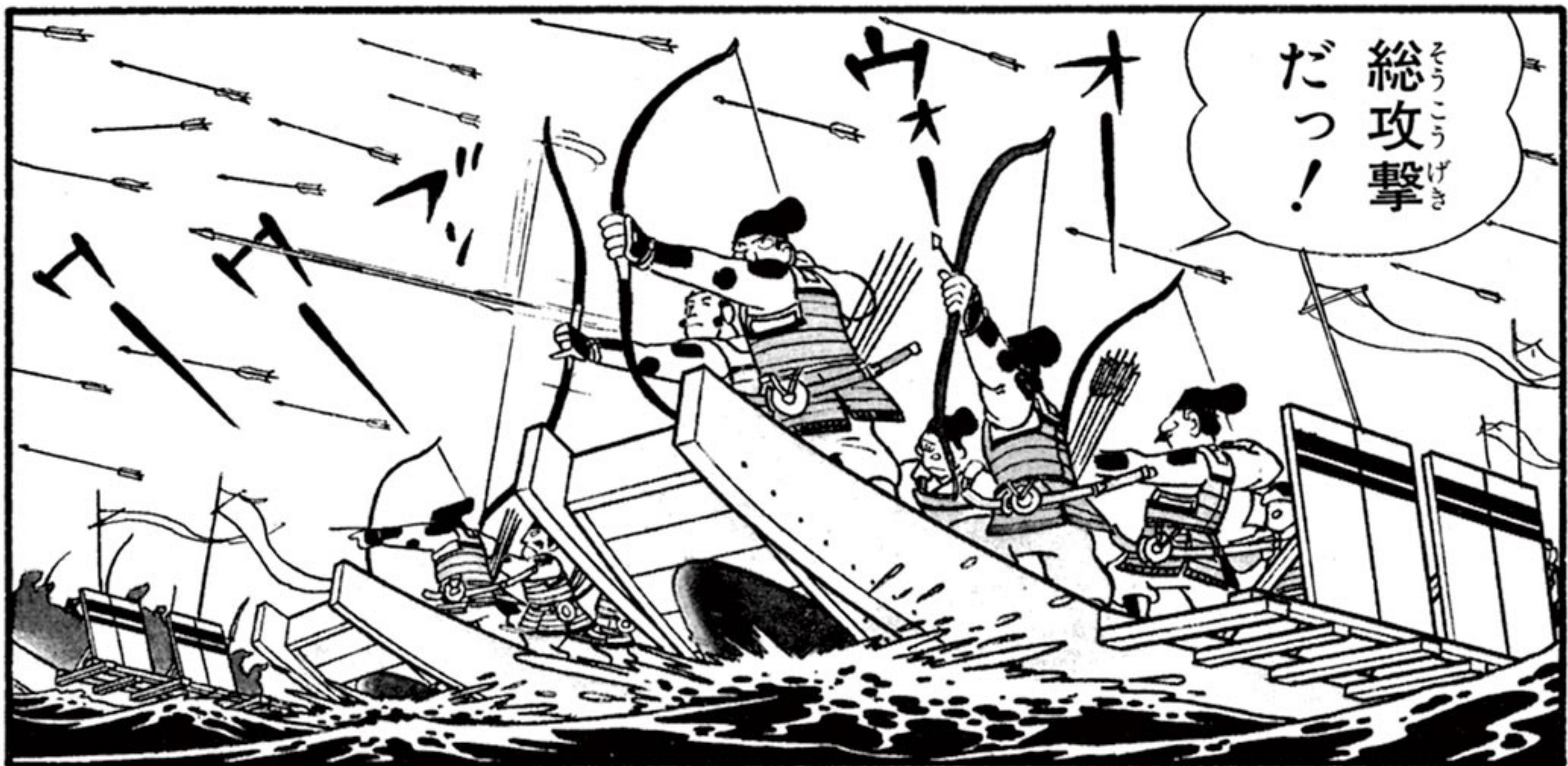


こうして戦いの火ぶたが切つてあとされました。両軍の必死の攻防があつて、なかなが勝敗はつきませんでした。

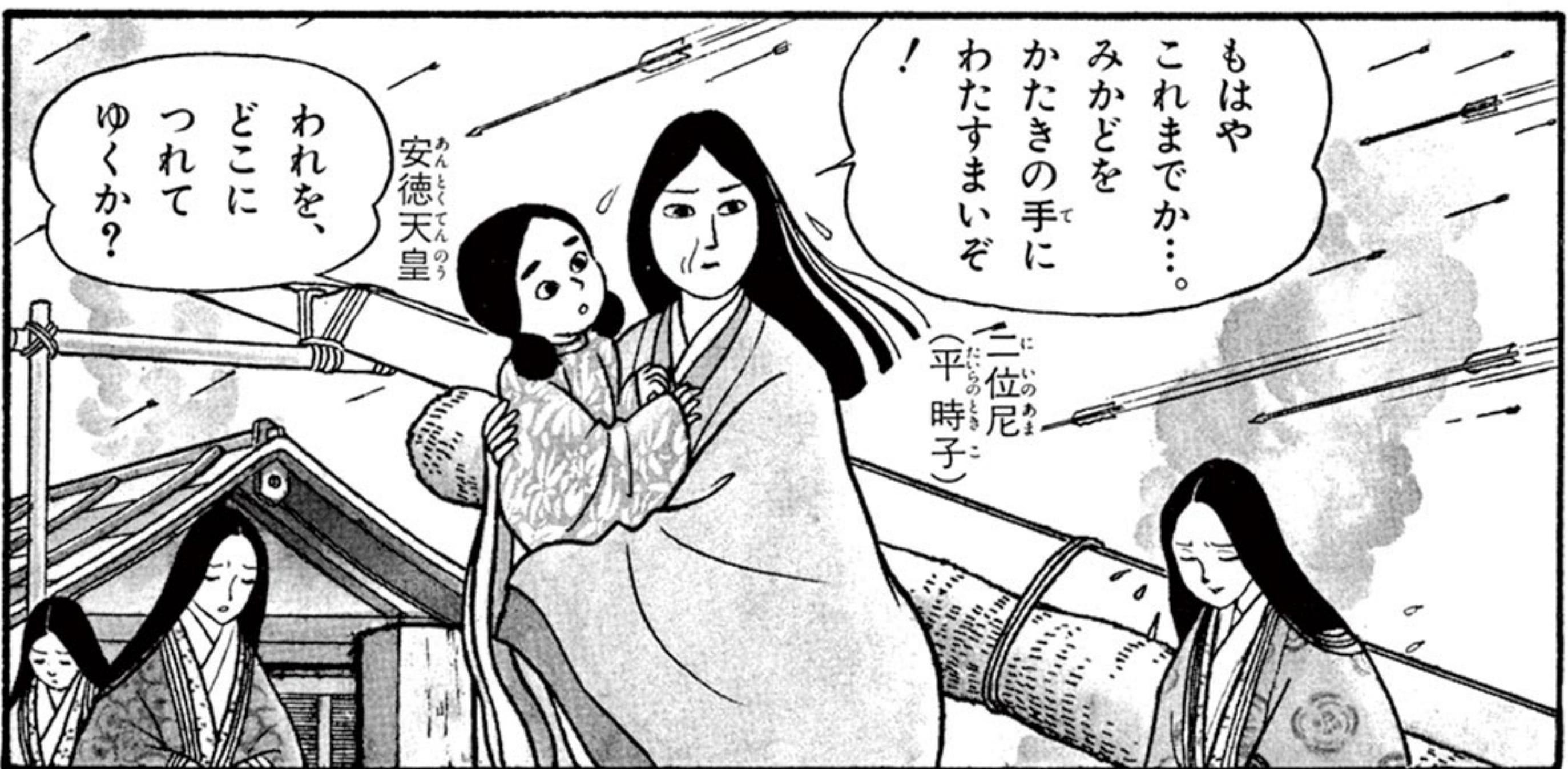
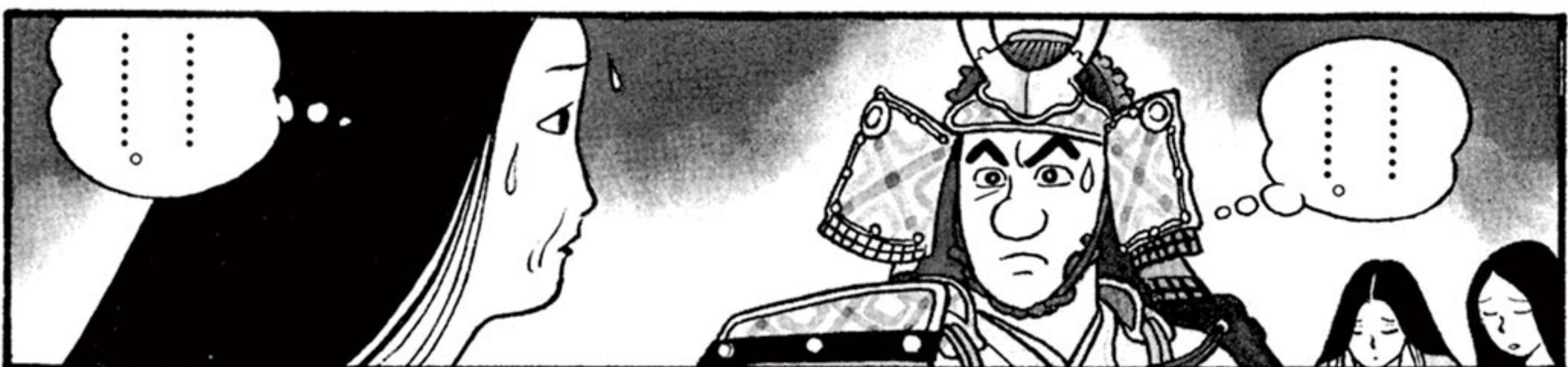
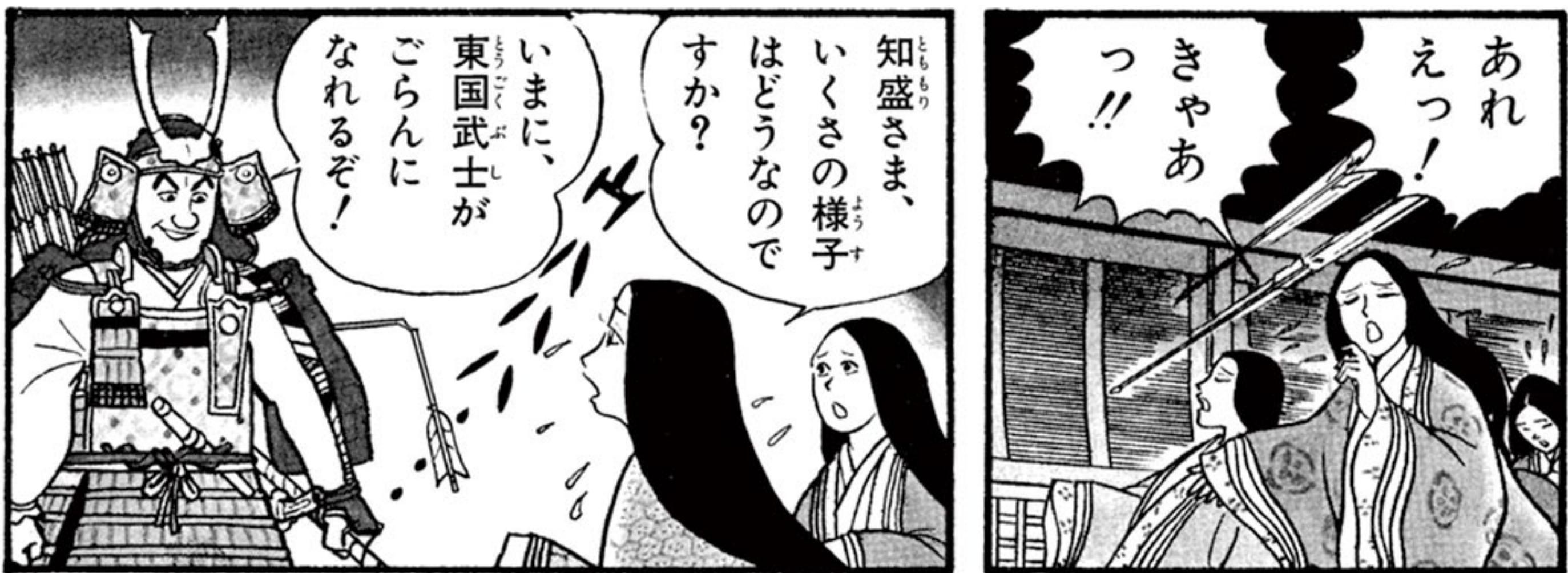
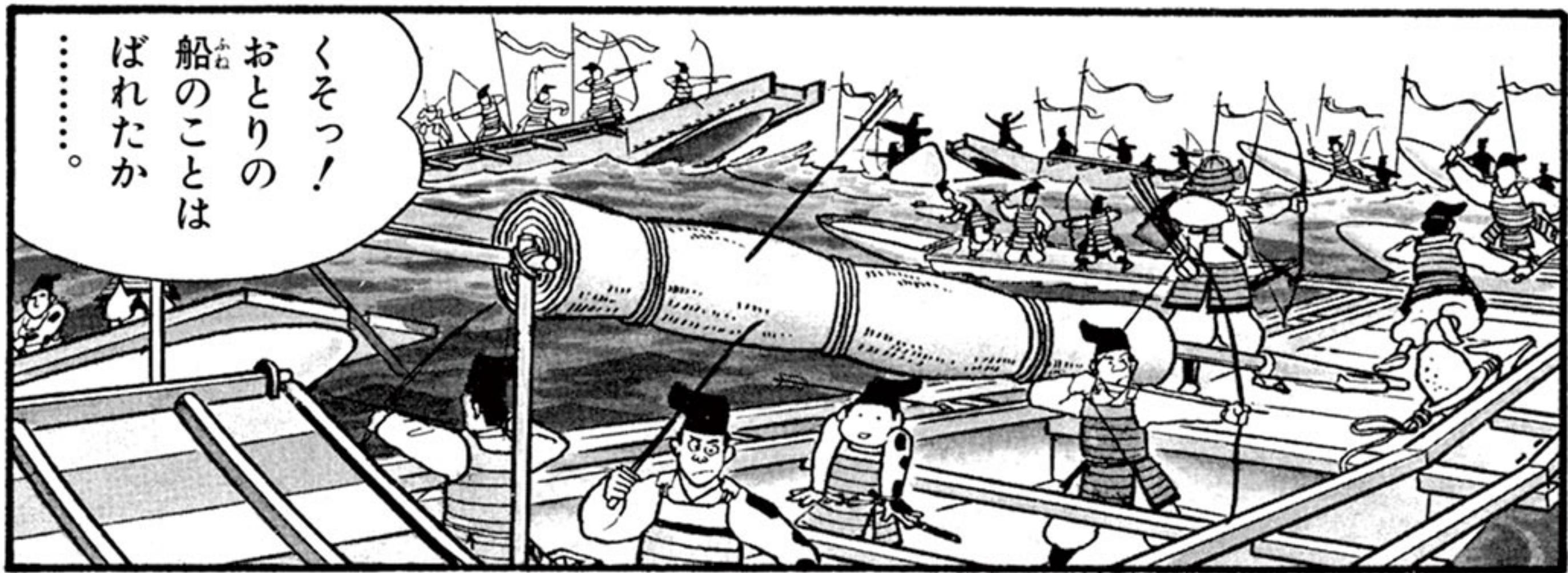
しかし、阿波水軍のうらぎりにより、平氏方は、しだいに劣勢になりました。

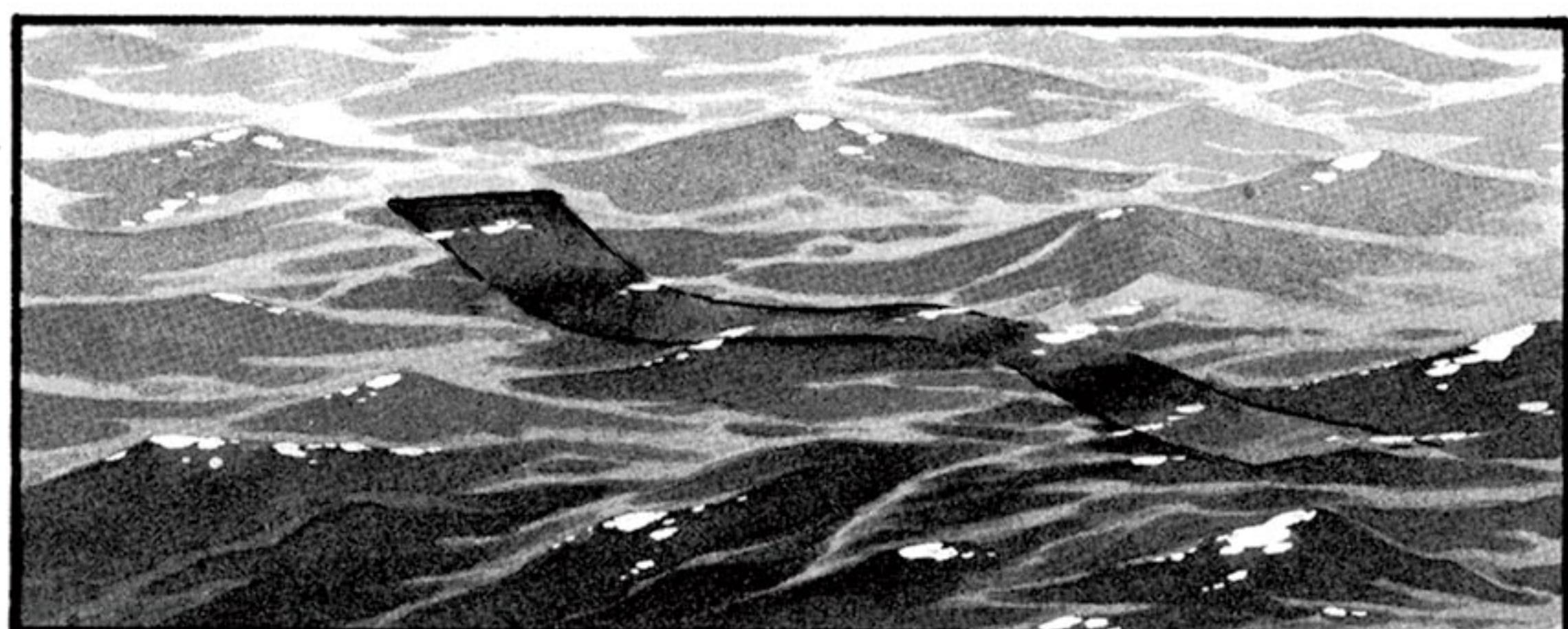
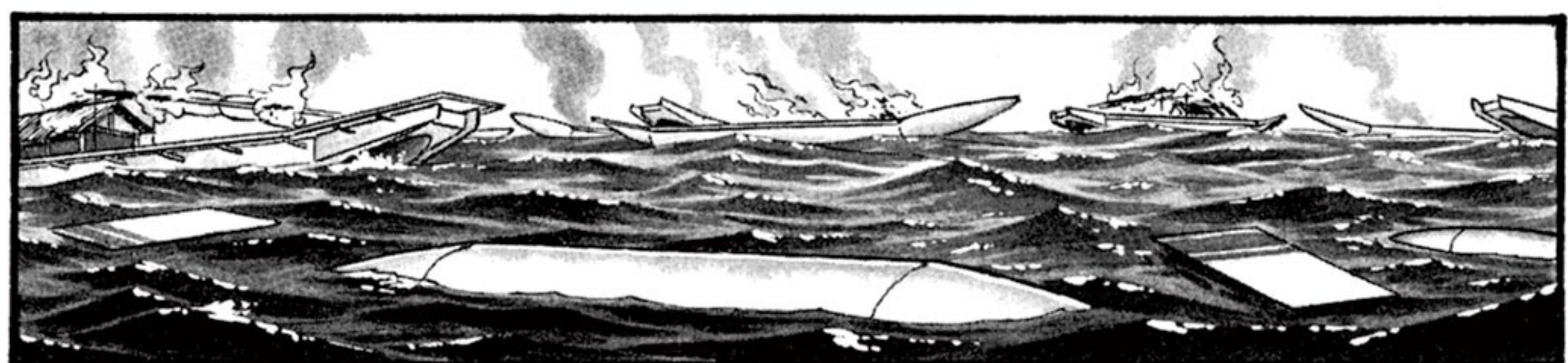




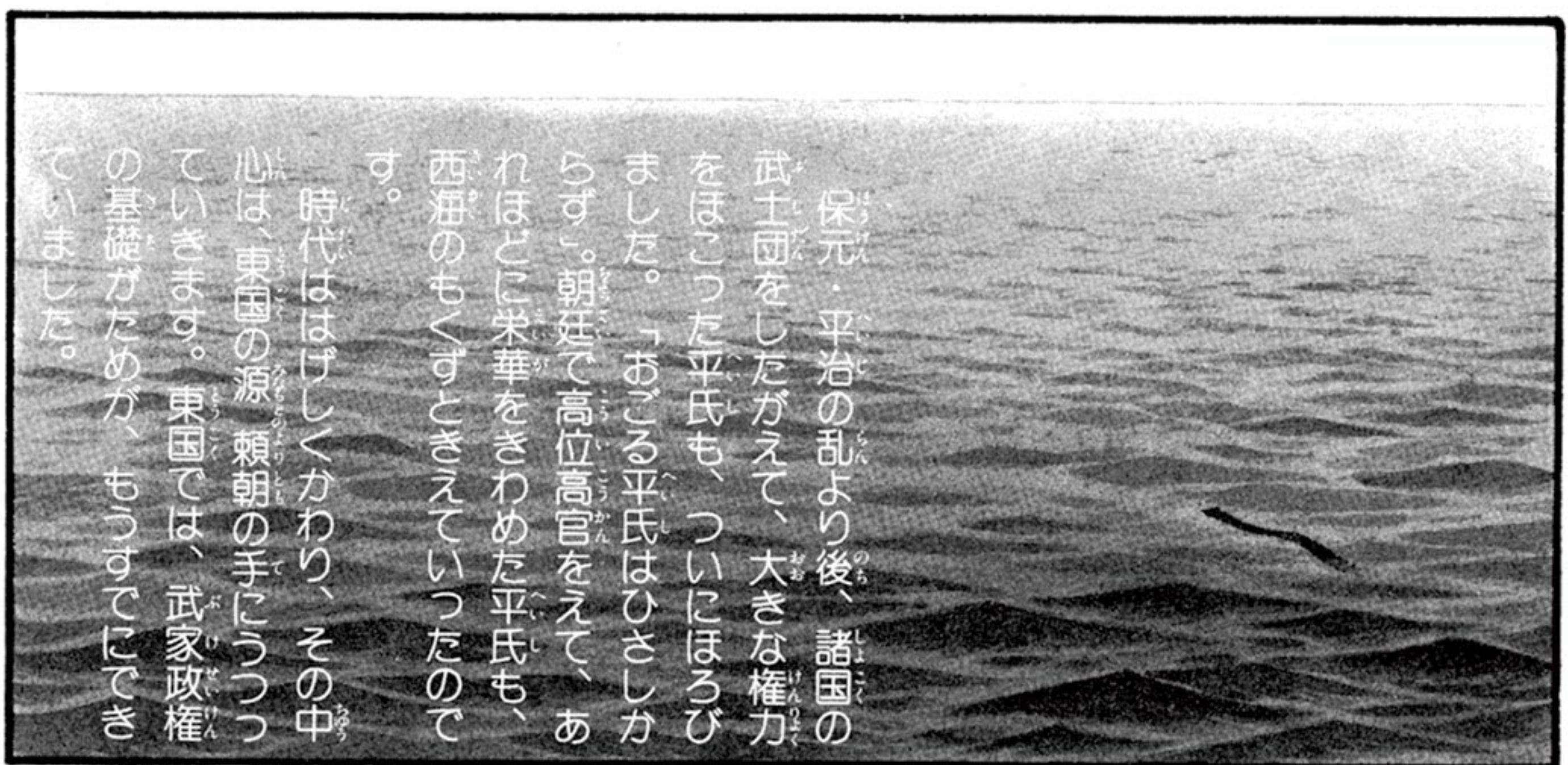


* 唐船：中國製の船。ここでは宋の船をさす。





こうして、栄華をほこつた平氏は、ついに滅亡しました。知盛らは入水し、宗盛はいけどりになりました。



時代ははげしくかわり、その中心は東国の源頼朝の手にうつっています。東国では、武家政権の基礎がためが、もうすでにできていました。

保元・平治の乱より後、諸国の大士団をしたがえて、大きな権力をほこつた平氏も、ついにほろびました。おごる平氏はひさしからず。朝廷で高位高官をえて、あれほどに栄華をきわめた平氏も、西海のもくすときえていつたのです。

小学館 eBooks

おうちの方へ

源平の戦い

京都教育大学名誉教授

高山博之

地方政府が混乱する中で、各地に現われた武士団が源氏や平氏を棟梁に大武士団に成長し、しだいに中央の政治にもかかわるようになります。この過程は、前巻で見たとおりです。

12世紀半ばの保元・平治の乱では武士の実力が發揮され、源氏の勢力を打ち破った平清盛が貴族をおさえて、武士としてはじめて中央の政治権力をにぎりました。

しかし、貴族化した平氏政権は長づきせず、源氏の巻き返しで、あつけなく滅びました。貴族中心から武士中心への時代の転換、活躍する多彩な人物、息づまる場面などが次々に展開します。

勢力の消長を保元・平治の乱を通して掘ませてください。

二つの乱は、いずれも朝廷や貴族の対立から始まり、武士である源氏・平氏を巻きこんで、京都を舞台に戦乱に発展したものです。結果は平氏の天下をもたらし、武士の力を借りなければ、もはや政治上の対立を解決することはできることを内外に示しました。

武士が主役になる時代は、目の前です。東国武士のくらしづりなどを見て、武士勢力が貴族を圧倒していくわけを、話し合ってみましょう。

●第1章 「保元・平治の乱」

●第1章 「保元・平治の乱」
衰えていく貴族、一方、実力をもつて政治にかかわっていく源氏・平氏の武士、この二つの

平治の乱で勝利をおさめた平清盛は、武士としてはじめて政治の実権をにぎりました。これは、政治権力が貴族から武士の手に移るという

日本史上画期的な出来事でした。

ところが、平氏政権を武家政権とはよびません。なぜでしょうか。清盛は莊園や知行国の経済力を基盤に一族で高位高官を独占し、娘を天皇の后に入れ、天皇の外戚として権勢をふるいました。このやり方は、藤原氏の摂関政治と同

じです。ただ日宋貿易は独自のものでした。

平氏の政治の特徴をとらえさせるとともに、なぜ短命に終わったのかを、朝廷、貴族、他の武士との関係などから考えさせましょう。

●第3章 「頼朝の挙兵」

いよいよこの章から有名な源平の合戦が描かれます。まっさきに反平氏の兵を挙げた以仁王と源頼政は敗死しましたが、これを契機に諸国の大名の源氏など反平氏勢力が各地で挙兵しました。平治の乱で伊豆に流れていた源頼朝も、北条氏を後楯に兵を挙げ、石橋山の戦いで敗れたものの東国の大名を味方につけて大きな勢力を築きました。義経も平泉からかけつけます。

●第4章 「源平の合戦」

最初に京都に攻めのぼつて平氏を西に追ったのは、頼朝のいとこの木曾義仲でした。しかし、義仲は法皇や貴族と対立し、法皇の命を受けた頼朝が義経らを派遣して義仲を倒します。

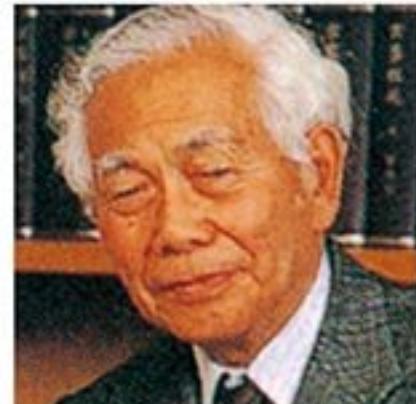
都にはいった範頼、義経の軍は、西国に勢力をはる平氏を追い、華々しい戦いをくり広げながら、ついに壇ノ浦でこれを滅ぼします。栄華を極めた平氏のはかない最期でした。

この巻でとりあげたことは、「保元物語」、「平治物語」、「平家物語」などの軍記物にくわしく描かれています。これらの古典にもふれさせるとともに、頼朝、義経、義仲ら人物の活躍に関する心をもたせてほしいと思います。

頼朝は、すぐ都に攻めのぼるのではなく、鎌倉を根拠地に武士を支配する新しい政府をつくった点に注目させましょう。すなわち、東国の大武士団の土地を保障し、彼らと主従関係を結んで武家政権の基礎を固めたのです。

児玉幸多

Kouta Kodama



歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の铸造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks

学習まんが 少年少女 日本の歴史 第6巻 源平の戦い

2015年3月27日 電子書籍版発行

監修 児玉幸多

まんが あおむら 純

発行人 伊藤 護

発行所 株式会社 小学館

〒101-8001

東京都千代田区一ツ橋 2-3-1

s-ebook@shogakukan.co.jp

底本 2014年11月16日 増補版第25刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298106-5

※ご注意

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。

個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと著作権法、その他関連法によって処罰されます。